
はじめに

- シラバスをどう読むか -

経済学部長 中村 泰 将

1. シラバスとその意義

この経済学部のシラバス (syllabus) は、経済学部の学生に対して 2000 年度に開講される講義科目について、その授業内容の具体的な授業計画を「講義概要」として公表するものである。公表される授業内容は、年間を通じ、各授業時間毎に授業内容が明示され、できるかぎり、その授業計画 (シラバス) にそって授業がすすめられるのである。

各科目の授業計画をあらかじめ学生に知らせる意味は、諸君がどのような科目を履修するかの手助けになることは言うまでもないが、計画的な授業の準備を行うことによって学習の効果をあげることにもなる。

これらの授業科目の内容の妥当性、有効性は、全学的に実行されている学生による「授業評価」すなわち「授業改善のためのアンケート」により点検・評価される。これらの点検・評価にあたっては、授業科目に関する具体的内容ないしシラバスが重要な役割をもつので、諸君は常に、シラバスと授業内容について関心を持たなくてはならない。

2. コース制と授業科目の選択

経済学部では、コース制を設けていない。コース制とは、1年生から4年生にわたって設けられている授業科目に対して、3、4年生から始まるより高度な専門的な経済・経営の専門科目をスムーズに教育・学習できるように、一定のコースを設けて、1年生から4年生にわたって一貫した専門教育をしようとするものである。

経済学部としては、現在経済学部には設けられている「将来計画委員会」においてコース制について検討されている最中なので、その結果を待っているが、特に1年生および2年生の学生諸君については、一体どのような科目を選択してよいか、また1年、2年生で選択した科目が3年、4年生の専門科目とどのように結びつくのかについてもわからないのが現状ではなからうか。また3年、4年生については、高学年になって専門領域 (例：ゼミナール、専門科目等) を選ぶ際に1、2年の基礎科目を履修してこなかったことを悔やまれることが多いのではなからうか。

アメリカでは、科目の履修については、Student Advisor というスタッフがお

り、科目履修について詳細なアドバイスをしてくれる。もちろん、経済学部にも Office Hour といった制度を設け、各専任教員は毎週1回か2回の一定の時間を設けて研究室で学生のいろいろな相談事に答えてくれる事になっている。しかし、あまり学生諸君は利用していないのが現状である。したがって、学生諸君が将来、どのような進路に興味があり、どのような専門領域を学びたいのかのガイドラインをできるだけ早急に示していきたい。

3. 「授業評価」と「授業改善のためのアンケート」

独協大学では、経済学部および他の学部でも教育・研究の自己点検の一貫として、学生からの教員に対する「授業評価」が実施されている。これは「授業改善のためのアンケート」調査である。評価をする学生側と評価を受ける教員側の文章によるコミュニケーションが図られる一方法である。もちろんその設問のなかに、「シラバスに沿った授業」という質問もあり、シラバスが果たす役割が重要であることは、前に述べたとおりである。

アメリカでは、その制度は相当古くから行われていて、学生による授業評価が一番の教師は、Education Awards として新聞に公表される大学があるほどである。私がアメリカで見たいくつかの大学のアンケート・データの回収率は95%以上であった。

したがって、ここで、一番注意しなければならないことは、学生諸君がこのアンケートをどのように考えているかの意識の問題である。学生諸君は、自分が学んでいる大学あるいは学部・学科を本当に良くしたい、そのためには教員だけでなく、学生が一丸となって「授業の改善」をしていくという意識をお互いに共有しあっていかなければならない。受講者である学生がアンケートに対して積極的に、そして建設的な意見を出して欲しい。そしてせめて70%以上の回答率になってはじめて授業改善のための双方向性が図られるのではないか。

4. 授業の方法

授業の実施方法は、各授業科目の内容・性格と学生の理解能力の程度に応じた適切な方法が選択されなければならない(大学基準協会)。授業方法の適切性は、授業内容の適切性と相まって、学生の学修を活性化するためにも必要である。授業を担当する教員は、大教室、中教室、小教室などの授業規模に適切に対応した授業方法や個別的指導をも含めた授業内容の充実化を図ることが重要であり、教員各自が自発的に教育方法の改善を図るための努力をすることも必要である。教員による教育方法の自己点検、向上のための努力を促進するため、教員の教育能力を啓発するファカルティ・ディベロップメント(Faculty Development)が高じられていかなければならない。

5. 経済学部の「経済学会」

経済学部では、経済学会（詳しくは、「獨協大学経済学会への入会案内」を参照のこと）が組織されており、その基金でもってこれまでゼミ論文の出版助成金、学生の合宿その他の研究活動に対する施設利用の助成金、また、語学（Toeic 講座）への資金援助等々と学生諸君の教育・研究活動に対して少なからず援助を続けてきた。またさらに今後その基金を学生諸君の教育・研究活動に対していろいろな方面に発展・活用させていきたいと考えている。したがって、学生諸君も、積極的に勉学に活用するよう期待している。

科 目 名	経 済 学 (経済学科 1 年必修科目共通シラバス)	担当者名	経済学担当教員全員
-------	------------------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>経済学科の学生にとって共通である経済学・経済理論の初等・入門コースがこの「経済学」であり、それ故に 1 年次に配当され、しかも必修科目に指定されている。また、したがって、経済理論の本格的修得を目標として 2 年次に配当されているミクロ経済学とマクロ経済学(いずれも必修科目)の初等的概論ともなる。</p> <p>このページは、経済学担当教員全員の共通シラバスであるので、受講する経済学の各担当者のページを併せ読み、共通する事項以外の指示・方針項目は、その担当教員の示す通りとする。</p>
講 義 概 要	<p>講義概要として共通していることは、年間を通じてミクロ・マクロの経済理論の概要が初級的に講義される。詳細は各担当教員のページを閲覧すること。</p>
使 用 教 材	<p>テキスト</p> <p>各担当教員の指示による</p>
	<p>参考文献</p> <p>中谷 巖『入門マクロ経済学』日本評論社 伊藤元重『入門ミクロ経済学』日本評論社 ドーンブッシュ・フィッシャー/廣松 訳『マクロ経済学(上・下)』マクロヒル 西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社 その他各担当教員の指示による。</p>
評 価 方 法	<p>出席状況、受講態度ならびに前期・後期の定期試験の結果等を総合判定して評価されるはずである。</p> <p>詳細は各担当教員の方針による。</p>
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>経済学科の学生にとっては最も基礎的入門コースであることを自覚してほしい。</p>

年間授業計画	1	・講義の内容ならびに年間授業スケジュールについては、各担当教員の方針が尊重されているので、それに従っていただきたい。
	2	・ただし、各教員が共通して講義すべき内容事項については、以下に示した通りであり、経済学入門コースとして必要不可欠な知識・体系が用意されている。
	3	・本学では外国語教育が重視されており、経済学部でもこの方針に従って、入学初年度より専門用語を含めて、できる限り英語を併用している。経済学の授業もこれに従い専門英語・経済英語を授業の中で併用して講義している。
	4	<p>{ 講義の内容：担当教員共通 } 講義の手順は各担当教員による</p> <p>序論 経済と経済学、経済学の目的・役割・方法、経済の循環、現代経済の諸問題</p> <p>・ミクロ経済学</p> <p>序 ミクロ経済学序論、価格分析</p> <p>1. 消費の理論・消費者行動の原理・需要の法則 消費の選考、効用・限界効用、消費者の均衡点、価格・所得曲線、需要曲線、需要の法則、所得効果と 代替効果、代替財（競争財）と補完財、価格・所得弾力性、消費者余剰、消費者主権</p> <p>2. 生産の理論・生産者行動の原理・供給の法則 経済学上の生産とは、企業の費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、供給曲線・限界費用曲線、供給の法則、短期・長期供給曲線、長期供給曲線と外部効果、技術進歩、地域経済の外部性と企業行動、技術進歩と長期費用逓減</p> <p>3. 交換の理論・市場の原理・競争の問題 経済学上の市場とは、市場の機能、完全競争市場と不完全競争市場、独占の弊害と市場の失敗</p> <p>4. 市場の失敗と外部性 私有財と公共財、外部経済・不経済、パブリック・ユーティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税 パレート最適と社会的厚生</p> <p>・マクロ経済学</p> <p>序 マクロ経済学序論、所得分析</p> <p>1. 国民所得の諸概念 GDP（GNP）、個人（家計）可処分所得、資本減耗と引当、直接税・間接税、社会保険負担金・給付金 租税負担と補助金給付、家計消費支出、家計貯蓄（法人貯蓄、法人留保）</p> <p>2. 国民所得水準と乗数の理論 総需要と総供給（総生産）、家計消費と消費関数、貯蓄と投資、国民所得の均衡、乗数の理論、節儉のパラドックス、集計需要・集計供給、潜在的産出量水準、完全雇用水準と物価水準、インフレとデフレ、インフレと失業、フリップス曲線、景気の循環、経済成長、資本蓄積と技術進歩</p> <p>3. 貨幣・金融市場と政府の経済的役割・金融政策 銀行の始まりと近代部分準備制度、金本位制・管理通貨（信用貨幣）制、銀行の預金創造、貨幣の需要と供給・中央銀行の役割、高馬力貨幣、中央銀行券（現金貨幣）、公定歩合政策、公開市場操作、準備預金と法定準備率の変更</p> <p>4. 国民生産物市場と政府の経済的役割・財政政策 投資の限界効率表と企業の投資行動、民間企業の投資の変動性、不況と不完全雇用、長期停滞とスタグレーション、景気循環と赤字財政・黒字財政、長期的財政収支の均衡、IS-LM 曲線、ポリシー・ミックス</p> <p>・国際経済の問題 経済の国際化・グローバルゼーション、貿易の利益、貿易理論、先進国と発展途上国、資本の移動と技術進歩、経済総合</p>

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	阿 部 正 浩
-------	-------------	------	---------

講義の目標	マクロ経済学とミクロ経済学の概要を理解するだけでなく、経済学のフレームワークで日常問題を考える力を養うことを目的とする。		
講義概要	授業では、新聞や雑誌などから具体的なトピックスを取り上げ、それを経済学のフレームワークではどのように解釈するのかを考えながら、経済学の基礎を勉強する。この講義では講師のみが一方向的に話すのではなく、受講者も積極的に発言できるように配慮したい。		
使用教材	テキスト	とくにない	
	参考文献	共通シラバスで指示されている参考文献以外に スティグリッツ『入門経済学』	
評価方法	共通シラバスのとおり。詳細は最初の授業で明らかにする。		
受講者に対する要望など	授業には積極的に参加し、問題を考え、発言し、議論することがのぞまれる。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 経済学的な考え方 3. 需要、供給、価格 4. 消費・貯蓄の決定 5. 企業と費用 6. 生産の決定 7. 国民所得、物価指数 8. 国民所得の決定 9. 通貨需要、貨幣供給、利子率 10. IS-LM 分析 11. 総需要・総供給関数 12. 失業 13. 経済成長と景気循環 		

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	岡 田 博
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 的	<p>経済学の入門書をテキストに使用して、経済学の基礎理論を講義する。講義では経済学の基礎知識の修得とともに、現実の経済への関心を一層深め、その動きを洞察する力が少しでも涵養されるように意を用いたい。</p>		
講 義 概 要	<p>経済学の基礎理論をできるだけ理解し易いように講ずる。講義の主内容は、経済学の方法、経済体制、経済循環、国民所得、貨幣と金融、財政と財政政策、消費の理論、生産の理論、市場理論、等々。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>未定、最初の講義のときに指示する。</p>	
	参 考 文 献	<p>福岡正夫：「ゼミナール経済学入門」日本経済新聞社 川口他：『経済学入門』有斐閣</p>	
評 価 方 法	<p>学年末の定期試験の成績で評価する。場合によっては前期末の定期試験も行う。また出席も時々とり、これも評価の参考に加える。</p>		
学 生 へ の 要 望	<p>授業に欠席しないこと、欠席の多い場合には単位を出さない。予習、復習を行うこと。ノートを必ずとること。</p>		

年 間 授 業 計 画	前 期	
	1	経済学とはどんな学問か：経済問題の根源、経済学の定義、ミクロ経済学、マクロ経済学
	2	経済体制について：経済体制とは、経済体制の共通課題
	3	経済体制について：体制分類の視点、資産の所有制度、経営管理のあり方、需要と供給の調整機構、経済的成果の比較
	4	資本主義市場経済の特徴：経済主体とその行動、市場の役割
	5	混合経済体制における政府の役割：所有権と契約の保護、経済政策
	6	経済循環：生産から消費への財・サービスの流れの概観
	7	国民所得の概念：GNP、NNP等々、わが国の国民所得
	8	国民所得の決定：有効需要の原理、消費関数と乗数理論
	9	国民所得の変動：景気循環、インフレーション、デフレーション
	10	貨幣と金融：貨幣の形態・機能、資金と金融市場
	11	貨幣と金融：貨幣創出の機構、信用創造
	12	貨幣と金融：金融政策
		備考
	後 期	
	13	財政：政府の経済的機能の拡大、予算制度、わが国の予算
	14	財政：租税、わが国の税制
	15	財政政策：財政政策の目標
	16	財政政策：資源配分と財政政策、所得再配分と財政政策、経済安定と財政政策
	17	消費の理論：消費者と効用、消費者の合理的選択
	18	消費の理論：序数的効用理論と消費者均衡
	19	生産の理論：供給と費用
	20	生産の理論：利潤極大の条件、生産関数
	21	市場価格の決定：需要と供給
22	市場価格の決定：市場構造	
23	国際経済：国際収支、為替相場、貿易と開発	
24	おわりに	
	備考	

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	小 林 進
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば若い人の多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、1年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。</p>		
講 義 概 要	<p>マクロ経済学を前半にそして後半にはミクロ経済学の初歩的概念を講義する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>テキスト なし</p>	
	参 考 文 献	<p>講義の中で適時に指示する</p>	
評 価 方 法	<p>前期と後期の二回の試験に平常の出欠を加味して評価する</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<p style="text-align: center;">マクロ経済学</p> <p>国民所得概念 付加価値の定義（単なる所有権の移転だけでは変化しないことに注意） GNP = 雇用者所得（賃金）+ 営業余剰（利潤）+（間接税 - 補助金）+ 資本減耗分 GNP - 資本減耗分 = NNP（資本減耗分 = 減価償却費） GNP と GDP（国内総生産）の相違（海外からの要素所得の純受取分） GNP = C + I + G + X - Q（総需要） （C：消費、I：投資、G：政府支出、X：輸出、Q：輸入） 主婦の労働と農家の自家消費は国民所得に含まれるか？</p> <p>消費関数 $C = cY + A$ の性質</p> <p>限界消費性向 $c = \frac{\Delta C}{\Delta Y}$（$0 < c < 1$ の経済的意味に注意）</p> <p>貯蓄の定義及び貯蓄関数</p> <p>国民所得の決定 単純モデル（$Y = C + I$） 代数解</p> $Y = \frac{1}{1-c} (A + I)$ <p>45度線図による理解 貯蓄と投資の均等による図からの理解 （投資）乗数理論</p> $Y = \frac{1}{1-c}$ <p>生産関数 $Y = F(K, N)$（Kは資本、Nは労働） 短期生産関数 $Y = f(N)$（Kは短期では一定と見なす、したがってNのみの関数） インフレギャップとデフレギャップ かいり （完全雇用時の国民所得 Y_t と現実の国民所得の乖離）</p> <p>国民所得の決定 政府を含むモデル（$Y = C + I + G$） 可処分所得 $Y_d = Y - T$ 貯蓄と投資の関係式 $I = S + (T - G)$ 均衡予算乗数は 1（$Y = G$） 貯蓄のパラドックス（貯蓄は美徳か？） マネタリストの主張（大恐慌の原因は貨幣量の異常な縮小） 資本の限界効率と投資関数 IS 曲線とその右下がりの性質 貨幣需要関数と LM 曲線 IS・LM 曲線と経済政策の有効性 貨幣数量説（フィッシャーの交換方程式とケンプリッジ残高方程式） マーシャルの k といわゆる「カネ余り」の問題</p> $\frac{M}{M} = -\frac{k}{k} + \frac{p}{p} + \frac{y}{y}$ （ y ：実質国民所得） <p>短期及び長期のフィリップス曲線</p> <p style="text-align: center;">ミクロ経済学</p> <p>経済主体（消費者及び企業）の合理的行動 最大化行動 ・消費者行動 効用関数 無差別曲線 限界代替率(MRS)遞減の経済的意味 予算線 最適消費点 $MRS = \text{価格比}$ 所得効果、上級財(正常財)、下級財(劣等財) 価格変化と代替効果 下級財の特殊例としてのギッフェン財 個別需要曲線の導出 需要の価格弾力性 豊作貧乏の理論分析 Jカーブ効果 ・企業の理論 総費用(TC) = 可変費用(VC) + 固定費用(FC) 平均費用(AC)と限界費用(MC)の関係（平均概念と限界概念の把握） $MC > AC$ ならば AC は増加する（逆も真） $MC < AC$ ならば AC は減少する（逆も真） 利潤最大条件 価格 $P = MC$ 個別供給曲線の導出、損益分岐点、操業停止 安全競争の成立条件 ワルラス的安定条件</p>
----------------------------	---

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	仙 波 憲 一
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>個人の消費や生産活動、国と国との諸取引等の背景には、何らかの行動原理や経済法則が働いている。経済学はこれらを体系的に解明することを目指す学問である。我々の身近な問題から世界の諸問題に至るまで、経済的要因を抜きにしては議論できない。したがって、経済学は極めて身近な学問である。本講では具体的な事例を用いて、経済学特有の考え方、分析方法をわかりやすく解説し、経済学の基本体系を理解できるようにする。</p>		
講 義 概 要	<p>経済学にはミクロ経済学あるいは価格理論と、マクロ経済学あるいは所得理論と呼ばれる分野がある。ともに、有限な資源を用いて経済活動を無駄なく行う為に、また得られた利益を公平に分配する為に望ましい経済システムは何かを考える。</p> <p>なお、ミクロ経済学は個々の消費者や生産者の行動原理及び市場における価格決定原理を分析する。マクロ経済学は個々の集合体である民間部門（消費部門と生産部門）、政府部門、海外部門ごとの行動論及び各部門の有機的な相互関連を分析する。前期はミクロ経済学を、後期はマクロ経済学を中心に解説する。その際新聞や雑誌等からできるだけ時事的な問題を取り上げ、これを経済学の立場から解説していきつつ、経済学の分析方法や考え方を学ぶ予定である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参考文献		
評 価 方 法	試験、レポート、講義での発言等を総合的に評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	講義のなかで、積極的に発言をして考える姿勢を持つこと。また、社会のカレントトピックについて注意を払うように。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要：一年間での講義の進め方について。 2. 経済学の役割：経済学を学ぶことの意義について。 3. 経済学の構成：経済学には多くの分野があることを説明する。 4. 分析の手法(1)：経済問題を分析するために有効な分析手法とは何か。 5. 分析の手法(2)：引き続き経済学の方法論について 6. 市場について：市場とは何か、消費者主権とは何かを説明する。 7. 需要と供給について：需要と供給の概念について議論する。 8. 市場の機能(1)：取引価格の決定メカニズムについて解説する。 9. 市場の機能(2)：需給調整により、いかに取引が成立するのかについて論じる。 10. 消費者余剰と生産者余剰：市場で実現した取引の評価基準を説明する。 11. 市場の失敗：市場経済では解決できない問題もあることを示す。 12. 規制緩和と経済厚生：経済政策の是非を論じるための視点を考える。(以上前期) 13. 経済マクロ的側面：後期はマクロ経済学の視点とは何か、から始める。 14. 国民経済計算、フローとストック：マクロ経済変数の性質について解説する。 15. 財市場の構成：消費と貯蓄について説明する。 16. 国民所得の決定と財政政策：有効需要の原理を解説し、政府の役割について考える。 17. 金利と投資行動：IS 曲線を導き、金利と国内需要の関係を論じる。 18. 金融市場と金融政策：LM 曲線を導き、金利の決定、金融政策の意義を考える。 19. 開放経済(1)：貿易収支と為替レートの決定について。 20. 開放経済(2)：海外取引と国内景気との関係。 21. 総需要関数：物価水準と国内需要との関係。 22. 労働市場と失業：景気変動と失業との関係。 23. 総供給関数と物価の決定：国民経済の規模と物価水準との関係。 24. 所得分配と公共政策：国民経済で求められる政府の役割について考える。(以上後期)
----------------------------	---

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	浜 本 光 紹
-------	-------------	------	---------

講義の目標	本講義では、経済学の諸領域を学ぶうえで必要な分析道具である、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎を修得することを目的とする。		
講義概要	前期にミクロ経済理論、後期にマクロ経済理論の講義を行う予定である。また、こうした理論によって実際の経済諸問題がどのように説明されるのか、といったことにも触れていきたい。		
使用教材	テキスト	とくに指定しない。	
	参考文献	西村和雄「ミクロ経済学入門」岩波書店 福田慎一・照山博司「マクロ経済学・入門」有斐閣	
評価方法	前期・後期の試験、および不定期に課すレポートの提出に基づいて評価する。		
受講者に対する要望など	できるだけ継続して出席すること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学という学問について 2. ミクロ経済学の課題について 3. 消費者行動理論 (全2回) 4. 企業行動理論 (全2回) 5. 完全競争市場 (全2回) 6. 不完全競争 (全2回) 7. 市場機構の限界 (全2回) 8. マクロ経済学の課題について 9. 国民所得の決定メカニズム 10. 労働市場と完全雇用 11. 不完全雇用経済 12. 家計の消費・貯蓄行動 13. 企業の投資行動 14. 貨幣と経済活動 15. マクロ経済モデル (全2回) 16. マクロ経済政策 (全2回) 17. 国際マクロ経済 		

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	藤 山 英 樹
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済学の基本的な概念を修得する。これら概念の直観的な理解と抽象的な記号での表現方法をマスターすることが主たる目的となる。こうした経済学における基礎概念の修得は専門に進んで応用をおこなうときに必要不可欠となる。</p>		
講 義 概 要	<p>講義は原則的に「経済学」共通シラバスに従って進む。前期にミクロ経済学、後期にマクロ経済学を講義する。ただし、講義参加者の着実な理解を第一とするので、講義のペースは参加者の状況に合わせて、調整をおこなう。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>特に指定しない。</p>	
	参 考 文 献	<p>現在は、ミクロ経済学およびマクロ経済学とも、基礎的な内容は定まっている。さらに、一般に評価の高いテキストが、必ずしも個人的な好みにあうとはかぎらない。したがって、参加者の好みに合わせて購入もしくは図書館から借りてくれば良い。また、多くのテキストの巻末に他のテキストについての簡単なコメントが載っているので、それを参考にするのも良い。</p>	
評 価 方 法	<p>前期、後期の試験および参加者の理解状況を把握するための小テストにより判断する。それぞれ比率は 40% (前期試験)、40% (後期試験)、20% (小テスト) とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>ある概念がわからないとき、単に漠然と考えても、理解は深まりません。どうしてわからないかをわかつことができる、もしくは、わかろうとする姿勢を望みます。</p>		

シラバスに準拠します。ただし、参加者の理解の状況に合わせて、講義のペースは調整します。

年
間
授
業
計
画

科 目 名	経 済 学 (済)	担当者名	本 田 浩 邦
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	講義全体をつうじて、経済学が現代の諸問題を考える上でもつ意味を考えてみたい。理論的な問題をできるだけ具体的にわかりやすく説明するつもりである。		
講 義 概 要	ミクロおよびマクロの経済学の基本的な内容を説明する。便宜上、マクロを先に説明する。導入部分として、今日の経済問題のいくつかを取り上げ、経済学の現代的な課題について検討する。年度の最後には世界経済システムの基本的枠組みと貧困・環境問題の現状をみる。		
使 用 教 材	テキスト	なし。毎回レジユメを配布する。	
	参 考 文 献	塩澤修平『経済学・入門』有斐閣アルマ 篠原三代平『経済学入門』(上・下)日経文庫 宇沢弘文『経済学の考え方』岩波新書	
評 価 方 法	2回の小テストおよび後期定期試験による。		
受 講 者 対 する 要 望 等	継続的に出席していただきたい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 経済学とはどんな学問か / 他の社会諸科学との方法的な共通性と相違 / 現代経済学の課題 / 講義の課題と構成 / すすめ方と注意事項 / 評価方法 / 参考文献 2. 今日の経済問題 / 日本の金融・消費不況 / バブル経済崩壊と土地本位主義 / 不良債権問題と金融システム / 消費と貯蓄 / 空洞化とリストラによる雇用不安 / 中小企業と地域経済 / 世界経済のカジノ化とアメリカ / アメリカの持続的な経済成長と「ニューエコノミー」 / 資金フローと通貨危機 / 世界大恐慌との比較 3. マクロ経済学の基礎 / ケインズ『一般理論』(1936) / 形成と背景 / 古典派雇用理論の批判 / 貯蓄・投資および乗数 / 貨幣・利子および流動性 / 賃金とインフレーション 4. 有効需要の理論 / 投資の乗数理論 / 国民所得あるいは有効需要の決定 / 古典派との対比 / 開放体系における乗数の作用 / 投資の二重性 / 生産力効果と成長軌道 5. IS・LM 曲線 財市場と通貨市場の同時均衡 / 財政・金融政策を通じた政府の役割 / 成長政策としてのケインズ政策 / ケインズ以降 6. 国民経済計算 / フローとストック / GNP と GDP / 国民純生産と国民所得 / GDP デフレーター / 物価統計のいろいろ 7. 新古典派とケインジアン経済成長論 / ハロッド / 内生的経済成長モデル / インフレーションと合理的期待 / 景気循環 8. 賃金と分配の理論 / 新古典派とポスト・ケインジアン分配論 / 実質賃金率 / 労働分配率と経済成長 アメリカと日本のケース 9. ミクロ経済学の基礎 / 新古典派の主要命題 / セー法則 / 需要と供給 / 消費者行動の理論 / 効用と効用関数 / 限界効用と限界代替率 / 予算制約と最適消費 / 所得および価格の変化の需要に対する効果 10. 生産者行動 / 費用曲線 / 生産関数 / 利潤極大化と最適生産 11. 競争的市場均衡 / 部分的均衡と一般均衡 / 消費者余剰と生産者余剰 / 企業と産業市場均衡の安定性と限界 / パレート効率と市場の失敗 12. 不完全競争市場 / 寡占市場とゲーム理論 / 寡占価格の硬直性 / 独占と独禁法 13. 労働市場の規定要因 / 労働の需要と供給 / 人的資本 / 実質賃金率 / 効率性賃金仮説 14. 現代経済学の展開 / 新しい古典派理論 / 合理的期待 / 新しい古典派マクロ経済学 / 独占的競争と価格の硬直性 / 新ケインジアンと実物的景気循環論 / 新しい成長理論 15. 財政 / 財政制度と財政政策 / ビルトイン・スタビライザー / ケインズ政策の帰結 / 安定化政策をめぐる今日のアメ리카での論争 16. 財政赤字および公債をめぐる議論 / リカード = パローの「等価定理」 / 財政赤字否定論 / 日本とアメリカの財政の現状 / 財政赤字はどのような意味で問題か 17. 金融 / 金融制度と財政政策 / グラス = スティール法と銀行・証券の分離 / 戦後日本の金融制度 / 80年代の自由化 / 日米の資金循環構造 / 1990年代の金融不況 18. 貿易理論 古典派理論 (スミスとリカード) / 比較生産費説 / ドイツ歴史学派と保護主義 / 19. 国際収支 理論と定義 / 国際収支表の読み方 / 外国為替のメカニズム / 為替政策と国際通貨制度 20. 戦後世界経済システム / IMF と GATT / 戦後の経済成長 / 自由化と保護主義 / 多国籍企業と生産活動の国際化 / WTO と地域経済統合 (EU, NAFTA, ASEAN) 21. 戦後世界経済の発展と南北問題 / UNCTAD と新国際経済秩序 / 途上国開発理論の系譜 (近代化理論、新旧従属理論、輸出志向型工業化戦略) 22. 発展途上国の開発のケース (メキシコ、ASEAN) / 1980年代の累積債務問題とその解決 / 現在の途上国経済の現状 / 貧困と地域紛争 / 途上国の財政支出と援助 / 経済的危機の要因 / アフリカの経済危機 / 貧困・栄養・地域紛争 23. 日米経済関係 24. 講義全体のまとめ、質疑
----------------------------	---

科 目 名	経 済 学 (済) 経 済 学 (再履修)	担当者名	山 越 徳
-------	------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>経済学を学ぶ人にとって、経済および経済学を身近に感じ、理解が進められ、さらに深く入っていくための基礎づくりを目指す。経済学はどのような学問分野であり、どのような考え方をするのかを、それぞれの経済理論を扱いながら、用語や概念とともに理解していくよう進めていく。</p>		
講 義 概 要	<p>単に経済学の理論の紹介や説明に留まることなく、それらの理論が現実の経済とどのように結びついているのか、どこまでを説明しているのかを、理論モデル、統計データ、実証分析結果それぞれを関連させながら見ていくことにする。またそれらのことを通して日本経済の大きさ、構造、位置づけ、その動向にも理解を高められることを目指す。</p>		
使 用 教 材	テキスト	『入門 経済学ゼミナール』 西村和雄 実務教育出版	
	参 考 文 献	『現代経済学』(上・下) レスター・C・サロー、ジェームス・K・ガルブレイス、ロバート・L・ハイルブローナー著、中村達也訳 TBS プリタニカ	
評 価 方 法	<p>前期のレポート(日本経済に関するもので、課題については授業中に提示)、後期の試験結果により評価。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>広く経済学および経済に関する文献に触れることと、現実の経済の動きに強い関心を持って考えること。</p>		

年 間 授 業 計 画	1.	・経済学とは 社会学としての経済学、経済学の考え方、経済合理性、前提、対象、ミクロとマクロ、
	2.	
	3.	・市場均衡、価格決定 需要と供給、競争、市場調整、価格と取引量の決定
	4.	
	5.	需要曲線、効用と効用極大、限界概念、限界効用逓減、限界効用均等法則、 無差別曲線、価格、経済要素
	6.	
	7.	需要関数、消費関数、弾力性、価格と所得、0次同次性、財と費目 指数と集計、指標、消費仮説、時系列分析とクロスセクション分析
	8.	
	9.	フローとストック、国民経済勘定体系、新SNA、GNP、三面等価の原則、国民所得の決定 乗数理論、有効需要理論、景気と失業、消費性向、貯蓄と投資、資本、 政府と財政、貨幣と金融、貿易、産業連関論
	10.	
	11.	・日本経済の成長 産業の活動、産業構造、成長の要因、産業の相互依存関係
	12.	
	13.	
	14.	・供給者均衡、生産理論 供給曲線、コスト曲線、利潤極大、価格と供給量、限界生産力命題
	15.	
	16.	生産拡大と技術変化
	17.	
	18.	・労働市場 労働市場理論、賃金理論、失業、分断化
	19.	
	20.	終身雇用と年功制、定年制、雇用調整
	21.	
	22.	・一般均衡モデル、経済政策 一般均衡と部分均衡、マクロ計量モデル
	23.	
	24.	

科 目 名	経 済 学 (営)	担当者名	米 山 昌 幸
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済学は、経済社会のメカニズムを分析的手法により解明し、貧困、不平等、環境破壊といったさまざまな現実社会の問題を解決して、よりよい社会を実現することを目指す学問です。私たちが経済学を勉強するのは、たんに難しい経済理論を修得すること自体が目的ではなく、その経済理論を用いて現実経済に対する理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためなのです。</p> <p>講義の目的は、第一に、現実的な問題を取り上げて、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして第二に、分析用具としての基礎的な経済理論をできるだけ体系的に理解してもらうこと、この2つです。</p> <p>この講義は、経済学を学ぼうとする初心者がおもな対象としていますが、2年生、3年生でこれまで経済学を履修してこなかったが経済学の必要性を感じているという学生の履修も歓迎します。</p>				
講 義 概 要	<p>経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学と大別されます。ミクロ経済学は、市場経済のなかの個々の家計や企業が価格や技術についての情報をもとに、どのような経済行動をとるのか、またこれらの経済主体が合理的な行動をとるときに市場メカニズムはどのような役割を果たすのか、といったことについて研究する分野です。マクロ経済学は、個々の経済主体の行動の結果を集計した一国全体としてのマクロの変数の動きや、マクロの経済政策を研究する分野です。ミクロ経済学とマクロ経済学は別々に存在するのではなく互いに密接に関連しており、マクロの経済現象はミクロの経済主体の行動に基づくものでなければなりません。このような考え方(これを「マクロ経済学のミクロ経済学的基礎」といいます)に基づいたテキストに沿って講義をしていきます。</p> <p>講義形式が中心となりますが、できれば報告や討論を通じて、みなさんが現実の問題を議論する機会も設けたいと思います。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td>スティグリッツ、ジョセフ E. , 藪下史郎(他)訳『スティグリッツ入門経済学(第2版)』東洋経済新報社、1999年。</td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td>第1回目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは次の3冊を挙げておきます。 ・最も定評のあるミクロ・マクロのテキストとして 西村和雄『ミクロ経済学入門(第2版)』岩波書店、1995年 中谷 巖『入門マクロ経済学(第4版)』日本評論社、2000年 ・履修に先駆けて読んでおくといサプリーダーとして 林 敏彦『ハート&マインド経済学入門』有斐閣アルマ、1996年</td> </tr> </table>	テ キ ス ト	スティグリッツ、ジョセフ E. , 藪下史郎(他)訳『スティグリッツ入門経済学(第2版)』東洋経済新報社、1999年。	参 考 文 献	第1回目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは次の3冊を挙げておきます。 ・最も定評のあるミクロ・マクロのテキストとして 西村和雄『ミクロ経済学入門(第2版)』岩波書店、1995年 中谷 巖『入門マクロ経済学(第4版)』日本評論社、2000年 ・履修に先駆けて読んでおくといサプリーダーとして 林 敏彦『ハート&マインド経済学入門』有斐閣アルマ、1996年
テ キ ス ト	スティグリッツ、ジョセフ E. , 藪下史郎(他)訳『スティグリッツ入門経済学(第2版)』東洋経済新報社、1999年。				
参 考 文 献	第1回目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは次の3冊を挙げておきます。 ・最も定評のあるミクロ・マクロのテキストとして 西村和雄『ミクロ経済学入門(第2版)』岩波書店、1995年 中谷 巖『入門マクロ経済学(第4版)』日本評論社、2000年 ・履修に先駆けて読んでおくといサプリーダーとして 林 敏彦『ハート&マインド経済学入門』有斐閣アルマ、1996年				
評 価 方 法	基本的に前期と後期の定期試験によって成績評価を行います。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業は、たんに経済学の理論について講義するだけでなく、学生の興味や好奇心を刺激して現実の経済に興味を抱かせるようなものになるように心掛けるつもりですので、みなさんも日頃から新聞などに目を通して現実の経済社会の問題に関心をもち、それらについて経済学を用いて考えることができるようになることを目指して下さい。</p>				

年 間 授 業 計 画	<p>テキストに沿って、授業を進めていきます。テキストの構成は以下の通りです。また、『インターネット版スタディガイド』が開設されていますので、そちらのホームページも参照してください。</p> <p>http://www.toyokeizai.co.jp/pub/stiglitz/stiglitz_intro/index.html</p> <p>[テキストの構成]</p> <p>第1章 自動車産業と経済学 自動車産業：その簡単な歴史 / 経済学とは何か / 混合経済における市場と政府 / ミクロ経済学とマクロ経済学 / 科学としての経済学 / なぜ経済学者の意見は異なるのか</p> <p>第2章 経済的な考え方 基本的競争モデル / 価格、所有権、及び利潤：インセンティブと情報 / 割当て / 機会集合 / 費用</p> <p>第3章 取引と貿易 経済的相互依存のもとたす便益 / 国家間の取引 / 国際相互依存関係の費用</p> <p>第4章 需要・供給と価格 価格の役割 / 需要 / 供給 / 需要・供給の法則 / 価格、価値、そして費用</p> <p>第5章 需要・供給分析の応用 需要の価格弾力性 / 需要の弾力性の決定要因 / 供給の価格弾力性 / 不足と過剰 / 需要・供給の法則への介入</p> <p>第6章 時間とリスク 利子 / 貸付資金相場 / インフレーションと実質利子率 / 資産市場 / リスク市場 / 企業化精神</p> <p>第7章 公共部門 政府の役割の変遷 / アダム・スミスの「見えざる手」と市場の中心的役割 / 政府と経済の無知 / 政府と再分配 / 政府と市場の失敗 / 政策実現のための選択肢 / 政府の失敗</p> <p>第8章 マクロ経済学と完全雇用 マクロ経済活動の目的と測定 / 経済成長 / 失業 / インフレーション / 基本的マクロ・モデル / 労働市場 / 生産物市場 / 資本市場 / 一般均衡 / 基本的完全雇用のモデルの拡張</p> <p>第9章 経済成長 成長の要因 / 生産性 / 東アジアの奇跡と生産性</p> <p>第10章 失業と総需要 マクロ経済モデル：再論 / 経済不況 / 総需要の決定要因 / 消費 / 投資 / 政府と貿易 / 総需要曲線：再論 / 総需要の再生 / 東アジアの経済危機</p> <p>第11章 インフレーション インフレーションのコスト / インフレーションと失業 / インフレーションの自己持続性 / 金融政策 / 金融政策と財政政策</p>
----------------------------	---

科 目 名	経 済 学 (再履修)	担当者名	浜 本 光 紹
-------	-------------	------	---------

講義の目標	本講義では、経済学の諸領域を学ぶうえで必要な分析道具である、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎を修得することを目的とする。		
講義概要	前期にミクロ経済理論、後期にマクロ経済理論の講義を行う予定である。また、こうした理論によって実際の経済諸問題がどのように説明されるのか、といったことにも触れていきたい。		
使用教材	テキスト	とくに指定しない。	
	参考文献	西村和雄「ミクロ経済学入門」岩波書店 福田慎一・照山博司「マクロ経済学・入門」有斐閣	
評価方法	前期・後期の試験、および不定期に課すレポートの提出に基づいて評価する。		
受講者に対する要望など	できるだけ継続して出席すること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学という学問について 2. ミクロ経済学の課題について 3. 消費者行動理論 (全2回) 4. 企業行動理論 (全2回) 5. 完全競争市場 (全2回) 6. 不完全競争 (全2回) 7. 市場機構の限界 (全2回) 8. マクロ経済学の課題について 9. 国民所得の決定メカニズム 10. 労働市場と完全雇用 11. 不完全雇用経済 12. 家計の消費・貯蓄行動 13. 企業の投資行動 14. 貨幣と経済活動 15. マクロ経済モデル (全2回) 16. マクロ経済政策 (全2回) 17. 国際マクロ経済 		

科目名	経済学(再履修)	担当者名	松本正信
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>現代経済の実際と理論を知識すること。 経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体から見ると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来得れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探ってみたいと考える。</p>		
講義概要	<p>年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間授業計画に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学を配当します。前期のミクロ理論は個人(消費者)や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の1つの集合体と考え、その行動を1つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社</p>	
	参考文献	<p>中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社 伊藤元重『入門ミクロ経済学』日本評論社</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違い、自身で自学自習すれば受講時間の5倍、10倍の時間を要するであろう。努々忘れ給もうな。</p>		
受講者に対する要望など	<p>静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除さるべきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>つぎの序・終章を含めた12の章を2-3回の講義で進めて行く積もりである。</p> <p>序章（プロローグ）</p> <p>経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題（地球系と人間系）、人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後、ならびに経済思想の変遷（アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、シュンペーター、ケインズ等々）、資本主義経済の変遷（とりわけ第二次世界戦争前と後との移り変わり）、現代の経済思想。</p> <p>第 部 マクロ経済学（価格分析）</p> <p>1 消費の理論</p> <p>（狙いは「需要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）</p> <p>消費者行動の理論、消費選好理論に基づく解説；消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財（競争財）と補充財、需要の価格（所得）弾力性、消費者余剰。</p> <p>1章に最後にいたっては、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉（ウルグアイラウンド）において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。</p> <p>2 生産の理論</p> <p>（狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）</p> <p>生産とは、企業（生産者）行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。</p> <p>3 市場；マーケット（交換の理論）</p> <p>市場と取引：その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構（マーケット・メカニズム）の果たす役割とその効率性、価格の媒介機能（Parametric function of price）、部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論（農産物価格の形成過程）</p> <p>4 競争の問題</p> <p>競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題；ここでは売り独占について考える。独占均衡と独占利潤、完全競争均衡との相違（短期・長期）、市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による死重的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング（廉価販売）提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。</p> <p>5 市場の限界と失敗・欠落</p> <p>市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争、品質競争、アフター・サービスはよしとして、ビホアー・サービス（ワイロ）、談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意味するもの、一般道路で通行料を徴収するか税で賄うかどちらが効率的か火を見るより明らか。</p> <p>外部経済・不経済、公共財（公共サービス）、パブリック・ユーティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。</p> <p>第 部 マクロ経済学（所得分析）</p> <p>6 国民所得の分析</p> <p>マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。</p> <p>マクロ的経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効率；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利率、貯蓄と投資の不均等による均衡国民所得水準の変動、乗数過程、節俵のパラドックス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論、国民所得水準と労働雇用水準との関係。</p> <p>7 貨幣・金融市場</p> <p>金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利率いわゆる市場利率</p> <p>8 中央銀行の機能と役割：金融政策</p> <p>現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ公定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。</p> <p>9 政府の経済的役割：財政政策</p> <p>政府の経済的役割すなわち経済政策には大きく分けて2つ；その1つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう1つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割を狭義の財政政策（フィスカル・ポリシー）として考える。</p> <p>その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディール政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。</p> <p>政府も1つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真、パラドックスなる由縁である。</p> <p>分析：政府財政支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラフファアー曲線、完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持）、フィリップ曲線</p> <p>10 財政・金融政策とヒックス＝ハンセン 総合（IS-LM 曲線）</p> <p>ポリシー・ミックスについて、国民生産物市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再編とまとめ；IS-LM 分析、古典派の理論；セーの賤路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マナタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。</p> <p>終章（エピローグ） 結びにかえて</p> <p>人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化</p>
----------------------------	---

科目名	統計学	担当者名	富田幸弘
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達はそのデータの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組とその重要性を十分に理解し、応用能力を身につけることを目標としている。</p>		
講義概要	<p>出来るだけ具体的な問題を意識しながら教科書にそって進める。その内容は以下のようなものである。</p> <p>(1)記述的な統計 (2)主要な確率分布 (3)統計的推定 (4)統計的仮説検定</p> <p>講義内容を良く理解してもらうために、適宜演習問題に取り組んでもらう。</p>		
使用教材	テキスト	『統計学 データから現実をさぐる』内田老鶴圃 池田貞雄・松井敬・富田幸弘・馬場善久共著	
	参考文献		
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果により評価する。</p> <p>また、出席状況等も考慮する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義内容を理解するためのノートと電卓が必要です。</p> <p>情報処理概論などの科目を併行履修することが望ましい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の「統計学」の講義について (キーワード: 教科書・ノート・成績評価) 2. 統計的な考え方と例 (キーワード: 国勢調査・品質管理・コンピュータ) 3. 統計学の発達と先駆者 (キーワード: コルモゴロフ・ピアソン・フィッシャー) 4. データの整理 1 (キーワード: 尺度・平均値・標準偏差) 5. データの整理 2 (キーワード: 中央値・最頻値・四分位数) 6. データの整理 3 (キーワード: 度数分布表・ヒストグラム・階級値) 7. データの整理 4 (キーワード: 簡便法・平均値・標準偏差) 8. データの整理 5 (キーワード: 散布図・相関係数・回帰直線) 9. 確率と確率分布 1 (キーワード: 順列と組み合わせ・互いに独立・条件付き確率) 10. 確率と確率分布 2 (キーワード: 離散型確率変数・二項分布・漸化式) 11. 確率と確率分布 3 (キーワード: 連続型確率変数・正規分布・標準化) 12. 前期のまとめ 13. 前期試験の結果と前期の復習 14. 母集団と標本 (キーワード: 標本調査・乱数・中心極限定理) 15. 統計的推定 1 (キーワード: 区間推定・信頼係数・点推定) 16. 統計的推定 2 (キーワード: 比率の推定・二項分布・サンプルサイズ) 17. 統計的推定 3 (キーワード: 母平均の推定・正規分布・推定のまとめ) 18. 統計的仮説検定 1 (キーワード: 帰無仮説・第1種の過誤・有意水準) 19. 統計的仮説検定 2 (キーワード: 比率の仮説検定・比率の差の仮説検定・両側検定) 20. 統計的仮説検定 3 (キーワード: 2×2 の分割表・独立性の仮説・$r \times s$ の分割表) 21. 統計的仮説検定 4 (キーワード: 母平均の仮説検定・母平均の差の仮説検定・等分散の検定) 22. ノンパラメトリックな方法 1 (キーワード: スピアマンの順位相関係数・ケンドールの順位相関係数・適合度検定) 23. ノンパラメトリックな方法 2 (キーワード: 符号検定・順位和検定・検定のまとめ) 24. 「統計学」のまとめ
----------------------------	--

科目名	統計学	担当者名	本田 勝
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。</p> <p>この講義では、統計学の基本的考え方と、それらを具体的に応用していく方法について述べていく。</p>		
講義概要	<p>講義は年間を通して系統的かつ段階的に進めていく。</p> <p>(1) データの整理の方法 (2) 確率の概念 (3) 確率分布の考え方 (4) 特殊な確率分布 (5) 標本分布の考え方 (6) 点推定や区間推定の考え方 (7) 統計的仮説検定の考え方 (8) 2変量の相関と回帰</p>		
使用教材	テキスト	本田 勝：「基本統計学」(産業図書)	
	参考文献	講義時にそのつど指示	
評価方法	前期および後期の定期試験による総合評価を行なう。		
受講者に対する要望など	講義は指定の教科書にそって進めるが、教科書はあくまで補助であり、教室での講義が中心であるから、必ず講義に出席し、ノートに講義内容をまとめて欲しい。		

1. 統計学とは何かについて、統計学の導入を行なう。
(母集団、標本、記述統計、推測統計)
2. 標本として得られるデータの整理のしかた(度数分布)について述べる。
位置の尺度(平均、中央値、最頻値)のとらえかたについて述べる。
3. ばらつきの尺度によるデータ特性の把握のしかたについて述べる。
(分散、標準偏差、チェビシェフの不等式)
4. データ整理の方法を理解するための演習をおこなう。
5. 確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。
(和事象、積事象、順列、組み合わせ)
6. 確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。
確率に関する問題演習を行なう。
7. 確率変数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。
8. 確率分布の数学的定義を、密度関数と分布関数を用いて説明し、分布の平均や分散などの特性値について述べる。
9. 2項分布を例に、確率分布(離散型)の性質を調べる。
10. ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。
11. 連続分布とその特性について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。
12. 正規分布の確率の求め方と確率度数の標準化について述べる。問題演習
(標準正規分布)
13. 標本分布とは何か、標本分布はどのような確率分布をするかについて述べ、中心極限定理についても言及する。
14. 標本比率の分布はどのような確率分布をするかについて述べ、2項分布の正規近似についても言及する。
15. カイ2乗分布およびスチューデントのt分布を説明したあと、標本分布の確率分布について述べる。
16. 母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。
(不偏推定量、信頼係数)
17. 母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習
18. 母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。
19. 統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。
問題演習。(帰無仮説、対立仮説、検定の過誤)
20. 2変数間の相関とは何かについて述べる。
(共分散、正の相関、負の相関、完全相関)
21. 回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法)
22. カイ2乗検定の考え方について述べる。問題演習。
(適合度検定、分割表、独立性の検定)
23. ノンパラメトリック検定の考え方について述べる。
(符号検定、順位和の検定)
24. 一年間の総復習を行う。

科目名	統計学	担当者名	松井 敬
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの目ざましい発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。</p> <p>本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目的とする。現実への応用に大きく関わった学問でもあり、出来るだけ具体的な問題を意識しながら進めてゆきたい。</p>				
講義概要	<p>前期では記述的な統計から始め、探索的なデータ解析の考え方、単純回帰、現代統計学の枠組み（母集団と標本）、データの得られるメカニズムや分析などを扱う、後期で扱う応用のための方法論の基礎となるものを多く含んでいる。後期は、様々な分野で応用されている統計的方法の考え方と具体的な進め方の説明で、推定、検定、ノンパラメトリック法などの理論と方法である。</p> <p>実験、観察、調査などには数量的なデータが付随するが、これらの処理にはデータの背景を十分に考えた適切な統計的方法を選択する必要がある。講義の中ではこういった点に十分配慮し、統計の応用に際して留意すべき点を明確にしてゆきたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 「統計学 データから現実をさぐる」 内田老鶴圃</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているため、この講義の段階で特別に参考文献が必要とも思われない。ただし、参考となる本は和書はもちろんのこと洋書や応用のための各論的な本も含め数多い。興味のある学生は関心領域をはっきりさせて、個別に相談してほしい。</td> </tr> </table>	テキスト	池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 「統計学 データから現実をさぐる」 内田老鶴圃	参考文献	上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているため、この講義の段階で特別に参考文献が必要とも思われない。ただし、参考となる本は和書はもちろんのこと洋書や応用のための各論的な本も含め数多い。興味のある学生は関心領域をはっきりさせて、個別に相談してほしい。
テキスト	池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 「統計学 データから現実をさぐる」 内田老鶴圃				
参考文献	上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているため、この講義の段階で特別に参考文献が必要とも思われない。ただし、参考となる本は和書はもちろんのこと洋書や応用のための各論的な本も含め数多い。興味のある学生は関心領域をはっきりさせて、個別に相談してほしい。				
評価方法	<p>前・後期二回の期末試験の結果を合わせた得点による。前期の結果は公表するが、前期不調でも諦めないことが肝心である。</p> <p>試験の問題は講義で扱う演習問題などが中心になる。</p>				
受講者に対する要望など	<p>講義内容をより良く理解してもらうために、適宜演習を取り入れている。そのために、電卓を常に持参してほしい。</p>				

年 間 授 業 計 画	<p>1. 統計学とは何だろうか : 統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのかなど。ほかに年間の授業の進め方、方針、など。</p> <p>2. 統計学の考え方、データを記述する尺度 : 統計的な見方、考え方とはどんなことか。データを測定する尺度についてなど。</p> <p>3. データを記述する尺度 : データを記述する様々な尺度の意味と特徴およびそれらを求める(計算する)上での注意。</p> <p>4. 探索的なデータ解析 探索的なデータ解析の方法と考え方について解説する。</p> <p>5. 2つの変数の間の関係をさぐる - 1 : 身長と体重、需要と供給、打率と打点といった2つの変数の間の関連性を説明する尺度について考える。相関係数。順位相関関数。</p> <p>6. 2つの変数の間の関係をさぐる - 2 : 2つないし3つ以上の変数間の“線型”な関係を調べる。回帰直線。</p> <p>7. 確率 : 統計と確率の接点。確率の基本的な考え方など。</p> <p>8. データの得られるしくみを考える : 確率の考えを借りて、実験や観察の結果を分布という概念でとらえる。</p> <p>9. 現代統計学の枠組み : 母集団と標本。データの持つ意味。</p> <p>10. 離散型の分布 : 二項分布、ポアソン分布など。分布の特徴づけ。</p> <p>11. 連続型の分布 : 連続型確率分布。正規分布の形状や特徴など。</p> <p>12. 正規分布 : データ処理の様々な場で見られる正規分布とその周辺のことについて考察する。</p> <p>13. 分布間の関係ほか : 二項分布の正規近似や分布間の相互関係を考える。</p> <p>14. 標本分布 : 標本平均や中央値の標本分布とそれらの持つ意味を考える。</p> <p>15. 推定 - 1 : 母集団のパラメータ(母数)を推定する方法とその意味について考える。比率の推定から。</p> <p>16. 推定 - 2 : 正規分布の母平均の推定。なぜ標本平均や標本比率を用いるのかを通し、推定量の意味、推定量の性質、比較なども。最尤推定法。</p> <p>17. 統計的仮説検定 - 1 : “仮説”の検定を、どんな考え方にそって行うか。</p> <p>18. 統計的仮説検定 - 2 : 比率の検定 考え方と手順。</p> <p>19. 統計的仮説検定 - 3 : 2×2表の考え方と方法。r×s表。</p> <p>20. 統計的仮説検定 - 4 : 正規分布の母平均の検定など。</p> <p>21. ノンパラメトリックな方法 - 1 : ノンパラメトリックな方法とは何か。符号検定など。</p> <p>22. ノンパラメトリックな方法 - 2 : 順位にもとづく検定など。</p> <p>23. ノンパラメトリックな方法 - 3 : 適合度検定。</p> <p>24. 統計的推測 : 統計的方法の枠組みの理解と様々な手法の関連を再考し、後期のまとめを行う。</p>
----------------------------	--

科 目 名	情報処理概論	担当者名	各 担 当 教 員
-------	--------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>経済学部の学生が4年間の学習、研究生活を通して必要とされる情報処理の基礎を講義およびコンピュータ実習を通して勉学、学習するためのものである。授業の予習、復習やレポートの作成、卒業論文製作などの際に、次のような手段を使うことができるようにする。</p> <p>文章は、ワープロを使用して作成する。必要な資料やデータは、インターネットや外部データベースなどを使って見つけ出す。E-mailを使って、情報交換、資料のやり取りをする。統計計算や会計計算を行ない、必要があればグラフを作成する。報告用、発表用の資料を、以上のような手段を組み合わせ作成する。プレゼンテーションをパソコンを使って行なう。住所録など個人用のデータベースを作成し管理する。</p>		
講 義 概 要	<p>講義および実習を通して上記の目標を達成するために、ワープロソフト・表計算ソフトの使用法を始め、現在のコンピュータの持つマルチメディア機能の理解も含め、情報処理全般の基礎的なテーマを扱う。なお、各テーマの取り扱われる順序、時間配分については担当教員によって若干異なることがある。</p>		
使 用 教 材	テキスト	獨協大学情報センター編「コンピュータ入門」	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>原則として、試験およびレポートを中心に評価する。出席は重要なポイントである。担当教員によって、評価の仕方が異なるので詳細は各教員に尋ねること。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>最初のうちは“習うより慣れる”で、繰り返しの練習（復習）が必要である。講義に連続性があり、積み重ねが大事なので、欠席や授業中の集中度の不足が無いように願いたい。</p>		

以下の項目は情報処理の必須として取り上げる項目である。取り上げる順序や時間数は、担当者によって多少異なることがある。

前 期

1. イントロダクション ガイダンス、センター案内、キーボード操作、マウス操作、フロッピーディスク、情報倫理
2. 文字の入力、タイピング練習(ソフト)
3. メモ帳(ソフト)による入力、ファイルを開く、ファイルを保存する
4. インターネット インターネットとは、WWW とは、URL を与えて聞かせる、テーマを与えて探させる
5. メール 説明と設定、メールの送信
6. メール メール返信
7. ペイント(ソフト) 拡張子
8. ワープロ 文書の入力、保存：メール 文書の添付
9. ワープロ 文字の編集(切り取り、イタリック、センタリングなど)
10. ワープロ 文字の装飾(網掛け、色など)
11. ワープロ 表の作成
12. ワープロとクリップアート、ワードアートの組み合わせ、印刷

後 期

1. 表計算の概要 ワークシート、ブック、セル、相対番地
2. データの入力 入力(表) 合計、平均
3. データの取り扱い 関数、平均、標準偏差、最大、最小
4. データの取り込み
5. クロス集計、検索
6. グラフ 棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート、散布図など
7. エクセルとワードの結合 ワードへの貼り付け(表、グラフ)
8. インターネットとエクセルの結合 ネットワーク上からのデータの取り込み
9. データベース データベースの作成、並べ替え
10. データベース データベースの管理、抽出、フィルタリング、集計
11. プレゼンテーション 文字情報の提示
12. プレゼンテーション 画像、グラフの提示

年
間
授
業
計
画

科 目 名	経 営 学 (済)	担当者名	西久保 浩 二
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	この講義の目的は、経営学においてこれまで展開されてきた諸理論を歴史的視点および実践的視点から体系的に概観することにある。経営学は、現在、「効率性」を追求した伝統的なアプローチから、「創造性」を目指す方向へと大きなパラダイム転換の時期にある。このような変化の必然性と意味を、新旧の理論をできるだけ数多く鳥瞰することによって理解する。		
講 義 概 要	授業は前半(30分)において比較的最近に刊行された論文に基づいて討論を行う。発表担当者と討論者を設定した上で、提出された論点について参加者全員で自由に議論する。後半(60分)では、歴史的な経緯に基づいて著名な経営理論について講義を行う。		
使 用 教 材	テキスト	「経営学入門」占部都美、加護野忠男 中央経済社 ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス ダイアモンド社(適宜コピー配布予定) その他資料を適宜配布する予定	
	参 考 文 献	「現代経営学ガイド」日本経済新聞社 「ゼミナール 現代企業入門」日本経済新聞社 「小倉昌男 経営学」日経 BP 社	
評 価 方 法	前期試験(30%)、後期レポート(30%)、発表(30%)に平常点を加えて評価する。合計で 60 点以上の受講者に単位を与える。ただし、討論に対する参画度については別途評価の対象とする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業前半で行う討論に関する資料(論文)については事前に必ず読んで置くこと。 また、積極的な発言を期待している。		

年
間
授
業
計
画

1. 経営学とは何か
2. 経営学の生成過程
3. 企業形態
4. 経営者
5. 経営組織
6. 経営戦略
7. インセンティブ・システム
8. リーダーシップ
9. 社会的存在としての企業
10. ベンチャー企業論
11. 日本の経営
12. 日本の経営
13. 新しい経営理論
14. 新しい経営理論

科 目 名	経 営 学 (営)	担当者名	日下 泰夫 (半期)
-------	-------------	------	--------------

講義の目標	入門講座として、経営学の基本的な概念を説明するとともに、最新のトピックスについても紹介する。《変化の時代》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解して頂けるような講義を心がけたい。		
講義概要	講義の前半 (1 ~ 5) は経営学の基本的な概念を説明する。後半 (6 ~ 12) は、現在、経営の重要課題として脚光を浴びているテクノロジー・マネジメント (Technology Management or Management of Technology (M. O. T.)) を、種々の視点から考察する。		
使用教材	テキスト	日本経済新聞社 (編) : 「ベーシック経営入門」; 日本経済新聞社 (編) : 「現代経営学ガイド - 新しい企業理論の展開 - 」	
	参考文献	その都度指定する。	
評価方法	期末試験を中心に、提出レポートと出席状況を加味して評価する。		
受講者に対する要望など	広範囲の内容を半期で講義するために、内容を要約して説明することになる。したがって、理解を深めるためには、テキストは勿論のこと、指定した参考文献を事前に読んでおくことが望ましい。		
年間授業計画	<p>【半期授業計画】</p> <p>授業ガイダンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業と外部環境 2. 経営資源とマネジメント 3. 経営戦略 4. 企業組織 5. 企業文化と日本的経営 6. テクノ・イノベーションとテクノロジー・マネジメント 7. プロダクト・イノベーション：商品開発のパラダイム転換 8. テクノ・イノベーションと技術戦略 9. マーケティング・イノベーション：マーケティングのパラダイム転換 10. 研究開発 (Research & Development : R&D) 組織と人材マネジメント 11. 経営のグローバル化と R&D 12. テクノロジー・マネジメントにおける経営情報システム、管理工学の役割 <p>経営学を学ぶ皆さんへ - 21 世紀の企業パラダイムを求めて -</p>		

科 目 名	経 営 学 (営)	担当者名	栗村 英二 (半期)
-------	-------------	------	--------------

講 義 の 目 標	この講義は、以下の理由から入門「経営学」と位置づけられる。会社のなかでは、組織やそのはたらき、それをとりまく経済や社会がふくざつに絡み合っている。その結果、それをあつかう「経営」はとても範囲がひろくなる。「会社」は日本経済を動かす舞台であり、「経営」の理解なくしては日本経済がわからない。そこで、できるだけわかりやすく講義することを旨とする。		
講 義 概 要	前期後期交代による講義のため、前期後期開講時に講義概説を行う。概ね年間講義予定に従う。		
使 用 教 材	テキスト	開講時に指示する	
	参 考 文 献	『テラスで読む日本の経営』日本経済新聞社 『企業の倫理』三嶺書房 『現代マネジメント』同文館 『企業形態論』八千代出版 『経営管理』中央経済社 『経営情報システム』中央経済社 など	
評 価 方 法	前期・後期末の定期試験と、平常授業への出席状況による。出題傾向などは前期後期の最終授業で説明する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 半期授業計画の概説（概ね以下の内容に沿って講義する） 2. 経営とは何か 3. 管理とは何か 4. 企業とは何か 5. 企業形態とは何か 6. 組織とは何か 7. オフィスとは何か 8. 意思決定とは何か 9. 国際経営とは何か 10. マーケティングとは何か 11. 経営情報とは何か 12. 経営戦略とは何か 13. 経営財務とは何か...資金調達など 14. 株式会社とは何か 15. 日本的経営とは何か...日本的経営の三種の神器（終身雇用・年功序列・企業内組合） 16. グロバリゼーションとは何か...内なる国際化・眠らない企業・本当の国際化など 17. ベンチャー・ビジネスとは何か...誰もができるベンチャーなど 18. トップの条件とは何か...責任・正義感など 19. 人材とは何か...人材になろう 20. ネットワーク・ビジネスとは何か...マーケティングにおける新ビジネスなど 21. よい会社（美しい会社）とは何か...必要十分条件など 22. メセナとは何か...企業内・外環境への配慮など 23. 社会的責任とは何か...企業内・外環境への配慮など 24. ビジネスマンの異質・国際化の問題...外国人雇用・男女均等法など
----------------------------	---

科 目 名	経 営 学 (営)	担当者名	小林 哲也 (半期)
-------	-------------	------	--------------

講 義 の 目 標	本講義では、現代企業をめぐる、国際化と情報化の動きを中心に、新しい企業理論の展開を議論する。		
講 義 概 要	<p>現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。例えば、1980年代に称揚された、長期的雇用慣行などを柱とするいわゆる日本の経営は、今や「グローバル・スタンダード」の視点から大きく見直されようとしている。</p> <p>本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、現代企業をめぐる国際化・情報化の波と、新しい企業理論の流れを紹介していくことにする。</p> <p>また、日本の経営を考える上で、日本における組織と個人との関係の特質、すなわち日本社会論・日本人論についての考察も不可欠である。こうした社会システムの考察を含めて、幅広く企業経営を考察する術を身につけていきたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に指定しない。	
	参考文献	<p>日本経済新聞社編『現代経営学ガイド』日本経済新聞社</p> <p>青木昌彦他『企業の経済学』TBSブリタニカ</p> <p>三輪芳朗他編『会社法の経済学』東京大学出版会</p> <p>明治大学経営学研究会『経営学への扉』白桃書房</p>	
評 価 方 法	出席および定期試験		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	新聞（日本経済新聞など）に毎日目を通す習慣をつけること		

年
間
授
業
計
画

1. 情報技術革命と日米企業
2. 大企業体制の成立とその変遷
3. 経営者革命
4. 技術革新と寡占的競争
5. マイクロ・エレクトロニクス革命と FMS
6. 情報化とネットワーク
7. ——経済・経営情報探索術——
8. 技術革新と新しい国際分業
9. 日本企業の海外進出 その1
10. 日本企業の海外進出 その2
11. 規制緩和とグローバリゼーション
12. 日本的経営論の革新

科 目 名	経 営 学 (営)	担当者名	仙田 幸子 (半期)
-------	-------------	------	--------------

講義の目標	この講義は経営学をこれから学ぶ学生に、経営学の一領域である経営労務（人的資源管理）論の鳥瞰図を提供することを目的とする。同時に、採用、配置、育成、評価、雇用調整というトピックの一つ一つを雇用される側の立場からみることによって、どのような働き方をしたいのかを自分なりに考える手掛かりを提供することを目的とする。		
講義概要	企業は従業員を資源の一つとして活用する。その方法をあつかうのが経営労務（人的資源管理）論である。採用、配置、育成、評価、雇用調整という経営労務の各側面を管理する側の立場からだけでなく、管理される側の立場からも検討する。		
使用教材	テキスト	岩出博「これからの人事労務」泉文堂、1999、ISBN 4 - 7930 - 0219 - 6。	
	参考文献		
評価方法	試験（70%）小テスト（30%）を100点満点に換算し、合計で60点以上の受講生に単位を与える。小テストの成績が特に良い者は期末試験を免除することも考えている。		
受講者に対する要望など	遅刻、私語、その他授業の妨げになることは慎むこと。自分なりにどのような人的資源管理下で働きたいのか考えること。		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 現代の労働 3. 人事労務管理の基礎理論 4. 日本型人事労務管理の再編 5. 従業員の採用と雇用調整 6. 従業員の配置と育成 7. 従業員の活用 8. 働きぶりの評価と処遇 9. 労使関係の安定と維持 10. 女性従業員の人事労務管理 11. 中高年労働者の人事労務管理 12. まとめ 		

科 目 名	経 営 学 (営)	担当者名	高松 和幸 (半期)
-------	-------------	------	--------------

講 義 の 目 標	この講義は、経営学の入門講座としての性格をもつ。すなわち、経営学科で学ぶ専門科目の基礎として、経営学の基本的な考え方、経営学でとりあげられる諸問題についてのトピックを講義する。この講義をつうじて、経営学への興味を高めるように努めたい。		
講 義 概 要	前・後期交代による授業のため、開講時に講義レジメを配布して説明する。概ね年間授業内容に従う。		
使 用 教 材	テキスト	プリント配布予定。	
	参 考 文 献	その都度指示する。	
評 価 方 法	期末定期試験・平常授業の課題など。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<p>1. <u>ベンチャー起業について</u>...ここでは企業創業のプロセスについて学ぶ。企業創業のプロセスは、企業を起こそうとするヒト、つまり企業家の積極的な活動がなければ成立しない。企業家は、いかに創業機会を発見し、それをどのように企業創業に結びつけていくのか。そのあたりに焦点を当て、ビジネス・プランの策定を試みる。</p> <p>2. <u>現代企業について</u>...ここではアメリカの石油産業を支配したスタンダード・オイル社の歴史をみる。現代企業の誕生を水平的統合と垂直的統合という概念を使って説明する。そして企業の法的形態の変化と、所有と経営のあり方の変化についても言及する。</p> <p>3. <u>環境と組織について</u>...フォード社がどのようにして大衆車モデルTを開発したのか、そしてアメリカの自動車産業を制覇した。フォード社は、なぜGM（ゼネラル・モーターズ）社に追い越されたのか。企業をとりまく環境と企業が採用する戦略、組織のあり方がどのように関連しているかについて言及する。</p> <p>4. <u>新事業の創出について</u>...新事業の創造は現代企業の宿命である。企業は新事業を創造し、若返りを図る。しかし、新しい事業を創造することは「生みの苦しみ」という困難を伴う作業である。ここでは具体例を通じて説明し、新事業を展開するさいの経営管理上の重要性を示唆する。</p> <p>5. <u>競争戦略について</u>...ここでは「競争戦略」について、具体例を通じて説明する。競争戦略とは、いかに競合他社に対して競争上の優位性を確立し、またそれを持続させていくのかを決定することをいう。戦略では、相手との「ちがいを」作りだし、効果的かどうかをみることである。</p> <p>6. <u>M&A について</u>...企業は外部資源を利用することで、内部資源の不足を補うことができる。M&Aは、他の企業の一部または全部を買い取ることで外部資源を利用する方法である。ここではソニーの事例を通して、M&Aの効果や経営問題について学習する。</p> <p>7. <u>日本の経営について</u>...終身雇用・年功序列などによる日本の経営の転換といわれて久しいが、この体制のなにを意味していたのか。少なくとも高度経済成長時には意味を持っていたのか。なぜ日本的という形容が付されるのか。これらについて、具体例を通じてロナルド・ドーアなどの見解をみることにする。</p> <p>8. <u>寡占について</u>...経済学では、市場に複雑だが少数の売り手が存在するとき、それを寡占と呼ぶ。とくに競争戦略などを考えるときには、この理論が前提とならなければならない。この理論的な問題は、一般にはゲーム理論を用いることになる。これによって、格段の情況理解を深めることをねらいとする。</p> <p>9. <u>よい会社とは何か</u>...それぞれの会社はそうなりたいと願う「良い会社」のイメージがある。良い会社の客観的な基準を作るとなるとそれは難しい。結論からいうと「良い会社」の条件やウエートの置き方は、時代や国によって異なり、これが必要十分条件であるということはないということを探る。</p> <p>10. <u>製品開発について</u>...キャラクターを交換することで遊びを創出した「ポケットモンスター」は、社会問題まで巻き起こしながら大ヒット商品となった。その製品開発までの軌跡を辿ることで、つまらないものには見向きもしない子供たちを相手に成功した要因を探る。</p> <p>11. <u>ネットワーク組織について</u>...企業が、そのときどきに市場に求められているモノやサービスを生産し供給することを「マーケットイン」という。そのためには市場に柔軟に対応できる組織が求められる。一般にはこのような仕組みをもつ組織をネットワーク組織と呼んでいる。</p> <p>12. <u>会社は誰のものか</u>...ここでは現代企業の行動とそのコントロールについて考える。それは株主を重視するアメリカ的会社観と、株主をそれほど重視しない日本の会社観の問題をみることにする。今日の企業経営のあり方において、その支配形態である株式会社は、経営者や株主はどのように位置付けられるのか。</p> <p>13. <u>企業文化</u>...沈滞している会社の社長や中間管理職が社員たちのムードや考え方の枠組みを変えると、企業全体の活動が見違えるほど生き生きとすることがある。それは企業のトップやミドルたちが組織全体の価値観を変えたりすることで、活性化されるからである。この企業独自価値観や考え方、行動パターンを「企業文化」という。具体例を通じて、企業文化の変遷、組織活性の実態などについて考える。</p>
----------------------------	---

科目名	経営学(営)	担当者名	富田 忠義(半期)
-----	--------	------	-----------

講義の目標	<p>企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさを両立させたいと考えている。本講義は「経営学入門の入門」である。</p>				
講義概要	<p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を激動する企業環境と関連させて概説して、全体として、現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <p>河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏編著『経営学原理』学文社</p> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典(第3版)』有斐閣 車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 森本三男著『経営学入門(増補版)』同文館</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<p>河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏編著『経営学原理』学文社</p>	参考文献	<p>金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典(第3版)』有斐閣 車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 森本三男著『経営学入門(増補版)』同文館</p>
テキスト	<p>河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏編著『経営学原理』学文社</p>				
参考文献	<p>金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典(第3版)』有斐閣 車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 森本三男著『経営学入門(増補版)』同文館</p>				
評価方法	<p>期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。 定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込み無し。</p>				
受講者に対する要望など	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというのではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>				

年
間
授
業
計
画

1. 授業計画の概説
2. 経営学の研究対象
3. 経営学の研究方法
4. 経営と管理、機能と機関
5. 企業形態
6. 企業体制
7. 企業集団と企業間関係
8. 企業経営の目的と目標
9. 経営社会責任と経営理念
10. 企業の経営環境
11. 市場と経営戦略
12. 授業のまとめ

科目名	簿記原理	担当者名	井出 健二郎
-----	------	------	--------

講義の目標	<p>この企業は良い・悪い、就職したい・そうでない...と評価するモノサシには何があるでしょうか？ 色々と考えられますが、どれだけもうかっているか、いくら借金があるかというおカネのモノサシがあるでしょう。そのモノサシを作るもの...それが簿記です。</p> <p>また、皆さんが就職される際、評価されるモノサシは何でしょうか？おそらく、第一は個人のキャラクターが左右されますが、資格の有無もポイントです。日商検定・税理士・公認会計士などは簿記をもとにした資格です。また、海外志向の方は、アメリカ会計士などもあります。簿記のしくみを知ってもらい、皆さんのプラスとなるようにすることが本講義の目的です。</p>				
講義概要	<p>前期では、簿記がどうして役立つか、どのような目的があるかを説明します。続いて、簿記の大きな流れをひとつお話ししていきます。その場合、用語の説明、手順の紹介を行うと同時に、皆さんにも実際に作業してもらいます。</p> <p>後期では、前期での簿記の大きな流れをもとにしつつ、細かいポイントについて説明し、作業してもらいます。その結果として総合的な簿記の全体を講義します。さらに、日本商工会議所簿記検定試験（11月、2月）向けの対策をも考慮して問題などをできる限り解いていくことにします。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> 湯田雅夫共著『商業簿記入門』中央経済社 井出健二郎ほか『3ステップ基本簿記演習』創成社 </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> a、染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』日経文庫 b、会田一雄・中村泰将・百瀬房徳『現代簿記精説』中央経済社 c、小川 洵共著『簿記会計の基礎』創成社 電卓（10ケタ以上のもの）を必ず用意してください。 </td> </tr> </table>	テキスト	湯田雅夫共著『商業簿記入門』中央経済社 井出健二郎ほか『3ステップ基本簿記演習』創成社	参考文献	a、染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』日経文庫 b、会田一雄・中村泰将・百瀬房徳『現代簿記精説』中央経済社 c、小川 洵共著『簿記会計の基礎』創成社 電卓（10ケタ以上のもの）を必ず用意してください。
テキスト	湯田雅夫共著『商業簿記入門』中央経済社 井出健二郎ほか『3ステップ基本簿記演習』創成社				
参考文献	a、染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』日経文庫 b、会田一雄・中村泰将・百瀬房徳『現代簿記精説』中央経済社 c、小川 洵共著『簿記会計の基礎』創成社 電卓（10ケタ以上のもの）を必ず用意してください。				
評価方法	<p>通常の出席状況をもとに試験（前期テスト・後期テスト）をふまえたうえで総合評価していきます。評価配分としては、出席60%、試験40%を基本としていきます。つまり、出席していただき、講義を聞いてもらいたいと思っています。なお、資格を取得された方についてボーナス評価を行うつもりです。</p>				
受講者に對する要望など	<p>何か1つくらい資格を...と考えている他学部の方も歓迎しています。初心者も前提とし、できる限りわかりやすく、皆さんにヤル気をおこさせる講義を心がけます。皆さん自身も“この講義をうけて得るものが多かった”と充実感の残るようにしましょう。</p>				

年 間 授 業 計 画	<p>前期講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の諸目的と種類について 2. 簿記の基本等式と基本概念について 3. 簿記上の取引とその記録について 4. 簿記上の取引の勘定記入について 5. 簿記のプロセス 1：仕訳について 6. 簿記のプロセス 2：(元帳) 転記について 7. 帳簿記入と伝票について 8. 簿記のプロセス 3：試算表について 9. 簿記のプロセス 4：精算表について 10. 簿記のプロセス 5：決算手続について 11. 簿記のプロセス 6：財務諸表の作成について 12. 簿記のプロセスの復習と前期のまとめ <p>備考 随時、検定試験の対策をとっていきます。</p>
	<p>後期講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 前期講義内容の復習 14. 現金・預金・商品売買取引に関する簿記 15. 売掛金・買掛金、その他の債権・債務に関する簿記 16. 手形取引に関する簿記 17. 貸倒損失・貸倒引当金に関する簿記 18. 有価証券、固定資産に関する簿記 19. 費用・収益に関する簿記 20. 資本と税金に関する簿記 21. 決算手続についての簿記 1 22. 決算手続についての簿記 2 23. 財務諸表の作成について 24. 簿記の役割の再確認、会計学とのかかわり <p>備考 進度によって若干の変更があります。</p> <p>進度によっては、さらに上級の簿記(検定試験 2 級)に役立つよう工業簿記・原価計算のイントロダクションをも説明していきます。</p> <p>また、計画の中においては、できる限り問題を解いていくことを念頭に入れていきます。皆さん方は、実際の現場で簿記の作業をおこなうことはできませんので、その代替的な位置づけからです。</p> <p>同様に、日本商工会議所簿記検定試験の対策としても、問題を解く訓練が必要となるからです。</p>

科 目 名	簿記原理	担当者名	内 倉 滋
-------	------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>企業会計は、しばしば「事業の言語」とであると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも「文法」に相当するものがあるわけであるが、その基本的な原理を習得することが本講義の目標である。そうした、言葉の構造を純粹に形式的に解明していく分野を、自然言語の世界では「構文論」と呼ぶのであるが、言ってみるならば「会計言語」における構文論が本講義である、ということとなろう。</p>
講 義 概 要	<p>会計という言葉は、今日では1つの世界共通語である。それゆえその「構文論」として講義すべき中身もまた、講義担当者によって大きく変わるものではない。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ最大公約数の部分だけを、丹念に議論していきたいと考えている。まず前期で、決算整理を含まない、「分記法」を前提とした(=要するに基本的で最も簡単な、ということである)「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱う。そして後期に、その内容に「商品3分法」や各種の「決算整理」といったディテールを付け加えていき、その中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくこととしたい。</p>
使 用 教 材	<p>テキスト 現代会計教育研究会編、『現代基本簿記』(多賀出版)</p>
	<p>参 考 文 献 特に必要とはいたしません。</p>
評 価 方 法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また受講生の理解度を知る目的からも、しばしば小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>検定試験類に、どしどしチャレンジしてみてください。合格した場合は、平常点に加味いたします。それよりも何よりも、自分の一生の道を見つけ出すことができるかもしれません。</p>

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貸借対照表.....簿記の目的、資本、貸借対照表の内容 2. 損益計算書.....簿記の第2目的の達成方法、損益計算書等式（損益計算書） 3. 「取引」の記録.....期首貸借対照表と「取引」の記録からの貸借対照表と損益計算書との作成、「取引」記録のルール 4. 仕訳.....仕訳とは、設例による説明 5. 勘定口座.....その必要性、勘定口座の形式、勘定口座への記入ルール 6. 仕訳帳と元帳.....仕訳帳（形式、「摘要」欄、「元丁」欄）、元帳（形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」）、3伝票制 7. 試算表.....決算（決算予備手続き、決算本手続、財務諸表の作成）、合計試算表、残高試算表、合計残高試算表 8. 精算表.....仮説例の提示（次回と共通）、精算表の原理 9. 「勘定の振替え」という技法について.....定義、具体例による説明 10. 決算本手続（帳簿決算）その1：純損益の振替.....帳簿決算の第1の目的（＝資本金勘定を正しい値に修正）、資本金勘定を正しい値に修正するための第1の方法、その第2の方法 11. 決算本手続（帳簿決算）その2：帳簿の締め切りと繰越試算表.....繰越試算表（その必要性等）、勘定口座の締め切り（参考：大陸式決算法）、仕訳帳の締め切り、財務諸表の作成 12. 前期の総復習.....同形式の問題により、前期末試験の予行演習 13. 現金・預金の記帳.....現金（簿記上の現金概念、現金過不足の処理）、当座預金（特徴、当座借越、当座預金出納帳）、小口現金（小口現金勘定、小口現金出納帳） 14. 商品売上の記帳（3分法その1）.....設例の提示、「修正された」分記法、3分法（2つの仮定を導入、期末に在庫が有る時の問題、売上時の処理） 15. 3分法（その2）.....3分法の復習、値引・返品処理、諸経費の処理（買主負担の場合〔仕入諸掛〕、売主負担の場合〔発送費〕） 16. 3分法（その3：仕入帳・売上帳）.....帳簿の種類（主要簿、補助簿〔補助元帳、補助記入帳〕）、仕入帳・売上帳（補助元帳でない理由、記帳上の留意点） 17. 商品有高帳.....その必要性、その位置付け（3分法では存在しない「商品」勘定の「補助元帳」）、移動平均法、先入先出法 18. 掛け売買と固定資産の記帳.....掛け売買の記帳（売掛金〔買掛金〕元帳、貸倒れ）、固定資産の記帳（固定資産の意味、種類、固定資産台帳） 19. 決算整理その1（3分法関係）.....決算整理とは、3分法関係の「決算整理仕訳」と「決算振替仕訳」の例 20. 決算整理その2（貸倒れの見越し・減価償却）.....貸倒れの見越し（意義、原理、償却債権の取立て）、減価償却（意義、毎期の減価償却費〔定額法〕、仕訳方法、売却時の処理） 21. 8桁精算表と損益計算書・貸借対照表.....8桁精算表（8桁精算表の限界、8桁精算表の原理）、損益計算書（仕入勘定等の表示、区分式）、貸借対照表（評価勘定の表示等） 22. 手形の記帳.....手形の種類、簿記上の勘定、為替手形振出しの説明、手形の裏書譲渡（意義等、割引）、受取手形記入帳・支払手形記入帳 23. 決算整理その3（収益・費用の繰延べ・見越し）.....設例の提示、収益・費用の繰延べ、収益・費用の見越し 24. その他の期中取引及び決算整理事項等.....その他の債権・債務の処理（商品券等）、個人企業の資本の記帳、有価証券の期末評価、消耗品の処理
----------------------------	---

科目名	簿記原理	担当者名	香取 徹
-----	------	------	------

講義の目標	<p>経済学部 학생 にとって簿記は必ず身につけておかなければならない基本的な科目です。将来、どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠です。また、財務会計論・管理会計論・原価計算論・経営分析論・会計監査論・税務会計論といった会計学に関連する科目を学んでいく上ではとても重要な基礎となります。そこで、この講義では、日本商工会議所簿記検定 3 級程度を完全に網羅したいと考えています。</p>		
講義概要	<p>前期の講義では、簿記一巡の手続きを理解することを目標とする。簿記の意義と目的、複式簿記の原則、取引・勘定・仕訳とは、試算表と精算表、決算の手続き。</p> <p>後期は勘定科目、補助簿、決算整理事項による決算の手続きを理解することを目標とする。現金・預金、商品、買掛金・売掛金、受取手形・支払手形、有価証券、固定資産と減価償却、資本金、費用収益の見越・繰延。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ New Concept 日商簿記検定試験 商業簿記 3 級 税務経理協会 ・ 同 ワークブック 	
	参考文献		
評価方法	定期試験による評価とプリント		
受講者に対する要望など	検定試験にどんどんチャレンジして下さい。合格したら試験の点数に加算します。		

年 間 授 業 計 画	複式簿記の基礎
	第1週 1 簿記の基礎概念
	第2週 2 資産・負債・資本と貸借対照表
	第3週 3 収益・費用と損益計算書
	第4週 4 取引と勘定
	第5週 5 仕訳と転記
	第6週 6 仕訳帳と総勘定元帳
	第7週 7 試算表と精算表
	第8週 8 決算手続
	取引の処理
	第10週 9 三分法による商品売買
	第11週 "
	第12週 10 仕入帳・売上帳・商品有高帳
	第13週 11 現金と預金 12 有価証券
	第14週 13 売掛金と買掛金 14 その他の債権・債務
	第15週 15 手形
	第16週 16 貸倒れと貸倒引当金
	第17週 17 有形固定資産 18 資本金と引出金
	第18週 19 費用・収益の見越・繰延
	決算と財務諸表
	第19週 20 試算表の作成
	第20週 21 決算整理と仕訳の訂正
	第21週 22 精算表の作成
	第22週 23 帳簿組織と伝票会計
第23週 24 貸借対照表と損益計算書	
第24週 "	

科 目 名	簿記原理	担当者名	金 井 繁 雅
-------	------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>複式簿記の計算原理を探求することに主眼を置き、商企業の経済活動つまり取引を正確に記録・計算・整理する能力を身につけることを目的とする。この科目は、会计学原理、財務会計論、原価計算論、上級簿記など会計系統の諸科目の基礎講座として機能するので、会计学の理解にとって不可欠である。</p>		
講 義 概 要	<p>複式簿記の原理およびその計算構造を学び、複式簿記の一連の手続を習得し、商企業の日常取引の記帳処理と決算処理を理解してもらおう。つまり、資産、負債、資本、収益および費用という5つの概念とその相互関係、資本等式や貸借対照表等式を解説し、資本をストックとしてとらえて利益を計算する財産法と資本をフローとしてとらえて利益を計算する損益法の計算原理を理解してもらおう。更に、簿記の対象である取引を分解し、仕訳帳に記入し、それを総勘定元帳に転記し、決算において、試算表を作成し、その記録の正確性を検証し、精算表を作成し、帳簿決算の手続を経て、財務諸表を作成するという簿記手続の全体像を把握してもらおう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>前期試験および後期試験によって成績評価を行う。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>簿記はその性格上、単に頭の中で理解するだけでなく、数多くの練習問題を繰り返し解くという勉強態度が要求され、階段を一步一步登っていくという努力が必要である。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. [簿記の意義と目的] 企業社会において、簿記の果たす機能とその目的について概説する。 2. [資産・負債・資本] 簿記の基本概念である資産、負債および資本の意味とそれらの相互関係について説明する。 3. [収益・費用] 収益と費用の概念を明らかにするとともに、その差額である利益について考察する。 4. [財産法と損益法] 利益計算の方法としての財産法と損益法の原理について考える。 5. [取引と勘定記入] 簿記上の取引と一般的な取引の区別および勘定記入の法則について説明する。 6. [仕訳と転記] 仕訳の意味、仕訳の方法および仕訳帳について説明すると同時に、元帳への転記の方法を概説する。 7. [試算表と精算表] 貸借平均の原理、試算表の意義および 8 桁精算表の構造と作成方法について説明する。 8. [帳簿決算手続] 主に英米式決算法を解説する。また、決算振替仕訳について十分に練習する。 9. [現金・預金] 現金と通貨代用証券、現金過不足勘定、小口現金、当座預金と当座借越について学ぶ。 10. [有価証券] 有価証券の購入と売却および評価替えについての記帳を解説する。 11. [商品勘定の3分法] 分記法と3分法の相違および3分法での決算整理について説明する。 12. [仕入帳と売上帳] 商品の仕入と売上についての明細を記録する補助簿について学ぶ。 13. [商品有高帳] 商品有高帳の作成方法、つまり先入先出法や移動平均法等を理解する。 14. [得意先元帳と仕入先元帳] 売掛金勘定と得意先元帳の関係および買掛金勘定と仕入先元帳の関係について考える。 15. [手形取引の記帳] 約束手形と為替手形の意味と手形取引の仕訳を学ぶ。また手形の裏書や割引にも触れる。 16. [その他の債権・債務] 前払金と前受金、立替金と預り金、仮払金と仮受金などを学ぶ。 17. [貸倒れと貸倒引当金] 貸倒れの意味と貸倒引当金の設定(差額補充法)について学ぶ。 18. [固定資産と減価償却] 固定資産と減価償却の意味および定額法による減価償却の処理について説明する。 19. [資本金と引出金] 個人企業における資本金勘定と引出金勘定について概説する。 20. [収益・費用の繰延] 損益の期末整理として、前受収益と前払費用の処理について学ぶ。 21. [収益・費用の見越] 損益の期末整理として、未収収益と未払費用の処理について学ぶ。 22. [試算表の作成] 試算表の作成に関する問題を練習する。 23. [8桁精算表] 8桁精算表の作成に関する問題を練習する。 24. [財務諸表の作成] 財務諸表の作成について総合的に考察する。
----------------------------	--

科目名	簿記原理	担当者名	中村泰将
-----	------	------	------

講義の目標	<p>コンピュータの発達により、計算技術的には迅速かつ正確な計算が可能になったが、経済活動を記録・計算する原理は簿記システムを学ばなければ理解できない。企業の利益の計算、課税所得の計算を始め、すべての経済活動の成果は、簿記によって計算される。この計算構造の原理を学ぶことが本講座の目的である。</p>	
講義概要	<p>前期：企業の目的と企業のシステムを学び、そこで行われる経済活動を理解し、簿記がなぜ、そこに登場しなければならないかを考える。経済の活動の結果は、富のフローとストックで表すことが出来るから、その報告書が作成できるようにしたい。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR A[経済活動 (1)] --> B[簿記上の取引 (2)] B --> C[分類・記録・計算 (3)] C --> D[試算表 (4)] D --> E[損益計算書 (5)] D --> F[貸借対照表 (6)] </pre> </div> <p>上の一連の行為を簿記の処理として学ぶ。(ワンサイクルの学習と呼ぶ。)</p> <p>後期：前期で学んだ一連の処理を前提として、前期よりも複雑な取引を対象としてその簿記処理を学ぶ。従って、(2)と(3)の基本的原理は同じだが、(4)から(5)と(6)を作成する過程が複雑になる。どのように複雑になるかは、授業で説明する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>授業の始めに指定します。 問題のプリントも併せて使用します。</p>
	参考文献	<p>簿記検定を受験する希望者は、つぎの問題集をすすめる。 ・『検定簿記ワークブック』3級、2級の商業簿記、中央経済社</p>
評価方法	<p>前期テスト、後期テストによって成績評価を判定する。 毎回、10分程度の小テストを行うので、その成績も加算する。</p>	
受講者に對する要望など	<p>これまで出欠を自由にしてきたが、簿記の授業は毎回実際に記帳練習するので必ず出席すること。</p>	

年 間 授 業 計 画	<p>1. 簿記とは何かを理解する</p> <p>2. (1) 複式簿記の基本等式 (2) 複式簿記の基礎概念 (3) 複式簿記の5つの基本要素</p> <p>3. (1) 簿記上の取引の意味と種類</p> <p>4. (1) 「勘定」とは何か (2) 勘定でどのような計算をするか</p> <p>5. (1) 「仕訳」とは何か (2) 仕訳の仕方 (3) 「仕訳」から「勘定」へ転記する</p> <p>6. 第5回までの一連のプロセス <input type="text" value="取引"/> <input type="text" value="仕訳帳"/> <input type="text" value="元帳"/> 次へ</p> <p>7. 試算表の作成 (1) 試算表とは何か (2) 試算表の目的</p> <p>8. 精算表の作成 (1) 精算表とは何か (2) 精算表から損益計算書と貸借対照表を作成する</p> <p>9. ~10. 決算の仕方を理解する (1) 決算とは何か (2) 決算の手續 予備手續と本手續 (3) 元帳の締切</p> <p>11. ~12. 決算の仕方を理解する (1) 費用・収益勘定を締め切る (2) 当期純利益を資本金勘定に振り替える (3) 資産・負債・資本の勘定を締め切る</p> <p>13. 現金と預金</p> <p>14. ~16. 商品の購入・管理・販売の処理 (1) 商品の売買利益の算定の仕方 (2) 商品の3分割 (3) 商品有高帳の作成 (4) 仕入帳と売上帳の作成</p> <p>17. 有価証券の購入・保有・売却の処理</p> <p>18. 固定資産の購入・利用・修繕・処分処理</p> <p>19. 債権・債務の処理(1)</p> <p>20. その他の債権・債務(2)</p> <p>21. 資本金の処理</p> <p>22. 決算の修正手續(1) (1) 収益と費用の繰延 (2) 前払費用と前受収益</p> <p>23. 決算の修正手續(2) (1) 収益と費用の見越 (2) 未収収益と未払費用</p> <p>24. 決算の修正手續(3) (1) 8桁精算表の作成 (2) 損益計算書と貸借対照表の作成</p>
----------------------------	--

科 目 名	簿 記 原 理	担当者名	細 田 哲
-------	---------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続について理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続を遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができるようになることを目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>前期講義は、学生諸君が複式簿記を理解し、簡単な精算表の作成、決算本手続を遂行できるようにすることを目的とする。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複式簿記とは ・簿記の仕組み ・試算表と精算表 ・決算() <p>後期講義は、学生諸君が次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、損益計算書と貸借対照表の作成である。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現金・預金取引の記帳 ・商品売買取引の記帳 ・手形取引の記帳 ・その他の取引の記帳 ・決算()決算整理 ・損益計算書と貸借対照表の作成 		
使 用 教 材	テキスト	中村 忠「新訂・現代簿記」(白桃書房)	
	参 考 文 献	平松一夫(編著)「New Concept 日商検定 商業簿記3級」(税務経理協会)	
評 価 方 法	年2回以上の試験の結果による。		
受 講 者 対 する 要 望 等			

年 間 授 業 計 画	1. 1. 複式簿記とは(1)	a) 簿記の目的と種類
	2. " (2)	b) 簿記の要素
	3. 2. 簿記の仕組み(1)	a) 取引と勘定、b) 勘定記入法
	4. " (2)	"
	5. " (3)	c) 仕訳と転記、d) 仕訳帳と総勘定元帳
	6. " (4)	"
	7. 3. 試算表と精算表 (1)	a) 試算表の作成、b) 精算表の作成
	8. " (2)	"
	9. 4. 決算 () (1)	a) 決算の意味と手続
	10. " (2)	b) 大陸式決算法、c) 英米式決算法
	11. " (3)	"
	12. " (4)	d) 損益計算書と貸借対照表の作成 e) 開始記入
	13. 5. 現金・預金取引の記帳	
	14. 6. 商品売買取引の記帳(1)	a) 分記法、3分法
	15. 6. " (2)	b) 仕入帳と売上帳、c) 商品有高帳
	16. 6. " (3)	" d) 掛取引の記帳
	17. 7. 手形取引の記帳 (1)	a) 約束手形と為替手形、b) 受取手形勘定と支払手形勘定 c) 手形の裏書と割引
	18. " (2)	d) 受取手形記入帳と支払手形記入帳 e) 不渡手形、f) 手形貸付金と手形借入金
	19. 8. その他の取引の記帳	a) その他の債権、債務取引、b) 有価証券取引 c) 固定資産取引、d) 営業費等の取引
	20. 9. 決算()決算整理 (1)	a) 決算整理の意味 b) 棚卸減耗損および商品評価損
	21. " (2)	c) 有価証券評価額 d) 固定資産の減価償却
	22. " (3)	e) 費用・収益の繰延べと見越し f) 8桁精算表の作成
	23. " (4)	"
	24. 損益計算書と貸借対照表の作成	

科 目 名	簿記原理	担当者名	百瀬房徳
-------	------	------	------

講義の目標	<p>本講では、特に複式構造を内包した商業簿記を取り上げる。複式構造は仕訳に基づき勘定システムを通じて事業の資産、負債および資本の増・減を測定する。この勘定システムと事業体の組織との関係で、各勘定の意義および機能と具体的な処理について理解を深めることにする。</p>		
講義概要	<p>複式簿記とは、貸方および借方の複式構造をもち、取引を仕訳帳、元帳および補助簿へ記入する簿記をいう。まず、複式簿記の基本的な勘定システムを前期に修得し、つぎに、基本的な勘定について仕訳帳の記入、元帳における勘定への転記および補助簿への記入について取引を記録する過程を具体的に修得する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・中村・曾田・百瀬著『現代簿記精説』中央経済社</p>	
	参考文献	<p>無し</p>	
評価方法	<p>前期および後期において講義した範囲について試験する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義のあった日に必ず復習すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	前 期		
	週	主 要 テ ー マ	
	1	1年間における講義内容の説明。	
	2	複式簿記の体系の説明およびこの簿記における取引とは何か。	
	3	仕訳の基本原則および取引勘定への転記。	
	4	補助簿への記入、および試算表の作成原理。	
	5	精算表の作成原理損益勘定および残高勘定への転記。	
	6	取り引きパターン別仕訳例の説明。	
	7	パターン別に仕分けされた例の勘定への転記。	
	8	例題による取引の仕訳、勘定への転記、および試算表の作成。	
	9	例題による精算表の作成、および帳簿締切による損益勘定および残高勘定への完成。	
	10	練習問題 取引の仕訳記入および仕訳帳から元帳への転記。	
	11	練習問題 試算表の作成および精算表の作成。	
	12	練習問題 元帳締切による損益勘定および残高勘定の完成。	
		備 考	
	後 期		
	週	主 要 テ ー マ	
	1	現金勘定と現金出納帳。	
	2	当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳。	
	3	商品勘定の記入方法...単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割。	
	4	仕訳勘定と売上勘定...返品と値引きおよび商品の仕入価額。	
	5	仕入勘定と仕分勘定および売上勘定と売上帳	
	6	繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗費および商品評価損。	
	7	売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳。	
	8	受取手形勘定と受け取り手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳。	
9	その他の債券・債務の諸勘定、および有価証券勘定。		
10	固定資産の諸勘定...特に減価償却に関する処理。		
11	決算前の諸勘定の整理について。		
12	決算...勘定の締切、損益勘定および残高勘定の完成、および8桁精算表の作成。		
	備 考		

科目名	簿記原理	担当者名	湯田雅夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するにあたって、また企業の財政状態や経営成績を外部の利害関係者に正しく報告するうえで、欠くことのできない計算技術である。</p> <p>本講は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。</p>		
講義概要	<p>複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行なう。簿記は、技術がかなりのウェートを占めている学問であるので、単に書物を読んで学習するだけでは修得できない。各自、授業の進捗度に応じて教科書の「練習問題 A」および「練習問題 B」に取り組み、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・渋谷武夫『日商簿記検定 3 級 初級簿記演習』税務研究会出版局 ・渋谷武夫『日商簿記検定 2 級 初級簿記演習』税務研究会出版局 ・小川 洵・渋谷武夫『現代工業簿記』税務経理協会、1984 	
評価方法	<p>当該講義科目は、前期・後期の 2 回実施する試験によって行う。なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私語を一切しないこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. イントロダクション；講義概要ならびに授業の進め方</p> <p>2. 簿記の歴史</p> <p>3. 第1章 簿記の意義と目的；第2章 資産・資本と貸借対照表</p> <p>4. 第2章 東京商会の事例解説；第3章 収益・費用と損益計算書</p> <p>5. 第4章 取引；第5章 勘定</p> <p>6. 第6章 仕訳と転記</p> <p>7. 第7章 帳簿</p> <p>8. 第8章 簿記一巡の手続き</p> <p>9. 第9章 現金預金</p> <p>10. 第10章 商品売買</p> <p>11. 第10章 商品売買</p> <p>12. 第11章 有価証券；第12章 売掛金と買掛金</p> <p>13. 第13章 その他の債権・債務</p> <p>14. 第14章 手形</p> <p>15. 第15章 貸倒れと貸倒引当金</p> <p>16. 第16章 固定資産；第17章 資本金と引出金</p> <p>17. 第18章 収益・費用の繰延と見越</p> <p>18. 第19章 決算予備手続</p> <p>19. 第19章 問題</p> <p>20. 第20章 決算本手続</p> <p>21. 第20章 決算本手続</p> <p>22. 第20章 問題</p> <p>23. 総合問題</p> <p>24. 本講義の結びとして、「簿記学習の継続」の必要性を指摘する。</p>
----------------------------	---

科 目 名	英 語 (会 話)(一 外)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	--------------------	------	-----------

講義の目標	自然なスピードの英語をビデオから得られる視覚的情報を利用しながら理解し、また、基本的な日常英会話が行なえるようになることを目標とする。		
講義概要	ビデオを見てその内容を理解し、テキストにのっているスクリプトで内容の確認を行なう。また、ドリルとして、スクリプトからとった重要会話表現のリピートをする。さらに、さまざまな疑問文の作り方、文型練習などを行なう。毎回学習した内容の確認として最後に True-False Quiz を行なう。		
使用教材	テキスト	<i>Family Album, USA</i>	
	参考文献		
評価方法	前後期定期試験としてビデオを使ったヒアリングテストを行なう。これに加え毎週実施する True-False Quiz , 出席、平常点などをもとに評価を行なう。特に遅刻せず授業に出席することが重要である。		
受講者に対する要望など	テキスト及び 60 分のテープを毎回持ってくること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Episode 1, Act 1 2 . Episode 1, Act 2 3 . Episode 1, Act 3 4 . Episode 2, Act 1 5 . Episode 2, Act 2 6 . Episode 2, Act 3 7 . Episode 3, Act 1 8 . Episode 3, Act 2 9 . Episode 3, Act 3 10 . Episode 4, Act 1 11 . Episode 4, Act 2 12 . Episode 4, Act 3 の概説及び復習 13 . Episode 5, Act 1 14 . Episode 5, Act 2 15 . Episode 5, Act 3 16 . Episode 6, Act 1 17 . Episode 6, Act 2 18 . Episode 6, Act 3 19 . Episode 7, Act 1 20 . Episode 7, Act 2 21 . Episode 7, Act 3 22 . Episode 8, Act 1 23 . Episode 8, Act 2 24 . Episode 8, Act 3 の概説及び復習 		

科 目 名	英 語 (講 読)(一 外)	担 当 者 名	各 担 当 教 員
-------	--------------------	---------	-----------

講 義 の 目 標	本講義は、英語で書かれた小説、随筆、雑誌、新聞など様々な文章を読みこなすことができる読解力の基礎を養うことを目標とする。		
講 義 概 要	講義は、学生の英語力を考慮した上で決めた教材により行う。教材の内容は、現代英語で平易に書かれたものとし、読解力をつけるために訳読、要約、文法など総合的に学ぶ。		
使 用 教 材	テキスト	各担当教員が決める。	
	参 考 文 献	各担当教員の指示による。	
評 価 方 法	各担当教員による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習、復習を欠かさず、積極的に学習して欲しい。 年間講義予定については、授業時に指示する。		

科 目 名	ドイツ語 (二外)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講義の目標	<p>A (基礎) / ドイツ語圏の社会や文化についての基礎的な知識の獲得と、ドイツ語の基本能力の修得を目標とします。</p> <p>B (読解練習) / 読解に重点を置きながら、ドイツ語の基本的な語彙や構文が理解できるよう指導します。</p> <p>C (口頭練習) / 日常会話における基本的な表現を使って、ドイツ語での応答ができるよう指導します。</p> <p>Aを中心に、AとB、またはAとCというように組み合わせて履修して下さい。</p>		
講義概要	<p>A (基礎) / ドイツ語圏の社会や文化にさまざまな形で触れた後、発音・数字・日常的な表現等の導入を経て、徐々にドイツ語の基本的語彙・表現・文法事項を学んでいきます。</p> <p>B (読解練習) / 易しい文章を読みながら、そこに出てくる基本的な語彙や構文を理解し、修得していきます。</p> <p>C (口頭練習) / コミュニケーションを意識しながら、日常会話における場面ごとの基本表現を学び、口頭で応答できるように練習を行います。</p>		
使用教材	テキスト	詳しくは教科書販売所の掲示を見て下さい。	
	参考文献	・独和辞典(中型のもの)	
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。		
受講者に対する要望など	練習が主体の科目ですから、授業には必ず出席し、積極的に発言して下さい。		
年間授業計画	<p>1. 第1週 テキストの内容を紹介し、今後の授業の進め方・進度等について説明します。</p> <p>2. 第2週～第24週は、テキストに基づいた練習。</p>		

科 目 名	フランス語 (総合)(文法)(二外)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	--------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>「文法」ではフランス語の基礎的文法を習得し、「総合」では文法を応用し簡単なテキストを読む力をつけます。「文法」と「総合」からそれぞれ一科目ずつ選択して履修して下さい。</p>		
講 義 概 要	<p>フランス語の基礎を学びます。発音、動詞の活用、文法事項など、最初は複雑に思えるかも知れませんが、ある程度の根気と努力さえあれば、習得できます。予習、復習に力を入れて、その都度マスターするように心掛けて下さい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>各担当者による（場合によっては、二人の担当で共通の教科書を用いることもありますので、教科書販売所の掲示を確認して下さい）。</p>	
	参 考 文 献	<p>初学者のために工夫された仏和辞典がいろいろとありますので、担当者の説明を聞いて購入して下さい。 その他の参考書については、担当者に直接相談して下さい。</p>	
評 価 方 法	<p>評価方法については各担当者から説明があります。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>どの学習もそうですが、とくに語学では持続的な積み重ねが大切です。毎日少しの時間でもよいから、フランス語に触れるように努力して下さい。</p>		

科 目 名	スペイン語（総合）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講義の目標	スペイン語入門の授業である。基礎的文法を、基本単語を用いた会話文を通して学ぶ。声に出して練習することによって、あいさつ文、現在形を使う文、過去形を使う文まで学びたい。		
講義概要	テキストにそって、第6課（点過去）あるいは第7課まで進む。		
使用教材	テキスト	<i>i Hola, amigos!</i> (芸林書房)	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語（会話）との同時履修を望む。		
年間授業計画	1. テキストにそって第1課から第3課あるいは第4課まで前期でおこなう。 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. テキストにそって第4課から第6課あるいは第7課まで後期でおこなう。 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	スペイン語（会話）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講義の目標	スペイン語会話入門の授業である。基本単語を用いた会話文を練習し、あいさつ文、現在形の文、過去形の文までを使えるようにする。		
講義概要	スペイン語（総合）と同じテキストを使い、その進度にあわせながら、会話練習をおこなう。		
使用教材	テキスト	<i>i Hola, amigos!</i> (芸林書房)	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語（総合）との同時履修を望む。		
年 間 授 業 計 画	1. テキストにそって第1課から第3課あるいは第4課まで（前期） 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. テキストにそって第4課から第6課あるいは第7課まで（後期） 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	ロシア語（講読）	担当者名	佐藤 千登勢
-------	----------	------	--------

講義の目標	ロシア語の初学者を対象としています。簡単な口語表現、実用的な文章を通して、ロシア語に慣れること、ロシア語の感覚をつかんでもらうことを目標とします。		
講義概要	ロシア語は、複雑で習得が困難と思われがちですが、その実、文法体系の整ったシステムティックな言語ですから、一度基本をおさえれば、ロシア語の文章を読み解くのはきわめて楽しい作業となるはず。この授業では、「文法」の授業との調整をはかりながら、日常に密着した実用のロシア語を、簡単な読み物と口語表現を通して学んでいきます。授業は、ゆっくり丁寧に進めます。		
使用教材	テキスト	日野貴夫、ポノマリョーフ・ジナイーダ共著『コンタクト』（ズラトウースト社）	
	参考文献	博友社『ロシア語辞典』	
評価方法	前期、後期に1回ずつ行う定期試験、および出席率を含めた平常点により決定します。		
受講者に対する要望など	授業の予習を欠かさないようにしてほしいと思いますが、予習ができなかった場合にも、授業に出席することだけは心がけてください。		
年間授業計画	<p>前期：アルファベットの発音、簡単な文章のイントネーションの習得から始め、動詞の人称変化、過去形、名詞の格変化を習熟すべく平易な文章を読んでいきます。テキストは、旅行、ホテル滞在、オフィス、会社等で想定される、平易かつ実用的な表現から成ります。</p> <p>後期：無人称文、未来形、比較級、数量の表現を多用した文章を読んでいきます。テキストは、レストランでの食事、ロシア料理についてなど。</p>		

科 目 名	ロシア語（文法）	担当者名	齊 藤 毅
-------	----------	------	-------

講義の目標	ロシア語の文法の初歩を学ぶ。アルファベット（キリル文字）の読み方や発音を身につけ、ロシア語で文を作るときの発想を学び、簡単な構文を使ってコミュニケーションがとれるようになることを目標とする。		
講義概要	まったくの初学者を対象とする。アルファベットの読み方から始め、発音を練習すると同時に、文法を教科書に従って学んでゆく。名詞の性の区別や、名詞の格変化、動詞の人称変化など、日本語にはないロシア語の発想がどのようなものなのかをポイントに学習し、その使い方を練習する。学生の皆さん一人一人の練習にウェイトを置いて授業を進める。		
使用教材	テキスト	桑野隆 『はじめてのロシア語』（白水社）	
	参考文献	『博友社 ロシア語辞典』	
評価方法	前後期それぞれ1回の試験、および出席などの平常点。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<p>1. 発音：年間を通じて練習する。まずアルファベットの読み方をマスターし、その後も、文の組みたてと密接に結びついているロシア語のイントネーション（声の抑揚）を身につけるため、毎回の授業で発音練習を重視する。</p> <p>2. 文法：全部で16課の教科書の半分強を終えることを目標とするが、あまりこだわらない。学生の皆さんの習熟度にしたがって進める。</p>		

科 目 名	中国語（講読）	担当者名	秦 敏
-------	---------	------	-----

講義の目標	初めて中国語を学ぶ学生を対象とします。正確な発音と初歩的な文法が身につく、ある程度の読解力を身につけることを目標とします。		
講義概要	講義の内容は発音から始まり、簡単な挨拶、自己紹介など初級段階で必要と思われる重要表現項目をテキストの例文を使って覚え、文法は例文を学ぶことによって理解を深める。		
使用教材	テキスト	榎本英雄「できる中国語」同学社	
	参考文献		
評価方法	前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。		
受講者に対する要望など	復習と予習することを望みます。		

科 目 名	中国語（講読）	担当者名	張 繼 樾
-------	---------	------	-------

講義の目標	入門から始めて、総合的な語学能力を養成することを目標とします。		
講義概要	発音および中国語ローマ字表記を確実に把握する。基礎文法を中心に授業内容を組み立て例文講読、文型練習あるいは、日常会話などの方法を用いて中国語の基礎知識を身につける。		
使用教材	テキスト	『ベーシック・チャイニーズ』張繼濱著 白帝社	
	参考文献		
評価方法	出席、テスト、授業中の学習態度など総合評価する。		
受講者に対する要望など	予習、復習を行うことを望みます。		
年間授業計画	1. 第一回の授業中に説明する。		

科 目 名	中国語（講読）	担当者名	横川 澄枝
-------	---------	------	-------

講義の目標	初めて中国語を学ぶ学生を対象とします。中国語の文法についての基礎的な知識を得ること、中国語の文型や会話パターンを知り、語彙を積み重ねることによって簡単な日常会話ができるようになることをめざし、それとともに、我が国にとってもっとも古くからの隣国である中国を知ること。表現形式から見た日本語との違いや、現代中国についての知識などを得ることをも目的とします。		
講義概要	はじめは発音の基礎から入ります。このテキストは課ごとに、会話・文法のポイント・練習という内容から構成されています。まず、会話の内容を理解し、文法の要点を理解し、それを確かなものとして定着させ、さらに応用できることをめざします。そのためには講義をただ聞いている・テキストを目で見ているだけではなく、自ら声を出す・会話練習をする・練習問題をとくとといった活動をおこないます。これらの活動を通じて、文法知識・語彙力を高めていき、簡単な中国語の文章を読む機会も設けます。		
使用教材	テキスト	『楽しい中国語 朋子の北京留学』上野恵司他著 郁文堂	
	参考文献	辞書 『中日辞典』小学館、『中日辞典』講談社など (辞書類については最初の時間に紹介もおこないます)	
評価方法	定期考査の成績、および出席率をも含めた授業への取り組み方などにもとづき、小テストの結果も加味して総合的に評価します。		
受講者に対する要望など	予習や課題は当然してきているものとして授業にのぞみます。辞書は必携です。		
年間授業計画	テキストは発音および16課の本文からなっています。前期はオリエンテーション・発音から始め、一時間に1課のめやすで進めていきます。当然、はじめのうちはややゆっくりのペースで随時理解度を確認しつつ進めていきます。後期は次第にペースをあげ、理解度に応じて簡単な中国語の文章を読む時間も設けるつもりです。		

科 目 名	中国語（文法）	担当者名	辻 康 吾
-------	---------	------	-------

講義の目標	初学者に基本的知識を与え、自力で学習を続けることが可能になるようにする。合わせて中国文化、社会事情などを語学学習を通じて説明する。		
講義概要	後期の中国語 と合わせ中国検定試験 3～4 級受験を可能なものとする。予習・復習が絶対に必要である。		
使用教材	テキスト	『語学三十六景 [中国語入門]』東方書店	
	参考文献		
評価方法	学期途中の小テストと期末試験を総合評価する。		
受講者に対する要望など	小学館『中日辞典』を使用する。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発音（1）声調、単母音、複母音 2. 発音（2）声母表、無気音と有気音、そり舌音、消える o と e、三つの i 3. 発音（3）鼻音など 4. 発音（4）声調変化 5. 発音総合試験 6. 人称代名詞 7. “有”と“没有” 8. “視”と“那” 9. 的、和、都の使用方法 10. 什既、卿、多少など 11. 総合テスト 		

科 目 名	中国語（文法）	担当者名	横 川 澄 枝
-------	---------	------	---------

講義の目標	初めて中国語を学ぶ学生を対象とします。中国語の文法についての基礎的な知識を得ること、中国語の文型や会話パターンを知り、語彙を積み重ねることによって簡単な日常会話ができるようになることをめざし、それとともに、我が国にとってもっとも古くからの隣国である中国を知ること。表現形式から見た日本語との違いや、現代中国についての知識などを得ることをも目的とします。		
講義概要	最初は発音の基礎から入ります。このテキストは、課ごとに、会話・文法の重点・ドリルという構成がとられています。各課において、会話の内容を理解し、文法の要点を理解し、練習することによってそれを定着させ、さらに応用できることをめざします。そのためには講義をただ聞いている・テキストを目で見ているだけではなく、自ら声を出す・会話練習をする・練習問題をとくとといった活動をおこないます。これらの活動を通じて、文法知識・語彙力をも高めていきます。		
使用教材	テキスト	『表現する中国語』楊凱栄著 白帝社	
	参考文献	辞書 『中日辞典』小学館、『中日辞典』講談社など (最初の時間に辞書類の紹介もします)	
評価方法	定期考査の成績、および出席率をも含めた授業への取り組み方などにもとづき、小テストの結果なども加味して総合的に評価します。		
受講者に対する要望など	予習や課題は当然してきているものとして授業にのぞみます。また、辞書は必携です。		
年間授業計画	テキストは発音編および本編 16 課からなっています。前期はオリエンテーション・発音編から始め、一時間に 1 課のめやすで進めていきます。当然ながら、はじめのうちはややゆっくりのペースで随時理解度を確認しつつ進みます。課が進むにつれて、とくに後期は次第にペースをあげていくつもりです。		

科 目 名	中国語（文法）	担当者名	頼 明
-------	---------	------	-----

講義の目標	中国語を学ぶ上で、発音の習得は非常に重要です。正しく発音できることは、自信につながり、中国語そのものも楽しくなります。この授業では、発音の繰り返し練習に重点を置き、文法は必要最小限に押さえ、話せる中国語を目指します。		
講義概要	教科書に沿って進みます。前期は発音や中国語の音声表記であるピンインの習得が最大の課題です。後期は実際の会話文の発声練習を中心に進み、基本例文の暗記とその応用が中心となります。		
使用教材	テキスト	『みんなで中国語』中村俊也・謝 謀・綾部武彦・頼 明著 朝日出版社	
	参考文献	必要に応じて授業中に指示します	
評価方法	出席を重視し、授業態度、学期末試験と総合して評価します。		
受講者に対する要望など	授業は休まず出席してください。教科書の本文が暗唱できるよう、教材に付属の CD を毎日聞いてください。		
年間授業計画	教科書に沿って進みます。（詳しくは授業中に指示します。）		

科 目 名	韓 国 語 （ 講 読 ）	担当者名	李 貞 美
-------	---------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化等の諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流が進展していくことが期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌等から時事情報を得る基本的能力の総合的な定着をめざし、多角的な授業を行う。</p>		
講 義 概 要	<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象とし、読解・作文力の養成を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけることをめざす。その際に韓国語と日本語の共通点・類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させるようにする。そして韓国の典型的文化や生活等を紹介しながら直結する学習内容を精選・組織し、学習内容に臨場感を持たせる。また言語だけでなく、絵・写真・スライド・ビデオ等を提示し、学習の場面の雰囲気や情調を感得させる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	『韓国語学習 - 基礎から完成まで - 』朴勇俊（プリント）	
	参 考 文 献	後日指定	
評 価 方 法	<p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>外国語の学習は持続的な学習や訓練に関する学習者の積極的な興味、関心が大切である。意欲的に熱意をもって取り組んでほしい。</p>		

科目名	韓国語（文法）	担当者名	朴 勇 俊
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住等のストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め積極的に学習に取り組むようにする。</p>		
講義概要	<p>(1) 韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得 韓国語の特徴、特に「ハングル」の構造を日本語およびその文字との比較からわかりやすく説明する。</p> <p>(2) 韓国語の文字、文章の理解と解読 辞書の活用による「ハングル」の解読、「ハングル」による表現、「ハングル」の音韻的法則を指導する。</p> <p>(3) 実用会話 基本会話文（あいさつ、自己紹介、基本的感情表現、ショッピング、食事の注文等の日常生活に必要な表現）を厳選し、学習者同士が役割を変えながら問答型の会話の反復練習をする。</p>		
使用教材	テキスト	『韓国語学習 - 基礎から完成まで - 』朴勇俊（プリント）	
	参考文献	参考書や辞書等は後日指定する。	
評価方法	評価は原則として定期試験と授業への取り組み、出席状況等を総合的に判定する。		
受講者に対する要望など	外国語の学習は学習者が持続的な学習や訓練に対応する積極的な興味や関心、持続的努力などを一貫して維持できるかどうかによって成果が左右される。意欲を持って主体的に取り組む姿勢を身につけてほしい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について 2. 韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得 3. 韓国語の文字・文章の理解と解読 4. 韓国語の文字・文章の理解と解読 5. 韓国語の文字・文章の理解と解読 6. 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。 「スーパーマーケット」 7. 「市場」 8. 「薬局」 9. 「喫茶店」 10. 「郵便局」 11. 「洋服店」 12. 前期末試験 13. 「映画館」 14. 「スポーツ」 15. 「図書館」 16. 「クリーニング店」 17. 「銀行」 18. 「役所」 19. 「銭湯」 20. 「美容院」 21. 「趣味」 22. 「国際電話」 23. 「健康管理」 24. 後期末試験
----------------------------	--

科 目 名	英 語 (講 読)(一 外)	担 当 者 名	各 担 当 教 員
-------	--------------------	---------	-----------

講 義 の 目 標	新聞、雑誌、詳説、随筆などさまざまなジャンルの英文を読み、英文の読解力の向上をめざす。また、これらの英文を読むことを通して、英語という言語や英語圏の人々の考え方、文化、社会についての理解を深める。		
講 義 概 要	授業の進め方など詳しいことは、各担当者が最初の授業で説明する。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	各担当者が指示する。	
	参 考 文 献	必要に応じて各担当者が授業時に紹介する。	
評 価 方 法	各担当者による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	英 語 (総合)(一外)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	--------------	------	-----------

講義の目標	読む、書く、聞く、話すの 4 技能を総合した、現代英語でのコミュニケーション能力の習得を目指す。		
講義概要	最初の時間に各担当教員からクラスごとに指示をする。		
使用教材	テキスト	テキストなど教材の選択は、各担当教員が決定するが、以上の主旨を反映した総合英語教材を使用する。	
	参考文献		
評価方法	前・後期の定期試験と平常点を考慮し、総合評価とする。		
受講者に対する要望など	最初の時間に各担当者より直接指示する。		
年間授業計画	最初の時間に各担当者より直接指示する。		

科 目 名	英 語 (会 話)	担当者名	L.ヴィレヌーヴ
-------	-------------	------	----------

講 義 の 目 標	Depending on the students' s level, we will use the following outlines for this course. We will speak about HUMANISM and discuss SOCIAL ISSUES. If the students' spoken skill is quite low, something easier will be chosen. The decision will be made at the first meeting.		
講 義 概 要	EACH LECTURE WILL DEAL WITH A DIFFERENT TOPIC. AT THE BEGINNING OF THE CLASS, KEY WORDS WILL BE EXPLAINED. THE STUDENTS WILL PARTICIPATE IN AN EXCHANGE OF OPINIONS. THEN, THE TEACHER WILL GIVE A SHORT LECTURE ON THE SUBJECT. THERE WILL BE OPPORTUNITIES FOR THE STUDENTS TO BETTER UNDERSTAND THEMSELVES AND REALIZE THAT DREAMS ARE NOT ALWAYS AT THE END OF THE RAINBOW. THIS IS FOR STUDENTS WHO BELIEVE THEY ARE ABLE TO EXPRESS THEIR IDEAS IN ENGLISH.		
使 用 教 材	テキスト	NO TEXTBOOK ; ONLY A NOTE BOOK IS REQUIRED. ONCE IN A WHILE, PRINTS WILL BE PURCHASED.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	A regular attendance and an active participation will be a heavy factor on deciding the final mark. SENIOR STUDENTS, who think they might not attend the majority of the lectures should look for another course.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	THE 35 STUDENTS SITTING IN THE FIRST SECTION OF THE CLASSROOM NOT IN THE BACK WILL HAVE PRIORITY. AT THE FIRST MEETING IF THE NUMBER EXCEEDS 35, EACH STUDENT WILL BE INTERVIEWED AND ACCORDING TO THEIR INTEREST IN THE COURSE, WILL BE ACCEPTED.		

HUMANISM

- 1 . WHAT IS HUMANISM
 - 2 . HUMAN NATURE
 - 3 . ANALYSIS OF THE MIND
 - 4 . DEFINITION OF LOVE
 - 5 . ANALYSIS OF THE NIHON NO KOKORO
 - 6 . HAPPINESS
 - 7 . PUBLIC ENEMY NUMBER ONE
 - 8 . RELIGION AND CULT
 - 9 . HUMAN RELATIONSHIP
 - 10 . AIDS HISTORY VIDEO PART ONE
 - 11 . AIDS HISTORY VIDEO PART TWO
 - 12 . MID-TERM EXAMINATION
- SOCIAL ISSUES
- 13 . BULLYING
 - 14 . EDUCATION : THE ONE / NOT A NUMBER ONE
 - 15 . DISCRIMINATION
 - 16 . DIVORCE
 - 17 . SUICIDE
 - 18 . COMPENSATING DATES
 - 19 . ABORTION
 - 20 . PUBLIC VIRTUE AND PRIVATE VIRTUE
 - 21 . PEARLS OF WISDOM
 - 22 . DEATH PENALTY VIDEO PART ONE
 - 23 . DEATH PENALTY VIDEO PART TWO
 - 24 . FINAL EXAMINATION

科 目 名	英 語 （ 会 話 ）	担当者名	G . スウィニー
-------	-------------	------	-----------

講 義 の 目 標	This course allows students to cover the four skills of listening, speaking, reading and writing, as well as an opportunity to build their vocabulary. The primary goal is for participants to improve their ability to communicate in English with confidence.		
講 義 概 要	This course is for students who are eager to further develop their English conversation ability. A readiness to participate in various speaking activities, such as pair work and role play will be beneficial to the student. In the case of too many applicants to the course, the instructor will have would-be students submit a writing sample.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	New Interchange 2 Jack C. Richards / Cambridge University Press	
	参 考 文 献	Additional handouts and information will be provided by the instructor.	
評 価 方 法	Students who try hard to improve their English skills, especially by speaking English in class, will be successful in this class.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Grades will be based on participation, attendance, test results and two student presentations.		

- 1 . Course introduction. Additional ways to learn English.
- 2 . Introducing yourself and exchanging personal information.
- 3 . Indirect questions from Wh-questions. Using countable and uncountable nouns.
- 4 . Expressing wishes. Describing positive and negative features while making comparisons.
- 5 . Giving instructions. Talking about likes and dislikes.
- 6 . Review quiz. Group activity.
- 7 . Describing vacation plans and giving travel advice.
- 8 . Making requests. Giving excuses. Using two-part verbs.
- 9 . Describing technology. Using infinitives and gerunds.
- 10 . Discussing holidays, festivals, customs, and special events.
- 11 . Review quiz. Presentation preparation.
- 12 . Presentations
- 13 . Vacation activities. Accomplishments and regrets.
- 14 . Talking about change and possibilities. Using conditional sentences.
- 15 . Describing abilities, skills and job preferences.
- 16 . Talking about countries and landmarks. Discussing facts of the world.
- 17 . Asking about someone's past. Past continuous vs. simple past.
- 18 . Review quiz. Group activity
- 19 . Describing movies and books. Asking for and giving reactions and opinions.
- 20 . Interpreting body language. Explaining gestures. Describing emotions.
- 21 . Speculating about past and future events.
- 22 . Reporting what people say. Making invitations.
- 23 . Presentations.
- 24 . Review quiz. Group work.

科 目 名	ドイツ語 (二外)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>A (読解練習 = ノンフィクション) } /ドイツ語 で修得したドイツ語の基礎知識を応用し、辞書さえ使用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。</p> <p>B (読解練習 = フィクション) }</p> <p>C (口頭練習) / 基本単語を使用して、何とか自分の意思をドイツ語で相手に伝えられる能力を養成することを目標とします。</p>		
講 義 概 要	<p>A (読解練習 = ノンフィクション) } / 最初に文法の基本事項の復習と未修事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。 ドイツの政治・経済・社会・雑誌などに関する文章やエッセイ等、いわゆるノンフィクションをテキストとして使用します。</p> <p>B (読解練習 = フィクション) } はじめは文法的な解説を充分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力点を置きます。それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。</p> <p>C (口頭練習) / 場面に応じて、基本的な文章を聞き取り、反復・応答できるように指導します。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	各担当者の使用テキストは、教科書販売所の掲示を見て下さい。	
	参 考 文 献	・ 独和辞典 (中型のもの)、ドイツ語 で使用したテキスト。	
評 価 方 法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	練習が主体の授業ですから、必ず出席して積極的に発言して下さい。		

1. 第 1 週は、テキストの内容の紹介と今後の授業の進め方、速度などについて話します。また 1 年次に使用したテキスト（各自持参）及び既修・未修文法項目の確認と、基本的な文法事項の復習を行います。
2. 第 2 週～7、8 週は、文法の復習、未修事項の学習を行います。
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
8. 第 8、9 週以降は、ドイツ語 A、B ではテキストの読解練習に、ドイツ語 C では口頭練習に入ります。

科 目 名	フランス語（二外）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講 義 の 目 標	一年次に学んだフランス語の基礎知識を復習しながら、フランス語の多様な表現を学びます。		
講 義 概 要	フランス語（二外）は、二人の担当者により週2コマ開講されます。		
使 用 教 材	テキスト	各担当者による。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業の進め方などについて説明がありますので、第一回目には必ず出席して下さい。		

科 目 名	スペイン語（総合）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講義の目標	スペイン語（総合）の既修者を対象にした授業である。1年次にひきつづいて、テキストの第6課以降を学ぶ。二つの過去形（点過去と線過去）および、現在分詞、過去分詞、接続法の活用とその使い方がポイントである。		
講義概要	テキストにそって、第6課以降を学ぶ。		
使用教材	テキスト	<i>i Hola, amigos!</i> (芸林書房)	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語（会話）との同時履修を望む。		
年間授業計画	1. テキスト第6課から9課まで 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. テキスト第10課から第12課まで 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	スペイン語（会話）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講義の目標	スペイン語（会話）の二年目の授業である。スペイン語（総合）の進度にあわせて、より高度な会話文（過去形と分詞、接続法が中心となる）を練習し、日常生活に必要な最小限の表現法を身につける。		
講義概要	スペイン語（総合）と同じテキストを使い、第6課以降の文法事項の進度にあわせて、練習をおこなう。		
使用教材	テキスト	<i>i Hola, amigos!</i> (芸林書房)	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語（総合）との同時履修を望む。		
年間授業計画	1. テキスト第6課から9課まで（前期） 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. テキスト第10課から第12課まで（後期） 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科目名	中国語（総合）	担当者名	頼 明
-----	---------	------	-----

講義の目標	中国語 を履修した学生、あるいは同等の語学力を持つ学生を対象とします。外国語を学ぶ上で書く力、聞く力、話す力のいずれもが必要不可欠です。この授業では、中国語 で学習した文法内容を再確認し、発音の強化と応用練習を行います。		
講義概要	教科書に沿って進みます。授業では発音練習を繰り返し行うとともに、各課で出現する文法内容について、応用練習を行います。		
使用教材	テキスト	『中国語のひととき 初級から中級へ 』関根謙・陳祖沚 著 朝日出版社	
	参考文献	必要に応じて授業中に指示します	
評価方法	出席を重視し、授業態度、学期末試験と総合して評価します。		
受講者に対する要望など	授業は休まず出席してください。教科書の本文が暗唱できるよう、教材に付属の CD を毎日聞いてください。		
年間授業計画	教科書に沿って進みます。（詳しくは授業中に指示します。）		

科 目 名	中国語（講読）	担当者名	秦 敏
-------	---------	------	-----

講義の目標	中国語を履修した学生、あるいは同等の語学力を持つ学生を対象とします。中国語で学んだ中国語の基本的な構文を、会話通して習得し、さらにそれを発展させることを目標とします。		
講義概要	講義は理解し得る範囲内で中国語を行う。また、中国の文化、習慣、ものの考え方などを紹介したいと思います。		
使用教材	テキスト	沈国威・中川正之「ブラッシュアップ中国語」朝日出版社	
	参考文献		
評価方法	前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。		
受講者に対する要望など	復習と予習することを望みます。		

科 目 名	韓 国 語 （ 総 合 ）	担 当 者 名	朴 勇 俊
-------	---------------	---------	-------

講 義 の 目 標	<p>韓国語の多様かつ実用的な表現力を身につけることをめざす。そして韓国の典型的文化や生活等を紹介しながら直結する学習内容を精選・組織し、学習内容に臨場感を持たせる。また、言語だけでなく、絵・写真・スライド等を提示し、学習の場面の雰囲気や情調を感得させる。</p>		
講 義 概 要	<p>韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型等を身につけさせる。また、外国語は異文化の典型的集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報等を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。</p>		
使 用 教 材	テキスト	「韓国語学習 - 基礎から完成まで - 」朴勇俊（プリント）	
	参 考 文 献	参考書や辞書等は後日指定する。	
評 価 方 法	<p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>意欲的に熱意を持って取り組んでほしい。</p>		

年 間 授 業 計 画	1 . 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について
	2 ~ 12
	次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく
	入国審査、税関
	外国人登録、ビザの延長
	両替、予約便の確認
	国際電話、伝言
	地下鉄利用、忘れ物
	ホテル・旅館、病状
	慶州観光、韓国料理
12 . 定期試験	
13 ~ 24	
以下のような内容の題材をとりあげ幅広い会話力の定着をめざす。	
名刺交換	
出身地	
伝言	
外国人登録	
ビザの延長	
健康管理	
演劇	
病状	
伝統的行事	
余暇	
韓国料理	
24 . 後期定期試験	

科 目 名	韓国語（講読）	担当者名	李 貞 美
-------	---------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力をつけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽等を題材にとりあげることで文化や芸術に対する理解を深めるとともに多様な表現力の取得をめざす。</p>		
講 義 概 要	<p>文章による表現力を養成するために新しい語彙の習得と活用にも力を入れ基礎的な文法をもとに文型練習を反復することで基本構文を定着させる。さらに読解、作文に重点をおき、特に実用文（手紙、日記、メモ等）の活用能力を習得させ、実際に韓国語での手紙のやりとり等ができるようにしていく。また韓国の文学作品（詩や小説、エッセイ、映画の脚本等）、論説等を題材にとりあげることで、芸術や文化に対する理解を深めるとともに多様な表現力の取得をめざす。特に新聞雑誌等を読みこなして時事情報を得る応用力を身につけさせる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	「韓国語学習 - 基礎から完成まで - 」朴勇俊（プリント）	
	参考文献	参考書や辞書等は後日指定する。	
評 価 方 法	<p>評価は原則として定期試験と授業へのとりくみ、出席状況等を総合的に判定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>外国語の学習は持続的な学習や訓練に関する学習者の積極的な興味、関心が大切である。意欲的に熱意を持って取り組んでほしい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について</p> <p>2～12</p> <p>次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。</p> <p>誕生日、記念日</p> <p>古宮、能楽</p> <p>旅行、交通</p> <p>登山、濟州島</p> <p>正月の風俗</p> <p>虎と千し柿（民話）</p> <p>牛になった怠け者（民話）</p> <p>韓国の風俗と礼節</p> <p>民族衣装</p>
	<p>12. 定期試験</p> <p>13～24</p> <p>次のような内容の題材をとりあげ、読解・作文学習を行っていく。</p> <p>農薬</p> <p>端午</p> <p>世宗大王</p> <p>交通</p> <p>記念日</p> <p>手紙</p> <p>昔話</p> <p>牛になった怠け者</p> <p>濟州島</p> <p>韓国の風俗と礼節</p> <p>民族衣装</p>
	<p>24. 後期定期試験</p>

科 目 名	高齢化社会論	担当者名	奥 山 正 司
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>21 世紀の高齢社会及び長寿社会では、医療・保健・福祉サービスがそれぞれの個別的な対応に留まることなく、それらの連携の必要性がとくに高まってきている。それは、医療・保健・福祉の統合が、高齢者だけでなく、すべての人間の well being を目指しているからにほかならない。本講義では、こうした動向をふまえながら、高齢化や高齢者に焦点をあて、加齢、家族、居住形態、職業、家計、社会参加、介護問題、保健福祉ニーズとサービスなどについての状況を明らかにするとともに、その理念や政策、さらには介護保険法の意義と問題点などについて理解させる。</p>		
講 義 概 要	<p>人口高齢化がもたらす社会的インパクトや高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。前半では、人口高齢化と平均寿命、長寿社会の構造、高齢化の地域比較と国際比較、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業、社会参加活動、寝たきり老人や痴呆老人などの要介護老人、エイジズムや老人虐待など高齢者の客観的な生活の様相について、後半では、社会福祉サービスの政策と理念、ノーマリゼーション / 統合と隔離 / 普遍主義と選別主義 / 予防的社会福祉 / 脱施設化 / 社会福祉の公平性 / 社会福祉の効率性 / 社会福祉の接近性、老人保健福祉のニーズとサービス、福祉先進国の状況などについて、理解させる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	小笠原祐次編『老人福祉論』ミネルヴァ書房、1995	
	参 考 文 献	<p>三浦文夫編『高齢者白書』(2000)、全国社会福祉協議会 アードマン・B・パルモア著、奥山正司他訳『エイジズム』法政大学出版社、1995 その他は、授業中にその都度指示する。</p>	
評 価 方 法	レポート、筆記試験などの他、出席等も加味し総合評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30 分を越える遅刻は原則として認めない。 ・ 大教室なので、席はなるべく前の方にすわって聴講していただきたい。 		

年 間 授 業 計 画	<p>1. ~ 2. 高齢化社会に関する社会科学と周辺科学 社会学及び社会福祉学など社会科学的視点から高齢者をとらえていくジェロントロジ（老年学、Gerontology）とはどういう学問か。それは、医学的観点とはどのように異なるのか。また、ジェロントロジが社会学の代表的理論といわれる離脱理論、活動理論とは高齢者と社会のありかたをどうみているのか。</p> <p>3. ~ 4. 人口高齢化と高齢化社会・エイジズム エイジング（加齢、Aging）及びエイジズム（Agism）とはどういう現象か。また、わが国の人口高齢化の進展は、諸外国の高齢化と比較するとどのような特徴がみられるのか。人口高齢化の要因とは何か。人口高齢化の地域的偏在とそこに生起する問題とは何か。</p> <p>5. ~ 6. 高齢者と家族、老親子の居住形態 戦後、イ工制度の廃止により、これまで社会的に承認されてきた子が老親を扶養するという規範が弱体化し、老親と既婚子との生活の結合が徐々に分離してきている。その具体的様相はどのような状況なのか。</p> <p>7. ~ 8. ライフ・サイクル、家族周期と老年期 人間一人ひとりの一生は生物学的な加齢によって規定されるとともに、年齢に結びついた役割と出来事によってつくられる。出生から死亡に至るライフ・サイクルの過程は、戦前と戦後でどのように変化し、それが高齢者の生きかたにどのように影響しているのであろうか。</p> <p>9. ~ 10. 高齢者と生計 高齢者の生計をとりまく経済状況はどのような状況か。高齢者世帯の所得水準、高齢者世帯の所得構造、高齢者世帯の消費水準、高齢者世帯の消費構造、高齢者の資産・負債などについて。</p> <p>11. ~ 12. 高齢者と就業・雇用、定年退職 人口の高齢化に伴い、労働力人口も急速に高齢化し、わが国の経済社会の動向にも大きな影響を及ぼしている。高齢者の就業意向とその現実、高年齢雇用対策やシルバー人材センターの状況などについて。</p> <p>13. ~ 14. 高齢者と住宅環境 住宅は高齢者にとって安全で健康な生活を支える道具として機能しなければならない。住宅水準の状況、特に首都圏の状況と高齢者の住宅対策、居住環境、福祉のまちづくりなどについて。</p> <p>15. ~ 16. 高齢者と生涯学習、社会参加 高齢期を快活に生きるためには、趣味や生きがいを持ち、仲間づくりや地域社会における役割分担ができるという状況が必要である。これらの能力や資質は、若中年期からの学習や社会参加によって身につくものであるが、その実状と対応策について。</p> <p>17. ~ 18. 高齢者と保健・医療 死亡率、有病者率、受療率、国民医療費の動向はどのような状況なのか。また、健やかに老いるために、従来、老人福祉対策等の一環として行われてきた老人保健医療対策と成人保健対策を一元化した老人保険法とはどのような対策なのか。</p> <p>19. ~ 20. 高齢者と在宅福祉 本格的な高齢化社会を向かえ、みじかな市町村による福祉サービスの時代が到来しつつある。平成2年にスタートした在宅福祉10箇年計画をかかげたゴールドプランとはどのような計画か。また、ホームヘルパー、ショートステイサービス、デイサービスの現在の水準と将来の達成度などについて。</p> <p>21. ~ 22. 高齢者と施設福祉 在宅福祉とならんで施設福祉は、高齢者保健福祉推進10箇年戦略により、飛躍的に発展している。特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、ケア付き集合住宅などの整備状況とその推移などについて。</p> <p>23. ~ 24. 高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出 老後生活を送るうえで、経済的基盤の中心となるのは年金である。年金は大別すると公的年金、企業年金、個人年金に分けられる。そのうち、老後保障の柱となるのは公的年金である。その歴史と現状、将来にむけての問題点とは何か。</p> <p>25. 諸外国の高齢者対策 福祉先進国といわれるスウェーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。</p>
----------------------------	--

科目名	社会学	担当者名	有吉広介
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代社会の問題は18世紀に始まった産業革命に端を発し、現在も進行している産業化、そして引き続いて今世紀に起こる脱産業化、さらにこれらが引き起こした社会構造の変化とおおいに関係がある。本講義ではこのような視点から、現代のわれわれの日常生活に見られる諸変化と、そこに起こる様々な社会問題とを考える。</p>		
講義概要	<p>豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかで起こる。講義では、産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで多くの社会問題をどのように生みだしているのかを説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを配る。	
	参考文献	随時紹介	
評価方法	<p>評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義に出席し、そこで要点を把握すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ 2. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 3. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 4. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 5. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方 6. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方 7. 現代の職業構造の分析 8. 雇用社会と職業的キャリア 9. 産業社会における知識の性格と教育 10. 日本の近代化、教育システム、および学歴社会 11. 社会的不平等の諸次元 12. 不平等の構造化 13. 社会移動の現実 14. 日本の階層社会と社会移動 15. 管理社会の中核としての官僚制 16. 近代的経営の社会構造 17. 日本的組織構造 18. 都市化と地域社会 19. 家族の定義・類型、そして核家族化・少子化 20. 家族のライフサイクルの変化 21. 高齢化社会の人口学的および社会学的分析 22. 高齢化社会における社会問題 23. 生活の質を考える 24. まとめ
----------------------------	---

科 目 名	法 学	担当者名	花 本 広 志
-------	-----	------	---------

講義の目標	法の在り方と法律学についての基礎的な理解力と判断能力を養成することを目的とする。法律学は、あまりとりつきのよい学問ではなく、また、法律そのものにも難解な部分があるが、近年出版された優れたテキストを利用して、できる限り興味を持てるような講義としたい。		
講義概要	全体を4期に分ける。第一は、民法であり、財産と家族について論ずる。第二は、刑法であり、犯罪と刑罰について論ずる。第三は、公法であり、個人・社会・権力について論ずる。第四は、法律学論であり、法のしくみと運用について論ずる。講義は、比較的日常生活に近い、第一の民法部門から始める。		
使用教材	テキスト	佐藤幸治ほか編『法律学入門』有斐閣、(1900円程度)	
	参考文献		
評価方法	年2回の学期末テストを中心に評価する。		
受講者に対する要望など	興味が持続するように努力して講義するので、継続して出席して欲しい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 財産と家族 1 私的自治の原則 契約と民法の関連 2. 財産と家族 2 私的自治の原則(続) 契約の種類 3. 財産と家族 3 法律行為 法律行為 4. 財産と家族 4 権利の主体 1 自然人 5. 財産と家族 5 権利の主体 2 法人 6. 財産と家族 6 権利の主体 3 会社 7. 財産と家族 7 権利の客体 1 所有権 8. 財産と家族 8 権利の客体 2 担保物権 9. 財産と家族 9 不法行為 1 過失責任主義 10. 財産と家族 10 不法行為 2 無過失責任 11. 財産と家族 11 家族 1 夫婦 12. 財産と家族 12 家族 2 親子 13. 犯罪と刑罰 1 刑法の役割と基本原則 14. 犯罪と刑罰 2 刑罰の種類 15. 犯罪と刑罰 3 犯罪の要件 16. 犯罪と刑罰 4 刑事手続 17. 個人・国家・権力 1 個人と国家 18. 個人・国家・権力 2 国家と主権 19. 個人・国家・権力 3 個人と集団 20. 個人・国家・権力 4 国際社会 21. 法の仕組みと運用 1 法の特質と機能 22. 法の仕組みと運用 2 法源 23. 法の仕組みと運用 3 法律学 24. 法の仕組みと運用 4 法の解釈と裁判 		

科 目 名	現代文化論	担当者名	柴 崎 信 三
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>メディアにあらわれた 20 世紀、とりわけ戦後の日本と世界の出来事を文化の表象としてとらえ、人々の意識や社会を動かす価値観の形成のプロセスを探ります。人々の行動を支配するモラルや意識は時代の構造や経済社会のありようと密接にかかわりますが、今世紀はその過程にメディアがきわめて大きな役割を果たしてきました。消費、ビジネス、戦争、外交、環境、文化表現など、あらゆる社会表象にかかわるメディアの功罪を問うとともに、インターネットなど新たな情報伝達が世界をどう変えていくのかを、一緒に考えたいと思います。</p>		
講 義 概 要	<p>講義の一つの軸はメディアの変遷です。グーテンベルクの活字印刷の発明にはじまり、写真や映画、テレビがもたらした映像がわれわれの意識をどんな風に変えてきたのか。さらにそれらがマスメディアの形態で大量伝達されることによって生じた政治・経済・社会・文化のダイナミズムを検証しながら、「グーテンベルク以来の画期的な情報革命」といわれる電子メディアの広がりや社会全体をどう変えていくのかを考えます。その検証のためには、私たちが生きてきた 20 世紀という時代が、明暗両面でどんな歴史的な遺産を刻印されているのかを検証する必要があります。ビデオ映像などを使ってその背景に想像力を広げたいと思います。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に指定しない	
	参 考 文 献	<p>W・リップマン『世論』（岩波文庫＝掛川トミ子訳、上・下） M・マクルーハン『グーテンベルクの銀河系』（みすず書房＝森常治訳） ほか各授業ごとに指示します</p>	
評 価 方 法	前期・後期の定時試験（小論文）による		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>関連書籍はもちろん、新聞や時事的雑誌を定期的に読む習慣を求めます。私たちが生きていく時代がどんな背景を持っているのか、情報のアンテナを敏感にしてください。</p>		

年 間 授 業 計 画	(その時のニュースに即応して変わることがあります)
	1. メディアの現在 序論
	2. メディアの現在 その2
	3. メディアの現在 その3
	4. メディアの現在 その4
	5. 映像の発見
	6. 映像の発見
	7. 映像の発見
	8. 映像の発見
	9. 情報と社会
	10. 情報と社会
	11. 情報と社会
	12. 情報と社会
	13. 価値の形成
	14. 価値の形成
	15. 価値の形成
	16. 価値の形成
	17. 権力とメディア
	18. 権力とメディア
	19. 権力とメディア
	20. 権力とメディア
	21. 時代を動かすもの
	22. 時代を動かすもの
	23. 時代を動かすもの
24. 時代を動かすもの	

科 目 名	文化人類学	担当者名	井 上 兼 行
-------	-------	------	---------

講義の目標	文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にある未開社会の文化を、異文化として理解し、同時にそれを通してわれわれの文化についても理解を深めようとする学問である。学問の歴史、事例を通じてそのおおよそを知る。		
講義概要	文化人類学形成の歴史を通して、未開社会の文化に対するこの学問の態度を明らかにし、次いでその独特の研究方法を述べる。そのあとは、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を示し、またそこからわれわれの文化をどのように考えることができるかを説明してゆく。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	定期試験期間の試験によって評価する。		
受講者に対する要望など	以下に示す日程はあくまでも暫定的なものである（順序はこの通りである）ことを念頭に置いてほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序 どんな学問か。 2. 学問形成の歴史 (1) スペイン人のインディオ観 3. " (2) " 4. " (3) 16C 後半 ~ 18C 後半の西欧人の未開人観 5. " (4) 18C 後半 ~ 19C 後半の西欧人の未開人観 6. 19C 後半 文化人類学の誕生 (1)"文化" の概念 7. " (2)"文化" の概念 8. " (3)"進化" の概念 9. 19C 末 ~ 20C 初 現代の文化人類学へ 10. 研究方法としての " 実地調査 " (1) 11. " (2) 12. これ以降は事例研究になる。テーマは今のところ未定。これまでの話の脈絡から決めてゆく。 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 		

科目名	心理学	担当者名	増田直衛
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。ここでは、心理学が自然科学の一分野として誕生してから、今日までどんな分野の学問と連携しつつ、自らの学問を築いてきたかを考えてみます。その中で心理学の対象、心理学の方法などを具体的に理解しながら、心理学とはどんな学問かを考えます。</p>		
講義概要	<p>最初に心理学とはどんな学問か、心とはなんだろうか、心理学の誕生、心理学の分野、心理学の方法、個体と環境との関係、などについて考察します。次に、感覚・知覚心理学を中心に、主として人間の認識機構について講義をします。その次に、行動・学習心理学を中心に、人間以外の動物も含めた行動の発達、変容について講義を、さらに、小集団の社会心理学の問題にも触れていく。OHP、VTR など AV 資料を使って具体的に理解できるようにこころがけます。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しません。	
	参考文献	<p>宇津木 保ほか著「心理学のあゆみ」(有斐閣新書) 野口 薫ほか著「心理学入門」(有斐閣新書) この2冊は心理学の扱う領域と歴史を概観するのに便利です。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。</p>	
評価方法	<p>評価は2回の定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p>		
受講者に対する要望など	<p>岸田 秀「ものぐさ精神分析」(中公文庫)や橋本 治「帰ってきた桃尻娘」(講談社文庫)に戯画化されている大学で講義されている心理学の記述にはあらかじめ目を通しておくことをお勧めします。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. ガイダンス 心理学とはなんだろう
	2. 心理学の過去と現在
	3. 科学としての心理学のあり方
	4. 心理学の方法とその実例 (1) 観察
	5. (2) 実験
	6. (3) 調査
	7. (4) 臨床的方法
	8. (5) 統計的方法
	9. 個体と環境 心理学のものとのとらえ方
	10. 環境の認知 (1) 物理的世界と心理学的環境
	11. (2) 感覚の世界
	11. (3) 主観のものさし
	12. (4) まとまりのある知覚世界
	13. (5) ゲシュタルト知覚
	14. (6) 知覚研究の豊富さ
	15. 行動とその変容 (1) 環境への適応様式
	16. (2) 生得的な行動
	17. (3) レスポンデント条件付け
	18. (4) オペラント条件付け
	19. (5) 記号行動
	20. (6) 行動分析学とその応用例
	21. 社会の中での行動 (1) 態度
	22. (2) 状況の中で
	23. (3) 社会的現実の構築
24. もう一度、心理学ってなに	

科 目 名	歴 史 学 (日本史)	担当者名	新 井 孝 重
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	14 世紀の内乱期は、日本の歴史の大きなまがり角であった。社会は南北朝の内乱を通過するなかで、どのように変化したのか。内乱期の諸相をながめながら、歴史の深いところに分け入り、社会の変化の様相をつかまえる。		
講 義 概 要	悪党とはどのような人々のことを云うのか。悪党の生態を観察することによって鎌倉末期の社会矛盾をつかまえる。そのさいの視点として、「武勇」と「武装」の問題は重要。つぎに、内乱の諸相を、なるべく具体的に、人間の行動と思想を通して観る。そのあとで、戦乱のなかで安穩をもとめる民衆のすがたを注目したい。		
使 用 教 材	テキスト	新井孝重『悪党の世紀』、吉川弘文館、1997年。 その他必要に応じてプリントを配布。	
	参考文献		
評 価 方 法	評価は、後期の試験成績と年間の出席状況をもってする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	30 分以上の遅刻者は出席者とみなさない。 紳士的な態度で気楽に聴いていただければよい。		

年 間 授 業 計 画	1. 大仏を領主にする村 伊賀の農村、出作をする人びと。
	2. 大仏を領主にする村 奈良寺院社会の風景、南京大衆の周辺 在地住民の寄人(よりうど)・神人化による「僧兵」の出現
	3. 悪党の活動 村の悪党 荘園在地武士の悪党化
	4. 悪党の活動 村の悪党 荘園在地武士の悪党化
	5. 寺の悪党 武装する僧徒
	6. 寺の悪党 預所(あずかりどころ)の僧、悪党になる 東大寺僧快実について
	7. 崩れる一揆の「作法」 中世の一揆とは 一揆の淵源である寺僧の衆会について
	8. 崩れる一揆の「作法」 荘園体制の一揆的構造 荘民の一揆の「作法」、「武」をともなわなない一揆
	9. 崩れる一揆の「作法」 悪党の登場 「武」をともなう悪党の行動様式が荘園制の一揆的構造を破壊
	10. 武装の行粧 民間における武装の禁忌性 甲冑を着ることの意味
	11. 武装の行粧 武装すがたの異形性 中世の祭礼と武装
	12. 武装の行粧 悪党の武装……禁忌と異形との関連で武装は“悪”そのものである
	13. 内乱の風景 楠木の勢力 身体の武装の拡大したすがた……館の武装化……城郭の出現
	14. 内乱の風景 楠木の勢力 在地に城郭がつくられることの意味
	15. 内乱の風景 金剛山の攻防 戦争を社会史的に観察すると
	16. 内乱の風景 移動する大軍 北畠顕家奥州軍長征の実相
	17. 内乱の風景 戦いの日々 内乱期武士の戦争観をみる
	18. 内乱の風景 軍忠と恩賞 武士はなぜ戦うのか
	19. 内乱の風景 傭われる凡下(ぼんげ)の輩 凡下と呼ばれる人々の生態をみる
	20. 内乱の風景 戦争に疲れて 合戦にあけくれる武士の人生、負傷・討死・没落
	21. 内乱の風景 武士たちの生きるための知恵 国人(こくじん)一揆
	22. 悪党の美学 バサラをみる
	23. 地下(じげ)の芸能と民衆 猿楽の形成 伊賀の猿楽
	24. 悪党の終焉 「平和」をもとめる民衆

科 目 名	歴 史 学 (日本史)	担当者名	齊 藤 博
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三つの視点から日本人像に照射を加えたい。</p> <p>1. 共同体、2. 村落、3. 天皇制、4. 幕末維新期、5. 英雄論、6. 民衆信仰、7. 民衆史、8. 差別史、9. 昭和十五年戦争、などが講義中のキーワードである。</p>		
講 義 概 要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考や CM 調流行ムード、あるいは大河ドラマの趣向によって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>日本人であるからといって日本史学習が容易であり気安く分かってしまうことはない。やはり丁寧に、きちんと出席しないとわからない。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 齊藤 博 『歴史の精神』学文社 ・ 齊藤 博 『民衆史の構造』新評論 	
	参 考 文 献	<p>講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2~3冊は是非とも通読してもらいたい。最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。割合と日本史百話的な「講談調」ではあるが、講義にでていないと無論、わからない。</p>	
評 価 方 法	<p>前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>出席が良好でないと理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。とにかく、できる限り出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. 日本および日本人について。日本史の特徴、日本人が日本史を学ぶ困難性
	2. 日本史の特徴、風土と歴史、日本史研究者像、新井白石、本居宣長、伴信友（近世史）
	3. 日本史研究者像、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎（近代、現代史）
	4. 日本史研究者像、瀧川政次郎、渡部義通、石母田正（古代史、中世史）
	5. 日本史研究者像、芳賀登、色川大吉、井上幸治（地域民衆史の視座と方法）
	6. 「天への想い」、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
	7. 「天への想い」（天皇制論を含む）
	8. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む
	9. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む
	10. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む
	11. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	12. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	13. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	14. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	15. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	16. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む
	17. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む
	18. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む
	19. アジア的共同体と差別 島崎藤村『破戒』を読む
	20. アジア的共同体と差別 島崎藤村『破戒』を読む
	21. 近世史と近代史の問題点 高橋貞樹『被差別部落一千年史』を読む
	22. 近世史と近代史の問題点 民衆信仰（中山みき、金光大神、出口王仁三郎）を考える
	23. 日本近代化をどう考えるか（北村透谷、石川啄木、夏目漱石、永井荷風）
	24. まとめ（総括）日本および日本人論をめぐって

科 目 名	歴 史 学 (東 洋 史)	担 当 者 名	熊 谷 哲 也
-------	-----------------	---------	---------

講 義 の 目 標	西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。		
講 義 概 要	<p>前半は7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教の拡大によって広大なイスラーム世界が形成されるまでの様相を理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。</p> <p>後半はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する、今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係について、関心と理解が深められるよう留意する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	とくにさだめない。	
	参 考 文 献	夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらおう。詳しくは授業で指示する。	
評 価 方 法	試験とレポート。発想のオリジナリティを重視する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。 2. イスラーム教の誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。 3. 預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。彼の教えと、それがアラビア半島内に広まる経過を理解する。 4. 最初の4人のカリフ（正統カリフ）の時代について考える。第一次内乱、シーア派の出現を理解する。 5. ウマイヤ朝の歴史について考える。これがヴェルハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。 6. アッバース朝の歴史について考える。その成立が、古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。 7. イスラーム教の聖典であるコーラン（クルアーン）、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐる成立・発達した初期思想と学問について学ぶ。 8. アッバース朝時代から発達したアラビア科学とその内容について、また、中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義について考察する。 9. アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について概観する。 10. エジプトのマムルーク朝について学ぶ。とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。 11. ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。 12. 同 その2 13. オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、キャピトレーションの問題をとりあげる。 14. 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、アジアにおける近代化の枠組みをひとまず一般論として把握する。 15. 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容を考察する。欧化主義や原理主義（復興主義）の基本的メカニズムを理解する。 16. さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・ズーフィズムなどの問題について考える。 17. エジプトの近代化とその過程について考える。 18. トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。 19. 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえんについて、いくつかの問題をとりあげて考察する。 20. 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会に固有な事項をとりあげ、近代化との関係について検討する。 21. 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 22. 今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえん、マイノリティーの問題をとりあげる。 23. 現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。ポスト冷戦時代におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。 24.（予備） まとめをおこなう
----------------------------	--

科 目 名	歴 史 学 (西洋史)	担当者名	御園生 眞
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 標	近代以降のヨーロッパ史を社会経済の側面に重点をおいて講義し、専門科目学習の基礎となることを目標とする。		
講 義 概 要	前期は、近代社会と近代資本主義経済システムの成立過程を中心テーマとして講義する。 後期は、イギリス産業革命を起点として、19世紀以降のヨーロッパ社会経済の変化と問題点を中心に講義を進める。		
使 用 教 材	テキスト		
	参考文献	大下尚一・西川正雄・服部春彦・望田幸男編『西洋の歴史 増補版』〔近現代編〕ミネルヴァ書房、1998年。その他の参考書・参考文献については、最初の講義で指示する。	
評 価 方 法	出席、定期試験（前期・後期各1回）およびレポート（複数回）の成績で評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	履修希望者は、必ず第1回の講義に出席すること。 講義内容その他が変更される場合がある。 受講者数に制限があります。120名までとします。		

1. 序論とガイダンス。
2. 1 大航海時代：ヨーロッパと非ヨーロッパ世界
3. (続)
4. 2 絶対王政
5. (続)
6. 3 市民革命(1)イギリス
7. (続)
8. 3 市民革命(2)アメリカ
9. (続)
10. 3 市民革命(3)フランス
11. (続)
12. 前期のまとめ
13. 4 産業革命(1)イギリス
14. (続)
15. 4 産業革命(2)後発国
16. (続)
17. 19世紀後半のヨーロッパ：ナショナリズムと帝国主義
18. (続)
19. (続)
20. 20世紀前半のヨーロッパ：第1次世界大戦・大恐慌・ファシズム
21. (続)
22. (続)
23. (続)
24. まとめと展望

科目名	哲学	担当者名	松丸 壽雄
-----	----	------	-------

講義の目標	諸文化の担い手としての人間存在は存在するかぎり、根源的なレベルから実際のレベルまで様々な問題と遭遇し、これと対峙せざるを得ない、その場合に、どのような立場から、どのような方法でこれらの問題に対処するかを、様々な角度から考えることができる基礎力を養うことを目標とする。		
講義概要	実地に現代の諸問題の根源を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	講義中に適宜指示。	
評価方法	最低年2回のレポートとディスカッションへの積極的貢献度により評価。		
受講者に対する要望など	自分で考えようと努力し、ディスカッションへの積極的に参加するつもりのある人。ディスカッションという性質上、人数制限もあり得る。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明。 2. 愛とは何かについての考察。ビデオ鑑賞。 3. 愛についての様々な思想(1) 4. 愛についての様々な思想(2) 5. 愛についての様々な思想(3) 6. グループ分けと小グループによるディスカッション時の諸注意。 7. ディスカッション(小グループ) 8. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 9. 差別についての考察。 10. 障害者と差別。ビデオ鑑賞。 11. ディスカッション(小グループ) 12. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 13. 生と死についての考察。 14. 生と死についての様々な思想(1) 宗教と哲学 15. 生と死についての様々な思想(2) 16. ディスカッション(小グループ) 17. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 18. 脳死と倫理。 19. 生命倫理について。 20. ビデオ鑑賞。 21. ディスカッション(小グループ) 22. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 23. 年間を振り返ってのディスカッション(小グループ) 24. 年間を振り返ってのディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 		

科 目 名	文学(日本文学)	担当者名	飯 島 一 彦
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文藝と言ってよいが、庶民文藝であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体現していて重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深く長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なものか、明らかにしていく。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一つまびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の講読・解釈を毎時間することになる。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	その都度教室で配布する。	
	参 考 文 献	その都度教室で指示する。	
評 価 方 法	年二回のレポート、学年末試験の成績による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「お伽草子」とは何か? 2. 「浦島太郎」を読む 3. 「浦島太郎」を読む 4. 「浦島太郎」を読む 5. 奈良時代の「浦島太郎」 日本書紀 6. 奈良時代の「浦島太郎」 万葉集 7. 平安時代の「浦島太郎」 8. 平安時代の「浦島太郎」 9. 昔話・伝説の中の「浦島太郎」 10. 国定教科書の「浦島太郎」 11. まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間 12. 予備日「絵本の中の浦島太郎」 13. 「一寸法師」を読む 14. 「一寸法師」を読む 15. 「一寸法師」を読む 16. 奈良時代の「一寸法師」 17. 奈良時代の「一寸法師」 18. 平安時代の「一寸法師」 19. 平安時代の「一寸法師」 20. 藝能に見る「一寸法師」 21. 国定教科書の「一寸法師」 22. 昔話の「一寸法師」 23. まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと憧れ。 24. 予備日『絵本の中の一寸法師』
----------------------------	--

科 目 名	文学(日本文学)	担当者名	肥田野 昌之
-------	----------	------	--------

講義の目標	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的イベントなどについて解説し、教養として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。		
講義概要	<p>前期は主として、初期万葉の歴史的イベントを背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説する。それとともに代表的な歌人たる柿本人麻呂や山部赤人などについても考察する。</p> <p>後期は主として、伝説・説話の歌や東歌。防人歌の問題、また山上憶良・大伴家持などの有力歌人について広く検討してみたい。</p>		
使用教材	テキスト	小野寛校註『万葉集抄』笠間書院	
	参考文献	斎藤茂吉『万葉秀歌』上・下(岩波新書)他	
評価方法	授業への出席と前・後期の試験によって決定する。		
受講者に対する要望など	出席は原則として3分の2必要、前期の試験で極端に悪い学生は単位をあきらめてもらいます。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一年間の講義概要を説明。『万葉集』についての名義・成立・注釈書などを概説する。 2. 巻一国歌大鑑 1 番・雄略天皇の歌について考える。 3. 中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。 4. 額田王とその歌についての説明と鑑賞。 5. 柿本人麻呂とその長歌を中心によむ。 6. 大津皇子・大伯皇女について、謀反事件を考察しながら、それらの歌をよむ。 7. 穂積皇子と但馬皇女との悲恋と歌物語について。 8. 有間皇子の謀反と歌について、『日本書紀』を参考にして考える。 9. 再び柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。 10. 前期のまとめとして、プリント二枚を配って前期試験の傾向と対策について説明する。 11. 山部赤人「不尽山を望る歌」を中心によむ。 12. 大宰帥大伴旅人「酒を讃むる歌」を中心にしてよむ。 13. 真間娘子の歌 - 赤人と虫麻呂 - 14. 山上憶良とその歌 - 貧窮問答歌を中心にして - 15. 万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしての歌と説明。 16. 高橋虫麻呂の伝説歌について - 浦島子・菟原処女など - 17. 寄物陳思・正述心緒 - 巻十一の歌を読む。 18. 万葉集の用字法 - 特に義訓・戯訓 - 19. 東歌について説明と歌。 20. 中臣宅守と狭野弟上娘子の贈答を中心にして 21. 巻十六有由縁并雑歌を中心によむ。 22. 後期のまとめとして、プリント二枚を配り後期試験の傾向と対策について説明する。 23. 大伴家持とその歌について講読する。 24. 防人歌についての説明と歌。上代特殊仮名遣について
----------------------------	--

科 目 名	文学(日本文学)	担当者名	福 沢 健
-------	----------	------	-------

講義の目標	奈良時代から鎌倉までの作品を取り上げ、その作品の魅力と文学史的意義について講義します。日本古典を文学として読んでいくことを目標とします。			
講義概要	日本の古典の評判はよくありません。古文はワカラナイ、ツマラナイ、古クサイ、などといって毛嫌いされています。しかし、古文の教材ではなく、文学作品として読みなおしてみると、それぞれの作品の魅力をあらためて見出せると思います。具体的には、1時間に1作品を取り上げ、その抜粋を読むというかたちとなります。			
使用教材	テキスト	特に定めません。必要に応じてプリントを用意します。		
	参考文献	その都度教室で指示します。		
評価方法	年2回のレポート。出席・授業態度など、平常点評価。			
受講者に対する要望など	いわゆる古文解釈の技術は必要ありません。日本古典に対する興味を有する学生の受講を希望します。			
年間授業計画	1. はじめに 2. 柿本人麻呂 3. 大伴田主と石川郎女 4. 大伴家持 5. 紀貫之 6. なよ竹のかぐや姫 7. 在原業平 8. 藤原道綱母 9. 中宮定子と清少納言 10. 紫式部 11. 桐壺帝と桐壺更衣 12. 光源氏と藤壺女御 13. 和泉式部 14. 藤原孝標女 15. 虫めづる姫君 16. 大宅世継と夏山繁樹 17. 堀川天皇と讃岐典侍 18. 西洞院の女房 19. 平清盛 20. 建礼門院 21. 鴨長明 22. 藤原定家 23. 卜部兼好 24. まとめ	神としての天皇(万葉集1) 古代都市の文学(万葉集2) 都人の憂鬱(万葉集3) ひらがな誕生(古今和歌集仮名序) 少女漫画としての物語(竹取物語) 愛とまことの世界(伊勢物語) 不幸な心の発見(蜻蛉日記) 幸福の記憶(枕草子) 女性と漢字(紫式部日記) 物語の発展(源氏物語1) もののあはれの本質(源氏物語2) ザ・スキャンダル(和泉式部日記) 文学少女の夢と挫折(更級日記) 物語のゆくえ(提中納言物語) 北のふじなみの栄光と悲劇(大鏡) 衰弱する天皇(讃岐典侍日記) 本当にあった物語(今昔物語) 王権を破壊する者(平家物語1) 回復された秩序(平家物語2) この世の終わり(方丈記) 乱世と芸術至上主義(新古今和歌集) 枕草子の呪縛(徒然草)		

科 目 名	文学（世界文学）	担当者名	石 崎 晴 己
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現代の多くの学生諸君にとって、世界文学、特にフランス文学の古典的名作などというものは、往々にしてとっつきにくい、訳の分からない代物なのではないだろうか。しかし馴染みのない形式的枠組みを少し我慢すれば、人間や社会や人生の真相に対する奥深いヒントが豊かに眠っているのであり、また今日の国際社会の淵源としての西洋世界の古典に触れることは、進行しつつある国際化によりよく参加・対処する上でも、大いに有益であるはずである。そのような認識に立って、本講義はフランスを中心とするヨーロッパ文学の、特に古典的名作に接する機会を、学生諸君に提供しようとするものである。</p>		
講 義 概 要	<p>学生が読んでもいない作品のタイトルを次から次に羅列して、教師が一方向的に語るという形には、できるだけならないようにしたい。基本的には言及される作品には学生諸君も一通り目を通して、という形で進めたいと思う。そのため基本的には、毎回一つの作品を取り上げて、分析し、その抜粋（邦訳の）を味わうということを中心に進めることになる。また関連する絵画やオペラ等の音楽作品、映画や劇のビデオなども積極的に利用して、作品を享受することの楽しさを可能なかぎり追求したい。</p> <p>フランス文学は、中世におけるその成立以来、一貫してヨーロッパ文学の主流をなして来たと言える。その要因の一つとして、フランス文学が、ギリシア・ローマの古典古代の文学を最も正統的に継承した、少なくとも継承しようとした、という点があげられよう。そこで本講義は、ホメロス以来の古典古代の文学とフランス文学のつながりをたどることを、前半の柱にしたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし。必要に応じて、プリントを用意する。	
	参考文献	教場にて指示。	
評 価 方 法	<p>前・後期ともレポートによって評価を決める予定であるが、場合によっては、きわめてレポートに近い形の筆記試験（問題予告による記述試験）を行なうかもしれない。またできれば学生諸君にも発表をして貰いたいと思っているので、それも評価の手段となるだろう。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>少しでも多く読むこと</p>		

年間授業計画	<p>年間授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 方針説明。課題図書 の 指定 2. フランス文学史の概観 3. ヨーロッパ文学の基層としてのギリシア神話・伝説の典型としてのトロイ戦争 4. 「イリアッド」 5. アイスキュロス「オレスティーア」三部作 6. ラシーヌ「アンドロマック」 7. サルトル「蠅」 8. ジロドゥー「エレクトル」 9. ソポクレス、エウリピデス「エレクトラー」 10. ジロドゥー「トロイ戦争は起こらない」 11. ラシーヌ「フェードル」 12. ヴィデオ鑑賞 13. 「トリスタンとイズー」 14. ワグナー「トリスタンとイゾルデ」 15. モリエール「ドン・ジュアン」 16. デカルト「方法序説」 17. ラ・ロシュフーコー「箴言」 18. バスカル「パンセ」 19. アベ・プレヴォ「マノン・レスコー」 20. ルソー「告白」 21. バルザック「ゴリオ爺さん」 22. ジイド「背徳者」 23. マルロー「人間の条件」 24. サルトル「嘔吐」
--------	--

科 目 名	文学（世界文学）	担当者名	北 澤 滋 久
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>文学を味わうこと愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。</p>		
講 義 概 要	<p>英米の文学に観る人間像 英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1 講義、1 作家、1 作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていれば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいものはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>テキストは特に定めません。</p>	
	参 考 文 献	<p>参考文献は、2 回目の授業時間に一覧表にして配布します。</p>	
評 価 方 法	<p>前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文（小論文）を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年 20%以上の不合格者が出ています。</p>		

1. 登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2. 開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
現代文明下のアメリカの少年たち
3. 『ハックルベリィの冒険』：イノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN
by Mark Twain
4. 『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5. 『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩
THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
19世紀、イギリスの娘たち
6. 『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7. 『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きかたを求めて
THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8. 『ジェーン・エア』：自立する女性 #JANE EYRE by Charlotte Brontë
19世紀、英米文学の驚異
9. 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS by Emily Brontë
10. 『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY - DICK by Herman Melville
英雄不在の20世紀の英雄たち
11. 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12. 『老人と海』：一老漁師にみる英雄的姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
海洋（冒険）小説の諸相
13. 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON
CRUSOE by Daniel Defoe
14. 『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
近代芸術観の極致
15. 『月と六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset
Maugham
16. 『アッシャー館の崩壊』他：至上の美を求めて
THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allen Poe
17. 『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って
THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
父なるもの、母なるものの原像
18. 『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by William Shakespeare
19. 『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
20. 『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて
A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
倫理と欲望の峡間
21. 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
22. 『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて
THE HEART OF THE MATTER by Graham Greene
23. 『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
24. 閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答

科 目 名	文学（世界文学）	担当者名	山 路 朝 彦
-------	----------	------	---------

講義の目標	ドイツの作家カフカの作品について論じながら、小説を読むという日常的な行為を問い直したいと思います。それを通して、自明に思われることを問題として考えていくという、大学での勉強に必要な技術を身につけましょう。		
講義概要	カフカの作品をあらかじめ紹介するとともに（映画化や演劇化されたものも使います）、その作品を読み直しながら、様々な解釈の可能性を考えていきます。		
使用教材	テキスト	カフカの作品『変身』、『城』、『審判』	
	参考文献		
評価方法	前期・後期試験		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. 文学の理論へ 感想・印象と批評、文学の理論と西欧の特質 2. 3. 4. 5. カフカの作品紹介 6. 文学の理論へ 伝記・評伝と影響史、文学史と文学社会誌 7. 8. 「小説」の誕生とその歴史 9. 10. 文学史と国民意識・「ドイツ学」の成立、「精神科学」の成立と文学研究 11. 12. 芸術の自律性、アヴァンギャルド 13. 文学研究の立場と方法 精神史的方法 14. 15. 作品内在解釈（インタープリテーション）の方法 16. 17. マルクス主義の立場から 18. 19. 構造主義的方法 20. 21. 文学社会学的方法 22. 23. 「エッセイ」という方法 24. 新たな立場と方法		

科 目 名	国 語	担当者名	新 里 博 樹
-------	-----	------	---------

講 義 の 目 標	<p>人間が、成長の過程の中で自然に身につけてゆく話し言葉とは異なり、書き言葉は、意識的な学習によって後天的に身につけるものである。すなわち、訓練が必要であるということなのだが、この講義では、こうした訓練の方法を学ぶとともに、実際にそれを体験することで、文章技術の向上を目的とする。思考は記述によって定着するものであることを前提に、「書く」という行為を通して、「考える」もしくは「感じる」ことを一層深化させてもらいたい。</p>		
講 義 概 要	<p>その都度、提示される課題に従って、実際に文章を書いてもらう。課題は、(1)表記規則に関するもの(2)訓練法に関するもの(3)訓練の成果を確かめるためのものなど多様であるが、長くて800字程度のもを毎回のように書いてもらうことになる。授業時間内という制約があるので、短いものが中心となるが、長いものなどは自由課題として夏休みにとりこんでもらいたい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	なし	
	参 考 文 献	その都度提示する。	
評 価 方 法	年間を通して提出された課題によって評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	400字詰、B5、原稿用紙、ならびに、手持ちの国語辞典を必携されたい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 自己紹介文(800字) 3. 転記演習(原稿用紙の使い方) 4. 百字文演習(百字ちょうどの文章を作り、それを起として、承転結を同じく、百字文でつづける。) 5. 文章構成演習(論理展開や表現効果などを考えて、いくつかのパラグラフを並べかえる練習) 6. 随想文演習(それまでの演習をもとに、自由に随想文を作成する。800字) 7. 要約演習(二百字文を作成し、それを内容が変わらないように、100字、50字、20字、10字程度と字数を減らしていく練習) 8. 要約演習(要約演習に基づいて、どのような要素が減じられたかを確認し、逆に、400字にふくらませてみる練習) 9. 漢字・熟語演習(漢字・熟語の知識を増やすための練習) 10. 論説文演習(800字) 11. 写生文演習(自由) 12. 前期まとめ(提出物返却) 13. 後期ガイダンス 14. 報告文演習(自由) 15. 手紙文演習(手紙文の基礎知識を学ぶ) 16. 手紙文演習(極めて丁寧な書簡を作成する。) 17. 敬語演習(敬語規則を学ぶ) 18. 宣伝文演習(惹句を作成する練習) 19. 短歌鑑賞文演習(名歌の鑑賞文を作成する) 20. 短歌実作演習(短歌5首を作成する。) 21. 歌会(短歌を相互批評しあう) 22. 鑑賞批評文演習(歌会において口頭でおこなった批評を文章化する) 23. スピーチ演習(スピーチの原稿を作成する) 24. 後期のまとめ(提出物返却)
----------------------------	--

科 目 名	国 語	担当者名	飯 島 一 彦
-------	-----	------	---------

講 義 の 目 標	<p>言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、その中でも、現在の日本の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行う。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなしえることはできず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標となる。</p>		
講 義 概 要	<p>基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の毎時間の表現の、実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が多くなる。従って、トレーニングは課題を前提になされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特になし	
	参 考 文 献	特になし	
評 価 方 法	<p>毎回のトレーニングに対するとりくみの深さ、その成果、夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行われる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現の訓練の連続性が損なわれるので、欠席しないこと。</p>		

年
間
授
業
計
画

1. 授業ガイダンス。
2. 講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。
3.)
4.)
5.)
6.)
7.) 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
8.)
9.)
10.)
11.)
12. 夏休み課題ガイダンス。
13. 夏休み課題提出。後期ガイダンス。
14.)
15.)
16.)
17.)
18.) 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
19.)
20.)
21.)
22.)
23.)
24. 冬休み課題提出。年間のまとめ。

科目名	国語	担当者名	小島幸枝
-----	----	------	------

講義の目標	<p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのはことばの力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心をうつ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるがたゆまぬ努力と訓練によってある程度習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心をもち情報の収集および判断力を養うこと、実用文を短時間で書きあげる練習、敬語の使い方、手紙の書き方など、国語の運用面について講述する。</p>		
講義概要	<p>前期は音声言語表現を中心とし、一分間スピーチの演習、朗読、敬語の使い方など、後期は文字言語表現を中心とし、実用文の実作、相互の添削、手紙のかき方などを学ぶ。評価は平常点をもってする。すなわち課題として社説の要約、800字の作文、読書報告文を提出する。</p>		
使用教材	テキスト	おうふう	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・都度、紹介する。 	
評価方法	提出物による平均点、および出席点。		
受講者に対する要望など	授業中に作業することがありますので、無断で2週連続して欠席した場合は受講資格がなくなると思ってください。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説 2. 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識 3. 日本語の基礎知識 - 日本語の音韻 4. 日本語の基礎知識 - アクセントの特徴 5. 美しい言葉の条件 - 正確さと品位をどのように獲得するか 6. スピーチ（演習） - 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする 7. 反省とまとめ（ディベートの予告） 8. ディベート（ビデオ鑑賞） 9. 反省とまとめ 10. 敬語について - 日本語の敬語の特徴と歴史（上代 ~ 中世） 11. 敬語について - 日本語の敬語の特徴と歴史（中世末~現代） 12. 漢字テスト 13. 文と文章 14. 文の構造 15. 文章の構造 16. 文章の種類 17. 文字言語 - 文章を書く手順、材料の収集法 18. 主題と題材 19. 材料を集める - 説明文、報告文を書く 20. 材料を並べる - アウトラインを作る（効率よく文章を書くために） 21. 文献、資料を用いて文章を補強する 22. 交換、批評しあう 23. 推敲のポイントを学ぶ - まとめ 24.（予備） <p>備考 前期は実作を習慣づけるために、宿題形式で 社説要約（週1作） 読書報告（月1本） 作文（週1作）を課すが、後期は実作の習慣をつけるために作文は授業中に完成させる。 従って の課題はない。</p>
----------------------------	--

科目名	国語	担当者名	肥田野 昌之
-----	----	------	--------

講義の目標	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識などの学習を通して、大学生としての教養も深めたいと思う。		
講義概要	論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。 また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。		
使用教材	テキスト	特に使用せず、その都度プリント配布。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	授業への出席と実作および年度末試験によって決定する。		
受講者に対する要望など	30%程度の学生は単位がとれないものと思われます。遅刻・欠席・私語・居眠りの多い学生、学習意欲の乏しい学生は登録しないで下さい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。 2. 現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。 3. 「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。 4. 文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。 5. 文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。 6. 文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成・アウトラインについて説明する。 7. 豊かな内容とは - 物の見方や読書などについて考える。 8. 国語表記の問題 - 段落の分け方や送りかななどについても言及する。 9. 原稿用紙の使い方や校正などについても説明する。 10. 作文を書く(添削と採点) 11. 作品を返還して、感想や注意事項を述べる。誤字の問題、常体・敬体の混在など。 12. 学生が黒板に出て、漢字かなづけ・漢字書き取りを行う。 13. 教養として能・狂言の入門 - 熊野・附子など - 14. 教養としての歌舞伎入門 - 勸進帳・与話情浮名横櫛など - 15. 文字について - 特に「漢字御廃止之儀」から常用漢字までを概説する。 16. 仮名づかいについて - 仮名づかいの歴史、特に歴史かなづかいと現代かなづかいに力点を置いて説明する。 17. 標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。 18. 文章のさまざま - 実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など - 19. 手紙の書き方 - 手紙の形式を中心にして説明する。 20. 課題作文を書く(添削と採点) 21. 作品を返還し、感想や注意事項を述べる。 22. まとめとしてプリントを二枚を配布し、年度末試験について傾向と対策を説明する。 23. 学生が黒板にでて、四字句の完成などを行う。 24. ことばと社会について - ことばの乱れや敬語法について考える。 		

科 目 名	地球環境論	担当者名	鈴 木 滋
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題を地球科学・資源環境科学・一般科学技術の立場からその内容の把握を目的とする。また、この問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えていることへの理解を深める。
講 義 概 要	我々の環境は目まぐるしく変化している。それは自然科学も社会・人文科学も同様である。地球環境を自然科学的側面から捉え、環境におけるその位置づけや地球規模の問題として資源と環境がどのような因果関係にあるのかを考察する。さらに、地球環境に生じる具体的現象、その問題の原因ならびに対策について資源論・環境論を交えて検討する。受講者が自然科学を専門としない学生であることを十分に考慮し、地球環境問題を取り巻く資源・環境・科学技術がなぜ重要な意味を持っているのかも理解できるようにする。さらに、自然科学の持つ客観的な物の見方を養い、経済への一助とする。
使 用 教 材	テキスト 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
	参 考 文 献 国内外ともに多数の文献がある。講義内容によって、適時指示する。なお、グローバルなものを見方を養うため、場合によっては、地球環境に関する諸問題について最近の英文記事を紹介し、内容を検討する。
評 価 方 法	定期試験（2回）と平常点により総合評価する。
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	できるだけ平易に内容を説明するので熱心な受講姿勢を期待する。また、講義の進度に合わせて、地球環境を身近な問題と捉え、各自が自分なりの意見を持つことができるよう要望する。

年 間 授 業 計 画	<p>1. オリエンテーション：授業内容・受講姿勢等について説明。</p> <p>2. 地球環境論は今なぜ必要か？</p> <p>3. 地球環境の歴史。</p> <p>4. 地球環境の構造等：地球という惑星について。</p> <p>5. 地球環境と地球システム。</p> <p>6. 地球環境と資源（ ）：資源の特性。</p> <p>7. 地球環境と資源（ ）：エネルギー。</p> <p>8. 地球環境と材料：地球材料学とは。</p> <p>9. 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？</p> <p>10. 環境：地球環境と広域・地域環境との比較。</p> <p>11. 地球環境問題概論。</p> <p>12. 前期のまとめ。</p> <p>13. 後期の概要説明。</p> <p>14. 地球環境問題各論（ ）。</p> <p>15. 同上</p> <p>16. 同上</p> <p>17. 地球環境問題各論（ ）。</p> <p>18. 同上</p> <p>19. 地球環境問題各論（ ）。</p> <p>20. 同上</p> <p>21. 地球環境の保全：文化・経済・社会等の今後のあり方。</p> <p>22. 地球環境論を通しての意見交換。</p> <p>23. 地球環境論と科学論の関係について。</p> <p>24. 総合的まとめ。</p> <p>備考：授業の進度により若干の変更がある。</p>
----------------------------	--

科 目 名	数 学	担当者名	遠 藤 信
-------	-----	------	-------

講 義 の 目 標	<p>経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。また、経済学でよく使われる基本的な概念が、数学で扱われる問題の特殊な場合であることが多い。</p> <p>この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけ、学生が経済学をより深く理解できることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微分である。</p>	
講 義 概 要	<p>前半では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部が実社会に出て、応用することが多い分野である。</p> <p>後半では、微分を講義する。これは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。</p> <p>定理の証明や公式を導くにあたっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第 1 とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。</p>	
使 用 教 材	テ キ ス ト	特に定めない。必要に応じて、プリント使用。
	参 考 文 献	参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す。
評 価 方 法	<p>出席状況と授業中におこなう演習、まとめの小テストの成績を総合して成績評価をする。</p> <p>数学では、きちんと出席して、演習問題を解くことが非常に大切なので、欠席の多い者は単位が取れない。</p>	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど		

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 行列の定義 行列の演算 2. 行列の演算 3. 行列の性質 4. 行列式の定義 5. 行列式の計算 6. 行列式の性質 7. 行列式の性質と行列式の計算 8. 余因子とその性質 9. 余因子とその性質 10. 余因子を用いて逆行列を求める方法 11. 連立1次方程式 Cramerの公式 12. 補充とまとめ 13. 関数と関数の極限 14. 関数の極限 関数の連続 15. 微分係数と導関数の定義 16. 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分 17. 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分 18. 関数の極大・極小 19. 関数の極大・極小 20. 高次導関数 平均値の定理 21. 偏微分の定義 偏微分の計算 22. 偏微分の計算 23. 微分の社会科学への応用 24. 補充とまとめ
----------------------------	--

科目名	地理学	担当者名	秋本弘章
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、第一に、人間と自然環境がどのような関わりをもっているかを、具体的事例をもとに検討していく。第二に、人間の生活空間の地域的な単位となっている集落の機能と空間構造、そこにみられる人々の生活様式の特徴などについて扱う。これらを通じて、地理学の基本概念を身につけることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>年間の講義を前後期に分け、前期には地表面の自然の特色を概観し、自然的基盤の上で繰り広げられている人々の生活状態を地域的に説明する。後期は、人類の約半数が居住している都市についての地理学を講義する。世界的な視野から検討するが、東京および東京大都市圏を事例地域として扱う予定である。</p>		
使用教材	テキスト	なし 適宜プリント等を配布する。	
	参考文献	<p>高橋（他）著『文化地理学入門』原書房 山本（他）著『世界の自然環境』大明堂 Bayliss-Smith, T. P.; "The Ecology of Agricultural System." Cambridge University Press 高橋（他）著『都市地理学入門』原書房 杉浦 著『文学のなかの地理空間』古今書院</p>	
評価方法	前後期の1回づつの定期試験、出欠席状況を加味して行う。		
受講者に対する要望など	高校時代に用いた地図帳を持参すること。		

科目名	地理学	担当者名	犬井 正
-----	-----	------	------

講義の目的	熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならない。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。		
講義概要	熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、開発の結果どのようなことが生起しているのか。なにが適切な解決策なのかなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTRなども援用しながら講義をすすめる。		
使用教材	テキスト	・クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ T . C . ホイットモア著『熱帯雨林総論』1993、築地書館 ・ ジョン . C . クリッチャー著『熱帯雨林の生態学』1992、どうぶつ社 ・ 四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』1992、NHK ブックス 	
評価方法	前期、後期各1回ずつの定期試験による。		
学生への要望	「経済地理学(犬井担当)」、およびその「演習」を履修する予定者は、本講義を履修しておくことが望ましい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の1年間の受講の心構え、講義方法、講義内容についてのオリエンテーションをおこなう。 2. 1次生産者としての森林の重要性について。 3. 世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。 4. 熱帯雨林成立の過程と特質。 5. 熱帯雨林の森林としての構造。 6. 熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。 7. 熱帯雨林の生態学的多様性。 8. VTR『熱帯雨林の生態』視聴。 9. 熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。 10. 様々な開発形態と開発速度。 11. 薪炭材の生産と焼畑農耕 伝統的焼畑農耕は破壊か？ 12. 人口爆発と集落再編計画。 13. 商業的木材生産による森林破壊。 14. プランテーション経営と牧畜業。 15. ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。 16. VTR『緑を守る男たち』視聴。 17. 熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。 18. 熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。 19. 熱帯雨林破壊の経済と生態系の損失。 20. 熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境 アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。 21. VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。 22. 日本の熱帯材輸入と森林破壊。 23. 熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策は？ 24. まとめ 再考「人間と自然のかかわり」。
----------------------------	--

科 目 名	精神衛生論	担当者名	佐々木 雄 司
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「精神衛生学」イコール精神医学ではない。後者の中核が「医療の場」における治療なのに反し、前者は、あらゆる「生活の場」(地域社会、職場、学校)における実践といえよう。</p> <p>私は、精神科医で、メンタルヘルスとくにコミュニティメンタルヘルスのパイオニアの 1 人として日本の各地で活動を重ねてきている。その日頃の実践の中で、精神衛生の基礎知識をもつ社会人の仲間が 1 人でもいたら.....と思うことの連続である。産業精神衛生は、現代の企業の重大問題の 1 つ。本授業を、そのよき社会人モデルを育てる基礎訓練の場としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>「暮らしの中の健康学、とくに精神衛生学概論」と集約できるかもしれない。身近に起きている、生命や健康に関するありふれた出来事あるいは特異な出来事などをとりあげる。</p> <p>授業は精神科医としての 40 余年間の私自身の実践や研究やフィールドワークの体験を縦軸とし、学生サンの討論などを横軸として進める。ビデオや新聞記事などを授業時間の最初に使用し、それをもとにした「グループ討論」をできるだけ頻回にとり入れたい。</p> <p>我が国が、高度のストレス社会に突入した現在、本授業が、人間・家庭・地域社会・学校・企業・社会福祉・行政・信仰・日本文化などを考える緒の 1 つともなれば幸いである。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参考文献	<p>佐々木 雄司「宗教から精神衛生へ」金剛出版、1986</p> <p>厚生省精神保健課「我が国の精神保健福祉」厚健出版(最新版)</p>	
評 価 方 法	<p>2 回の期末テストだけでなく、ミニテスト、出欠や発言などの参加姿勢を、平常点として重視する。期末テストのみ受けても、単位として認定しない。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>「精神衛生学」は人間関係の学であり、約束を重んずることと参加することが基本要件。先述した講義形態でもあり遅刻は厳禁。なお、ゼミ生(精神衛生論)は本授業も受講された。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. オリエンテーション
	2. グループ討論「最近の新聞記事など」をとりあげる
	3. いのちと医療 (1) 新聞記事、グループ討議
	4. " (2) まとめ
	5. そこで起こっている現象の捉え方、考え方 (1) Video、グループ討論
	6. " (2) まとめ
	7. 信仰と精神衛生 (1) 具体例、新聞記事、グループ討論
	8. " (2) スライド、(3) Video、まとめ
	9. 精神医学の知識 (1) 具体例、新聞記事、グループ討論
	10. " (2) スライド、(3) Video、まとめ
	11. 新しい精神医学、コミュニティ・メンタルヘルス (1) 具体例、グループ討論
	12. " (2) スライド、(3) Video、まとめ
	13. 地域社会の精神衛生
	14. 家庭の精神衛生
	15. 学校の精神衛生 (1) 具体例、新聞記事、グループ討論
	16. " (2) まとめ
	17. 職場の精神衛生 (1) 具体性、新聞記事、グループ討論
	18. " (2) まとめ
	19. 加齢と精神衛生 (1) 具体例、新聞記事、グループ討論
	20. " (2) まとめ
	21. 日本の医療ことに精神科医療の現状
	22. 医師、医療機関の選び方
	23. 総括 (1) 新聞記事、グループ討論
	24. " (2) まとめ

科 目 名	医療・福祉概論	担当者名	藤 井 賢一郎
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	わが国の医療、福祉のサービス及び制度の現状と問題点の概要について理解する。経済学の観点から、今後のわが国の医療、福祉のあり方について議論を行う。		
講 義 概 要	(1) 高齢化問題、精神障害者の処遇(医療と福祉)、介護保険制度、医療保険制度を主なテーマとして、ビデオ(テレビ番組)、新聞、雑誌などから、できるだけ身近な題材を例にとり、プレゼンテーションを行い、(2) 授業参加者との議論を踏まえ、(3) まとめと解説を行う。特に、介護保険制度については2000年4月からスタートする制度であるため、その施行経過に応じた授業を実施する。		
使 用 教 材	テキスト	特に指定しない	
	参考文献	小塩隆士「社会保障の経済学」日本評論社、八代尚宏「少子・高齢化の経済学」東洋経済新報社、池上直巳「医療問題」日経文庫、広井良典「日本の社会保障」岩波新書、八田達夫/八代尚宏「社会保険改革」日本経済新聞社	
評 価 方 法	筆記試験と 授業への参加の程度によって評価を行う。 については、後期終業後に1回実施。 については、発言、授業感想レポート等によって行うが、学生諸君の授業の参加状況によって評価方法は適宜変更する。詳細については、第1回目授業でオリエンテーションする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	熱意を持って授業に参加されたい。経済学の基礎(特にミクロ経済学、公共経済学、財政学)についての基礎を習熟された上で出席されることが望ましい。議論に参加する意欲のない学生は、選択しないでいただきたい。		

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 高齢化の進行と再分配(1) (高齢化の進行状況と背景) 3. 高齢化の進行と再分配(2) (高齢化がもたらす諸現象) 4. 高齢化の進行と再分配(3) (高齢化と医療・介護) 5. 高齢化の進行と再分配(4) (高齢化と財政問題) 6. 精神障害者の医療・福祉(1) (病態と有病率) 7. 精神障害者の医療・福祉(2) (医療の実態) 8. 精神障害者の医療・福祉(3) (福祉の実態) 9. 精神障害者の医療・福祉(4) (財源問題) 10. 医療制度(1) 経済学的視点の基礎 11. 医療制度(2) 経済学的視点の基礎 12. 医療制度(3) 「保険」の意義と社会保険制度 13. 医療制度(4) 医療保険制度の概要 14. 医療制度(5) 医療保険制度の概要 13. 医療制度(6) 医療費の推移 14. 医療制度(7) 疾病構造の推移 15. 医療制度(8) 質の担保と「供給者」 16. 介護保険制度(1) (制度の概要) 17. 介護保険制度(2) (要介護認定) 18. 介護保険制度(3) (サービスの概要) 19. 介護保険制度(4) (財源問題) 20. 福祉・医療に関わるトピックス(1) 21. 福祉・医療に関わるトピックス(2) 22. 福祉・医療に関わるトピックス(3) 23. 福祉・医療に関わるトピックス(4) 24. まとめ
----------------------------	--

科 目 名	スポーツ・健康論	担当者名	本 田 稔 祐
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	現代は、多くのスポーツが大勢の人に実施されたり、見られたりしているが、私達は、スポーツさえしていれば健康の維持・増進に役立つと考えてないだろうか。また害があるとなればどんな事かという事などを検証していく。		
講 義 概 要	スポーツとは何なのか、健康とはどんな状態なのかより始め、われわれのからだにスポーツがどのような影響を与えているのか、危険性があるとすればどんな事か、健康に役立つための実施方法、注意点、問題点などを考えて、日常生活との関係を学習する。		
使 用 教 材	テキスト	特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	
	参考文献	福岡スポーツ研究所「健康スポーツライフ」スキージャーナル社 ハラルド・メラロヴィッチ「健康と運動」ベースボールマガジン社 出村慎一・村瀬智彦「健康・スポーツ科学」大修館 他	
評 価 方 法	授業への出席状況 40% 前期レポート 20% 後期筆記テスト 40% で評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	遅刻、欠席をしないこと。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の健康とは、どのような状態なのかなどについて。 2. スポーツとは 3. スポーツの特性 4. スポーツの種類 5. 能力スポーツについて 6. 能力スポーツの役割と健康との関係 7. レクリエーションスポーツとレジャースポーツ 8. レクリエーションスポーツの特性とその効果 9. レジャースポーツの特性とその効果 10. 健康スポーツについて 11. 健康スポーツに適した種目 12. 健康スポーツの実施方法とその際の注意点 13. トレーニングの基礎理論 14. ウォーミングアップについて 15. クーリングダウンについて 16. 運動と栄養（1） 17. 運動と栄養（2） 18. 肥満の功罪 19. スポーツと疲労（1） 20. スポーツと疲労（2） 21. スポーツ障害 22. 事故の応急処置 23. 事故と救急法 24. 筆記テスト
----------------------------	--

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	阿 部 正 浩
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	この講義は、新聞・雑誌やインターネットで流通している英文経済記事の内容を把握する力を養うことを目的としている。		
講 義 概 要	興味深い英文経済記事を配布し、順番に受講者がその内容を報告する形で講義をすすめる。		
使 用 教 材	テキスト	使用教材、テキスト：毎回英文経済記事を配布する。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	前期のレポートと後期の定期テストを加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業には毎回出席のこと。		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	伊 藤 為一郎
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	英・米の経済に関する論文を読み、テクニカルタームを学びながら内容の理解を深める。		
講 義 概 要	内容を理解するため必要に応じて基礎的な講義をする。 英・米の経済状況についても概観できるようにする。		
使 用 教 材	テキスト	プリント教材	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	期末試験の結果に平常点を加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習をしておくこと。		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	内 倉 滋
-------	----------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>経済学部の学生が、インターネットを通じて英文の情報に触れる機会は、今日ますます増えつつある。本講義は、下記の“実験テキスト”〔＝著者の表現〕により、“インターネット時代の英語”の一端を垣間見することを、講義目標としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>この“実験テキスト”は、全部で12章あり、その各章は、1~2ページのテキストとそれに関連した「Questions」や「演習」から成っている。したがって、2週で1つの章を、というペースとし、最初の週にテキストの内容の純粋理解を、そして次の週にその章にかかわる「Questions」や「演習」を取り扱う、という形で進めていくこととしたい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	和久 豊編、「インターネット時代の英語」、英宝社。	
	参 考 文 献	特に必要とはいたしません。	
評 価 方 法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また（受講生の理解度を知る目的からも）何回か小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>本講義科目の主役は、担当者である私ではなく、受講生である皆さん方です。そのことへの認識だけは、お願いしておきます。</p>		

- 1 . Chapter 1 : What is Internet?
- 2 . Chapter 1 : What is Internet? [「 Questions 」 and 「 演習 」]
- 3 . Chapter 2 : The History of the Internet
- 4 . Chapter 2 : The History of the Internet [「 Questions 」 and 「 演習 」]
- 5 . Chapter 3 : Stratford-upon-Avon - Shakespeare's Country
- 6 . Chapter 3 : Stratford-upon-Avon - Shakespeare's Country [「 Questions 」 and 「 演習 」]
- 7 . Chapter 4 : Beatrix Potter in Lake District
- 8 . Chapter 4 : Beatrix Potter in Lake District [「 Questions 」 and 「 演習 」]
- 9 . Chapter 5 : Baseball in USA TODAY
- 10 . Chapter 5 : Baseball in USA TODAY [「 Questions 」 and 「 演習 」]
- 11 . Chapter 6 : Scanning TimeOut - London Musicals & Theatres -
- 12 . Chapter 6 : Scanning TimeOut - London Musicals & Theatres - [「 Questions 」 and 「 演習 」]
- 13 . Chapter 7 : Clinton Calls For Bipartisanship
- 14 . Chapter 7 : Clinton Calls For Bipartisanship [「 Questions 」 and 「 演習 」]
- 15 . Chapter 8 : The Virtual Library in White House
- 16 . Chapter 8 : The Virtual Library in White House [「 Questions 」 and 「 演習 」]
- 17 . Chapter 9 : Gates sings Internet's praises
- 18 . Chapter 9 : Gates sings Internet's praises [「 Questions 」 and 「 演習 」]
- 19 . Chapter 10 : Prince and Princess of Wales
- 20 . Chapter 10 : Prince and Princess of Wales [「 Questions 」 and 「 演習 」]
- 21 . Chapter 11 : China mourns paramount leader
- 22 . Chapter 11 : China mourns paramount leader [「 Questions 」 and 「 演習 」]
- 23 . Chapter 12 : Toyota urges Britain to join the euro
- 24 . Chapter 12 : Toyota urges Britain to join the euro [「 Questions 」 and 「 演習 」]

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	遠 藤 信
-------	----------	------	-------

講 義 の 目 標	現代の著名な科学者による一般読者向けにおこなった講演を読んで、決定論と自由意志、生命とは何かという問題、人類の未来について必要な解説を加えながら考えることが、この講義の目標である。		
講 義 概 要	<p>(1) この世には、何か明確な法則があって、宇宙も宇宙の中にあるすべてのものも、時間とともにどのように発展していくかは、それらの法則により決められているのだろうか。もし決められているとするならば、自由な意志とか自分の行動に対する責任はどうなるのであろう。</p> <p>(2) 生命について考える。何故、この惑星（地球）に生命が現れたのか。生命の起源と生命が未来に向かってどのように発展するのかについて考察する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	LECTURES BY S . W . HAWKING (COPY)	
	参考文献		
評 価 方 法	出席状況と平常点とテストの成績を総合して、成績を評価する。出席点と平常点を重視するので、欠席の多い者は単位が取れない。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>予習を必ずしてくること。</p> <p>欠席をしないこと。</p>		

年
間
授
業
計
画

- 1 . 前期は Is Everything determined ?
- 2 .
- 3 .
- 4 .
- 5 .
- 6 .
- 7 .
- 8 .
- 9 .
- 10 .
- 11 .
- 12 .
- 13 . 後期は Life in the Universe
- 14 .
- 15 .
- 16 .
- 17 .
- 18 .
- 19 .
- 20 .
- 21 .
- 22 .
- 23 .
- 24 .

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	岡 田 博
-------	----------	------	-------

講義の目的	Wilfred Owen 『Transportation and World Development』をテキストとして、訳を主として読んでいき、読解力をつけるとともに、交通と世界経済との関連について理解を一層深めてもらうことに目標をおく。		
講義概要	交通の世界システムへの展望をテーマにオーエンの上記テキストを読んでいく。		
使用教材	テキスト	・ Wilfred Owen; <i>Transportation and World Development</i> , The Johns Hopkins Univ. Press, Baltimore.	
	参考文献		
評価方法	授業中の発表と、定期試験の成績とで評価する。		
学生への要望	次週の授業で進む範囲を指示するので、毎週指示された範囲のところをあらかじめ訳してきて、それを提出させる。欠席の多い人には単位を与えない。		
年間授業計画	<p>前 期 『Transportation and World Development』の中の3章 Supporting Industrial Development を読んでいく。</p> <p>後 期 前期に引き続き、Transportation and World Development を読解していく。</p>		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	岡 村 国 和
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義の目的は、将来履修する専門科目を外国語文献を用いて研究しようと志す学生諸君のためにその方法を準備することにある。翻訳が主目的ではなく、内容の理解とその検討が主目的である。さしあたり経済的福祉に関するイギリスの白書を各自入手し、それらを輪読する。そして輪読後に討論を行い、また輪読するというステップを繰り返し行うことを予定している。資料は主としてインターネット上から取得する。資料の解読・分析を自力で行うには最低限の専門用語の知識が要求されることを理解してほしい。これも本講義の目標の一部である。</p>		
講 義 概 要	<p>まず福祉をめぐる一般的用語を理解し、福祉の特徴を知る上で必要な知識の習得を目指す。次いで何故に個人の「自由や平等」を強制・抑制してまで「社会的に不遇な人々に手厚い保障をしなければならないか」について、それを正当化する枠組みを検討する。福祉の真の姿を理解するには多面的な考察が必要であるが、本講義では主として基本的な分析用具を紹介しつつ将来の学習に備える工夫ができるようになることを配慮して講義を進める。なお、希望により実践的な表現を拾得するためのCDを聞きながら表現力を養えるような時間を設けたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>未定。さしあたり当方でイギリスの福祉などに関する白書をインターネット上で取得し、それを教材として利用する。</p>	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>輪読の際の個々人の報告を中心とし、これに基づいて最終評価を行う。場合によっては夏と冬にレポートを課すこともある。</p>		
受 講 者 対 する 要 望 等	<p>福祉をめぐる諸問題を理解するための冷静な判断力と、福祉関連制度を理解するための熱いハートの持ち主を歓迎する。</p>		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	梶 山 皓
-------	----------	------	-------

講義の目標	マーケティングと広告に関する基礎的な理論を英語で学びます。		
講義概要	マーケティングの基礎的な理論、すなわちマーケティング計画の立案、製品開発と管理、流通システム、プロモーション政策、製品の価格設定、特定分野のマーケティング等を学びます。他に広告理論を概観します。授業は学生が英文を訳出し、教員が内容を解説する形式で進めます。		
使用教材	テキスト	James E. Finch: The Essentials of Marketing Principles, Research and Education Association, 1992.	
	参考文献	P. コトラー他(和田充夫他訳)『マーケティング原理』、ダイヤモンド社、1995。	
評価方法	「定期試験」「小テスト」「出席状況」「発表内容」を総合的に判断して評価を行います。なお欠席が年間6回以上の方は、原則として評価を不可とします。		
受講者に対する要望など	授業には辞書を必ず持参してください。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概容 2. マーケティングとは 3. マーケティング情報システム 4. 市場分析 5. マーケティング・セグメンテーション 6. 消費者行動 7. ビジネス・マーケティング 8. 製品開発 9. 製品ミクス 10. 流通システム 11. 物的流通 12. 問屋 13. 小売 14. プロモーション戦略 15. 広告 16. PR 17. 人的セールス 18. セールス・プロモーション 19. 価格決定 20. 価格政策 21. マーケティング評価 22. 国際マーケティング 23. 非営利機関のマーケティング 24. ダイレクト・マーケティング 		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	香 取 徹
-------	----------	------	-------

講義の目標	21世紀は、国際的という言葉の意味がなくなります。それくらい人々が世界中を回り、行き来するようになるからです。そのときの共通語は少なくとも日本語ではないでしょう。1つの共通語としての英語に触れる機会を多くもつこと大変大切なことです。この講義では、経済関連の内容にこだわらず、英語を読むことから、聞くこと・書くことへ、つまり英語を使うことを心がけています。		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピューターを使って、インターネットと E-mail による世界中の学生との交信。 2. CNN や BBC のニュースをビデオ等の教材で聞いて、書く。 3. ABC 製作のビデオを見てレポートする。 4. 音楽や映画などのビデオを教材とします。 5. 海外旅行、留学、就職には何が必要でしょうか。 		
使用教材	テキスト	毎回配付します。	
	参考文献		
評価方法	レポートやメールで毎回確認します。		
受講者に対する要望など	和英・英和の辞書（小さいものでもよい）が必要。休まないこと。		
年間授業計画			

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	金 井 繁 雅
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	国際会計に関する基本的な英書文献を素材にして、その内容を正確に把握できる読解力の修得とともにその背景を考えていく。		
講 義 概 要	会計の国際化はますます進展しており、会計基準の国際的調和化は極めて重要になっている。ここではテキストを精読しながら、各国の会計制度の比較と会計基準の国際的調和化の必要性を種々の観点から考察する。		
使 用 教 材	テキスト	Dhia D.Alhashim, Jeffrey S. Arpan, "International Dimensions of Accounting" PWS-Kent. (コピーを配布)	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	授業の発表内容、出席状況等の総合点によって評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習を必ず行ってくこと。		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	日 下 泰 夫
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	(1)英語に親しみ、(2)マネジメントに関する文献の輪読を通じて専門用語を学び、内容についての理解を深める。		
講 義 概 要	<p>(1)については、授業開始直後の20分程度を使用して、Mainichi Weekly の topics / essays (難しい単語・熟語の日本語訳が付いている)を読み、さらに native speaker のテープを聴く。2週に1テーマ程度の割合で進むが、これについての予習は一切不要である。</p> <p>(2)については、後の70分程度を使用して通常の文献の輪読を行う。日本企業では、欧米で開発されたコンセプトを模倣し優秀な生産技術と品質管理技術によって安価で高品質の製品を開発する従来のフォローアップ型経営から、真に創造的な製品を開発するフロントランナー型経営へとパラダイムの転換を図ることが必要されている。</p> <p>本講義は、企業のイノベーション・マネジメントと新製品開発をテーマに取りあげ、次の方法で進める：</p> <p>受講者は予め割り当てられた範囲を輪読する。</p> <p>必要があれば、主要な概念や専門用語などは教員が補足説明する。</p> <p>検討課題について全員で討論し、内容についての理解を深める。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>“ Mainichi Weekly ” 毎日新聞社 (教材のコピーを配布する) ; Paul Trott : “ Innovation Management & New Product Development ” , Financial Times Pitman Publishing, 1998. (教材のコピーを配布する。)</p>	
	参考文献		
評 価 方 法	前・後期末試験を中心に、発表内容とそのレポート、出席状況、平常点等を加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	必ず予習をしてくること。授業は継続して出席し、出席した以上は積極的に討論に加わって下さい。		

- 1 ~ 3 . Innovation management: an introduction
- 2 ~ 6 . Managing innovation within firms
- 7 ~ 9 . Business strategy and organisational knowledge
- 10 ~ 12 . Product strategy
- 13 ~ 14 . New product development
- 15 ~ 18 . Managing the new product development team
- 19 ~ 21 . Management of research and development: an introduction
- 22 ~ 24 . Strategic alliance and intellectual property

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	小 林 進
-------	----------	------	-------

講 義 の 目 標	理論経済学を中心に、できるだけ大量の英文の読破を目指したい。経済学の重要性は近年非常に高まってきており、その学習においては翻訳書に頼るだけでは不十分で、原書で読むことの必要性が増している。受講者は、途中で脱落することなく毎週必ず出席し、経済学の用語に早くなれて研鑽（ケンサン）を積んでほしい。昔の賢人いわく「努力しない者が成功することは、ラクダが針の穴を通るよりも難しい」		
講 義 概 要	米国の標準的な経済学テキストの講読		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	平常の出欠と受講態度を重視し、さらに前期と後期の二回の試験を加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	小 林 哲 也
-------	----------	------	---------

講義の目標	専門課程に進んだ学生のために、ある程度専門的・現代的な用語を含む専門書を、読解してゆく。現代経済を理解するための、基礎的知識と英語力を身につける。		
講義概要	米国商務省のデジタル・エコノミーに関する報告書をテキストに、インターネット経済の現状や、電子商取引とそのグローバル化などの展望を研究する。		
使用教材	テキスト	U.S.Department of Commerce, "The Emerging Digital Economy 1&2," U.S.DOC, 1999.	
	参考文献	杉田玄白『蘭学事始』岩波文庫 T・モーリス鈴木『日本の経済思想』岩波書店 公文俊平『情報文明論』NTT出版 その他は、講義中に適宜指示する。	
評価方法	出席などの平常点および前期／後期定期試験成績による。		
受講者に対する要望など	情報化・国際化に積極的な関心を持っていること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済情報収集術——なぜ英語を学ぶのか 2. インターネット革命 3. 情報技術と電子商取引 4. 情報技術（IT）産業 5. 電子商取引の成長 6. 新しいビジネスモデル 7. IT 産業の成長 8. IT 産業と貿易 9. IT 産業製品の価格低下 10. 各産業における IT 製品 11. IT 利用の産業間格差 12. IT と生産性 米国 13. IT と生産性 日本・欧州 14. IT と雇用 15. IT と賃金 16. IT と労働者 17. デジタルエコノミーと消費者 18. デジタルエコノミーと小売業 19. デジタルエコノミーと米国経済 20. デジタルエコノミーと世界経済 21. IT を巡る諸問題 —— その1 22. IT を巡る諸問題 —— その2 23. IT と企業革命 米国 24. IT と企業革命 日本 		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	鈴木 勇
-------	----------	------	------

講義の目標	下記のテキストを使って経済学史の基礎知識を学習する。		
講義概要	テキスト(1)の第 42 章, 'Winds of Change: Evolution of Economic Doctrines'. テキスト(2)の第 1 章, 'Nineteenth-Century Capitalism: Machines and Markets'. 第 2 章, 'Socialist Responses: Utopian, Marxian and Democratic Socialism'. テキストはコピーして配布する。		
使用教材	テキスト	(1) P. A. Samuelson "ECONOMICS", 11 th edition, 1983. (2) G. Dalton "Economic Systems and Society", 1979.	
	参考文献		
評価方法	出席状況と定期試験によって総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	きちんと予習し出席すること。		
年間授業計画	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	仙 田 幸 子
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>英語の文献を読みこなす力の養成を目的とし、1つの文献を速読と熟読という2つの方法で読む。速読ではある程度の量を一度に読み、論文の構成と重要な点を正確につかむことを心がける。熟読では逐語訳を行い内容を深く理解することを心がける。</p> <p>使用するテキストは組織心理学の入門書である。組織心理学の系譜を英語で学習することができる。</p>				
講 義 概 要	<p>あらかじめ分担を決め、担当者のレポートをもとに内容を検討する。報告の際にはレジメを用意し、それをもとに報告する。各期1回ずつは報告することになる。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>Terry A, Beehr "<i>Basic Organizational Psychology</i>" Allyn and Bacon, 1996; ISBN 0-215-14811-5</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td></td> </tr> </table>	テキスト	Terry A, Beehr " <i>Basic Organizational Psychology</i> " Allyn and Bacon, 1996; ISBN 0-215-14811-5	参考文献	
テキスト	Terry A, Beehr " <i>Basic Organizational Psychology</i> " Allyn and Bacon, 1996; ISBN 0-215-14811-5				
参考文献					
評 価 方 法	<p>担当部分についてのレジメと報告内容（70%）および授業態度（30%）を100点満点に換算し、合計で60点以上の受講者に単位を与える。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>予習を必ずしてこること。英和辞典を持ってこること。</p>				

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	高 松 和 幸
-------	----------	------	---------

講義の目標	現代経営学に影響を与えた名著を読む。 英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説や練習問題を解くことで習得を目指す。		
講義概要	組織を構成する諸種の体系を学習できるように配慮するとともに、前編を読まなくとも理解できるように解説を加えることにする。		
使用教材	テキスト	James G. March & Herbert A. Simon, <i>Organizations</i> , John Wiley & Sons. (本書は入手困難なため、コピーを配布する。なお、他にも必要に応じて他文献のコピーも配布する。)	
	参考文献		
評価方法	レポート・授業出席状況による総合評価。		
受講者に対する要望など	予習・復習をすること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . The literature of organization theory 2 . same as above 3 . same as above 4 . Some types of propositions 5 . same as above 6 . Taylor's Scientific management 7 . same as above 8 . Operational and empirical problems of classical administrative science 9 . same as above 10 . Theory of bureaucracy 11 . same as above 12 . Conclusion 13 . Motivation to produce 14 . The evoked set of alternative 15 . same as above 16 . Individual goals 17 . same as above 18 . The theory of organizational equilibrium 19 . same as above 20 . Employee participation : The participation criterion 21 . same as above 22 . Employee participation : The general model 23 . same as above 24 . conclusion 		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	立 田 ル ミ
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>アメリカでポピュラーな最新の本を利用し、インターネットの専門用語を解説することを目的とする。また、現在どのようなネットワークのソフトウェアが開発されているかを概説し、その利用法について実際にコンピュータを使って解説する。コンピュータネットワークがどのように教育に利用されているかをWebページを読むことにより、それらを調査研究することを目的として講義・演習を行う。</p>		
講 義 概 要	<p>インターネットがどのようなものかを最初に外書を読みながら講義する。また、インターネットを利用するためにはどのようなものが必要かを概説し、必要なソフトウェアについて講義とデモンストレーションを行う。次にインターネットを実際に利用するためのソフトウェアをダウンロードして、それらを実際を使って演習を行う。また、検索用エンジンを用いて、コンピュータサイエンス学科を検索し、どのような教育が行われているかを調査する。また、教育用ソフトウェアとしてどのようなものが開発されているかも調査する。さらに、音声、動画があるページを検索し、それらがどのような命令やソフトを用いているかを調べてもらう予定である。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>Galen A Grimes, Rick Bolton : The Internet and World Wide Web, Que テキストについては、amazon.com でネット上から購入予定</p>	
	参 考 文 献	<p>Web上のページ</p>	
評 価 方 法	<p>毎回電子メールでレポートを提出してもらい、それを 20%の評価とする。前期 1 回、後期 1 回の試験を行い、それを各 40%の評価とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>プログラミング論および情報処理概論を履修した学生に限る。コンピュータの操作については特に説明しないので、コンピュータの基礎的知識のある学生に限る。出席をしない学生は単位を与えない。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットの概要：インターネットとは 2. サービスプロバイダーについて：サービスプロバイダーの現状 3. Windows に TCP/IC クライアントをインストールする：プログラムのインストール 4. PPP 接続について：PPP 接続の方法 5. ダイアルアップ接続のための設定：ダイアルアップ接続に必要なソフトウェア 6. インターネットセットアップ：インターネット接続に必要なこと 7. FTP のダウンロードと利用：FTP を用いてソフトウェアをダウンロードする 8. Microsoft Exchange の設定と電子メール：電子メール、Microsoft Exchange の利用 9. World Wide Web について：WWW とは 10. Microsoft Internet Explorer のダウンロードと利用：Microsoft Internet Explorer を利用する 11. ブックマークの利用：ブックマークの利用と整理 12. 検索エンジンの利用：いくつかの検索エンジンを使う 13. グラフィックファイルの利用：グラフィックファイルの種類 14. 音声ファイルの利用：音声ファイルの種類 15. Microsoft Internet Explorer のファイルの追加：ファイルの追加方法 16. Netscape のヘルパーの設定と利用：ヘルパーの設定方法 17. Newsgroup の利用：ニュースグループの設定と利用 18. Newsreader の設定：ニュースリーダーとは 19. グラフィックファイルの変換：ファイルの変換とソフトウェア 20. チャットソフトの利用：チャットソフトの設定と利用 21. Gopher：Gopher とは 22. マルチユーザに対するテレネット：テレネットとは 23. マイクロソフトネットワーク：マイクロソフトネットワークとは 24. スクリプトを書く：スクリプトの利用
----------------------------	---

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	千 葉 啓 司
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>アメリカの会計制度の基礎となっている財務会計の諸概念について英文を通して理解を深める。</p> <p>専門文献を読み解くために必要な英文読解力を養う。</p> <p>英語の専門用語の知識を得る。</p>		
講 義 概 要	<p>アメリカの財務会計基準審議会の『概念報告書』をテキストに用いる。概念報告書の1号では、営利企業の財務報告の目的が、2号では会計情報の質的特質が、5号では財務諸表における認識と測定がテーマとして取扱われている。これらを輪読していき、毎回その内容について解説を加えていく。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	FASB Statements of Financial Accounting Concepts 1-6	
	参 考 文 献	特になし	
評 価 方 法	定期試験、出席状況などから総合的に判断する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習・復習を欠かさない。辞書を忘れず持参すること。		

- 1 . Statement of Financial Accounting Concepts No. 1
Objectives of Financial Reporting by Business Enterprises (SFAC No.1)
- 2 . SFAC No.1 Introduction and Background
- 3 . SFAC No.1 Potential Users and Their Interests
- 4 . SFAC No.1 Objectives of Financial Reporting
- 5 . SFAC No.1 Information about Enterprise Resources,Claims to Those Resources,and Changes in Them
- 6 . SFAC No.2 Qualitative Characteristics of Accounting Information Summary of Principal Conclusions
- 7 . SFAC No.2 Introduction
- 8 . SFAC No.2 A Hierarchy of Accounting Qualities
- 9 . SFAC No.2 Relevance
- 10 . SFAC No.2 Reliability-Representational Faithfulness
- 11 . SFAC No.2 Reliability-Verifiability,Reliability and Relevance
- 12 . SFAC No.2 Neutrality,Comparability
- 13 . SFAC No.2 Materiality
- 14 . SFAC No.2 Cost and Benefits
- 15 . SFAC No.6 Elements of Financial Statements of Business Enterprises Highlights
- 16 . SFAC No.6 Introduction-Scope and Content of Statement
- 17 . SFAC No.6 Introduction-Elements and Financial Representation
- 18 . SFAC No.6 Definition of Elements-Assets
- 19 . SFAC No.6 Definition of Elements-Liabilities
- 20 . SFAC No.6 Definition of Elements-Effects of Uncertainty
- 21 . SFAC No.6 Definition of Elements-Equity
- 22 . SFAC No.6 Definition of Elements-Investments by and Distributions to Owners
- 23 . SFAC No.6 Definition of Elements-Comprehensive Income
- 24 . SFAC No.6 Definition of Elements-Revenues Expenses,Gains and Losses

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	富 田 忠 義
-------	----------	------	---------

講義の目標	経営学の原書が読めるようになること。		
講義概要	テキストの講読。順番で訳していきます。 テキストは経営戦略の学習の際の重要文献です。 すでに翻訳がでております。		
使用教材	テキスト	H. Igor Ansoff "Corporate Strategy" 1965	
	参考文献		
評価方法	期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価します。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画			

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	中 村 泰 将
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>1. 英文の意味内容を的確に理解することが第一の目標である。</p> <p>2. 専門用語をできるだけ身につけることが第二の目標である。</p> <p>3. 辞書は、必ず引き、アクセントおよび発音記号にも気を配ることが第三の目標である。</p>				
講 義 概 要	<p>私の専門は会計学であるが、必ずしも会計領域に限定しない。</p> <p>本講義では、アメリカのビック・ビジネスの代表的な企業を選び、その経営戦略および成功への道りを英文で講読することによって、アメリカの企業文化・経済について広く学ぶことを目的とする。</p> <p>ファーストフードのマクドナルド、自動車のフォード、ドリンクのコカ・コーラ、航空機のボーイングを代表するアメリカのトップ企業の歴史と発展を、フルカラー写真、イラストを見ながら読み進められるテキストを用いる。</p> <p>授業の進め方：授業では、全員があらかじめ予習してきて、だれがあてられても良いように準備してくることが要求されます。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td>BUSINESS IN ACTION (アメリカのビック・ビジネスのすべて) William Gould 他 SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td>本書の特色は、Business Matters という項目があり、マーケティング、市場調査、多国籍企業、財務、会計、多角化、労働問題、経営管理などの経営全般にわたる基本問題も英文を通じて易しく学べることです。</td> </tr> </table>	テ キ ス ト	BUSINESS IN ACTION (アメリカのビック・ビジネスのすべて) William Gould 他 SEIBIDO	参 考 文 献	本書の特色は、Business Matters という項目があり、マーケティング、市場調査、多国籍企業、財務、会計、多角化、労働問題、経営管理などの経営全般にわたる基本問題も英文を通じて易しく学べることです。
テ キ ス ト	BUSINESS IN ACTION (アメリカのビック・ビジネスのすべて) William Gould 他 SEIBIDO				
参 考 文 献	本書の特色は、Business Matters という項目があり、マーケティング、市場調査、多国籍企業、財務、会計、多角化、労働問題、経営管理などの経営全般にわたる基本問題も英文を通じて易しく学べることです。				
評 価 方 法	授業の発表内容、出席、前・後期のテストの総合点によって判定いたします。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	辞書は、必ず毎回持参すること。				

- 1 . The adventure of business
- 2 .
- 3 .
- 4 .
- 5 . McDONALD'S (マクドナルド社)(pp. 9 - 30)
- 6 .
- 7 .
- 8 .
- 9 . FORD (フォード社)(pp. 31 - 57)
- 10 .
- 11 .
- 12 .
- 13 . COCA - COLA (コカ・コーラ社)(pp. 59 - 79)
- 14 .
- 15 .
- 16 .
- 17 . BOEING (ボーイング社)(pp. 81 - 101)
- 18 .
- 19 .
- 20 .
- 21 . その他、IBM、AT&T、Xerox 等を選びます。
- 22 .
- 23 .
- 24 .

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	波 形 昭 一
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>テキストの著者が INTRODUCTION で ‘ The purpose of this book is to give the reader a chance to learn some basic yet useful ideas about economics through the study of English ’ と述べているように、本講義の目標は、英語の読解を通じて経済学の基礎的知識および基礎的センスを習得することにある。テキストの英語レベルは、中学 3 年生クラスの英語力で十分対応できるであろう。</p>		
講 義 概 要	<p>CONTENTS 1. A MATTER OF CHOICE 2. MEANING OF MICRO 3. MEANING OF MACRO 4. POLITICS & POLICY 5. AT LEAST IN THEORY 6. THE INTERNATIONAL ARENA 7. THE DEVELOPING ECONOMIES 8. CONCLUSION</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>John Tilmant ; ECONOMICS IN OUR LIFE (日常の経済) ・ (新井恵理 ・ 注解) 成美堂 , 1997 年 , 1648 円</p>	
	参 考 文 献	<p>金森久雄ほか編「経済辞典」有斐閣、新版、を用意してください。</p>	
評 価 方 法	<p>前期・後期ともに試験をおこない、出席状況、積極性等を加味したうえで総合評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	浜 本 光 紹
-------	----------	------	---------

講義の目標	本講義では、環境問題、あるいは環境政策に関連する英語の文献を読んでいく。		
講義概要	テキストを輪読しながら、現代社会の大きな課題となっている環境問題の現状やそれに対する様々な取り組みに関して知見を深めていきたい。		
使用教材	テキスト	未定。コピーを配布する予定である。	
	参考文献		
評価方法	出席状況、および前期・後期の試験によって評価する。		
受講者に対する要望など	必ず予習を行ってこよう。		
年間授業計画	1 . 2 . 3 . 4 . 5 . 6 . 7 . 8 . 9 . 10 . 11 . 12 . 13 . 14 . 15 . 16 . 17 . 18 . 19 . 20 . 21 . 22 . 23 . 24 .		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	藤 山 英 樹
-------	----------	------	---------

講義の目標	英文によるミクロ経済学の基礎概念の習得を目的とする。		
講義概要	テキストの輪読をおこなう。逐語訳ではなく英文のレジюмеを作成し、担当者がテキストの内容を報告する。(英文のレジюмеに関してですが、経済学の英語は特に理論面に関しては比較的容易ですので、レジюме作成もそれほど困難ではないと思います。文法に関しては中学校レベルで十分です。また、英語の文章を英語で考える練習にもなると思います。もちろん、発表は日本語で。)		
使用教材	テキスト	Joseph E. Stiglitz, "Economics(second edition)", 1997, W. W. Norton & Company.	
	参考文献	Jhpn Black, "A Dictionary of Economics", 1997, Oxford University press.	
評価方法	前期、後期の試験および授業への出席および分担任回数により評価する。それぞれ比率は20%(前期試験)、20%(後期試験)、60%(授業への出席および分担任回数)とする。		
受講者に対する要望など	ある概念がわからないとき、単に漠然と考えても、理解は深まりません。どうしてわからないかをわけることができる、もしくは、わかろうとする姿勢を望みます。		
年間授業計画	一回あたり15ページ前後読めば、テキストのミクロ経済学部分を読み通すことができるので、この程度のペースを考えています。		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	百 瀬 房 徳
-------	----------	------	---------

講義の目標	ヨーロッパ経済共同体が 1993 年より形成され、現在では欧州連合になろうとしています。この形成の為に種々の制度が統一されてきました。そのうちの付加価値税を通じて統一過程を眺めてみようと思う。		
講義概要	付加価値税は導入以来ほぼ 100 年になろうとしている。ヨーロッパ経済共同体の財源となって以来、非常に大きな役割を果たすようになって来た。付加価値税の歴史、付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について文献を通じて理解する。		
使用教材	テキスト	・ Ernst & Young ; <i>VAT in Europe</i>	
	参考文献	無し	
評価方法	前期および後期に試験を行う。		
受講者に対する要望など	無し		
年間授業計画	<p>下記の項目にしたがって一年間の授業を進める：</p> <ul style="list-style-type: none"> The European Economic Community The Aims of the European Community The White Paper The Community's Institutions The Financial Means of the Community The Value Added Tax Harmonization of VAT Legislation within the European Community The Proposals for Further Harmonization 		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	森 健
-------	----------	------	-----

講 義 の 目 標	<p>比較的平易な英文経済記事を辞書なしで読み、大意を掴むことができるように訓練することが講義の目的である。この訓練をしておけば、より複雑な英文記事も取り組み易くなるはずだからである。平易であるかどうかは、構文や使用されている語句によるのは当然であるが、書かれている内容についての知識があるかどうかも重要である。例えば、自分の趣味と重なる英文なら、少くも単語が分からなくても概要を掴める場合が多いであろう。したがって、この授業では、できるだけ身近な経済問題に関連する英文を教材として、読解力と共に、経済論理を学ぶこととしたい。</p>		
講 義 概 要	<p>講義の目的で触れた趣旨に沿う英文を配布するので、各自、先ず、辞書なしで文の趣旨(メッセージ)の把握(恐らく推定)に努める。次にその内容について発表して相互に議論をし、異なった解釈があれば、どの部分の解釈が異なったのか、を確認する。最後に、辞書を用いて徹底的に読みなおす。</p>		
使 用 教 材	テキスト	コピーを配布する	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>通常の授業参加を主とし、定期試験結果を参考として総合的に評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>予習は必要ないので、復習を怠らないように努めること。新聞等の経済記事に眼を通すこと。</p>		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	山 越 徳
-------	----------	------	-------

講義の目標	英文の文献を通して経済、社会および経済学の知識や理解を深めるとともに専門用語に触れ、これを身近なものにする。とくに最近の状況をより理解するため、国際化、経済統合、国際労働力移動あるいはプロスポーツの経済や時間の経済学などの文献を扱っていくことにする。		
講義概要	数多くの事柄や言葉に触れること、1つ1つを読み終えることの条件を充たすために、4～5篇のペーパーを共に読んで、議論し、理解していくことを目指す。 また関連事項について調べてくるよう指示することがある。		
使用教材	テキスト	ペーパーのコピーしたものを配布する。	
	参考文献	授業中辞書は必ず持参すること。	
評価方法	前期テストに代わるレポート（夏休み中に与えられたペーパーについてのもの）と、後期テストの結果による。		
受講者に対する要望など	ペーパーのテーマに関連した文献（日本語文献や訳本でもかまわない）を数多く読み、知識や言葉をより多く蓄えること。		
年間授業計画	1. ペーパーの分量にもよるが、できれば1つのペーパーを4～5週で読み終える予定で進めたい。		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	湯 田 雅 夫
-------	----------	------	---------

講義の目標	環境マネジメントの内容の把握と理解につとめる。		
講義概要	環境マネジメント、環境監査に関するテキストとして採り上げ、各自予習していることを前提に、輪読形式を進める。		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ R. グレイ / D. オーエン / K. マンダース著 山上達人監訳 水野一郎、向山敦夫、 ・ 國部克彦、富増和彦訳『企業の社会報告 会計のアカウンタビリティ』白桃書房 ・ 小川 洵、鎌田信夫編『現代英和会計用語辞典』同文館 	
評価方法	成績評価は、授業への貢献度、担当箇所の訳（ワープロ〔A4版〕で作成し、提出のこと）および後期試験によって行う。		
受講者に対する要望など	私語厳禁。受講者は、十分に予習をして出席すること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業をどのように進めるかについての説明 2. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 3. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 4. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 5. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 6. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 7. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 8. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 9. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 10. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 11. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 12. 前期の期末試験 13. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 14. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 15. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 16. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 17. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 18. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 19. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 20. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 21. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 22. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 23. 前の週に配られたプリントを読んでいく。 24. 後期の期末試験 		

科 目 名	経済・経営外国語	担当者名	米 山 昌 幸
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>この授業では、経済・経営学科を問わず経済学部ですべて学生にとって専門領域の基礎となる「経済学」を、英文テキストを通して学びます。</p> <p>すでに1年次に「経済学」を履修した学生は「経済学」の授業の補完として、もう一度英語で経済学を学ぶことであいまいな理解をより確かなものにできるでしょうし、また経営学科の学生で「経済学」を選択していない学生には「経済学」の授業の代替となるようにしたいと思います。</p>		
講 義 概 要	<p>テキストに沿って授業を進めます。報告者には、事前に準備したレジュメをもとに報告してもらいます。基本的には受講者の輪読で授業を始めますが、必要に応じて講義も取り入れて補足していくつもりです。</p> <p>なお、こちらから報告者を指名することはしませんので、一人ひとりの意欲や必要性に応じて自主的に報告を担当してください。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Wessels, Waiter J., <i>Economics: A Streamlined Course for Students and Business People (2nd edn)</i> . New York: Barron's Educational Series, Inc., 1993.	
	参 考 文 献	<p>英和辞典として、次のようなものが有用でしょう。</p> <p>『リーダーズ英和辞典』研究社。</p> <p>長谷川啓之（編）『最新英和経済ビジネス用語辞典』春秋社。</p>	
評 価 方 法	前期および後期の定期試験の成績と報告回数によって成績評価を行います。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	受講者は必ず予習・復習をしてください。毎回かなりの分量を読みますので、欠席は禁物です。またテキストの各章末には練習問題と解答がありますので、自習しておいてください。		

テキストに沿って、授業を進めていきます。テキストの構成は以下の通りです。

CONTENTS

ESSENTIALS OF ECONOMICS

- 1 . WHAT IS ECONOMICS ALL ABOUT?
- 2 . HOW TO USE GRAPHS IN ECONOMICS
- 3 . SUPPLY AND DEMAND: PART ONE
- 4 . SUPPLY AND DEMAND: PART TWO

MACROECONOMICS: AGGREGATE SUPPLY AND DEMAND

- 5 . MEASURING NATIONAL OUTPUT
- 6 . INFLATION AND UNEMPLOYMENT
- 7 . AGGREGATE DEMAND AND SUPPLY: THE KEY TO MACROECONOMICS
- 8 . AGGREGATE DEMAND IN THE PRIVATE SECTOR: THE KEYNSIAN MODEL
- 9 . AGGREGATE SUPPLY AND GETTING TO FULL EMPLOYMENT

MACROECONOMICS: FISCAL AND MONETARY POLICY

- 10 . FISCAL POLICY: GOVERNMENT SPENDING AND TAXATION
- 11 . THE SUPPLY OF MONEY
- 12 . MONEY AND AGGREGATE DEMAND: KEYNSIAN MODEL
- 13 . MONEY AND AGGREGATE DEMAND: MONETARIST MODEL
- 14 . INFLATION AND UNEMPLOYMENT
- 15 . RATIONAL EXPECTATIONS AND OTHER MODELS OF THE BUSINESS CYCLE

MICROECONOMICS: CONSUMER AND COST

- 16 . ELASTICITY
- 17 . THE THEORY OF DEMAND
- 18 . COST AND OUTPUT

MICROECONOMICS: COMPETITION AND MONOPOLY

- 19 . COMPETITIVE SUPPLY
- 20 . MARKETS, COMPETITION, AND GROWTH
- 21 . MONOPOLIES
- 22 . BETWEEN MONOPOLY AND COMPETITION
- 23 . EFFICIENCY AND REGULATION

MICROECONOMICS: WHAT PEOPLE EARN

- 24 . FACTOR DEMAND AND PRODUCTIVITY
- 25 . WAGE, LABOR MARKETS, AND UNIONS
- 26 . RENT, INTEREST, AND PROFITS

MICROECONOMICS: GOVERNMENT AND THE ECONOMY

- 27 . PUBLIC CHOICE AND EXTERNALITIES
- 28 . GOVERNMENT SPENDING AND TAXATION

INTERNATIONAL TRADE

- 29 . INTERNATIONAL TRADE
- 30 . EXCHANGE RATES AND THE INTERNATIONAL MONETARY SYSTEM

科 目 名	経済・経営外国語（ドイツ語）	担当者名	御園生 眞
-------	----------------	------	-------

講 義 の 目 標	ドイツ語で書かれたテキストを読み、経済学の基礎知識を習得する。		
講 義 概 要	テキストを分担して訳してもらいながら、説明を加えて講義を進める。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Otto Seitzer 著 <i>Ein Blick in die Wirtschaft</i> 三修社、1995 年。	
	参 考 文 献	第 1 回の授業の時に指示する。	
評 価 方 法	出席と試験（前期、後期の計 2 回）の成績で評価する。 出席を重視する。		
受 講 者 対 する 要 望 等	履修希望者は必ず第 1 回の授業に出席すること。		

科 目 名	経済・経営外国語（フランス語）	担当者名	千代浦 昌 道
-------	-----------------	------	---------

講義の目標	比較的やさしいフランス語の経済関連文献の講読を通じて、フランス・ヨーロッパ等を中心とする世界経済の現状を理解すること。		
講義概要	前・後期とも、フランスの新聞、雑誌に掲載されたやさしい経済・社会関連記事を講読する。難易度のレベルは、履修者のフランス語修得レベルに合わせて調整する予定。		
使用教材	テキスト	随時に配布する。	
	参考文献	松本 正 『実務に役立つ経済フランス語』（第三書房、1971） 松本 正 『時事経済フランス語』（第三書房、1973） 小林 茂 『新聞のフランス語』（白水社、1984）	
評価方法	前期、後期のレポート（仏文和訳）によって評価する。出欠は成績評価の参考資料とする。		
受講者に対する要望など	新聞、雑誌の政治・経済記事を読む習慣をつけること。		
年間授業計画	<p>第 1 回</p> <p>(1) 授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明</p> <p>(2) 最近のフランスの政治経済情勢の基礎知識</p> <p>第 2 回以降は、随時に配布するフランス語テキストを使用して授業を行う。</p>		

科 目 名	経済・経営外国語（外国人学生用）	担当者名	本 田 浩 邦
-------	------------------	------	---------

講義の目標	留学生向けの日本語による入門的な経済問題の学習		
講義概要	日本経済の構造的な特徴を欧米やアジアと比較検討する。		
使用教材	テキスト	（仮）金子勝『セイフティネットの政治経済学』ちくま新書	
	参考文献		
評価方法	平常点と後期の定期試験による。		
受講者に対する要望など	継続的に出席していただきたい。		
年間授業計画	具体的なスケジュールやレポートの分担などについては第 1 回目に受講者の問題意識を聞いた上で決めたい。		

科 目 名	外国書講読	担当者名	青 木 雅 明
-------	-------	------	---------

講義の目標	英文の経済学が読めるようになること。		
講義概要	下記のテキストの第 38 章（貿易政策） 第 39 章（代替的経済体制） または第 40 章（経済発展）のいずれかを読みます。授業時間の前半は音読してもらうほか、専門用語、基礎事実、基本概念、論理体系などについて説明し、後半は各自訳文を紙に書いてもらいます。		
使用教材	テキスト	Stiglitz, Joseph E. "Economics / Joseph Stiglitz. ~ 2nd ed." W. W. Norton & Company, Inc. (1997) コピー配布	
	参考文献	中型英和辞典（なるべく新しい版） 各自持参	
評価方法	毎時間作成する英文和訳の成績、および出席、授業中の私語、遅刻、早退の状況によって評価します。		
受講者に対する要望など	授業中の私語、遅刻、早退は禁止。欠席は最小限。毎時間必ず英和辞典を持参すること。テキストを授業の前後によく読むこと。		
年 間 授 業 計 画	1. 上記テキストの進度は毎回 2 ページを目途とします。 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	外国書講読	担当者名	阿 部 正 浩
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	この講義は、英語論文の内容を把握する力を養うことを目的としている。		
講 義 概 要	Journal of Economic Literature などに掲載された興味深いサーベイ論文を配布し、順番に受講者がその内容を報告する形で講義をすすめる。		
使 用 教 材	テキスト	使用教材、テキスト：初回の授業で指示する。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	前期のレポートと後期の定期テストを加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業には毎回出席のこと。		

科 目 名	外国書講読	担当者名	井 出 健二郎
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>最近、外資系の企業が日本に参入しています。また、テレビや新聞などではカタカナ（原語）で綴られている経済・経営に関するコトバがあふれています。それらのコトバはどのような意味をもつかをしっかりと理解しておくことが必要となるはずです。</p> <p>英書を読むことを通じて、そうしたコトバにふれること、意味を理解すること、そして必要ときには使えるようになることを目標としています。</p> <p>本講義は、経営外国語・経済外国語のステップとして、あるいは国際的ビジネスでの不可欠な学習として、リンクしていければと思います。</p>
講 義 概 要	<p>経済学（Economics）経営学（Management）会計学（Accounting）など皆さんがこれまでの大学の授業で学んだ領域の外国書をもとに講義していきます。ただし、初級・中級レベルのテキストを使用して、抵抗なく学べるような態勢をとります。外国書講読は講義科目ですが、皆さんにも努力していただく必要があります。</p> <p>よって、進め方は、テキストを読むにあたって、専門用語（テクニカルターム）を訳し、覚えてもらう、それをもとに本文を担当者を決めて、（事前に・予習して）訳をつけてもらう、必要とあればこちらから補足説明をする、といったかたちをとります。</p> <p>また、関連する新聞記事（日本経済新聞）などを随時とり入れていく予定です。</p>
使 用 教 材	<p>テキスト</p> <p>開講時にこちらからプリントを配布します。</p>
	<p>参 考 文 献</p> <p>経済・経営・会計など専門の分野の英書を読むには、英和の経済・経営・会計に関連する辞書を用意する必要があるでしょう。これらについては開講時にそのいくつかを紹介することにします。</p>
評 価 方 法	<p>出席を中心に評価をします。出席することは自然と訳するというチャンスがあり、最大の評価の場となるからです。また、成果としての前期試験・後期試験なども重要な評価のポイントとなります。</p>
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>積極的に参加してください。自分で選択したのですから、出席をし、担当となった箇所については責任をもってやりとげをお願いしておきます。授業とそこに集まる皆さんとは理想としてゼミのような雰囲気です。</p>

科 目 名	外国書講読	担当者名	伊 藤 為一郎
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	公共部門に関連する論文を読み、公共部門の機能、民間部門・家計との関連など理解を深める。		
講 義 概 要	教材の一部を受講者に訳してもらい、必要に応じて内容の解説をする。		
使 用 教 材	テキスト	プリント教材	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	期末試験の結果に平常点を加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習をしておくこと。		

科 目 名	外国書講読	担当者名	伊 藤 正 昭
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	産業や企業の行動に関する知識を外国語の文献をとおして吸収することを目的とする。		
講 義 概 要	本年度は、中小企業に関する知識の充実を目標として、テキストのほかにその時々話題として取り上げられる中小企業に関する雑誌・新聞記事あるいはインターネットに掲載される記事などを活用したい。基本的には輪読の方法であるが、事前に訳文の提出を求めることがある。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	以下のなかからテキストを決める予定。 Zoltan J. Acs and Bernard Yeung, <i>Small and Medium-Sized Enterprises in the Global Economy</i> , The University of Michigan Press, 1999. Zoltan J. Acs, Bo Carlsson and Roy Thurik, <i>Small Business in the Modern Economy</i> , Blackwell, 1996. D. H. Whittaker, <i>Small Firms in the Japanese Economy</i> , Cambridge University Press, 1997(Hardbak 1997 or Paperback 1999).	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	授業参加状況（出欠、発表）と前期および後期におこなう筆記試験で総合的に評価する。出席しただけでは、単位認定を申請することはできないことを前もって承知されたい。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	辞書を毎回持参して十分活用すること。辞書をもっていない場合は、欠席扱いすることもある。		

科 目 名	外国書講読	担当者名	遠 藤 信
-------	-------	------	-------

講義の目標	P. C. W. Davies の著書を中心に、他の著書を参考にしながら、必要な解説を加えて生命について考え、DNA、Human Genome (ヒトゲノム) etc. の今日的な問題にふれる。また、up-to-date な英語の学習を目指す。		
講義概要	(1)生命とは何か。生命の起源は何か。DNA とは何か。遺伝子組換えとその応用。地球外の知的生物の存在。などの問題について考察する。 (2)経済、政治、社会、科学等の広い範囲の問題について、英字新聞の記事を読む。		
使用教材	テキスト	P. C. W. Davies What is life ? Holism vs reductionism (copy)	
	参考文献		
評価方法	出席状況と平常点と何回かの授業中におこなうテストの成績を総合して、成績を評価する。出席点と平常点を重視するので、欠席の多い者は単位を取得できない。		
受講者に対する要望など	at random に指名して、学生に和訳と説明をしてもらうので、必ず予習してくること。欠席をしないこと。		
年間授業計画	What is life ? 適宜、英字新聞を読む。		

科 目 名	外国書講読	担当者名	岡 田 博
-------	-------	------	-------

講義の目的	Wilfred Owen 『Transportation and World Development』をテキストとして、訳を主として読んでいき、読解力をつけるとともに、交通と世界経済との関連について理解を一層深めてもらうことに目標をおく。		
講義概要	交通の世界システムへの展望をテーマにオーエンの上記テキストを読んでいく。		
使用教材	テキスト	・ Wilfred Owen; <i>Transportation and World Development</i> , The Johns Hopkins Univ. Press, Baltimore.	
	参考文献		
評価方法	授業中の発表と、定期試験の成績とで評価する。		
学生への要望	次週の授業で進む範囲を指示するので、毎週指示された範囲のところをあらかじめ訳してきて、それを提出させる。欠席の多い人には単位を与えない。		
年間授業計画	<p>前 期 『Transportation and World Development』の中の4章 Cities in the Global Network を読んでいく。</p> <p>後 期 前期に引き続き、Transportation and World Development を読解していく。</p>		

科 目 名	外国書講読	担当者名	岡 村 国 和
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義の目標は、主として英国の経済分野あるいは経営分野の専門書を講読し、その内容を理解した上で検討することにある。さしあたりテキストの輪読を行うが、翻訳することが主要目標ではなく内容の検討が主要目標であることを十分に認識して欲しい。区切れごとにディスカッションやディベートすることを予定している。専門用語が多い分野なので、受講希望者は、テキストのより一層の理解を深めるために講義中に紹介する関連文献による予習を厭わないで欲しい。</p>		
講 義 概 要	<p>本年度はイリスのグリーン・ペーパーを用いて、英国型福祉国家の基本理念及びそれに基づく福祉政策を研究する予定である。さしあたり社会保障をめぐる経済・社会環境の変化を検討するため、EU（ヨーロッパ共同体）およびEMU（ヨーロッパ通貨統合）への参加基準・参加条件などについての予備学習を行う。EMU 参加に伴い自国通貨は廃止されることになるので、参加各国にとって将来を決する問題といっても過言ではない。本論は社会保障とくに年金や医療について論及されることになるので、基本理論について別途学習する機会を設ける。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>New ambitions for country; A New Contract for Welfare, Green Paper, Cm3805, 1998.ただしプリントして配布する。</p>	
	参 考 文 献	<p>講義中に適宜紹介する。</p>	
評 価 方 法	<p>主として出席状況およびレポート・発言内容等によって評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>輪読の速度が速いので、予習の労を惜しまない者の参加を希望する。またディベート時に自己の意見を展開する意欲のある者の参加を期待する。</p>		

科 目 名	外国書講読	担当者名	小 川 剛
-------	-------	------	-------

講義の目標	社会科学にかんする基本的な思想を体系的に示してくれる文献を読むことによって、社会科学にかんする基礎知識または基本的な考え方を、正確に学びとる。		
講義概要	イギリスにおいて、外交官生活を経て、国際政治学の教授として、多くの著作をもつ E. H. カーの晩年の著作「それ故に彼の思想的基盤を示す」を丹念に読みほぐすことによって産業革命、フランス革命によって招来された「新しい社会」近代市民社会をめぐり基本的な理解を深める。		
使用教材	テキスト	E. H. Carr “The New Society” Macmillan, 1956 (テキストは授業の際、コピー配布)	
	参考文献	適宜、紹介する。 辞典としては、『リーダーズ英和辞典』程度のものを使用することが望ましい。	
評価方法	講読は、蓄積が大切であるから、出席点、定期試験による。		
受講者に対する要望など	物事を表面的にとらえるのではなく、その本質を追求する態度を養うよう心がけてほしい。欠席しないこと。これは、自分自身のためにも大事。		
年間授業計画	<p>本書は、以下の内容から成っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> . The Historical Approach . From Competition to Planned Economy . From Economic Whip to Welfare State . From Individualism to Mass Democracy . The World Transformed . The Road to Freedom <p>本年度は、 、 を中心に、福祉国家体制の成立、ならびに理念としてのデモクラシーと大衆デモクラシーの成立においてみられる問題を中心に講読していく。各校時の進度は授業の性格からいって示しがたい。</p>		

科 目 名	外国書講読	担当者名	奥 山 正 司
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>21 世紀を目前にして本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会では、高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や健康・医療だけでなく、経済的、法律的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした介護にかかわる狭義の福祉や保健・医療などについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。一方、世界一の長寿社会となっている日本では、健康で活動的な高齢者が老年期をいかに充実した生活を送っていくのかという問題も重要な課題となっている。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について考える力を身につけさせる。</p>		
講 義 概 要	<p>エイジング総合研究センターが作成した日本の高齢化に関する態様についての小冊子を輪読し、さらにはそれぞれの課題について、講義と討論を併用し、多少なりとも専門の用語や課題について深めていくことにしたい。</p> <p>講義の内容は、大別すると（１）日本における高齢化の人口学的側面、（２）社会保障、及び高齢者への保健・福祉サービスについて、である。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>Aging in Japan, 1998 Part Demographic Aspects of Population Ageing in Japan （日本における高齢化の人口学的側面） Part Social Security, Health Care, and Social Service for the Elderly in Japan （日本における社会保障、高齢者への保健福祉サービス） 受講者にはコピーして配布する</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>予習、復習、発表、出席などの総合点で評価する。 評価方法：予習、復習、発表、出席を重視する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業の進め方：基本的には受講生が輪読し、それぞれの課題について多少討論できるようなかたちで進めていきたい。また、専門用語の習得や課題についても深めていくことにしたい。したがって、受講者全員に予習を義務づける。 学生への要望：こつこつと予習をしてくること。</p>		

1. はじめに
2. 高齢化の人口学的な側面
3. 人口の高齢化と家族及び世帯の変化
4. 第2次大戦前の社会福祉サービス
5. 社会保障、保健・福祉サービス
6. 全体のまとめ

科 目 名	外国書講読	担当者名	小 林 進
-------	-------	------	-------

講義の目標	英語の力を一層向上させたいかまたは現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。なお4年生については、あらかじめ担当教官の承認を受けた学生のみ受講を許可する。		
講義概要	講読を中心とする		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献		
評価方法	平常の出欠と受講態度を重視する。さらに前期と後期の二回の試験を加味して評価する。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	外国書講読	担当者名	小 林 哲 也
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	経済関係のニュースを、自分で収集し分析するための、基礎的な英語読解力の涵養。		
講 義 概 要	<p>日本で報道されるニュースの中には、国内と海外とで非常に大きな視点の差異があるものが多い。例えば 1999 年に盛んであった国内銀行の提携や合併は、海外ではほとんど新味のあるものとしては、報道されなかった。企業の競争力や株主の利益に影響を及ぼさない、単なる延命策としか、評価されなかったためである。日本の新聞社の質を鑑みると、事態の正確な把握には、「視点」の異なるニュースソースを、自力で確保することが、さらに必要となる。</p> <p>本講義では、Business Week などの英字新聞や雑誌を中心に、時事的な話題の読解を通じて、現代人に必要な英語力の向上をめざす。</p>		
使 用 教 材	テキスト	Business Week 各号。その他の教材は、適宜教室で配布する。	
	参考文献	<p>マーク・ピーターセン『日本人の英語』岩波書店 西村肇『サバイバル英語の勧め』ちくま新書</p>	
評 価 方 法	出席などの平常点および前期 / 後期定期試験成績による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	10 万語レベルの英和辞典、例えば小学館『プログレッシブ英和中辞典』など、を必ず毎回持参すること。		

年
間
授
業
計
画

- 1 . ニュースにおける「英語」と「日本語」
- 2 . サバイバル英語とは
- 3 . News in the world bussiness
- 4 . News in the world bussiness
- 5 . News in the world bussiness
- 6 . News in the world bussiness
- 7 . News in the world bussiness
- 8 . News in the world bussiness
- 9 . News in the world bussiness
- 10 . Economic analysis on the U. S. economy
- 11 . Economic analysis on the U. S. economy
- 12 . Economic analysis on the U. S. economy
- 13 . Economic analysis on the U. S. economy
- 14 . Financial issues
- 15 . Financial issues
- 16 . Financial issues
- 17 . Financial issues
- 18 . Financial issues
- 19 . Science and Technology
- 20 . Science and Technology
- 21 . The corporations of the world
- 22 . The corporations of the world
- 23 . The corporations of the world
- 24 . The corporations of the world

科 目 名	外国書講読	担当者名	齋 藤 正 章
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくない。最近では海外で出版されるの とほぼ同時に翻訳されるので、読解のための語学力はさして必要ではないと感じる向きも居 るかもしれない。また、インターネットの急速な進展による翻訳支援ツールの普及はその感 をますます強めさせるであろう。しかし、それらはあくまでも「他人の翻訳」であって自分 のものではない。原著にある微妙なニュアンスは、数少ない例外を除いて翻訳では失われて いることが多い。本講義では、原著で書かれている内容を真に自分のものとするための読解 力の養成を目標としている。</p>		
講 義 概 要	<p>テキストには経営全般（マーケティングや会計を含む）に関する、英語圏の大学で使用さ れている標準的なものを採用する。経営（マネジメント）に興味のある者やこれから勉強し たい者にとってのよき基本書・入門書となろう。</p> <p>次に授業の進め方であるが、前半は、専門用語や基本概念の確認のためややスローペース で、後半は量をこなすためハイペースで進める予定である。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	開講時に指示する。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	前後期の試験に出席率を加味する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	辞書を引く手間を惜しまないこと。授業には辞書を持参すること。		

科 目 名	外国書講読	担当者名	仙 田 幸 子
-------	-------	------	---------

講義の目標	<p>語学力の基本は「読む」能力である。そこで、英語の文献を読みこなす力の養成を目的とし、1つの文献を速読と熟読という2つの方法で読む。速読ではある程度の量を一度に読み、論文の構成と重要な点を正確につかむことを心がける。熟読では逐語訳を行い内容を深く理解することを心がける。</p> <p>使用するテキストは労働市場における差別の理論に関する議論をあつめたものである。</p>		
講義概要	<p>あらかじめ分担を決め、担当者のレポートをもとに内容を検討する。報告の際にはレジメを用意し、それをもとに報告する。各期1回ずつは報告することになる。</p>		
使用教材	テキスト	Edward et al “ <i>Labor Market Segmentation</i> ” D. C. Heath & Company, 1975; ISBN 0-669-95547-7	
	参考文献		
評価方法	<p>担当部分についてのレジメと報告内容（70%）および授業態度（30%）を100点満点に換算し、合計で60点以上の受講者に単位を与える。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習を必ずしてくること。英和辞典を持ってくること。担当制なので履修の変更は2週目までにすること。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 		

科 目 名	外国書講読	担当者名	高 松 和 幸
-------	-------	------	---------

講義の目標	現代経営学に影響を与えた名著を読む。 英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説などを加えることで習得を目指す。		
講義概要	前期は Simon の <i>Models of Man</i> の中でてくる有名な概念「Bounded Rationality」を取り上げる。それは、「Rationality and Administrative Decision Making」や「A Behavioral Model of Rational Choice」などである。 後期は James G. A March & Herbert A. Simon の <i>Organizations</i> の中でてくる有名な概念「Cognitive limits on rationality」を取り上げる。		
使用教材	テキスト	・本書は入手困難なため、コピーを配布する。なお、必要に応じて他文献のコピーも配布する予定である。	
	参考文献		
評価方法	レポートの結果などにより、成績評価する。		
受講者に対する要望など		予習・復習をすること。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「Rationality and Administrative Decision Making」と「A Behavioral Model of Rational Choice」の概要説明 2. ~ 11. 毎回 1~2 頁程度の進捗予定 12. まとめ 13. 「Cognitive limits on rationality」の概要説明 14. The concept of Rationality 15. same as above 16. Performance programs in organizations 17. same as above 18. Perception and identifications 19. same as above 20. The division of work 21. same as above 22. Communication 23. same as above 24. まとめ 		

科 目 名	外国書講読	担当者名	長 吉 眞 一
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現在、日本で実際に行われている企業会計について、その背景・根拠・概要について理解することを目標とする。特に、商法に基づく会計と証券取引に基づく会計について、その異同・開示の内容およびそれらの背景となっている立法趣旨についての理解を目指す。講義は具体的な事例を織り混ぜながら、平明に行なう予定である。</p>		
講 義 概 要	<p>企業会計における記帳から帳簿の作成、各種報告書の作成、監査、開示の方法等や内容について幅広く学ぶ。本講でとり上げるテキストは、最新の企業会計についての詳細を学ぶというよりも、商法による会計と証券取引法による会計の基本的な考え方や現行の制度を扱うものである。履修者は生きた会計を学ぶことができる。専門用語が多数でてくるが、これらについては予め、訳語を配布し理解をうながす予定である。</p> <p>授業の進め方は、予め発表予定者を特定し輪読制によって訳していく。また、あくまでも英文を通しての企業会計の理解であるので、場合によっては文法にとらわれない、大胆な訳を行なうこともある。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<i>Corporate Disclosure in Japan</i>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>前・後期とも試験を実施する。その他、担当した訳の行数や指示した問題点についての発表等を考慮する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	1. 開示制度の関係者 / 企業
	2. 同 / 公認会計士
	3. 同 / 日本における会計および監査の基準
	4. 同 / 監査機関
	5. 同 / 証券取引所
	6. 同 / 日本証券業協会
	7. 同 / 証券会社と引受業者
	8. 同 / 証券分析家
	9. 報告基準と実務 / 総論
	10. 同 / 商法における報告要件
	11. 同 / 証券取引法における報告要件
	12. 会計原則と実務
	13. 商法における報告制度 / 総論
	14. 同 / 計算書類(1)
	15. 同 / 計算書類(2)
	16. 証券取引法における報告制度 / ディスクロージャーの種類(1)
	17. 同 / ディスクロージャーの種類(2)
	18. 同 / 有価証券届出書(1)
	19. 同 / 有価証券届出書(2)
	20. 同 / 有価証券報告書(1)
	21. 同 / 有価証券報告書(2)
	22. 同 / 半期報告書
	23. 同 / 連結財務諸表
	24. 同 / 最近の開示要件
一年間のまとめと今後の日本の企業会計の展望	

科 目 名	外国書講読	担当者名	原 亨
-------	-------	------	-----

講義の目標	本講義は、経済理論をベースにして、現実の経済を分析する能力を養成することに重点をおく。		
講義概要	経済学の概論程度の理論を解説しながら、アメリカ経済の現状を分析する。		
使用教材	テキスト	アメリカ経済の現状を記述したプリントを配布する。	
	参考文献	R. ドーンブッシュ/S. フィシャー著 坂本市郎他訳『マクロ経済学 上、下』、経済学辞典、経済英語辞典など。	
評価方法	(1)出席状況。(2)レポート用紙に下訳を書いて出席し、授業時間中に自分でそれを添削する。自宅でそれをレポート用紙に清書する。その 2 部のレポートを前期、後期末に提出する。(3)時間中の発表。(4)前期、後期末の試験。以上を総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	「日本経済新聞」を毎日必ず読むこと。		
年 間 授 業 計 画	1 . 2 . 3 . 4 . 5 . 6 . 7 . 8 . 9 . 10 . 11 . 12 . 13 . 14 . 15 . 16 . 17 . 18 . 19 . 20 . 21 . 22 . 23 . 24 .		

科 目 名	外国書講読	担当者名	平 木 俊 一
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	国際金融及び欧米主要国の金融事情についての文献、さらに一般化・普遍化をした国際金融機関論文、学術論文を主に金利の変動と外国為替の変動の視点より読みこなすことができるようにする。(諸兄弟が訳し理解出来るのを、私はサイドから手助けするだけではあるが…。)		
講 義 概 要	<p>国際金融及び主に米欧の金融についての各種の必要文献を易しいものから、順次読む。</p> <p>(1) 新聞関係：Wall Street Journal, Financial Times</p> <p>(2) 雑誌関係：Business Week, American Bankers' Association (Journal), Institutional Investor, Euro Money, FRB Bulletin</p> <p>(3) 国際機関関係：IMF, World Bank, BIS report, WTO (GATS), OECD</p> <p>(4) 学術論文：American Economic Review, Journal of Finance</p>		
使 用 教 材	テキスト	上記のコピーを事前に配布する。	
	参考文献	特に無いが次のものを見ることを勧める。NHK BS7(11:35pm ~ 11:55)経済ニュース。これは音声多重放送であるので、英語で耳で聞き、眼で視るといふ形の視聴覚で慣らしておくところの授業の復習と詳細な情報を知ることになる場合がある。さらにこれを実直に毎週続けると飛躍的に国際金融分野の英文が読めるようになる。	
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・前期と後期の学期末試験<ウエイト 70 点> ・平常点(指名されたときに訳せなかったり、質問に応えられない場合、1 点減点する) 欠席は自動的に減点 1 点<ウエイト 30 点> 		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習をした上で、必ず出席すること。		

年 間 授 業 計 画	1. 新聞關係
	2. "
	3. "
	4. "
	5. "
	6. 雜誌關係
	7. "
	8. "
	9. "
	10. "
	11. "
	12. 前期期末試験
	13. 國際金融機關關係
	14. "
	15. "
	16. "
	17. "
	18. 學術論文關係
	19. "
	20. "
	21. "
	22. "
	23. "
	24. 後期期末試験

科 目 名	外国書講読	担当者名	藤 山 英 樹
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>英文によるゲーム理論の基礎概念の修得を目的とする。通常の経済学を、市場価格を媒介とした経済主体どうしの均衡分析とすれば、ゲーム理論は経済主体の戦略を直接の媒介とした均衡分析といえます。価格メカニズムという制約を受けないため、ゲーム理論の応用分野は経済学だけにとどまりません。このゲーム理論を英文のテキストを通じて学んでゆきます。</p>		
講 義 概 要	<p>テキストの輪読をおこなう。逐語訳ではなく英文のレジюмеを作成し、担当者が内容の報告をおこなう。ゲーム理論自身に初めて触れる参加者も多いであろうことをふまえ、教員による内容解説も十分に時間をあてる。(英文のレジюмеに関してですが、経済学の英語は特に理論面に関しては比較的容易ですので、レジюме作成もそれほど困難ではないと思います。文法に関しては中学校レベルで十分です。また、英語の文章を英語で考える練習にもなると思います。もちろん、発表は日本語で。)</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>Prajit K. Dutta, "Strategies and Games: Theory and Practice", 1999 The MIT Press. (テキストの必要部分をコピーして、配布する。)</p>	
	参 考 文 献	<p>適宜指示します。</p>	
評 価 方 法	<p>前期、後期の試験および授業中の小テストおよび分担任回数により評価する。それぞれ比率は 20% (前期試験)、20% (後期試験)、60% (小テストおよび分担任回数) とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>ある概念がわからないとき、単に漠然と考えても、理解は深まりません。どうしてわからないかをわかることができる、もしくは、わかろうとする姿勢を望みます。</p>		

年
間
授
業
計
画

授業であつかうゲーム理論の基本的な概念として、戦略形ゲーム、支配戦略、ナッシュ均衡、繰り返しゲーム、展開形ゲーム、後ろ向き帰納法、サブゲーム完全均衡などが挙げられる。また、これらの諸概念の応用も簡単に見てゆく。さらに、これらの理論に用いられる数学を含めた予備知識もできるだけ解説してゆく。時間が許せば、情報の非対称性などの章へも読み進みたいと考えている。ただし、参加者の着実な理解を第一とするので、授業のペースは参加者の状況に合わせて、調整をおこなう。

科 目 名	外国書講読	担当者名	細 田 哲
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	英書文献に慣れ親しみ、その内容を正確に把握できる力を養成すること。		
講 義 概 要	<p>アメリカにおける経営者報酬問題を題材とする。</p> <p>経営者報酬をいかなる組織の下で決定し、いかなる業績指標と関連づけるべきかを巡って、どのような議論が展開されているか、下記の文献を通じて学習する。</p> <p>英書文献の読解にとって、邦書文献が必要と思われる場合は、これについて適宜学習する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	Brancato, C. K. "Institutional Investors and Corporate Governance" (Irwin, 1997)	
	参考文献	"Harvard Business Review on Measuring Corporate Performance" (Harvard Business School Press, 1998)	
評 価 方 法	年2回の試験結果、出席状況および授業中の発表内容による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習を必ずしてこること。		

科 目 名	外国書講読	担当者名	本 田 浩 邦
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	経済英語をつうじて英語に親しみ、基礎的な力をつける。		
講 義 概 要	週 1 回という限られた時間ではあるが、できるだけたくさんリーディングとリスニングを行いたい。 授業構成は、 Listening (30min)、 Reading (30min) Grammar (15min)、 Presentation(15min)である。 リスニングはアメリカのラジオ番組(National Public Radio)その他からピックアップした経済的な話題を用いる。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	リーディングテキストは適宜配布する。	
	参 考 文 献	『米国経済白書』99 年度版（エコノミスト臨時増刊号、4 月上旬発売予定）の付録の「用語解説」は現代的な経済用語を知る上で便利。	
評 価 方 法	平常点と後期の定期試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	継続的に出席していただきたい。辞書はポケット辞書のようなものではなく、中辞典を持参すること。ANCHOR などの学習辞書も語彙が少ないので好ましくない。		

科 目 名	外国書講読	担当者名	御園生 眞
-------	-------	------	-------

講義の目標	スタンダードな経済史の入門書を正しく理解できる読解力の習得を目標とする。		
講義概要	事前に配布するテキストのコピーを分担して訳す。本文に出てくるキーワード、経済用語などを調べて授業で報告する。		
使用教材	テキスト	Robert L.Heilbroner 著 “ The Making of Economic Society ”	
	参考文献	中型の英和辞典（小学館の『プログレッシブ英和中辞典』など）を必ず用意する。	
評価方法	出席と前期・後期各1回の試験の成績で評価する。欠席が多い場合は単位が修得できないので注意すること。		
受講者に対する要望など	履修希望者は、必ず第1回の授業に出席すること。		
年 間 授 業 計 画	1 . 2 . 3 . 4 . 5 . 6 . 7 . 8 . 9 . 10 . 11 . 12 . 13 . 14 . 15 . 16 . 17 . 18 . 19 . 20 . 21 . 22 . 23 . 24 .		

科 目 名	外国書講読	担当者名	森 健
-------	-------	------	-----

講 義 の 目 標	<p>日本を含むアジア太平洋地域の多くの国（地域）は、近年、深刻な経済不振に陥った。経済不振がさらに政治体制を揺るがすに至った国も多い。これらの国の多くは過去 20 年余、奇跡とも言われた高度成長を遂げてきた。何故、そのような国が経済不振、政治危機を招くにいったのか。また、この地域にあっても台湾、豪州などは比較的好調な経済運営を続けてきた。さらに、韓国等は急速な立ち直りを見せている。何故か。この講義の目的は、かかる問題について触れた学術論文、定期行物・新聞記事等を読み、この地域の経済についての理解を深めることにある。</p>		
講 義 概 要	<p>上記で触れた問題に関連する学術論文、良質の定期行物、新聞等の記事を適宜コピーし、授業の当日配布するので、先ず、辞書なしで概要を把握する訓練をする（自分の判断した要旨を作成、相互に検討する）。次に、辞書等を用い、徹底的に内容を検討する。不明なところは次回までの宿題として調査をする。予習は無いが、復習と関連事項の調査とその理解に精力を使うことになる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	学術論文、英文経済誌、新聞記事などのコピー。	
	参考文献		
評 価 方 法	通常の授業参加を主とし、定期試験結果を参考として総合的に評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>英語の授業ではなく経済（学）の授業である。異なった国において形式は違っても同じ経済原則が貫かれている例の多いことを学んで欲しい。また、日経などの経済記事に眼を通してください。</p>		

科 目 名	外国書講読	担当者名	森 澤 拓
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	インターネット、パーソナルコンピューターなどを扱った情報関連の英文雑誌をとりあげ、読解を行う。雑誌の英文なので、事実関係を明確に把握し、全体をすばやく読解する講読をめざす。技術用語、ネットワーク用語の基本的理解を深めるとともに、社会科学に大きな影響をあたえている情報科学の基本的枠組みを解説する。		
講 義 概 要	雑誌等から、比較的容易な英文を大量に読解していきたい。読解を行うことが主であるが、パーソナルコンピューターを利用できる教室で演習も行いたい。		
使 用 教 材	テキスト	[教材] 随時コピーを配布する。	
	参考文献	特になし	
評 価 方 法	出席および、前期・後期レポート提出。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	情報処理概論の講義をすでに受講済みの学生のみ希望してほしい。		

科 目 名	外国書講読	担当者名	山 崎 静 光
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	英語商業通信文の形式（レイアウト）と内容（構成）の最低限を身につけ、貿易に使われる特殊な用語と技術をある程度憶えること。その過程で英語一般を使う能力も向上すること。		
講 義 概 要	テキストに従って貿易取引の時間的順序を追って商業通信文の書き方の説明をした後、課題を与えて手紙を書かせ提出させ、次回の講義の際その講評を行う。手紙のみならず契約書裏面約款、信用状などの読解を課し、用語に親しませる。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	物産研修センター編「ザ ビジネスライター」(有斐閣刊)	
	参 考 文 献	山崎静光「輸入手続ハンドブック」(中央経済社刊)	
評 価 方 法	学年試験の成績による。 中間試験は行うが、単位を与えるか否かの境界線上の者についての参考とするにとどめ、学年試験を受けなかった者には単位を与えない。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業中に理解することを心がけ、質問、教師に対する批判を活発にし、双方向の発信のあるクラスにするのに寄与して下さい。前期の終わりりと学年末に、教務部のものとは別に授業評価を求め、feedback している。 高校程度の英語は心得ておくこと（これは見くびってはならない：この水準にある者は毎年寥寥たるものである）		

年 間 授 業 計 画	<p>1. orientation 簡単な手紙を書いてもらう。その場で講評をし、授業のやり方を知ってもらい、受講するか否かの参考にしてもらう。</p> <p>2. 前回書いた手紙の詳しい講評、採点したものを渡す。テキスト「ビジネスレターの構成要素」の説明</p> <p>3. 「ビジネスレターの構成要素」についてのテスト（手紙を書く）。前回テストの講評の続き</p> <p>4. 前回テストの講評。「ビジネスレターの本文」の説明</p> <p>5. 「ビジネスレターの本文」についてのテスト（以下 2 - 5 の循環）</p> <p>6. カバーリング リター</p> <p>7. テスト</p> <p>8. 新商売の開拓</p> <p>9. テスト</p> <p>10. 引き合いとその返事</p> <p>11. テスト。前期授業の評価</p> <p>12. 前回テストの講評。授業評価に対する回答</p> <p>13. 前期試験の講評。オファーと見積もり説明。テスト</p> <p>14. カウンターオファー</p> <p>15. テスト</p> <p>16. 受諾と拒絶</p> <p>17. テスト</p> <p>18. 受諾後の手続き</p> <p>19. テスト。裏面約款を読む</p> <p>20. 苦情とクレーム</p> <p>21. テスト。信用状を読む</p> <p>22. 苦情とクレームに対する返事</p> <p>23. 前回テストの講評。通年授業の評価</p>
----------------------------	---

科 目 名	外国書講読	担当者名	山 田 浩 一
-------	-------	------	---------

講義の目標	本講義においては、英語の文献を通じて会計学に関する基礎的理解を得ることを目的としている。したがって、語学力を高めることのみではなく、会計学の概念を英文の平易なテキストを通じて把握してもらいたい。		
講義概要	予めプリントを配布し、報告箇所を分担してもらった上で、担当者のレポートに沿って内容を検討していく。 テキストの概要については年間授業計画欄に目次を記載してあるので参考にされたい。 本年は、テキストの Chapter4 を読む予定である。		
使用教材	テキスト	“ Financial Accounting-third edition ” Harrison & Horngren(Prentice Hall International Inc)を利用するが、受講生諸君の要望により変更もあり得る。	
	参考文献	簿記、会計学に関する一般の参考書を併読することが理解を早めることとなる。	
評価方法	講義への出席と報告、意見発表等を重視する。定期試験等は行わない予定である		
受講者に対する要望など	受講生は必ず予習をして講義に臨むことが求められる。また関連授業として、簿記論、会計学原理、財務会計論等の履修が望まれる。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Chapter 1 : Summarizing Business Activity and using the Financial Statements 2 . Chapter 2 : Processing Accounting Information 3 . Chapter 3 : Accrual Accounting and the Financial Statements 4 . Chapter 4 : Internal Control and Managing Cash 5 . Chapter 5 : Accounting for Short-Term Investments and Receivables 6 . Chapter 6 : Accounting for Merchandise Inventory, Cost of Goods Sold., and the Gross Margin 7 . Chapter 7 : Accounting for Plant Assets, Intangible Assets, and Related Expenses 8 . Chapter 8 : Accounting for Current and Long-Term Liabilities 9 . Chapter 9 : Measuring and Reporting Stockholders' Equity 10 . Chapter 10 : Accounting for Long-Term Investments and International Operations 11 . Chapter 11 : Using the Income Statement and the Financial Statement Notes : Additional Corporate Reporting Issues 12 . Chapter 12 : Preparing and Using the Statement of Cash Flows 13 . Chapter 13 : Financial Statement Analysis for Decision Making 14 . Appendix A : The Annual Report of Land's End, Inc. 15 . Appendix B : Time Value of Money : Future Value and Present Value 16 . Appendix C : Summary of Generally Accepted Accounting Principles (GAAP) 17 . Appendix D : Accounting for Partnerships 18 . Appendix E : Modern Accounting Information Systems 19 . Appendix F : Special Accounting Journals 20 . Appendix G : Check Figures 		

科 目 名	外国書講読	担当者名	湯 田 雅 夫
-------	-------	------	---------

講義の目標	環境会計の基本書について、その内容の把握と理解につとめる。		
講義概要	テキストについて、各自予習していることを前提に、輪読形式を進める。		
使用教材	テキスト	未定（プリントにて配布）	
	参考文献	その都度指示する。	
評価方法	後期定期試験期間中に実施する試験ならびに授業への貢献度、担当箇所の訳（ワープロにて作成し、提出のこと）		
受講者に対する要望など	私語厳禁。受講者は十分予習して出席すること。		
年 間 授 業 計 画	1. ガイダンス 2. テキストの輪読 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. " 13. " 14. " 15. " 16. " 17. " 18. " 19. " 20. " 21. " 22. " 23. " 24. "		

科 目 名	外国書講読	担当者名	米 山 昌 幸
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>国際経済にはさまざまな問題が存在し、また次々と新しい問題も発生しています。なかでも発展途上国の経済発展問題は深刻です。近年では地球環境問題も顕在化してきており、途上国の抱える問題は決して途上国だけのものではなく、先進国も含めた地球全体として取り組むべき課題であることが改めて認識されるようになりました。</p> <p>この授業では、途上国の抱える諸問題の実態を認識し、問題解決に向けて何ができるかを考えてみたいと思います。つい私達は自分達の身近な問題に目を奪われがちですが、学生のみなさんには、各国経済は直接的間接的に関連し相互に影響しあっているということを学んで、国際経済社会の矛盾や不合理に目を向けてもらいたいと思います。</p>		
講 義 概 要	<p>テキストに沿って授業を進めます。報告者には、事前に準備したレジュメをもとに報告してもらいます。基本的には受講者の輪読で授業を進めますが、必要に応じて講義も取り入れて補足していくつもりです。</p> <p>なお、こちらから報告者を指名することはしませんが、一人ひとりの意欲や必要性に応じて自主的に報告を担当してください。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>Michael P. Todaro, <i>Economic Development (7th edn)</i>. Addison-Wesley Longman, 2000. Elliott, Jennifer A., <i>An Introduction to Sustainable Development (2nd edn)</i>. Routledge, 1999.</p>	
	参 考 文 献	<p>英和辞典として、次のようなものが有用でしょう。</p> <p>『リーダーズ英和辞典』研究社。</p> <p>長谷川啓之(編)『最新英和経済ビジネス用語辞典』春秋社。</p>	
評 価 方 法	<p>前期および後期の定期試験の成績と報告回数によって成績評価を行います。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>テキストや講義内容で履修を決めてください。また、授業に出席するだけでは英語の学習にはなりません。受講者は必ず予習をして授業に臨んでください。毎回かなりの分量を読みますので、欠席は禁物です。</p>		

科 目 名	外国書講読（ドイツ語）	担当者名	大 島 通 義
-------	-------------	------	---------

講義の目標	ドイツの経済についての理解を深めることを目的とするが、そのためには、ドイツ語を正確に読めることが不可欠であり、また、経済についてのドイツ語特有の表現にもなれることが求められる。そのような趣旨の講読をおこないたい。		
講義概要	ドイツの政治経済にかんする基本的な文献について講読をおこなう。テキストとしては、この趣旨にかなう種々の書物や論文、文書などからの抜粋を配布し、使用する。どのようなテキストを選ぶかについては、講義の最初の回に説明するが、たとえば、ドイツ語で書かれた経済学の古典の一部、主な政党の綱領や政見における経済政策にかんする記述、現代ドイツの経済制度や実態にかんする新聞記事、等々を取り上げる予定である。		
使用教材	テキスト	開講後、教室にて順次配布する。	
	参考文献	必要に応じて、随時配布する。	
評価方法	配布したテキストについて毎回和訳を作成して提出すること。教室では、各自これにもとづいて報告をおこなうこととする。提出の件数とその出来具合で成績を評価する。		
受講者に対する要望など	ドイツ語の文法の基本を理解していること。		
年間授業計画	開講時に配布する。		

科 目 名	外国書講読（フランス語）	担当者名	千代浦 昌 道
-------	--------------	------	---------

講義の目標	比較的やさしいフランス語の経済関連文献の講読を通じて、フランス・ヨーロッパ等を中心とする世界経済の現状を理解すること。		
講義概要	前・後期とも、フランスの新聞、雑誌に掲載されたやさしい経済・社会関連記事を講読する。難易度のレベルは、履修者のフランス語修得レベルに合わせて調整する予定。		
使用教材	テキスト	随時に配布する。	
	参考文献	松本 正 『実務に役立つ経済フランス語』（第三書房、1971） 松本 正 『時事経済フランス語』（第三書房、1973） 小林 茂 『新聞のフランス語』（白水社、1984）	
評価方法	前期、後期のレポート（仏文和訳）によって評価する。出欠は成績評価の参考資料とする。		
受講者に対する要望など	新聞、雑誌の政治・経済記事を読む習慣をつけること。		
年間授業計画	<p>第 1 回</p> <p>(1) 授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明</p> <p>(2) 最近のフランスの政治経済情勢の基礎知識</p> <p>第 2 回以降は、随時に配布するフランス語テキストを使用して授業を行う。</p>		

科 目 名	外国書講読（外国人学生用）	担当者名	本 田 浩 邦
-------	---------------	------	---------

講義の目標	留学生向けの日本語による入門的な経済問題の学習		
講義概要	日本経済の構造的な特徴を欧米やアジアと比較検討する。		
使用教材	テキスト	（仮）金子勝『セイフティネットの政治経済学』ちくま新書	
	参考文献		
評価方法	平常点と後期の定期試験による。		
受講者に対する要望など	継続的に出席していただきたい。		
年間授業計画	具体的なスケジュールやレポートの分担などについては第 1 回目に受講者の問題意識を聞いた上で決めたい。		

科 目 名	マクロ経済学	担当者名	高 橋 房 二
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講は現代経済理論にしたがって主として標準的なマクロ経済学の基礎を体系的に講義する。経済学部の特設課程の学生としての巨視的経済理論に関する必要不可欠な基礎学力の育成をはかる。それと同時に現実の経済とその動きに関する理解と認識の基礎を与えることをめざすものである。</p>		
講 義 概 要	<p>マクロ経済学に関して取扱うべき内容は多く、また多岐にわたるが下記のように限定される。まず、国民経済において最も重要な経済量の一つである国民所得と以後の議論の展開において必須の重要な若干の概念について述べる。ついで、均衡国民所得の決定の基礎的な関係について講義される。それにつづいて、乗数理論に関して閉鎖・開放両体系について議論する。つぎの段階として、ケインジアン体系についてその重要な経済概念と理論の講義が展開される。さらに、経済動学として経済成長、景気変動の問題についてふれる。ついで、インフレと失業に関して議論される。また、マネタリズムや合理的期待仮説がとりあげられ、それらの特質や問題点に関して講義が行われる。最後に国際貿易に関連した基礎的な関係にふれる予定である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドーンブッシュ、フィッシャー「マクロ経済学」マグロウヒル ・ バロー「マクロ経済学」多賀出版 ・ 中谷巖「入門マクロ経済学」日本評論社 ・ ホール・テラー「マクロ経済学」多賀出版 ・ サックス・ラレーン「マクロエコノミクス」日本評論社 	
評 価 方 法	定期試験、ミニテスト、出席状況		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	出席が重視される。授業内容の理解につとめ、反復して復習すること。		

1. マクロ経済学の授業内容と展開の概要の説明、国民所得に関する若干の基礎概念、GDP、NDP、分配国民所得、個人可処分所得等、所得分析
2. 最終消費と貯蓄に関する基礎的關係 事前的概念と事後的概念、消費関数、消費曲線、貯蓄曲線、APC、MPC、APS、MPS
3. 単純な国民所得の決定關係 () 貯蓄と投資による国民所得の決定 (閉鎖体系) 広義と狭義における完全雇用、均衡国民所得、均衡理論
4. 単純な国民所得の決定關係 () 最終消費と投資による国民所得の決定 (閉鎖体系) 均衡の存在と安定性
5. インフレギャップとデフレギャップ、およびその対策 乗数理論 () 閉鎖体系 単純な乗数理論、投資乗数、比較静学
6. 乗数理論 () 閉鎖体系 政府活動と乗数理論、その一般的關係、赤字予算と均衡予算の場合、税率変化と乗数効果
7. 乗数理論 () 開放体系 2国貿易モデル、輸入関数、限界輸入性向、2国の国民所得の変化、2国の貿易収支の変化、外国貿易乗数
8. ケインズ経済学 () ケインズの「一般理論」の意義とその特質、新古典派理論との相違
9. ケインズ経済学 () 非自発的失業、非自発的失業の再決定仮説による説明、不均衡理論、企業の投資、予想、資本の限界効率、投資のインセンティブ
10. 貨幣需要理論 貨幣、貨幣需要、流動性、ケインズの流動性選好説、流動性のトラップ、債券価格と利子率、ポーモル・トービンモデル
11. 消費関数の理論 () 経済変動における APC の推移、ケインズ型消費関数、相対所得仮説
12. 消費関数の理論 () 恒常所得仮説、ライフサイクル仮説、若干の補論
13. 投資の理論 誘発投資、加速度原理による投資関数とそのパラリティ、投資の q 理論、若干の補論
14. 経済成長の理論 () 動学、長期理論、経済成長率の諸概念、均衡成長、恒常成長、ハロッド・ドーマーモデルとその不安定性
15. 経済成長の理論 () 成長過程における定型化された事実、新古典派成長モデル、技術進歩と経済成長、最適成長
16. 景気変動 景気循環、各種のサイクル、単純な乗数加速度モデル
17. IS・LM 分析 () 生産物市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線、古典派と初期ケインズ学派の LM 曲線、生産物市場と貨幣市場の均衡と均衡国民所得および均衡利子率の決定
18. IS・LM 分析 () IS 曲線のシフト、LM 曲線のシフト、両曲線のシフトと均衡国民所得と均衡利子率の変化、IS・LM 分析と金融政策
19. 物価水準 総需要関数、総供給関数、物価水準、マークアップルール
20. 失業とインフレ () フィリップス曲線、インフレ期待、適応的期待、インフレ率
21. 失業とインフレ () 短期インフレ率、自然失業率仮説、短期フィリップス曲線のシフト、長期フィリップス曲線
22. 合理的期待仮説 合理的期待、単純な合理的期待モデル、合理的期待仮説とその評価
23. マネタリズムとケインズ学派 マネタリズムとマネタリストの主張、マネタリストのモデルとケインズモデルの比較、両者の議論の相違
24. 国際経済学 国際収支、為替レートの決定、国民所得と為替レートの決定

科 目 名	マクロ経済学	担当者名	西 村 允 克
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>マクロ経済学の目標は、国民経済全体の視点から、経済主体、経済活動をいくつかに集約し、それらの成果の相互関係を明らかにすることによって、国民経済を理論的に操作可能なモデル（型式）に整理し、このモデルによって、経済政策や国際経済の変化が、国内経済の成果にいかにか影響するかを理解可能とすることにある。国民経済（特に日本経済）は国際経済の働きに強く影響されるから、国際経済に関する側面に留意して講義は進められる。</p>		
講 義 概 要	<p>講義はテキストを用いるが、テキストの順序に従って進行するのではなく、私の視点からテキストを再整理し、また、不十分と思われる部分を補いながら進められるから、講義中に指示する参照ページ、補充点に注意して受講しなければならない。前期は、経済理論を理解するために必要な基礎、国民所得の諸概念、国民所得決定理論を、後期は前期の学習成果を拡張し、現実の経済問題を理解するため基礎をより強固なものとする。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	「入門マクロ経済学」中谷巖 日本評論社	
	参 考 文 献	吉川洋「マクロ経済学」 岩波書店	
評 価 方 法	前期と後期の試験の結果		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	毎日新聞を読み、現在の日本経済の問題は何であるかを知っておくこと。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. マクロ経済を学ぶための基礎 () 経済主体と経済活動の基本的分類</p> <p>2. マクロ経済を学ぶための基礎 () 数式と図の読み方</p> <p>3. 国民経済計算 () 不可価値額、GDP, GDE, グロスとネット</p> <p>4. 国民経済計算 () 物価指数、名目値と実質値、成長率</p> <p>5. 国民経済計算 () 国際収支(経常収支、資本収支、貿易収支、貿易外収支)</p> <p>6. 消費関数と貯蓄関数 () 消費と貯蓄の定義、限界消費性向、限界貯蓄性向</p> <p>7. 消費関数と貯蓄関数 () 関数の変化の意味</p> <p>8. 投資について、投資関数、技術革新(イノベーション)</p> <p>9. 貨幣について () 貨幣の機能、貨幣需要</p> <p>10. 貨幣について () マネーサプライ、短期ではなぜマネーサプライを一定とするか</p> <p>11. 国民所得決定理論 () 簡単なモデル、乗数理論</p> <p>12. 国民所得決定理論 () 財政政策の変化とGDPの変化、経常収支の変化とGDPの変化</p> <p>13. IS-LM分析 () IS曲線とLM曲線の導入</p> <p>14. IS-LM分析 () 財市場と貨幣市場の同時均衡</p> <p>15. IS-LM分析 () IS曲線、LM曲線の変化とGDP、財政・金融政策経常収支の変化がGDPに及ぼす影響</p> <p>16. 失業問題 自然失業率、フィリップス曲線</p> <p>17. インフレとデフレ () 期待を中心として</p> <p>18. インフレとデフレ () 海外インフレの国内経済への影響</p> <p>19. 国際経済と国民経済 () 為替レート、為替相場制</p> <p>20. 国際経済と国民経済 () 海外部門を入れた財市場の均衡、Jカーブ</p> <p>21. 成長と変動の理論 () 経済成長の意味、経済成長理論</p> <p>22. 成長と変動の理論 () 景気変動、バブルと恐慌、経常収支の変化の成長と変動の影響</p> <p>23. 戦後日本のマクロ経済問題 () これまで展開したマクロ経済学のモデルを用いて戦後日本の経済問題を解説</p> <p>24. 戦後日本のマクロ経済問題 ()</p>
----------------------------	---

科 目 名	ミクロ経済学	担当者名	小 林 進
-------	--------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のレベルは必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については（原則として本学図書館にあるものを）必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。</p>		
講 義 概 要	<p>経済学（必修）をすでに学習した受講生を対象にしてミクロ経済学を講義し、講義の最後ではミクロ経済学とマクロ経済学の関係についても、方法的個人主義や合成の誤謬の立場から触れることにする。なお最初の講義でアダム・スミスからケインズまでの簡単な経済学の歴史について述べ、市場経済の歴史における役割を簡潔に説明する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参考文献	講義中に指示する。	
評 価 方 法	前期と後期の二回の試験によって評価する		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<p>消費者は効用関数を最大にするよう行動する。</p> <p>効用関数 $U = U(X, Y)$ の定義とその性質 (辞書の順序の場合には効用関数が存在しないことに触れる)</p> <p>無差別曲線と予算線の接点 $MRS = P_X / P_Y$</p> <p>予算線 所得はすべて消費する、もし貯蓄を経済的合理性から説明するならば二期間モデルが必要である。</p> <p>所得効果と代替効果 (ミクロ経済学ではこの概念の理解が重要である)</p> <p>労働の供給曲線の導出、代替効果が支配的などきの賃金率と供給量の関係</p> <p>不労所得がある場合の労働供給曲線</p> <p>失業保険と労働供給曲線</p> <p>二期間モデルと貯蓄、現在割引価値の概念、利子率と貯蓄の関係</p> <p>効率賃金理論</p> <p>需要の価格弾力性 e と支出額 Z の関係 $\frac{dz}{dp} = x(1 - e) \quad (x \text{ は数量を示す})$</p> <p>この関係の J カープ効果への応用</p> <p>競争市場の企業の最適化行動 $P = MC$</p> <p>完全競争の成立条件</p> <p>ワルラス的安定条件</p> <p>総余剰分析 (消費者余剰 + 生産者余剰) と完全競争の最適性</p> <p>応用として自由貿易の問題、関税と補助金の相違</p> <p>パレート最適</p> <p>ボックスダイアグラムと契約曲線</p> <p>生産可能性曲線</p> <p>供給独占者の利潤最大条件 $MR = MC$ (限界収入 = 限界費用) $MR = P \left(1 - \frac{1}{e} \right)$</p> <p>ラーナーの独占度 $1/e$</p> <p>二つの分離した市場に直面した独占者 $MR_1 = MR_2$ より $e_1 > e_2$ ならば $P_1 < P_2$ (需要の価格弾力性の高い市場のほうに低い価格をつける)</p> <p>その応用として映画の学生割引の経済的意味</p> <p>カルテル (価格協定)</p> <p>独占と余剰分析</p> <p>独占と規制 上限価格の設定</p> <p>寡占と屈折需要曲線</p> <p>ゲームの理論、囚人のジレンマ、ナッシュ均衡、両性の戦い、チキンゲーム 無限繰り返しゲームによる囚人のジレンマの解消、トリガー戦略</p> <p>市場の失敗として、費用逦減産業、外部経済、公共財、不確実性</p> <p>ミクロとマクロの境界</p>
----------------------------	--

科 目 名	ミクロ経済学	担当者名	西 村 允 克
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>市場経済の仕組みを理解することが、経済理論学習の目的であるミクロ経済学は市場を構成するこの経済主体の観点からこの目的を達成する。それゆえ講義ではこの目的を実現するために、いかに学習するか、そこにおける重点はどこか、いかに受講者は理解してゆくべきかなどが問題とされ、受講者の学習効果を高めることが目的とされる。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、消費者と生産者という 2 つの経済主体を取り上げ、これらの経済主体が与えられた条件の下で、それぞれの目的実現のためにいかなる行動をとるかが、極めて簡単なモデルの下で分析される。</p> <p>後期は、前期で学習した成果を基礎として市場問題、寡占問題など現実のより複雑な市場へ前期の成果によっていかに考えるべきかが課題とされる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	R. D. プレア & L. W. ケニー「現代ミクロエコノミクス」 多賀出版	
	参考文献	<p>吉岡恒明・小口登良「テストブック現代経済学」 多賀出版</p> <p>倉沢資成「入門価格理論」 日本評論社</p>	
評 価 方 法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。講義中において、解答作成のために注意する点を述べるから、採点はこれらの注意点をどれだけ守っているかについて多大の配慮をする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>前週の講義は今週の講義の前提である。欠席すればまず確実に講義内容の理解は困難となる</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. ミクロ経済学を学習するための基礎 () a. 価格とは何か、b. 市場とは何か、c. 供給者と需要者</p> <p>2. ミクロ経済学を学習するための基礎 () 数式と図の読み方</p> <p>3. 需要と供給による価格決定理論 () 市場経済の基本モデル</p> <p>4. 需要と供給による価格決定理論 () 需要の価格弾力性</p> <p>5. 消費者行動 () a. 人はなぜ財・用役を購入するか、b. 効用関数の基礎</p> <p>6. 消費者行動 () 無差別曲線をめぐる問題</p> <p>7. 消費者行動 () 所得変化と価格変化</p> <p>8. 消費者行動 () 以上のまとめ (効用関数の考え方をいかに拡大するか)</p> <p>9. 生産者行動 () a. 生産者はなぜ財・用役を生産するか、b. 生産関数の基礎</p> <p>10. 生産者行動 () 費用関数を中心として (1)</p> <p>11. 生産者行動 () 費用関数を中心として (2)</p> <p>12. 生産者行動 () 規模に関する収穫</p> <p>13. 前期の講義内容のまとめと後期の講義内容</p> <p>14. 市場構造 () 競争市場、寡占市場</p> <p>15. 市場構造 () カルテル、共謀</p> <p>16. 寡占理論 () 限界収入</p> <p>17. 寡占理論 () 生産物差別、価格差別</p> <p>18. 寡占理論 () クールノーの独占モデルと複占モデル</p> <p>19. 要素市場 () 投入物に対する需要と供給</p> <p>20. 要素市場 () 労働時間</p> <p>21. 一般均衡理論 () 部分均衡と一般均衡、効率性の条件</p> <p>22. 一般均衡理論 ()</p> <p>23. パレート最適をめぐる問題</p> <p>24. 後期講義のまとめ</p>
----------------------------	--

科 目 名	経 済 学 史	担当者名	鈴 木 勇
-------	---------	------	-------

講 義 の 目 的 お よ び 概 要	<p>この講義では、「価値論の史的考察」を中心テーマに、労働価値論と効用価値論の二大思潮を、古代および中世の経済理論にまで溯って考察する。講義の目標は、マルクス労働価値論の批判とその再検討にある。したがって講義では、一先ず、19世紀後半の資本主義の拡大発展期までの時期を研究の対象範囲として限定し、この期間に成立した主要な経済理論を取り上げて考察する予定である。過去の知的努力がどのように受け継がれ、そのときどきの経済的現象をどう解釈し、どのようにそれと係わり合い、影響してきたかを知ることは現在を知るうえで重要な意味をもつ。特に、社会主義の崩壊という歴史的な転換期に立つ現代世界を洞察し、未来社会を展望するためには、原点に立ち返り歴史の大きな流れの中で現代を捉える必要がある。その意味では、この講義で取り扱う対象は古くても受講者の知的関心は現代の問題にも向けられねばならない。講義では、このような観点から経済学史を考えていきたいと思っている。</p>		
使 用 教 材	テキスト	鈴木勇『資本主義の発展と経済理論』新評論、1977年 鈴木勇『経済学前史と価値論的要素』学文社、1991年	
	参考文献	その都度指示する。	
評 価 方 法	評価は定期試験の成績に出席状況を加味して行う。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 講義の目標と概要について 2. アリストテレスの経済学 3. 聖トマス・アクィナスの経済学とスコラ学者の価値論 4. 近世への転換：資本主義の興隆と宗教改革 5. ヘイルズの王室重商主義論 6. マンの貿易差額論と国富増進論 7. ペティの財政論と価値論 8. ロックの所有論と利子論 9. 16 - 17 世紀の効用説.....自然法哲学者と経験主義者 10. カンティロンの経済学と価値論 11. ステュアートの重商主義論 12. ケネーの重農主義論 13. イギリス産業革命と経済社会の変化 14. スミスの道徳哲学体系 15. スミスの経済学と価値論 16. 産業革命期の経済学(1) 17. 同 上 (2) 18. ヘーゲルとマルクスの市民社会観(1) 19. 同 上 (2) 20. マルクスの労働価値論と資本主義崩壊の論理(1) 21. 同 上 (2) 22. 同 上 (3) 23. メンガーの限界効用説 24. まとめ
----------------------------	--

科 目 名	経済変動論	担当者名	松 本 正 信
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済成長と景気循環のメカニズムの理論的枠組を、現代ケインズ派・古典派ならびに現代マネタリスト・合理的期待形成学派・新古典派などの諸説について年間に渡って講義するなかで、全体として理解して貰うのが目標である。今日の世界経済や日本の国内経済をみると、景気循環のメカニズムの本質がどのように関連しているかを示唆することも本講の大事な役割だと考えているが、これは第2の目標としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>詳しくは年間講義予定（後述）を御覧あれ。</p> <p>はじめに景気変動の歴史的素描とその時代々々の諸説を対称させてみて行き、景気変動の現代的意義を考えることから出発する。本論では「講義の目標」で示したような諸説を順次紹介しながら現代景気循環論を構成して行く積りである。</p> <p>また、諸説の随所にカオス動学的視点の解釈を試みたいと考えている。</p>		
使 用 教 材	テキスト	私の「講義ノート」による。	
	参考文献	講義の都度、指示する。	
評 価 方 法	後定期試験によって評価する		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>最近の景気変動にも言及するし、また諸説の理論を聴講する上にも大事なことから、このところの現実の経済の動きにも日頃関心をもつことを要望します。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>以下の講義内容を年間を通じて行なう。</p> <p>「経済成長と景気循環」に関する講義。ケインズならびにポスト・ケインズ学派以降今日までの有力諸説を中心としながら、現代経済の現状に即した理論分析を講義する。</p>
	<p>序論 経済変動論の現代的課題</p>
	<p>1 はじめに 現代の経済成長と景気循環</p>
	<p>2 経済変動の歴史的素描 産業革命前夜とアダム・スミス、産業革命と資本主義経済の勃興、資本主義経済の発展と問題</p>
	<p>3 経済変動の諸要因：その学説的素描 資本蓄積論、恐慌論にみるマルクス、革命論、動的経済発展論にみるシュンペーター、長期停滞論</p>
	<p>4 ケインズ経済思想とニュー・デール、The Great Depression, New-Deal policy; New-Economics、修正資本主義と混合経済体制、市場の不完全性、公共経済の拡大、社会保障、金本位制から管理貨幣制度へ、WTO体制と自由貿易、民主制政治と現代経済、ハーバー・ロードの前提崩壊</p>
	<p>5 経済変動要因の理論的類別</p>
	<p>6 有効需要拡大の「拡大」解釈 グローバル化</p>
	<p>均衡成長とその不安定性論</p>
	<p>1 経済成長の不可避的要素と必要性 古典的マルサスにみる循環的成長論と長期定常経済、アダム・スミスの市民社会の定常状態、シュンペーター的動態経済発展論、現代における経済成長の不可避的要素と必要性、ゼロ経済成長とその意義</p>
	<p>2 ハロッド・ドマーの均衡成長理論</p>
	<p>3 独立投資と誘発投資</p>
	<p>4 外生要因と内生要因</p>
	<p>景気循環のメカニズム</p>
	<p>1 定常状態の経済</p>
	<p>2 新投資の循環（更新投資循環）</p>
<p>3 在庫投資の循環</p>	
<p>4 ヒックスの景気循環モデル</p>	
<p>5 カレッキーの景気循環論</p>	
<p>6 カルドアの景気循環論</p>	
<p>7 景気変動への安定化要因</p>	
<p>8 景気循環論の類型と循環の局面</p>	
<p>9 景気循環と経済諸変量</p>	
<p>10 景気の転換点と景気動向指数</p>	
<p>経済成長と景気循環</p>	
<p>1 成長経済における「定型化された事実」</p>	
<p>2 新古典派成長理論の登場</p>	
<p>3 新古典派の経済成長理論</p>	
<p>4 技術進歩と資本蓄積（技術移転と資本移動）</p>	
<p>現代景気循環論</p>	
<p>1 経済ケインズ学派とマネタリスト・合理的期待形成学派</p>	
<p>2 経済成長軌道は安定か不安定か</p>	
<p>3 現代諸説の経済社会に対する考え方と経済制度の問題</p>	
<p>4 これからの景気循環論への展望</p>	

科 目 名	経済統計論	担当者名	松 本 正 信
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。本講では「経済統計」をば、むしろその体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において、つぎの三部構成でなされよう。すなわち経済統計学の理論的枠組を理解していただくことが、講義の狙いである。</p>		
講 義 概 要	<p>第 部 指数の問題、その成り立ちと理論的根拠 第 部 国民所得統計と産業連関表 第 部 時系列分析と回帰分析</p> <p>以上、詳しくは後の年間講義予定を見られよ。ただし、講義の順序はこの通りとは限らない。また、例年時間的余裕があるので、教科書の付録にしたがって、付論「オペレーションズ・リサーチとゲームの理論」を現代の経済・経営の実際応用と経済戦略という有意義な視点で講話します。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991年（21刷） 	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の都度指示 	
評 価 方 法	<p>前期・後記の2回ある定期試験の結果に、出席状況・受講態度を加味して評価する。2回の試験のうち、学年末の後記定期試験にややウエイトを置いた配点としたい。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>まずは講義を聞き給え。きっと面白いぞ。</p>		

以下の、序論を含めた 19 の項目を年間を通じて 1～3 回にわたる講義で進める予定である。

序 論

経済と経済統計と経済学

第 部 指数

- 1 指数について (指数理論)
- 2 平均値について
- 3 物価指数と数量指数
- 4 消費者物価指数 (付論: 消費者選好理論とヴォルトケウイッチの関係式)
- 5 その他の物価指数の例と各種デフレーター
- 6 生産数量と生産指数 いくつかの代表例

第 部 国民所得統計と産業連関表

- 1 国民所得統計と国民所得分析
- 2 社会会計の考え方とマトリックス
(2の付論: コンピュータ通信システムの発達と国民総背番号制)
- 3 新 SNA
- 4 産業連関表
- 5 産業連関分析とその応用

第 部 時系列分析と回帰分析

- 1 時系列データとその解析
- 2 時系列分析 トレンド (趨勢、傾向線)、循環変動、季節変動、不規則変動
- 3 時系列分析の方法 移動平協法、趨勢線のあてはめ、他
- 4 景気動向指数 ディフュージョン・インデックス
- 5 回帰分析と回帰方程式
- 6 計量経済学の方法
- 7 構造推計と将来予測

付 論 OR の話; オペレーション・リサーチとゲームの理論

年
間
授
業
計
画

科 目 名	計量経済学	担当者名	藤 山 英 樹
-------	-------	------	---------

講義の目標	計量経済学の標準的な諸概念を修得する。理論的に得られた経済モデルと現実経済との距離を測るために計量経済学は不可欠なツールです。用いられる意味が分かって、計量経済学における推定法や検定法が使えるようになることを講義の目的とします。		
講義概要	原則として、テキストに準拠して授業を進めてゆく。講義参加者の理解状況を把握するために適宜、小テストをおこなう。講義参加者の着実な理解を第一とするので、講義のペースは参加者の状況に合わせて、調整をおこなう。		
使用教材	テキスト	山本拓『計量経済学』、新世社、1995年。	
	参考文献	白砂提津耶『[例題で学ぶ]初歩からの計量経済学』、日本評論社、1998年。	
評価方法	前期、後期の試験および参加者の理解状況を把握するための小テストにより判断する。それぞれ比率は40%（前期試験）40%（後期試験）20%（小テスト）とする。		
受講者に対する要望など	統計学も既習もしくは、平行履修が望ましい。		
年間授業計画	<p>受講者の着実な理解を第一とするので、講義のペースは受講者の状況に合わせて、調整する。よって、必ずしも授業計画通りに進むとは限らないので、留意されたい。</p> <p>第1回：計量経済学とは。</p> <p>第2回から第4回：最小二乗法について。 主たる内容は、直線のあてはめ。あてはまりの尺度。計算の手順など。</p> <p>第5回から第9回：単純回帰分析。 主たる内容は、単純回帰モデル、推定量の期待値と分散、推定量の優れた性質、t検定、予測など。</p> <p>第10回から第12回：多重回帰モデル。 主たる内容は、多重回帰モデル、多重共線性、変数の過不足についての問題など。</p> <p>第13回および第14回：モデルの関数型と特殊な変数。</p> <p>第15回および第16回：F検定と構造変化の検定。</p> <p>第17回および第18回：分散ラグ・モデル。</p> <p>第19回および第20回：不均一分散。</p> <p>第21回および第22回：錯乱項の系列相関。</p> <p>第23回および第24回：説明変数と錯乱項の相関。 もし時間があれば、同時方程式モデルについても解説する。</p>		

科 目 名	経済政策論	担当者名	阿 部 正 浩
-------	-------	------	---------

講義の目標	日本経済は現在、深刻な不況に直面している。この問題を打開するために各方面で様々な「政策」議論がなされている。「構造改革」、「規制緩和」、「有効需要の創出」などなど。この講義では経済政策の裏側にある経済理論を解説しながら、どのような政策が有効なのかを考察することを目的とする。		
講義概要	経済政策には、大きく分けて、マクロ経済政策とミクロ経済政策とがある。またマーケットとの関係でみると、金融政策、財政政策、産業政策、労働市場政策、社会保障政策と分けることも出来る。それぞれの経済政策を理解するためには、マクロ経済学とミクロ経済学の理解が欠かせない。講義では政策と理論とを関連付けながら、具体的な政策トピックスを解説していく。		
使用教材	テキスト	とくにない	
	参考文献	講義時間中に指示する	
評価方法	前期と後期の定期テストとレポート、および出席状況を加味して評価する。詳細については初回の授業で明らかにする。		
受講者に対する要望など	授業には積極的に参加することが望まれる。参加とは、問題を考え、発言し、議論することである。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 経済学的な考え方 3. マクロ経済政策 4. 金融政策 5. 財政政策 6. 社会保障政策 7. ミクロ経済政策 8. 産業政策 9. 労働市場政策 10. 法と経済学 		

科 目 名	経済開発論	担当者名	千代浦 昌 道
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。後期には、経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に指定しない。	
	参考文献	<p>総務庁統計局編『1999世界の統計』（大蔵省印刷局、1997） 西垣 昭、下村恭民『開発援助の経済学（新版）』（有斐閣、1997） E．F．シューマッハー『スモールイズビューティフル』（講談社、1986） C．キンドゥルバーガー、B．ヘリック『改訂 経済発展論』（好学社、1981） M．トダロ『M．トダロの開発経済学』（国際協力出版会、1997）</p>	
評 価 方 法	<p>前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済開発論の基礎的概念（経済発展の意味、経済開発論の学問的位置づけ、経済発展は望ましいか、絶対的貧困と相対的貧困、経済発展の尺度） 2. 発展途上国の基本問題（発展途上国の分類、経済発展の自然条件、歴史的背景、貧困と所得分配、人口問題と扶養負担、失業と低雇用、産業構造、貿易構造と対外依存） 3. 発展の非経済的側面 1（経済発展の政治的側面、経済発展の社会文化的要因、発展の社会学的把握） 4. 発展の非経済的側面 2（家族単位と経済発展、階級構造、民族・人種と経済発展、宗教と経済発展） 5. 発展の非経済的側面 3（開発と女性の役割、発展途上国の環境問題） 6. 先進工業国経済発展の教訓 1（先進工業国の工業化とその波及、イギリスの工業化、フランスの工業化） 7. 先進工業国経済発展の教訓 2（ドイツの工業化、アメリカの工業化、ロシアの工業化、日本の工業化） 8. 人口と経済開発（人口問題への接近、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策） 9. 雇用と失業（発展途上国の雇用問題、失業と低雇用、失業とインフォーマル部門、雇用と生産性、ルイス・モデルと雇用） 10. 教育と発展 1（教育と人的資源、発展途上国の教育水準、教育と経済発展、教育機会と貧困） 11. 教育と発展 2（教育と国内移住・出生率、教育と頭脳流出・知的従属、教育と農村開発） 12. 都市と農村（発展途上国の都市と農村、農村 都市間移住問題、人口都市化に起因する問題、都市のインフォーマル部門） 13. 経済発展のモデル 1（古典派の成長モデル、マルクスの発展段階モデル、ハロッド＝ドマーの成長モデルとロストウの発展段階説） 14. 経済発展のモデル 2（新古典派の成長モデル、チェネリーの経験的発展モデル、プレビッシュ＝シンガー・テーゼと従属理論、経済開発と構造調整） 15. 農業と開発（農業と経済発展、先進工業国の工業化と農業、発展途上国農業の停滞、農地改革と農業の発展、農業の規模と生産性、農業発展と農村開発） 16. 工業化と開発戦略（均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果、輸入代替工業化と輸出促進工業化） 17. 貿易と発展 1（絶対生産費の理論と比較生産費の理論、輸入代替工業化と輸出指向工業化） 18. 貿易と発展 2（南北問題とプレビッシュ＝シンガー・テーゼ、従属理論と新国際経済秩序） 19. 貿易と発展 3（自由貿易と NIEs の発展、南々貿易と地域経済統合、関税効果と実効保護、為替レートと経済発展） 20. 多国籍企業と発展途上国（直接投資の利益、多国籍企業についての利害損失、新国際経済秩序と多国籍企業） 21. 国際収支と債務問題（国際収支構造と経済発展、累積債務問題の原因と実態） 22. 発展途上国債務問題への国際的対応（世銀・IMF の融資、債務＝環境スワップ） 23. 国際援助と経済開発 1（途上国援助の歴史と現状、プロジェクト援助から基本的ニーズの充足へ、参加型援助と民主化の波、構造調整融資と持続可能な発展） 24. 国際援助と経済開発 2（草の根援助と NGO の役割、援助の功罪、これからの国際援助）
----------------------------	---

科 目 名	日本経済史	担当者名	齊 藤 博
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>世界でもっとも華麗な超一流選手となった現代日本の社会経済の、「栄光」の土台と繁栄の原因は、なにか。その歴史的な過程の問題点はなにか。現代における「悲惨」はなにか。本講義は、これからの課題に対して、いわゆる「社会経済史学」の方法、「地域社会史」の視座、「民衆史」の見方をもって、答えようとしている。</p> <p>日本社会経済史の展開過程の特徴を概観しながら、学問的に、眞摯に、知的な好奇心と生真面目な問題意識をもち、さらには社会的な同情心を身につけて、日本および日本人に関する「過去と現在との対話」を試みてみたい。</p>				
講 義 概 要	<p>本講義の枠組みと範疇がもつ、基礎概念と問題意識のキーワードは、以下の通りである。</p> <p>1. 本源的蓄積期 2. 人間疎外 3. 零細過小農経営 4. 商品経済 5. 貨幣 6. 農民分解 7. 村落共同体 8. 地域社会史</p> <p>いわゆる、上すべりの現代経済風俗や繁栄風潮の一般的原因や動向を描写することはしない。歴史的かつ社会的な人間諸関係の特殊具体像を細密に歴史描写しながら、日本および日本人についてきびしく、かつ暖かい自己批判と反省を加え、21世紀に生きる日本人の生き方の指針の参考にしたい。地域民衆社会史という「新しい歴史学」の立場に立つから、従来の学問教養で安易に考えることはできない。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 齊藤 博 『概観日本社会経済史』学文社 ・ 齊藤 博 『地域社会史の誕生』藤原書店 </td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> <p>最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。また講義をよく聴いていないと、「新しい歴史学」の思潮はもとより、歴史学の本筋である特殊具体像の微細な描写（秩父事件）などが、まったく理解しえないだろう。</p> </td> </tr> </table>	テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 齊藤 博 『概観日本社会経済史』学文社 ・ 齊藤 博 『地域社会史の誕生』藤原書店 	参 考 文 献	<p>最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。また講義をよく聴いていないと、「新しい歴史学」の思潮はもとより、歴史学の本筋である特殊具体像の微細な描写（秩父事件）などが、まったく理解しえないだろう。</p>
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 齊藤 博 『概観日本社会経済史』学文社 ・ 齊藤 博 『地域社会史の誕生』藤原書店 				
参 考 文 献	<p>最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。また講義をよく聴いていないと、「新しい歴史学」の思潮はもとより、歴史学の本筋である特殊具体像の微細な描写（秩父事件）などが、まったく理解しえないだろう。</p>				
評 価 方 法	<p>前期および後期末に、それぞれ筆記試験を行なう。</p> <p>講義ノートをきちんと作成していることを評価の際に重視したい。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義内容と課題は「反現代」風で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。なお、受講生有志の強い希望があれば、小人数の自主研究として「資本論輪読会」を開設することができる。</p>				

年 間 授 業 計 画	1.	社会経済史学の課題と問題点 「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
	2.	社会経済史学の課題と問題点 近代日本資本主義発達史論の立場から考える
	3.	社会経済史学の課題と問題点 ブルジョワ革命、本源的蓄積、産業革命をめぐる
	4.	社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風（地域社会史、地方史をめぐる）
	5.	社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風（民衆史をめぐる）
	6.	社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風（いわゆる「解放の神学」、「全体史」、「社会史」をめぐる）
	7.	日本に於ける社会経済史学の発達（服部之総を読む）幕末維新社会経済史
	8.	日本に於ける社会経済史学の発達（羽仁五郎を読む）幕末維新社会経済史
	9.	日本に於ける社会経済史学の発達（農商務省『職工事情』の世界）
	10.	日本に於ける社会経済史学の発達（猪俣津南雄『窮乏の農村』の世界）
	11.	近世封建社会の構造と展開、および問題点 封建領主制と封建農奴、零細過小農経営、商品経済
	12.	近世封建社会の構造と展開、および問題点 封建領主制と封建農奴、零細過小農経営、商品経済
	13.	社会経済史学の課題 地域民衆史学と全体史
	14.	本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」 封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
	15.	本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」 封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
	16.	近代日本形成確立の全体像と問題点 秩父事件にみる、地域社会史と民衆史の全体史的な把握
	17.	近代日本形成確立の全体像と問題点（井上幸治と色川大吉を読む）
	18.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
	19.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
	20.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
	21.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
	22.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
	23.	秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
	24.	総括 近代日本の批判的考察と現代日本への展望

科 目 名	日本社会史	担当者名	新 井 孝 重
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	13 世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団 = 悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。		
講 義 概 要	鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権の政策に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらを見る。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	新井孝重『中世悪党の研究』吉川弘文館	
	参 考 文 献	網野善彦『蒙古襲来』小学館、日本の歴史 佐藤進一『南北朝の動乱』中央公論、日本の歴史（中公文庫にあり）	
評 価 方 法	評価は、後期の試験成績と年間の出席状況をもってする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	30 分以上の遅刻は出席と認めない。 紳士的な態度で聴いてほしい。（私語・飲み物は遠慮してほしい）		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東大寺荘園の成立 平安時代の堂舎修造事業と財源としての荘園の関係をみる。 2. 東大寺荘園の成立 堂舎修造過程でみられる寺内権力の再編と荘園制の確立をみる。 大衆勢力の勃興 3. 東大寺荘園の成立 治承4年の東大寺焼討ちとその後の堂舎再建造営のうごきを追う。 4. 東大寺荘園の成立 大勸進重源の蓄積せる財を寺家がその内部に組み込む過程を見る。 この組み込みを画期に東大寺荘園制は完成する。 5. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成立期荘園制の概容をながめる。 6. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。 7. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を剔出する。 8. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに 荘園を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。 9. 幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と將軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生経路と役割の面からみる。 10. 幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。 11. 幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。 12. 悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもたらしたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。 13. 南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。 14. 南北朝内乱期悪党の群像(2)伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。 15. 南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。 16. 建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。 17. 建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。 18. 建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争(観応の擾乱)の政治過程を通観する。 19. 内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足軽の発生。 20. 内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。 21. 内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する。 22. バサラと芸能(1) 内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。 23. バサラと芸能(2) 中世を貫徹する「狂」の表現(バサラをも通底する)を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。 24. 中世の終焉。中世的な世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巢窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。
----------------------------	--

科 目 名	西洋経済史	担当者名	御園生 眞
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	ヨーロッパを対象地域とし、18世紀以降の産業革命・工業化の過程を分析して、産業革命・工業化の前提条件、展開過程、社会経済的帰結などの諸問題を考察する。		
講 義 概 要	前期は、イギリス産業革命を主要テーマとして講義する。そのなかで、産業革命・工業化の前提条件などについて分析を加える。後期は、ヨーロッパ大陸諸国の産業革命・工業化の問題を中心に進める。本年度はその事例のひとつとして、ドイツの産業革命についてとりあげる。		
使 用 教 材	テキスト		
	参考文献	石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田實『新版 西洋経済史』有斐閣、1986年。 その他の文献・参考図書については、最初の講義で指示する。	
評 価 方 法	出席および定期試験（前期、後期の計2回）の成績で評価する。ほとんど出席せずに試験を受けても単位は修得できないので注意すること。履修希望者は、必ず最初の講義に出席すること。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	1・2年生は履修が可能ですが、講義は3・4年生を対象としたレベルなので、3年生になってから履修することをすすめます。講義内容などが変更される場合がある。受講者数に制限があります。150名までとします。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 序論とガイダンス。</p> <p>2. 1. 産業革命・工業化とは何か</p> <p>3. (続)</p> <p>4. 2. 産業革命・工業化の前提条件</p> <p>5. (続)</p> <p>6. 3. イギリス産業革命 (1)前提条件の成熟</p> <p>7. (続)</p> <p>8. 3. イギリス産業革命 (2)展開過程</p> <p>9. (続)</p> <p>10. (続)</p> <p>11. 3. イギリス産業革命 (3)特徴と社会経済的帰結</p> <p>12. (続)</p> <p>13. (続)</p> <p>14. 4. ヨーロッパ大陸諸国の産業革命・工業化 (1)前提条件</p> <p>15. (続)</p> <p>16. 4. ヨーロッパ大陸諸国の産業革命・工業化 (2)イギリス産業革命の波及</p> <p>17. (続)</p> <p>18. 5. ドイツ産業革命 (1)前提条件の形成</p> <p>19. (続)</p> <p>20. 5. ドイツ産業革命 (2)展開過程</p> <p>21. (続)</p> <p>22. (続)</p> <p>23. 5. ドイツ産業革命 (3)特質と問題点</p> <p>24. (続)</p>
----------------------------	---

科 目 名	国際金融論	担当者名	古 川 純 子
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>国際金融は、国境を越えて移動するカネの動きを扱う分野である。国際金融は、グローバル経済の枠組みを規定すると同時に、我々の身近な生活にも大きな影響を及ぼしている。現在では、国際経済を理解することなく、国内経済を論じることはできないといっても過言ではない。本講義では、時事的な経済分野の論文、経済専門紙・誌を確実に理解できるレベルの国際金融分野の基本的知識を修得する。</p>		
講 義 概 要	<p>講義のはじめに、現在の相互依存化した国際経済に至った経緯を理解するため、国際金融体制の歴史を通じて、資本主義の発達過程を概観する。次いで、為替レートはどのように決まるのか、国際資本移動とは何か、国際金融市場で行われている取引のメカニズムとはどのようなものか、国際収支とは何か、国際収支の不均衡はどのように調整されるのか、経済政策は国境を越えてどのように波及していくのか、を学んでいく。国際金融市場の実態をより立体的に理解していくために、ビデオ教材を用いることもある。学習の指針とするために下記のテキストを使用するが、講義内容はテキスト以外のことにも及ぶことに注意されたい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	伊藤元重「ゼミナール国際経済入門」日本経済新聞社 1996 .	
	参 考 文 献	授業中に指示する	
評 価 方 法	学年末試験		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>常日頃から新聞の経済面・テレビニュース報道等に興味をもち、問題意識を持って講義に臨むと理解が進むと思われる。逆に講義に出席することで、国際経済問題への理解が深まることを実感し、楽しんでもらいたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. イントロダクション世界経済の現状</p> <p>2～7. 国際金融体制史</p> <p style="padding-left: 2em;">(1) リーダー国の変遷</p> <p style="padding-left: 2em;">(2) 国際金本位制度</p> <p style="padding-left: 2em;">(3) 大戦間期</p> <p style="padding-left: 2em;">(4) ブレトン・ウッズ体制</p> <p style="padding-left: 2em;">(5) 現在の世界の国際金融制度</p> <p style="padding-left: 4em;">変動相場制度</p> <p style="padding-left: 4em;">欧州の新通貨制度とユーロ</p> <p style="padding-left: 4em;">様々な固定相場制度</p> <p>8～11. 外国為替取引と為替レート</p> <p style="padding-left: 2em;">(1) 為替レート決定の理論</p> <p style="padding-left: 4em;">購買力平價説</p> <p style="padding-left: 4em;">フローアプローチとアセットアプローチ</p> <p style="padding-left: 2em;">(2) 政府の市場介入</p> <p style="padding-left: 2em;">(3) 為替投機</p> <p>12～17. 国際資金フローと国際金融市場</p> <p style="padding-left: 2em;">(1) 国際資本移動の経済学的意味</p> <p style="padding-left: 2em;">(2) 拡大する国際金融市場</p> <p style="padding-left: 2em;">(3) 為替リスクとヘッジング</p> <p style="padding-left: 2em;">(4) デリバティブ取引の実際</p> <p style="padding-left: 4em;">フォワード取引</p> <p style="padding-left: 4em;">スワップ取引</p> <p style="padding-left: 4em;">オプション取引</p> <p style="padding-left: 4em;">フューチャー取引</p> <p>18～23. 国際マクロ経済学</p> <p style="padding-left: 2em;">(1) 国際収支表</p> <p style="padding-left: 2em;">(2) 国際収支調整理論</p> <p style="padding-left: 4em;">アブソープション・アプローチ</p> <p style="padding-left: 4em;">エラスティシティー・アプローチとJカーヴ効果</p> <p style="padding-left: 2em;">(3) 開放マクロ経済政策</p> <p style="padding-left: 4em;">金融政策、財政政策とは何か</p> <p style="padding-left: 4em;">変動相場制度下での開放マクロ経済政策</p> <p style="padding-left: 4em;">固定相場制度下での開放マクロ経済政策</p> <p>24. まとめ</p>
----------------------------	---

科 目 名	日本経済論	担当者名	波 形 昭 一
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「日本経済論」と銘打った書物は巷に氾濫しているが、学生諸君に推奨できるものは意外と少ない。もちろん、良書がないというのではない。だが、それらの多くは概して現状分析の専門書であり、難解にすぎるからである。「日本経済論」としては当然それでよいのだが、どうも学生諸君には不向きようだ。若い諸君は未来志向が強い反面、歴史知識に乏しいため、現状分析の意味そのものがよく理解できないで見うけられる。こうした観点から、本講義では、日本経済の歴史と現状の両者をバランスよく「総合」することを目指したい。</p>				
講 義 概 要	<p>【前期】戦前における日本経済のシステムとその崩壊過程、および戦後復興から高度経済成長への発展過程を論ずる。</p> <p>【後期】日本経済は 1970 年代前半に高度成長システムの崩壊に直面し、さらに 80 年代後半のバブル経済を経て、こんにち新たなシステム再構築を迫られ苦しんでいるが、その経緯と現状を論ずる。</p> <p>講義全体の構成については、次頁の年間講義予定を参照。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>竹内宏著『昭和経済史』(筑摩書房、1988 年)をテキストとし、同時に統計資料等のプリントを配布して授業を進める。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> 中村隆英著『昭和経済史』岩波書店、1986 年 野口悠紀雄著『1940 年体制』東洋経済新報社、1995 年 中谷 巖著『日本経済の歴史的転換』東洋経済新報社、1996 年 橋本寿朗ほか著『現代日本経済』有斐閣、1998 年 </td> </tr> </table>	テキスト	竹内宏著『昭和経済史』(筑摩書房、1988 年)をテキストとし、同時に統計資料等のプリントを配布して授業を進める。	参考文献	中村隆英著『昭和経済史』岩波書店、1986 年 野口悠紀雄著『1940 年体制』東洋経済新報社、1995 年 中谷 巖著『日本経済の歴史的転換』東洋経済新報社、1996 年 橋本寿朗ほか著『現代日本経済』有斐閣、1998 年
テキスト	竹内宏著『昭和経済史』(筑摩書房、1988 年)をテキストとし、同時に統計資料等のプリントを配布して授業を進める。				
参考文献	中村隆英著『昭和経済史』岩波書店、1986 年 野口悠紀雄著『1940 年体制』東洋経済新報社、1995 年 中谷 巖著『日本経済の歴史的転換』東洋経済新報社、1996 年 橋本寿朗ほか著『現代日本経済』有斐閣、1998 年				
評 価 方 法	<p>前期・後期とも試験をおこない、総合点で評価する。したがって、いずれかの試験を受け損じた場合、単位の取得はほとんど不可能と心得ておいてほしい。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義中の「私語」と「飲食」は固く禁ずる。大学の教室内はサッカー場ではない。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の目的と概要 2. 日本経済の近代化と産業・貿易構造 3. 日本経済の近代化と金本位制の成立 4. 恐慌時代の到来、そして金本位制崩壊へ 5. 井上財政から高橋財政への転換 6. 高橋財政の経済学的意味 7. 戦時統制経済 8. GHQ の対日占領政策と 4 大経済改革 9. 戦後復興を目指す生産力拡大策 10. ドッジ・ラインとシャウブ勸告 11. 戦後復興からの脱皮、高度成長の到来 12. 高度成長の構造 13. 高度成長の精神的土台 14. 高度成長と大衆消費社会 15. 高度成長の終焉と経済構造の転換 16. レーガノミックスとブラザ合意 17. 対外経済構造の激変 18. バブル経済の要因と構造 19. バブル経済の崩壊 20. 「複合不況」と不況の長期化 21. 日本経済の動揺と対応(1) 企業システムの問題 22. 日本経済の動揺と対応(2) 金融システムの問題 23. 日本経済の動揺と対応(3) 福祉システムの問題 24. まとめ
----------------------------	---

科 目 名	北アメリカ経済論	担当者名	本 田 浩 邦
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	29年恐慌から現在にいたるアメリカ経済の発展を学習する。全体をつうじて、今日の経済理論や経済政策が、どのような歴史的背景の中であらわれてきたのか、それらは今日からみてどのような効果をもったのか、といったことについて考えてゆきたい。		
講 義 概 要	講義は3つの部分からなる。第1部「29年恐慌・ニューディール・第二次大戦」(第1回～第5回)、第2部「戦後の経済発展」(第6回～第12回)、第3部「1990年代における経済・社会の諸側面」(第13回～第24回)である。経済以外の社会問題ももりこみ、できるだけ立体的なアメリカ経済像を模索したい。		
使 用 教 材	テキスト	なし。毎回プリントを配布する。	
	参考文献	平井規之ほか『概説アメリカ経済』有斐閣 萩原伸次郎『アメリカ経済政策史』有斐閣 中本悟『現代アメリカ通商政策』有斐閣	
評 価 方 法	中間試験(1回もしくは2回)および定期試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	継続的に出席していただきたい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 現代アメリカ経済論の課題 / 講義の構成 / すすめ方と注意事項 / 評価方法 / 参考文献 2. 20年代のブームと大恐慌の発生 「繁栄」の20年代 / 住宅・耐久消費財 / スムート・ホール ー関税法 / ヨーロッパの通貨問題 / 大恐慌の発生と波及 / 互恵通商法 / ロンドン世界経済会議 3. ニューディールの登場 第1期(1933-35) / NIRA(1933.6) / 第2期(1935-37) / 社会保障法 / 第3期(1937-39) / ニューディールの資金調達 / ニューディールの現代的意義 4. 29年恐慌論争 ブルッキングス研究所 / マネタリズム / キンドルバーガーの「覇権安定化理論」 / 1920年代におけるフラン問題 5. 第二次大戦と軍事経済 戦争の性格 / 戦争の準備 / 戦時生産体制 / 配給と物価統制 / 労働 / 戦 費の調達 6. 第1期(1947-57)(1) 戦後世界体制の再編 / 「大西洋憲章」(1841.8.14) / トルーマン・ド クトリン / 朝鮮戦争 / 世界経済の枠組み / マーシャル・プラン(1947.6) / IMF・GATT体制 7. 第1期(1947-57)(2) 戦後経済成長の国内的条件 / 「1946年雇用法」 / 政府の経済的機能 / 自動安定装置 / 所得分配 / 技術革新 / インフレと国債管理政策の転換 / 「アコード」から「ビル ズ・オンリー政策」へ 8. 第2期(1957-67)(1) ケネディ政権期の経済政策と経済成長 / 「ニュー・エコノミックス / 1964 年減税その他の減税政策 / インフレとドル過剰 / IMF体制の動揺 / 景気循環 9. 第2期(1957-67)(2) アイゼンハワーからケネディへ / 「軍産複合体」 / 宇宙開発競争 / NASA(1963) / ベトナム戦争 / 人種問題 / 公民権運動 / 1960年代の黒人暴動 10. 第3期(1967-79) ニクソン政権期の経済的背景 / 二つの石油危機と不況 / ケインズ主義から マネタリズムへ / ウォーターゲート事件 / 二桁インフレ / スタグフレーション論争 11. 第4期(1980-90)(1) レーガノミックス / 経済再建プログラム(1982.2.18) / 当初の問題点 / 1980年代のマクロ経済の概観 / 貯蓄投資バランス / 「双子の赤字」 12. 第4期(1980-90)(2) 「プラザ合意」 / 累積債務問題と金融危機 / 財政赤字の削減とグラム・ ラドマン・ホリングス法 / 企業収益基盤の変化 / 所得格差拡大 13. 1990年代のマクロ経済と経済政策(1) ディスインフレーション / 自然失業率の低下 / 設備稼 働率と産出能力 / 貯蓄率の低下と家計負債の累積 / 対外債務 14. 産業基盤の二極化 / 国際競争力の定義 / 「ダウンサイジング・オブ・アメリカ」 / 自動車と航 空機産業のリーン化 / アウトソーシング 15. 労働市場の変化と所得格差の拡大 経済発展と所得分配(クズネッツの仮説) / 1968年以來 あらゆる指標でみて所得不平等は拡大している / 不平等化の諸要因 / 制度 / 労働需給 / 産業間の 所得格差 / 企業収益性への影響 / 貧困の定義 / 貧困の拡大 16. 人種・移民問題 / 黒人問題 / 公民権運動とアフターマティブ・アクション / 1964年以降の保 守派の台頭 / 反税闘争 / プロポジション13 / 少数人種間対立 17. アメリカ移民法小史 / 「モイニハン報告」 / 65年移民法以降 / 移民の経済的效果をめぐる議論 / 労働の国際移動とグローバルゼーション(サッセン) 18. どのようにして財政赤字はなくなったか? 財政赤字の推移 / 歳出と歳入の構造 / 包括財政調 整法(1990) / 「フレキシブル・フリーズ」 / 社会保障制度改革 19. 軍縮と民需転換政策 軍事支出のマクロ的効果をめぐる論争 / 「軍民転換論」(ガンスラー) / ディアルユース・テクノロジー / 海外援助と兵器輸出のリンケージ 20. 金属市場と株式市場 銀行と投資会社 / 80年代の「金融危機」と資金循環構造 / 90年代の株 式市場の活況 / 「ニューエコノミー」 21. 貿易と資本取引 90年代の貿易赤字の拡大の構造的要因 / サービス貿易 / 知的所有権 / 「戦略 的通商政策」 / NAFTA 22. 中南米・アジア・ヨーロッパとアメリカ 23. 日本とアメリカ 24. 講義のまとめ、質疑
----------------------------	---

科 目 名	ラテンアメリカ経済論	担当者名	松 本 栄 次
-------	------------	------	---------

講義の目標	日本経済と深いつながりをもつラテンアメリカ諸国および諸地域の経済事情と特性を、自然環境の基盤、歴史的発展過程、政治的社会的特性などの分析の上になんて考察する。また、この地域の経済の将来展望、日本との関連についても扱う。		
講義概要	前期にはラテンアメリカ経済の基盤をなす、自然環境、歴史的経緯、社会と住民などについて概観したうえ、経済の現状と特性との関連を説明する。後期には、とくにブラジルをとりあげ、その諸地域における経済活動の特質、経済発展の現状と将来性、日本との関連などについて述べる。		
使用教材	テキスト	A.ギルバート/山本正三訳「ラテンアメリカ入門」二宮書店、1996年	
	参考文献	小池洋一・西島章次編「ラテンアメリカの経済」新評論社、1993年 加茂雄三ほか編「ラテン・アメリカ事典」1996年版 斎藤 功・松本栄次・矢ヶ崎典隆編著「ノルデステ - ブラジル北東部の風土と土地利用」大明堂、1999年	
評価方法	定期試験の成績に出席状況を加味して行う。		
受講者に対する要望など	テキストを必ず用意すること。地図帳を持参すること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラテンアメリカの地域と経済の特徴 2. ラテンアメリカ経済の基礎条件(1) 土地条件と資源・災害 3. ラテンアメリカ経済の基礎条件(2) 気候・植生・土壌環境 4. ラテンアメリカ経済の基礎条件(3) 先住民文化とその影響 5. ラテンアメリカ経済の基礎条件(4) ヨーロッパ人による植民地の開発 6. ラテンアメリカ経済の基礎条件(5) 住民と社会の特質 7. ラテンアメリカ経済の発展過程(1) 植民地期の経済 8. ラテンアメリカ経済の発展過程(2) 輸出経済期の経済 9. ラテンアメリカ経済の発展過程(3) 輸入代替工業化期の経済 10. 現代ラテンアメリカ経済の構造 11. 世界経済の変化とラテンアメリカ経済 12. ラテンアメリカ諸国の経済政策と地域開発 13. ブラジルの地理的・経済的特徴、歴史的発展過程 14. ブラジル農牧業の社会的基盤 15. ブラジル農牧業の地域性と自然的基盤 16. ブラジルにおける資源・エネルギー開発 17. ブラジルにおける工業化の進展 18. ブラジル経済の地域格差(1) 先進経済地域 - 南東部・南部地方の経済活動 19. ブラジル経済の地域格差(2) 開発停滞地域 - 東北部地方の経済活動 20. ブラジル経済の地域格差(3) 開発途上地域 - 北部・中西部地方の経済活動 21. ブラジルの地域開発と環境問題 22. ブラジル経済の問題点と将来展望 23. ラテンアメリカ経済と日本(1) 日系人の経済活動 24. ラテンアメリカ経済と日本(2) 貿易、企業進出、経済援助 		

科 目 名	東アジア・中国経済論	担当者名	駒 形 哲 哉
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	1997年に「成長」から「危機」に転じたアジア経済に回復の兆しがあらわれ、再び成長のエリアに転じようとしている。そうしたなか、経済改革が正念場を迎えている中国は、経済運営の懸命の舵取りを続けながら、WTO加盟により自らの身を切る改革を加速しようとしている。本講義では、激動の続く東アジア経済について、中国の動向を中心に分析する。受講終了後も履修者に地域経済・国際経済に関心をもち続けてもらうことを最大の目標としている。		
講 義 概 要	下記テキストを用い、アジア諸国との比較のなかで中国経済の一般性、独自性を検討する。月々の新しいトピック、データの読み方についても解説する。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	渡辺利夫、加藤弘之、白砂提津耶、文大宇『図説[第2版]中国経済』日本評論社、1999年、本体2300円	
	参 考 文 献	渡辺利夫、小島朋之、杜進、高原明生『毛沢東、鄧小平そして江沢民』東洋経済新報社、本体2300円	
評 価 方 法	前期、後期各一回、筆記試験を行う。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 東アジア経済の「奇蹟」と「危機」 2. 正念場を迎える中国経済 3. 多様な基礎条件 4. 人口動態（１） - 経済発展と人口 5. 人口動態（２） - 1人っ子政策の経済的根拠 6. 農業発展（１） - 経済発展と農業 7. 農業発展（２） - 特殊な制度と「解体」 8. 郷鎖企業（１） - 旧ソ連の経済改革と違うもの 9. 郷鎖企業（２） - 中国経済を支える主体 10. 工業発展（１） - 特異な発展戦略 11. 工業発展（２） - 発展戦略の転換 12. 工業発展（３） - 国有企業改革 13. エネルギー・交通 - 経済のボトルネック 14. 財政と金融（１） - 財政の役割の変化 15. 財政と金融（２） - 金融の必要性、証券市場 16. 地域の発展 - 経済格差がもたらすもの 17. 貧困と環境 18. 都市の貧困と格差 - 体制をゆるがす課題 19. 貿易と直接投資（１） - 貿易 20. 貿易と直接投資（２） - 直接投資、WTO 21. 香港 22. 台湾
----------------------------	---

科 目 名	東南アジア・オセアニア経済論	担当者名	森 健
-------	----------------	------	-----

講義の目標	世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もこのような固有性を反映する。しかし、経済活動の本質的な部分には各国に共通する法則（普遍的な法則）が働いていることを実感させられる例が多い。この講義の目的は、対象とする国の経済発展の歴史と現状を前記の観点、即ち、固有性と普遍性の発見に努めることにある。今期の授業では、オーストラリアを中心として取り上げ、オーストラリアとの関連において、日本を含むアジア諸国の経済を取り上げる。		
講義概要	オーストラリアは近年、極めてユニークかつ大胆な政策転換を行った。現在、同国は、アジア太平洋経済協力（APEC）会議を提唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化推進に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れている国として知られている。しかし、同国は、かつては、名だたる保護貿易国であり、有色人種の移民を排除していた国でもある。何故このような政策変換がなされたのか。この変換はどのようになされてきたのか。97年以降のアジア経済危機はオーストラリアにどのような影響を与えているのか。この講義では、このような問題を様々な切り口（自然条件、歴史的条件、マクロ経済、ミクロ経済、対外取引、政治・社会体制など）から解明する。		
使用教材	テキスト	竹田いさみ、森 健（編）『オーストラリア入門』（東京大学出版会、1998年6月刊） その他：ビデオ、ハンドアウト（教室で配布）を使用する。	
	参考文献		
評価方法	定期試験を中心とし、時折上映するビデオに関して提出して貰うコメント等も参考とする。		
受講者に対する要望など	自国以外の国の事情を知ることによって、複眼的な思考ができるようになって貰いたい。		

年 間 授 業 計 画	1 . 週	<p>イントロダクション</p> <p>地域研究の意義。アジア太平洋地域におけるオーストラリアの位置。</p>
	2 - 4 . 週	<p>歴史と文化</p> <p>植民地社会の形成。ゴールドラッシュ。牧羊業の発展。1890 年代の恐慌。連邦成立の経緯。</p> <p>賃金裁定と産業保護。白豪主義。両次大戦と工業化。移民政策。資源ブーム。アジア化。</p>
	5 - 6 . 週	<p>社会</p> <p>アボリジニ。多文化社会化。労働。社会福祉。教育。</p>
	7 . 週	<p>政治</p> <p>政治構造と制度。政策推移。</p>
	8 - 9 . 週	<p>外交・安全保障</p> <p>第 2 次大戦までの政策。冷戦期の政策。ベトナム戦争。冷戦後の政策。政策分野別検討（安全保障、国連外交、非核政策、APEC、経済安全保障と ASEAN、対外援助、難民政策）。</p>
	10 - 11 . 週	<p>経済と貿易</p> <p>経済構造の特徴と変化。経済政策と環境資源問題。貿易と投資。アジア経済の危機。</p>
	12 . 週	<p>日豪関係</p> <p>第 2 次大戦前期。第 2 次大戦後。経済摩擦。日本経済の危機。多国間協力関係。</p>

科 目 名	中東・アフリカ経済論	担当者名	千代浦 昌 道
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>世界の中でも、現在、経済的にもっとも停滞しているとされるアフリカ地域を、経済面のみならず政治・社会・文化面からも多角的に捉えて、まずこの地域に関する正確な知識により歴史と現状を十分に把握し正しく理解した後に、経済問題を中心とする現在のさまざまな問題の解決へ向けて、世界の国々に、とりわけ日本などを中心とする先進諸国がどのような関わりを持つことができ、またどのような関わりを持つのが望ましいかを探る。</p>		
講 義 概 要	<p>まずアフリカの概観、植民地分割以前の歴史、植民地時代以降の近現代史を講義する。つづいて、1980年代以降の経済危機と構造調整時代、政治的民主化と紛争等に言及する。発展途上地域における政治と文化は、経済・社会の動向と密接な関係を持つから、それらの問題についても触れる。近代の複雑な国際政治関係の中で翻弄されるアフリカ諸国の姿は、経済問題とも切り離すことはできない。食糧・人口・難民・環境等もアフリカ地域についての重要課題である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	小田英郎他著『アフリカ 第2版』(国際情勢ベーシックシリーズ) 自由国民社、1999	
	参 考 文 献	<p>『アフリカ年鑑』(アフリカ協会) 雑誌『月刊アフリカ』(アフリカ協会) 雑誌『アフリカレポート』(アジア経済研究所) 伊谷純一郎・小田英郎・川田順造・田中二郎・米山俊直共同監修『アフリカを知る事典 改訂版』(平凡社、1999) 『アフリカ現代史 ~ ~』(山川出版社、1978~1982)</p>	
評 価 方 法	前後期、年2回の定期試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	アフリカならびに一般に発展途上国の経済社会問題に関する新聞や雑誌の記事を見逃さないこと。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要、講義の進め方、テキスト、評価方法など、一般的注意事項について述べる。 2. アフリカ概観 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域としてのアフリカ大陸 2) アフリカの住民と文化 3) アフリカの国ぐに 3. アフリカの歴史的背景 <ol style="list-style-type: none"> 1) 植民地分割以前のアフリカ 2) アフリカの植民地化 3) 解放運動の発生と展開 4) 二つの世界大戦とアフリカ 4. アフリカ諸国の独立と国家建設 <ol style="list-style-type: none"> 1) 独立の時代 2) 国家建設への道 5. アフリカの社会主義とその挫折 6. 構造調整の時代 <ol style="list-style-type: none"> 1) 経済危機の原因 2) 構造調整とはなにか 3) 構造調整をめぐる 4) 構造調整の残したもの 7. アフリカの民主化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 民主化現象とその原因 2) 民主化過程の展開 3) 構造調整計画の政治的影響 4) アフリカ民主化の展望 8. 内戦・民族紛争・地域紛争 <ol style="list-style-type: none"> 1) アフリカの紛争 2) 80年代までのアフリカの紛争 3) 90年代の民族紛争 4) 紛争への対応 9. アフリカにおける人種問題 10. 南アフリカの歴史と現状 11. アルジェリアの歴史と現状 12. カメルーンの歴史と現状 13. ブルキナファソの歴史と現状 14. マダガスカル島の歴史と現状 15. 地域協力と地域機構 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域協力の背景と経過 2) アフリカ統一機構（OAU） 3) 諸地域における地域協力と地域機構 4) アフリカの地域協力と今後の展望 16. 植民地開発と宗主国 17. 第二次大戦後の開発と援助 18. 構造調整以後の開発と援助 19. 国際関係の中のアフリカ <ol style="list-style-type: none"> 1) 冷戦期におけるアフリカの立場 2) フランス＝アフリカ諸国首脳会議の展開 20. アフリカの食糧問題 21. アフリカの人口問題と難民問題 22. アフリカの環境問題 23. アフリカにおける医療とエイズ問題 24. アフリカの未来に向けて日本はどのように関わるか
----------------------------	--

科 目 名	金融経済論	担当者名	小 林 慎 哉
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義は経済全体における金融の役割と日本の金融市場、金融政策などについての理解を深めることを目的とする。最近の金融部門の発達および変動の激しさは目を見張るものがあり、伝統的な理論やフレームワークでは説明しきれない現象も多い。理論だけでなく、現実の金融諸問題を理解し、さらには自分とどうつながるのかを考える力を養いたい。</p>		
講 義 概 要	<p>講義は大きく4つのパートからなる。1)金融の基礎理論、2)金融市場、3)金融政策、4)金融問題である。まず、上記の区分にしたがって、基本的な知識や考え方を解説するが、それぞれ独立した分野ではなく、相互に密接に関連しているので、それらの有機的な結合について具体例を交えつつ言及する。特に強調したいのは、経済全体において、金融経済と実体経済は表裏の関係にあるということである。そこで、金融経済の動きがどのように実体経済（たとえば企業の設備投資や個人消費など）に波及していくのかを明らかにする。それにより、金融市場や金融政策の動きが我々の日常生活とどう関連しているのか理解することができよう。なお、金利や株価、円ドルレートなど金融市場や金融政策に大きな動きがあったときは随時取り上げる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木真実哉、藤原洋二、沈徹、田端克至、小林慎哉著「金融入門」昭和堂、1992年 ・受講者数にもよるが、必要に応じて資料、データを配布する。 	
	参考文献	<p>講義時に紹介する</p>	
評 価 方 法	<p>前後期末2回の試験により評価を決定する。詳細は開講時に説明する。</p>		
受 講 者 対 する 要 望 等	<ul style="list-style-type: none"> ・日経新聞を精読すること。金融問題に関心を持ち、積極的に参加してほしい。 ・私語、携帯電話等は厳禁。 		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 金融の基礎理論 (1) 貨幣の発生とその機能 2. 金融の基礎理論 (2) 貨幣需要とその決定要因 3. 金融の基礎理論 (3) マネーサプライと利子率の決定 4. 金融の基礎理論 (4) マネーサプライと物価 5. 金融の基礎理論 (5) インフレーションと失業 6. 金融市場 (1) 直接金融と間接金融 7. 金融市場 (2) 日本の金融機関 8. 金融市場 (3) 貸出・預金市場と信用創造 9. 金融市場 (4) 株式市場と株価 10. 金融市場 (5) 為替レートと国際金融 11. 金融政策 (1) 日本銀行とは 12. 金融政策 (2) 金融政策手段の種類とそのメカニズム 13. 金融政策 (3) マネーパラダイムとクレジットパラダイム 14. 金融政策 (4) 金融政策と国内景気 15. 金融政策 (5) 財政政策と金融政策のポリシーミックス 16. 金融政策 (6) 為替レート安定化政策 17. 金融問題 (1) 金融自由化と国際化 18. 金融問題 (2) バブルの生成と崩壊 19. 金融問題 (3) 不良債権問題と貸し渋り 20. 金融問題 (4) 円高と景気 21. 金融問題 (5) ゼロ金利政策と量的緩和 22. 金融問題 (6) 金融再編とその効果 23. まとめ 1 24. まとめ 2
----------------------------	--

科 目 名	金融システム論	担当者名	平 木 俊 一
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	国内金融システムを深く、国際金融システムは広く学ぶ。二つのシステムの基礎事実とその働き及び相互作用について分析し、実体経済のコインの裏側としての金融経済についての考え方を学習します。他の関連科目（金融論、国際金融論、国際経済論）の履修と合わせて、卒業後に金融関係に就職する諸兄弟が必要とする、現代の金融経済の市場・制度・機関とそれらの統合作用（システム）を学びます。				
講 義 概 要	<p>金融問題は一国の枠を超えています。特に先進国間では、各国の金利変動や為替レート変動を通じて、実体経済へ働きかけ、さらに先進国間では直ちに相互に影響を及ぼし合い連動するのであります。</p> <p>国内金融システム分野では、金利動向を如何に予測するかが課題です。その他に戦後の金融制度、その改革、ピックパン、中央銀行の独立性、金融システムリスク、金融再編等を中心にとりあげます。</p> <p>国際金融システム分野では、外国為替・変動予測を如何にするかが課題です。その他にブレトンウッズ体制、変動為替相場制、G7の協調、国際金融システムの改革等を中心にとりあげます。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>特に定めませんが、データの入ったプリントを毎回配布します。 尚このプリントは最終試験で持込み可とする予定です。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>「わが国の金融制度」 日本銀行金融研究所 「国際金融のしくみ」 秦忠夫・本田敬吉 有斐閣</td> </tr> </table>	テキスト	特に定めませんが、データの入ったプリントを毎回配布します。 尚このプリントは最終試験で持込み可とする予定です。	参考文献	「わが国の金融制度」 日本銀行金融研究所 「国際金融のしくみ」 秦忠夫・本田敬吉 有斐閣
テキスト	特に定めませんが、データの入ったプリントを毎回配布します。 尚このプリントは最終試験で持込み可とする予定です。				
参考文献	「わが国の金融制度」 日本銀行金融研究所 「国際金融のしくみ」 秦忠夫・本田敬吉 有斐閣				
評 価 方 法	<p>前期はレポートを課します。後期は記述試験です。</p> <p>どちらも出席し、配布したプリントの中のデータを利用することを前提とします。両方の課題をクリアした人のみ、二つの平均点で評価します。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	出席をして下さい。毎日、日本経済新聞を図書館等で目を通す。そうでなければ全国紙の経済欄を読む。衛星放送（チャンネル7 午後10時35分経済ニュース）、12チャンネル（午後11時ワールド・ビジネス・サテライト）を見て下さい。				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 金融システム論とは何か 市場と制度と機関（銀行） 2.〔国内金融システム〕 銀行、ユニバーサルバンク、ナロウバンク、決済機能、信用創造 3. その他金融機関、郵便貯金、証券、保険、ノンバンク 4. 金融市場、間接金融、短期金融市場（コール市場） 5. 証券市場（株式・債券） 直接金融、長期金融市場 6. 金融制度 戦後の護送船団方式、部門別資金過不足、マネー・サプライ 7. 金融制度 金融制度改革、他先進国の金融制度改革 8. 金融制度 ビッグバン、不良債権処理、B I S規制 9. 中央銀行の役割り、独立性、他先進国のケース 10. 大蔵省の改組、金融監督庁、金融再生委員会、市場原理の適用 11. 金融機関の再編成、海外有力金融機関の進出 12.〔国際金融システム〕 貿易決済、金本位制 13. ブレトンウッズ体制、固定為替相場制 14. ドルの信認低下、流動性のディレンマ、金ドル交換停止 15. 変動為替相場制、変動要因分析 16. プラザ合意、G 7の協調 17. メキシコ、アジア通貨危機 18. I M Fの機能不全、国際金融システム改革 19. ユーロの出現、E Uの金融改革・財政政策 20. 円の国際化、新外国為替法、東京国際金融センター 21. 短期資本移動（ヘッジ・ファンドの問題）と長期資本移動（直接投資） 22. 対外直接投資と対日直接投資のアンバランス 23. 金融派生商品（フォワード、ヒュ-チャー、スワップ、オプション） 24. まとめ
----------------------------	--

科目名	財政学	担当者名	大島通義
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>政府は年々予算を組み、巨額の税金を家計や企業から徴収し、これをさまざまな政府としての活動にあてている。「財政学」は、このような公共部門の経済活動を対象とする学問である。「政府」の「経済活動」を対象とする学問である以上、これを理解するには経済学の基礎的な知識を備えていると同時に、政府の意思決定にかかわる政治や行政にも目を向けることが必要である。このような観点から現代財政についての理解を深めることに努めたい。</p>		
講義概要	<p>前期においては、政府の経済活動全般を視野に入れながら、現代までの財政論の主な潮流、政府部門の収支の構成をみたうえで、主として政府の支出活動に焦点を合わせた講義とする。政府による公共財の供給、高齢化社会における財政の役割、分権化と財政、国際化時代の財政などの問題を取り上げる。後期には、政府の収入調達、すなわち租税（所得税、法人税、消費税、環境税など）と公債発行についての理論、その現状について講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>佐藤進・関口浩『財政学入門』（改訂版）同文館。 大島他編『日本が直面する財政問題』八千代出版</p>	
	参考文献	<p>重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編『Basic 現代財政学』有斐閣ブックス 林健久・今井勝人編『日本財政要覧』東大出版会 その他、講義の必要に応じて、参考文献目録、資料等を配布する。</p>	
評価方法	<p>前期と後期の期末試験を実施する。場合によっては、講義内容についての短いレポートの提出を求めることがある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>経済学についての基礎的な理解を前提して講義をおこなうので、これを欠いている場合には、各自でそれを補うようにつとめること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最近の財政問題、財政学の課題 2. 「政府」とは何か、二つの見方 3. 「市場経済」と「政府」、その中間組織 4. 予算の仕組みとその決定の過程 5. 国民経済計算における政府部門 6. 国と地方の財政関係 7. 政府支出決定の論理とその実際 8. 政府支出の長期的趨勢 9. 公共投資とその管理 10. 福祉国家の財政 11. 財政政策の役割 <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 租税とは何か、租税体系、税負担の国際比較 2. 個人所得課税の理論とその実際 3. 同上 4. 法人企業課税の理論とその実際 5. 同上 6. 消費課税の理論とその実際 7. 同上 8. 資産課税の理論とその実際 9. 環境問題における租税 10. 租税政策の社会経済的作用 11. 公債発行の財政問題 12. 日本の財政の現状
----------------------------	--

科 目 名	公共経済学	担当者名	伊 藤 為一郎
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	わたしたちの日々の生活は公共部門の活動と切っても切れない関係にある。水・清掃・教育・道路・警察・消防など様々な公共サービスによって便益を受けている。政府の活動と民間部門の活動とはどういう関係にあるか。政府の活動は大きすぎるのか。介入するとすればどのような方法であるべきか。政府の活動を効率化するにはどんな改革が必要か。政府は国民の福祉にどのように関係すべきであるか。このような公共部門の活動についての基礎的な理解を深めることが本講の課題である。		
講 義 概 要	公共部門が経済活動や社会生活にどのように連動しているか、図や表を多用しながら講義を進める予定である。 国民経済の発展とともに公共部門の機能も大きく変動してきたが、その経過をたどることによって、現代の政府活動の特徴を明らかにする。		
使 用 教 材	テキスト	講義のはじめに指示する。	
	参考文献	講義のなかでその都度指示する。	
評 価 方 法	年度末の成績および中間テストの成績によって評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

1. はじめに
政府と市場 政府の範囲 文献紹介
2. 公共部門存在の理論的根拠
市場の失敗 政府の失敗 資源配分 所得再配分 経済成長・経済安定
3. 公共財とその供給
公共財 混合財 メリットワント 外部性 公的供給と公的生産
4. 公共選択
資源配分のメカニズム 選好表示 公平と効率
5. 社会資本と公共サービス
社会資本と経済発展 高度成長と社会資本充実政策 新しい社会資本 費用・便益分析
6. 公共サービスの供給と財源調達
なぜ租税が必要か 租税原則 公平な租税とは 租税構造
7. 現代の租税
所得税 法人税 消費税 資産税 目的税
8. 公債
租税国家の危機 公債の増大 公債の機能 累積公債と財政再建
9. 地方政府
地方公共財の供給 地方財政の拡大 財源調整制度 地方交付税 国庫支出金
地方分権
10. 都市問題 一極集中
土地と住宅 交通 ゴミ 財政危機
11. 環境問題と財政
市場の失敗と環境政策 課徴金か補助金か PPP から環境税へ 地球温暖化問題
12. 高齢化社会と財政
高齢化の進展 年金財政の破綻 負担とサービスのバランス 賦課方式と積立方式
13. まとめ

科 目 名	地方財政論	担当者名	伊 藤 為一郎
-------	-------	------	---------

講義の目標	地方財政は「行政のデパート」といわれるように、福祉、教育、警察、消防などの行政サービスから上・下水道、経済振興策などまで多様なサービスを供給している。地方公共団体のこのような活動をとらえたものが地方財政である。住民の日常生活と深く関連している地方財政の役割を明らかにすることが課題である。		
講義概要	都道府県から市町村まで 3200 余もある地方団体は社会経済的条件が様々であり、一律に論ずることは不可能であるが、マクロ的に地方財政の分析を行い、その特徴や問題点を指摘し、将来を展望する。		
使用教材	テキスト	講義のはじめに指示する。	
	参考文献	講義の中でその都度指示する。	
評価方法	年度末の成績および中間テストの成績によって評価する。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 地方財政の役割 国民経済と地方財政 国と地方の財政 諸外国では 文献紹介 2. 地方財政の現状 わが国経済の現況 財政の現況 歴史的変遷 3. 地方公共団体の多様性 都道府県 市町村 社会経済条件の多様性 4. 地方自治・財政の歴史 明治期 大正デモクラシー シャープ勧告 昭和 30 年代 40 年代 50 年代 70 年代以後 5. 公共支出の拡大と役割の変化 公共支出の機能 地方公共財の供給 範囲の拡大と規模の膨張 支出構造の変化 赤字 6. 地方収入 国と地方の税源配分 地方税体系 地方財源の偏在 税源の再配分 7. 地方財政調整制度 地方交付税 国庫支出金 地方譲与税 地方消費税 8. 政府間関係 国と地方の役割分担再考 事務と税の配分 諸外国における政府間関係 9. 地方債 地方債の制度 地方債の累増 地方債の償還と負担 10. 地方公営企業の現状 公営企業の経営状況 独立採算制 公営企業の財政再建 11. 地方分権と行政改革 地方分権の動き 分権委員会の「勧告案」 行政改革への取組み 12. まとめ 		

科 目 名	環境経済学	担当者名	浜 本 光 紹
-------	-------	------	---------

講義の目標	近年の環境問題の深刻化とともに、環境保全と経済活動の調和を求めて、新たな社会経済システムの構築を模索する動きがみられるようになってきている。本講義では、経済学の立場から、環境破壊が進行する要因について検討し、環境保全型社会経済システムの構築のためには、環境政策はどのように設計される必要があるのかについて考えていきたい。		
講義概要	前期は、環境経済学の理論的基礎について、とくに環境政策の設計という課題を中心に講義を行う。後期は、現実の環境政策の諸事例について検討しながら、今後の環境政策設計のあり方に関する政策的含意を導き出していく。		
使用教材	テキスト	植田和弘「環境経済学」岩波書店	
	参考文献	植田和弘「環境経済学への招待」丸善ライブラリー D.ピアス他著 / 和田憲昌訳「新しい環境経済学」ダイヤモンド社 宮本憲一「環境経済学」岩波書店 植田和弘・落合仁司・北畠佳房・寺西俊一「環境経済学」有斐閣	
評価方法	レポートの提出、および定期試験に基づいて評価する。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境経済学の課題 ・ 環境と開発 ・ 環境評価と意思決定 ・ 環境政策の目標と諸手段 <ul style="list-style-type: none"> 1. 環境政策の目標 2. 環境政策の諸手段 <ul style="list-style-type: none"> 2-1. 当事者間交渉 - コースの定理 2-2. 自発的交渉と政府介入の中間的調整機構 <ul style="list-style-type: none"> A. 自治体による調整 - 公害防止協定 B. 裁判所による調整 - 公害の私法的救済 2-3. 政府介入による調整 <ul style="list-style-type: none"> A. 直接規制 B. 経済的手段 ・ 環境資源管理 ・ 地球環境問題 <ul style="list-style-type: none"> 1. 国際環境協定 2. 貿易と環境 ・ 国際環境協力と技術移転 ・ 日本の環境政策 ・ 米国の環境政策 ・ ドイツの環境政策 ・ 気候変動 ・ 環境税 ・ 廃棄物問題 ・ 環境政策過程 ・ まとめと展望 		

科 目 名	経済地理学	担当者名	犬 井 正
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 的	<p>経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。</p>		
講 義 概 要	<p>単に講義による農業地理学の理論だけでなく、フィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各 1 回（それぞれ 4000 字程度）の小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	D. グリッグ著『農業地理学』1997年、農林統計協会	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ D. グリッグ著『西洋農業の変貌』1996年、農林統計協会 ・ 定本正芳著『農業地理学の理論』1983年、大明堂 ・ 山本正三他編著『日本の農村空間』1990年、古今書院 ・ 山本健児著『経済地理学入門』1993年、大明堂 	
評 価 方 法	<p>年間指定小論、およびフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。</p>		
学 生 へ の 要 望	<p>毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の1年間の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定する。 2. 経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。 3. 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用方法。特にセンサスデータ、地図の活用などを中心として。 4. 農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。 5. 農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。 前期小論提出 6. 農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競争を視点として考察する。 7. 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。 8. 国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。 9. 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。 10. 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。 11. 同上 12. 前期のまとめと評価。フィールドワークのレポート提出 13. 日本の農業の特色と農業地域の概観。 14. 首都圏の農業地域の構造と特色。 15. 輸送圏芸農業地域の構造と特色。 16. 米作地域の農業経営の特色と問題点。 後期小論提出 17. 農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。 18. イギリスの農業の特色と農業地域の概観。 19. イギリスのLFA地域と集約農業地域の特色を考察する。 20. イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。 21. 農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。 22. 同上 23. パネルディスカッションの実施。 24. 1年間の講義のまとめと評価。パネルディスカッションのレポート提出。
----------------------------	--

科 目 名	産業政策論	担当者名	伊 藤 正 昭
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本年度は、地域産業政策の表題のもとで講義する。これまで産業政策と地域政策は別々の研究分野として発展してきたが、本講義ではこの2つの分野を統合して、地域と産業の関係を考える場としたい。</p> <p>もともと、産業は地域に立地し、地域経済は産業なくして存立できないことを考えると、産業と地域の経済政策として統合されなければならない。こうした観点から、産業と地域のかかわりを研究しながら、その政策の理論とあり方について学ぶことをねらいとする。とくに、わが国の例を中心に産業政策の理論と現実、地域政策の実際とめざすべき方向性を明らかにすることを努めたい。</p>				
講 義 概 要	<p>本年度は、最近注目されるようになった「産業集積」をキーワードにしながら地域と産業の関係を具体的に考察する。わが国には企業が集中立地する地域が数多くみられる。これらは工業集積あるいは産業集積とよばれ、この多様な工業集積は大都市圏型工業集積、産地型集積、企業城下町型集積などに類型化される。こうした具体的な集積をイメージしながら、地域と産業の関わりを具体的に検討し、地域産業政策のあり方を探ることにしたい。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>伊藤正昭『地域産業論』学文社、1997年の改訂版（2000年に発行）</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>伊藤正昭『産業と地域の経済政策』学文社、1989年。 百瀬恵夫・伊藤正昭編著『新中小企業論』（第5版）白桃書房、1999年。 伊丹敬之・松島茂他編『産業集積の本質』有斐閣、1998年。 藤本隆宏・西口敏宏他編『サプライヤー・システム』有斐閣、1998年。 中小企業庁編『中小企業白書』（各年版）大蔵省印刷局。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	伊藤正昭『地域産業論』学文社、1997年の改訂版（2000年に発行）	参考文献	<p>伊藤正昭『産業と地域の経済政策』学文社、1989年。 百瀬恵夫・伊藤正昭編著『新中小企業論』（第5版）白桃書房、1999年。 伊丹敬之・松島茂他編『産業集積の本質』有斐閣、1998年。 藤本隆宏・西口敏宏他編『サプライヤー・システム』有斐閣、1998年。 中小企業庁編『中小企業白書』（各年版）大蔵省印刷局。</p>
テキスト	伊藤正昭『地域産業論』学文社、1997年の改訂版（2000年に発行）				
参考文献	<p>伊藤正昭『産業と地域の経済政策』学文社、1989年。 百瀬恵夫・伊藤正昭編著『新中小企業論』（第5版）白桃書房、1999年。 伊丹敬之・松島茂他編『産業集積の本質』有斐閣、1998年。 藤本隆宏・西口敏宏他編『サプライヤー・システム』有斐閣、1998年。 中小企業庁編『中小企業白書』（各年版）大蔵省印刷局。</p>				
評 価 方 法	<p>前期にレポート提出を求め、学年末に筆記試験を行って総合的に評価する。出席状況を評価ポイントの対象とすることもありうる。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>多数の参考文献を紹介するが、予習や復習の資料として十分に活用することを期待する。教科書や予備知識があれば、効率的に勉強できるということを考えてほしい。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域主義とその主張 地域産業論とは（年間講義のフレームワークの説明とガイダンス） ヴァナキュラー・ユニバーサリゼーションにおける地域主義とは何か 2. 地域社会の論理と産業の論理 閉鎖系の国民経済と開放系の企業はその形成と行動の論理にちがいがあ。この2つの論理をよく理解する必要がある。 3. 市場システムと企業および地域経済 新古典派経済学は地域経済をどのように分析するか。市場原理だけでは地域経済を十分に理解できない。エンベデッド・アプローチの新しい地域と産業の見方。 4. 産業地域分析の視点 マーシャルの産業地域論。フォーディズムからフレキシビリティへ、ネットワーク型産業地域。 5. 産業地域の形成論理 シリコン・バレー（スマート・バレー）とルート 128 は産業集積地であるが、どこが違うか。収穫増と産業の地域的集中（複雑系の経済学）。 6. 第二の産業分水嶺と柔軟な専門化 「第二の産業分水嶺」の考え方。産業地域を特徴づけるフレキシブル・スペシャリゼーションとはなにか。 7. 規模の経済と地域経済 戦後日本の地域における工業集積の形成とその態様。1950年代から60年代にかけて形成された企業城下町。 8. 産業構造の高度化と地域構造調整 1970年代の構造不況産業と地域経済の停滞のなかから地域主義があらわれ、地方の時代となった。 9. 都市化の経済とネットワーク化 都市化の経済によって1980年代の東京一極集中が進展。 10. 大都市の工業集積 東京都城南地域の中小企業による機械金属型工業集積、城東地域の工業集積の特質。機械工業のコモン・ルーツ、サポーティング・インダストリーとしての役割。 11. 都市型工業集積の変質と技術の空洞化 都市型集積の弱体化はわが国全体の技術の空洞化につながる。企業間ネットワークの危機にどのような対策があるか。 12. 地方圏における機械工業集積 長野県坂城町にみる農村型工業集積の特徴。北上流域における新たな中小企業集積の進展をどうみるか 13. 前半のまとめ 14. 企業城下町型工業集積と下請分業生産システム 企業城下町型集積はどのように形成されたか。成熟経済のもとで苦悩する企業城下町。 15. 下請分業生産体制の変容 企業城下町でよくみられる下請分業システム（企業間関係）の実態はどうなっているか。 下請生産体制を新しく発展してきた「取引コスト理論」で分析する 16. 産地型集積の社会的分業 日本各地にみられる地場産業はどのような実態をもつか。地域内で社会的分業をベースにした企業間関係がキーワード。 17. イタリアにみる発展する産業地域 「第3のイタリア」が世界的に注目される理由はなにか。イタリアの産地から日本の産地が学ぶべきこと。 18. 地域企業家精神と創業 地域の時代は、地域で企業家精神が発揮できるような産業風土を醸成することによって実現する。創業を支援するにはどうしたらよいか。 19. 地域ベンチャー・ビジネス 地域でベンチャー・ビジネスをどのように支援できるか。 20. 地域インキュベータ 企業誘致が難しい時代にあり、インキュベータによって地域のなかで新たな起業を支援する方法が注目されている。ケンブリッジ現象から、インキュベータの役割を考察する。 21. 地域からの産業政策 地域主導の個性ある地域づくりの基礎的条件はなにか。 22. 内発的地域振興の選択 地域における企業と産業の埋め込みをどのように進めることができるか。また、その条件は。 23. ローカル・エンパワーメント 地方分権時代の地域産業政策の可能性と方向性。 24. まとめ
----------------------------	--

科 目 名	産業組織論	担当者名	青 木 雅 明
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済学の 1 分野である産業組織論 (Industrial Organization) は、財貨・サービスの生産者あるいは供給者の行動とそれに影響を与える市場の構造、政府の規制について研究し、その成果を、経済政策の重要部分となった「競争政策」に応用します。</p> <p>この授業では、産業組織論の基本的考え方、手法、応用分野を学ぶことによって、現代経済の「心臓」に相当する企業活動とこれを補正する政府の正しい役割を認識してもらいます。</p>				
講 義 概 要	<p>ミクロ経済学のうち産業組織論の基礎にあたる完全競争市場の企業行動や独占・寡占市場の経済的非効率性などについて復習します。次に、公正な競争促進政策の法律である独占禁止法について解説します。14～24 回は下記のテキストにそって最近の産業組織分析の考え方、成果を講義します。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社 1998 年 (2800 円)</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> ジョセフ・E・スティグリッツ『スティグリッツ ミクロ経済学 第2版』東洋経済新報社 2000 年 滝川敏明『日米 EU の独禁法と競争政策』青林書院 1996 年 小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房 1994 年 </td> </tr> </table>	テキスト	長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社 1998 年 (2800 円)	参考文献	ジョセフ・E・スティグリッツ『スティグリッツ ミクロ経済学 第2版』東洋経済新報社 2000 年 滝川敏明『日米 EU の独禁法と競争政策』青林書院 1996 年 小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房 1994 年
テキスト	長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社 1998 年 (2800 円)				
参考文献	ジョセフ・E・スティグリッツ『スティグリッツ ミクロ経済学 第2版』東洋経済新報社 2000 年 滝川敏明『日米 EU の独禁法と競争政策』青林書院 1996 年 小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房 1994 年				
評 価 方 法	<p>毎回、「学んだことの要旨」、「理解できなかった点、質問事項」、「その他(感想、意見、気がついた点など何でもよい)」についてミニレポートの提出を求めます。このミニレポートの成果、2001 年 1 月提出の中レポートの成績、および出席、授業中の私語、遅刻、早退の状況によって評価します。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業中の私語、遅刻、早退は禁止。欠席は最小限。テキストを購入してよく読むこと。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 完全競争市場における企業行動について費用の分析の仕方を学びます。 2. 完全競争市場における企業行動について生産量の決定の仕方を学びます。 3. 完全競争市場における競争の均衡と経済的効率性について学びます。 4. 1 企業からなる独占市場やあまり多くない企業からなる不完全市場における価格と産出量の決定の仕方、市場参入障壁の存在、市場均衡を学びます。 5. 2、3 の企業だけで成り立っている寡占市場における企業行動について学びます。 6. 独占市場や不完全競争市場の非効率性とこれに対する政府の政策はどのようなものかを学びます。 7. 公正な競争促進政策の法律である独占禁止法の基本的考え方、目的と体系について学びます。 8. 独占禁止法（以下独禁法という）によるカルテルの規制、不公平な取引方法の規制について学びます。 9. 独禁法による経済力集中の規制と独禁法の運用体制について学びます。 10. 日米 EU の独禁法の違いについて学びます。 11. 産業組織分析の基本概念について学びます。 12. 企業の機能と構造について学びます。 13. ~ 14. 独占市場における企業行動とそれがもたらす経済的結果について学びます。 15. 垂直統合と垂直的制限について学びます。 16. 価格競争、数量競争などの競争の形態について学びます。 17. 市場への参入の経済効果について学びます。 18. カルテルと合併の経済的影響について学びます。 19. 情報の不完全性と企業行動との関係について学びます。 20. 生産物市場における企業の戦略的行動について学びます。 21. 技術進歩と研究開発競争、知的財産権、共同研究開発などについて学びます。 22. 貿易と直接投資の生産物市場に与える影響について学びます。 23. ~ 24. 規制と規制改革について学びます。
----------------------------	---

科 目 名	産業構造論	担当者名	山 越 徳
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化することはよく知られており、またその変化がより一層の発展・成長を促す。本講義ではそれら構造変化の主たる産業構造の変動に注目し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、それらを支える種々の経済構造、相互依存関係を考察し、高度経済成長や重化学工業化の意味を考える。そして石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化などの変動の分析を通して、新しく出てきた経済の諸問題、これまでの構造変化の指標にとってかわる指標、産業構造の捉え方をいっしょに考察していくことにする。</p>				
講 義 概 要	<p>これらの講義や議論を一層身近かものとするために、種々のデータや資料、分析結果を用いて、短期間に後進国からトップクラスの先進国へと成長した、戦後の日本経済の事例を扱いながら、進めていくことにする。また構造分析の有力な分析道具である投入・産出分析の手法や産業構造を示す労働力構造とその変化に伴う労働市場問題についても考察する。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>『産業の経済学』(経済学入門叢書・16)第2版 宮沢健一 東洋経済新報社</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>『経済成長 - 六つの講義』サイモン・クズネッツ著、長谷川亮一訳 巖松堂出版など 講義を進めていく中でその都度、紹介していく</td> </tr> </table>	テキスト	『産業の経済学』(経済学入門叢書・16)第2版 宮沢健一 東洋経済新報社	参考文献	『経済成長 - 六つの講義』サイモン・クズネッツ著、長谷川亮一訳 巖松堂出版など 講義を進めていく中でその都度、紹介していく
テキスト	『産業の経済学』(経済学入門叢書・16)第2版 宮沢健一 東洋経済新報社				
参考文献	『経済成長 - 六つの講義』サイモン・クズネッツ著、長谷川亮一訳 巖松堂出版など 講義を進めていく中でその都度、紹介していく				
評 価 方 法	<p>前期のレポート(産業および構造変化に関するもので、課題については授業の中で提示)、後期の試験により、双方の結果で評価。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>現実の経済で生じている種々の変化や問題を扱っている文献、論文、事例に関心を持つとともに、読みかつ考察してほしい。</p>				

年 間 授 業 計 画	1.	・経済成長、経済発展 経済成長とは、経済構造の変化、工業化、高度化、多様化
	2.	
	3.	・経済成長と産業構造 経済進歩の歴史過程、産業革命、三部門分類、ペティの法則、AMS分類、労働力構成と所得構成
	4.	
	5.	所得弾性、成長の弾性、時系列データとクロスセクションデータ
	6.	
	7.	・経済成長と産業構造 製造業内部の構造と発展、発展段階説、消費財と投資財、最終財と中間財
	8.	
	9.	輸入と国産化、輸入代替、生産規模、輸出指向型工業化、先進工業国と発展途上国 雁行形態、重化学工業化
	10.	
	11.	・産業連関表（投入 - 産出表）とは 製品の販路と投入、投入係数、産出係数、逆行列、中間投入、中間需要、最終需要、付加価値部門 直接および間接の生産波及、相互依存関係、産業特性、感応度係数と影響度係数
	12.	
	13.	前方連関と後方連関、投入係数の固定性と変化、商品ベースと企業ベース、輸入、輸出 スカイライン分析、貿易構造
	14.	
	15.	・産業連関表による分析 構造変化の要因分析、投入係数の変化と技術変化、資本マトリクス、雇用および産職マトリクス 生産プロセスと産業部門、部門の再配列、ブロック化、三角形化、素原材料系統の転換 工業原材料と規模、ユニットストラクチャー、規模別 I-O 表、国際 I-O 表、公害 I-O 表 国際分業
	16.	
	17.	・産業構造の新しい方向 サービス化、ソフト化、情報化、国際化、多様化、高度化、複合化、構造変化の指標 財とサービス、有形財と無形財、構造変化の流れ、投入労働と評価
	18.	
	19.	・産業内部の構造変化 ケース・スタディ 3つのオートメーション、ロボットとコンピュータ、高度経済成長期の生産技術と '80年代・'90年代の生産技術、鉄鋼、電機、時計、印刷、銀行など
	20.	
	21.	・構造変化と就業構造 労働力の需要と供給、人口構造、新規卒労働力、基幹労働力と縁辺労働力、大企業と中小企業 日本の労働市場、雇用制度、雇用慣行、労働の属性、産業と職業、雇用調整
	22.	
	23.	・日本の産業政策および産業と地域 大企業と中小企業、大都市産業、地場産業、産業集積、地域の取組み
	24.	
		経済政策、産業政策、労働政策の流れと結びつき

科 目 名	交通経済論	担当者名	岡 田 博
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 的	<p>現代の経済は高度に発達した交換経済であり、多くの経済システムの相互依存関係を通じて運営されている。交通サービスを提供する交通システムも現代の社会経済活動を支えている重要な経済システムである。</p> <p>本講義においては交通を国民経済活動との関連において捉え、国民経済において交通が果たしている機能と役割について分析を行う。交通の経済学的分析とともに現代の交通問題に対する交通政策的アプローチについても意を注ぎたい。</p>				
講 義 概 要	<p>本講義は交通を研究対象として、これに経済理論の分析用具を用いて分析を行うものである。</p> <p>講義の主な内容：交通経済論のアプローチの方法について、交通需要の特性、交通サービス供給について、交通市場の構造と特性、運賃の理論と実際、交通調整問題、交通と環境問題、交通政策等々について。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>未定、講義の最初に指示する。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>岡野行秀編『交通の経済学』有斐閣</td> </tr> </table>	テキスト	未定、講義の最初に指示する。	参考文献	岡野行秀編『交通の経済学』有斐閣
テキスト	未定、講義の最初に指示する。				
参考文献	岡野行秀編『交通の経済学』有斐閣				
評 価 方 法	<p>前期および学年末の定期試験によって評価するが、ときにレポートの提出を指示することもあり、これらを総合して評価する。</p>				
学 生 へ の 要 望	<p>授業には必ず出席して、ノートをとること。また授業で勉強したことについて、図書館で関連の書物を読み、さらに知識を深め確実なものとするを習慣化してもらいたい。</p> <p>授業中、私語は行わないこと。</p>				

年 間 授 業 計 画	前 期	
	1	交通経済論について、研究の方法、交通の概念、交通の生産物について
	2	交通需要 交通需要の特性、交通需要の弾力性について
	3	交通需要 交通需要の予測とその方法
	4	交通サービスの供給 交通サービス供給の史的概観
	5	交通サービスの供給 交通サービス供給の3要素、交通基礎施設サービスの供給形態の変化
	6	交通市場 交通市場の特性
	7	交通市場 交通市場の構造
	8	運賃理論 運送価値説
	9	運賃理論 独占運賃と差別運賃 1
	10	運賃理論 独占運賃と差別運賃 2
	11	運賃理論 運賃費用説
	12	運賃理論 限界費用運賃
		備考
	後 期	
	1	交通の社会的費用 交通の社会的費用の概念
	2	交通の社会的費用 交通の社会的費用の実態と対策
	3	交通の社会的費用 交通の社会的費用の内部化
	4	交通投資と資金調達 交通投資の経済効果
	5	交通投資と資金調達 資金調達の方法について
	6	国民経済と交通 交通の発達と経済成長、近年における GDP と輸送量の乖離とその要因
	7	国民経済と交通 交通の発達と地域開発
	8	国民経済と交通 交通の発達と生産物市場圏の変化
	9	国民経済と交通 交通システムの発達と企業形態、多頻度少量輸送の増大と問題点
	10	交通政策 交通政策の理論
	11	交通政策 交通安全政策
	12	おわりに
	備考	

科 目 名	流通経済論	担当者名	西 村 允 克
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>流通とは、財・サービスが生産者から消費者へ移転する過程で、この移転過程を分析するための論理システムの理解と現実の流通経済の理解が、本講義の目的である。流通経済論は従来流通システムとして把握され、その視点から分析がなされているが、本講義では、流通は経済システムの中心的部分を占めるから、経済学的視点から流通を把握し、経済理論との関連において流通を理解することが、本講義の最も重要な目的である。</p>		
講 義 概 要	<p>指定したテキストには、流通経済に関連する統計データが多く含まれている。講義はこれらの統計データを基礎として進められ、テキストに不十分な点をカバーしながら進行するから、テキストを読んでいることを前提としている。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	ゼミナール流通入門 田島義博編著 日本経済新聞社	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本流通新聞社編『流通現代史』 日本経済新聞社 ・日経流通新聞社編『流通経済の手引 98』 日本経済新聞社 ・(本書には、各年版があり、それぞれの年の流通問題、流通統計が説明されている) ・アクネア、メイ著 清水 猛訳『小売の輪は廻る』 有斐閣 ・林 周二著『流通』 日経文庫 ・鈴木安昭 関根 孝 矢作敏行編『マテリアル 流通と商業』 有斐閣 	
評 価 方 法	<p>{ 前期 試験 後期 試験</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>流通現象の多くは、日々受講者の生活環境のなかで生起しているものであるから、講義内容を生活体験を通じて追体験して理解を深められたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 流通経済分析の基礎理論(1) 主要な用語について 流通経済とは、流通主体、流通チャネル、流通費用、リベート、流通市場 2. 流通経済分析の基礎理論(2) 価格を中心として 3. 流通経済分析の基礎理論(3) 前回のつづき 4. 流通経済分析の基礎理論(4) 統計データの読み方を中心として 5. 小売業の変化(1) 流通革命論を中心として、 第1次流通革命、第2次流通革命 6. 小売業の変化(2) チェーン・ストアを中心として 7. 卸売業 卸売業とは、卸売業の現状 8. 百貨店 9. スーパー(1) 10. スーパー(2) 11. コンビニエンス・ストア 12. 前期のまとめ 13. 専門量販店 14. ショッピング・センター(1) 15. ショッピング・センター(2) 16. 小売商業間競争と商店街 17. 青果物と米の流通構造(1) 18. 青果物と米の流通構造(2) 19. 消費生活協同組合 20. 流通規制の問題(1) 大店舗法を中心として 21. 流通規制の問題(2) 再販売価格維持制度を中心として 22. 流通規制の問題(3) 消費者保護を中心として 23. 98年度の流通問題 96年度に発生した流通問題を取り上げ、これまでの学習成果を再確認する。 24. まとめ
----------------------------	--

科 目 名	労働経済学	担当者名	山 越 苜
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	労働経済学 (Labour Economics, The Economics of Labour) は、多くの人々が人生においてさまざまな仕事 (労働) に従事する時間・空間的次元、いいかえると「労働市場」の構造、機能、政策を分析対象とする応用経済学である。講義では現実の複雑な事象を分析するための方法を蓄積するために理論的側面に重点を置くが、できるかぎり最近の労働市場における新しい展開も併せて紹介するようにしたい。				
講 義 概 要	労働経済学は今日の応用経済学の中では、次々と新たな問題が生まれ、新しい仮説も提示されているため、最も「面白い」領域といわれている。いわば臨床医学に相当するこの分野の全体像を把握するには 1 年間の講義では十分ではないが、初歩的段階から専門文献が読めるまでの理論および実証分析のトレーニングを行いたい。そのため理論についての前提、考え方、それに基づくモデルのみならず現実の事象についても、事例や資料、データを用いて、取り上げていく。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>本講義の全体をカバーするテキストは使用しない。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>参考文献は講義でその都度、提示する。労働経済学が扱う主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献に目を通すことを勧める。</p> <p>小野 旭 『労働経済学 (第二版)』(東洋経済新報社、1995 年)</p> <p>桑原靖雄 『放送大学テキスト：労使の関係』(日本放送出版協会、1995 年)</p> <p>西川俊作 『労働市場』(日経文庫、1980 年)</p> <p>島田晴雄 『労働経済学』(岩波書店、1988 年)</p> <p>『労働白書』</p> </td> </tr> </table>	テキスト	本講義の全体をカバーするテキストは使用しない。	参考文献	<p>参考文献は講義でその都度、提示する。労働経済学が扱う主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献に目を通すことを勧める。</p> <p>小野 旭 『労働経済学 (第二版)』(東洋経済新報社、1995 年)</p> <p>桑原靖雄 『放送大学テキスト：労使の関係』(日本放送出版協会、1995 年)</p> <p>西川俊作 『労働市場』(日経文庫、1980 年)</p> <p>島田晴雄 『労働経済学』(岩波書店、1988 年)</p> <p>『労働白書』</p>
テキスト	本講義の全体をカバーするテキストは使用しない。				
参考文献	<p>参考文献は講義でその都度、提示する。労働経済学が扱う主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献に目を通すことを勧める。</p> <p>小野 旭 『労働経済学 (第二版)』(東洋経済新報社、1995 年)</p> <p>桑原靖雄 『放送大学テキスト：労使の関係』(日本放送出版協会、1995 年)</p> <p>西川俊作 『労働市場』(日経文庫、1980 年)</p> <p>島田晴雄 『労働経済学』(岩波書店、1988 年)</p> <p>『労働白書』</p>				
評 価 方 法	前期試験にかわるレポート (課題は講義にて提示) と後期試験による。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	講義ではできうるかぎり、グラフィックな提示などを通して、平易な解説に努めるが、受講生にも参考文献を読み、問題に取り組む積極的な姿勢を期待したい。社会政策、産業構造論など関連講義の受講を勧めたい。				

年 間 授 業 計 画	<p>講義予定（講義の進行は受講生の理解度を見て調整）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 労働経済とは <ul style="list-style-type: none"> 研究対象、商品と労働、分析方法、最近の雇用情勢 1年間のプログラム 2. 労働とは <ul style="list-style-type: none"> 経済学と労働、労働力の概念、定義、用語 経済主体、労働力の属性、産業と職業、分類 3. 労働統計とその見方 <ul style="list-style-type: none"> 人口統計と労働統計、理論と調査、調査方式、賃金、労働時間、労働条件など、諸統計における労働 4. 労働市場の理論 <ul style="list-style-type: none"> 学問的系譜、新古典派の労働市場理論 労働の供給と需要、ケインズの雇用理論 5. 労働供給の理論 <ul style="list-style-type: none"> 供給主体、個人と家計、所得と余暇選好の理論、供給曲線、有沢 = ダグラスの法則、就業形態、労働時間と余暇、労働時間短縮 6. 労働需要の理論 <ul style="list-style-type: none"> 生産の派生需要、需要主体、需要曲線、限界生産力命題、生産関数、技術変化 7. 労働市場の構造と機能 <ul style="list-style-type: none"> 労働市場における需給調整、景気動向と雇用、失業、雇用調整、調整速度、制度的対応、企業内対応、労働市場の分断化、充足率と失業率 8. 日本の労働市場 <ul style="list-style-type: none"> 戦後日本の雇用の推移、安定雇用と雇用調整、基幹労働力と縁辺労働力、都市と農村、経済成長と労働供給、労働力供給源の変遷、日本の労働市場のモデル、二重構造、外部市場と内部市場、職業別労働力 9. 新規学卒労働力 <ul style="list-style-type: none"> 新規学卒就業者の推移、（学歴別、性別、産業別、職業別）、地域間労働市場、集団就職、職安法 10. 性別年齢別労働力 <ul style="list-style-type: none"> 高齢化、少子化、経済成長と産業構造、産業と職業、成長分野と衰退分野、性別年齢構成の推移、性・年齢と雇用調整、労働力のコーホート、年齢による参入制限 11. 労働市場のコーホート分析 <ul style="list-style-type: none"> コーホート別労働力増減状況、性別増減パターン、分野別労働力確保状況、退出状況、中途採用、定年制、就業可能年齢と引退曲線、コーホート別部門シェア 12. 年齢と勤続のコーホート分析 <ul style="list-style-type: none"> 年齢と勤続、日本的雇用慣行、年功制、長期雇用、大企業と中小企業、学歴と性別、ホワイトカラーとブルーカラー、大卒の市場 13. 採用状況からみた労働市場 <ul style="list-style-type: none"> 大企業と中小企業、ホワイトカラーとブルーカラー、性別、石油ショック以前と以降、若年労働力の比重、競合関係、バブル期の労働力不足 14. 情報化、国際化と労働市場 <ul style="list-style-type: none"> 海外直接投資、空洞化、国際労働力移動、外国人労働力、ソフト化、サービス化、人材育成、モノ、カネの移動とヒトの移動、仕事の変化 15. 雇用見通しと労働市場の将来 <ul style="list-style-type: none"> 産業別、職業別、性・年齢別雇用見通し、人口構造、諸政策との関係
----------------------------	--

科 目 名	経営学原理(済)(営)	担当者名	河 野 重 榮
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経営学の各専門科目を研究してゆくための基礎づくりが、この科目の狙いである。経営学の研究対象である「経営とは何か」を理解し、経営学の考え方 原理の実際への適用について学ぶ。現代において、政治、経済、社会、文化一般、環境.....などを考えるにさいして、「経営」問題の理解なしに、問題解決に達しない。経営学の最近の研究成果を熟知することによって、「経営とは何か」が、一層明らかになるであろう。</p>		
講 義 概 要	<p>はじめに、経営の研究対象である「経営」の把握の仕方、経営学の方法について、また、経営の所有形態(企業形態、企業グループ、非営利事業体など)と制度的環境(支配集団、利害関係集団など)について述べる。 ついで、トップ・マネジメントのあり方について論じ、 それとの関連で日本的経営の特質と経営の国際化に言及する。</p> <p>管理問題に関しては マネジメントの生成と発展を、人・組織・システムにおいて考え、マネジメント・プロセスをめぐって、環境適応、組織の活性化、人材の育成に關説し、最後に、経営戦略と経営問題の今日的課題を取り上げる。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版	
	参 考 文 献	河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館	
評 価 方 法	<p>成績評価は前期後期 2 回の定期試験の結果による。出題形式は前期後期それぞれの最終授業で説明する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>大学の講義は一年間を通じて課題の全体像を説明しようとするものであるから、講義への出席を前提とすることはいうまでもない。講義に出席しキチンと講義ノートをとること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学を学ぶ姿勢・方法について 2. 組織・制度・職能 3. ドイツ経営学とアメリカ経営学 4. 企業形態と株式会社 5. 企業グループと非営利事業体 6. 経営者支配、利害者集団、コーポレート・ガバナンス 7. トップ・マネジメント論 8. 企業家精神、社会的責任、経営理念 9. 最高経営責任者の役割 10. 日本の経営へのマネジメントの導入 11. 日本的意思決定システム 12. 国際化と経営文化 13. マネジメントの生成と発展 14. マニュアルと流れ作業 15. マネジメント・サイクルと人間問題 16. 管理原則論と組織の編成原理 17. 人間関係論と戦場士気 18. マネジメント・プロセス 19. 管理過程論への挑戦 20. 管理システムと環境適応 21. 組織の活性化と動機づけ 22. 人材の育成と活用（人間資源管理） 23. 経営戦略と競争優位 24. 経営問題の今日的課題
----------------------------	--

科 目 名	経営学原理（営）	担当者名	富 田 忠 義
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現代社会では、企業はわれわれの日常生活のさまざまな局面で大きな影響を及ぼしている ので、企業とその経営に対して無関心ではいられない。われわれにとって「企業」とはいつ たい何か。その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。 経営学科に入学してきた学生の多くが一度はこのような疑問を抱いたことがあるであろう。 本講義は、この種の疑問に現代経営学の最新の研究成果を平易に概説することによって、正 面から答えようとするものである。</p>				
講 義 概 要	<p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。 まず経営学がいかなる学問であるかを全体的に把握するために、この学の研究対象と研究方 法について考察する。次に、今世紀のはじめに欧米で生まれたとされる現代経営学の生成と 発展を、主要学説の紹介を通して概観する。以下、個別のテーマに入る。</p> <p>個別のテーマとしては、経営者・管理者の機能と役割、経営管理の技法、組織の目的と理 念、経営文化と日本的経営などについて順次考察する。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td> <p>河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏編著『経営学原理』学文社</p> </td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> <p>金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典（第3版）』有斐閣 車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 森本三男著『経営学入門（増補版）』同文館</p> </td> </tr> </table>	テ キ ス ト	<p>河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏編著『経営学原理』学文社</p>	参 考 文 献	<p>金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典（第3版）』有斐閣 車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 森本三男著『経営学入門（増補版）』同文館</p>
テ キ ス ト	<p>河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏編著『経営学原理』学文社</p>				
参 考 文 献	<p>金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典（第3版）』有斐閣 車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 森本三男著『経営学入門（増補版）』同文館</p>				
評 価 方 法	<p>期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。 定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込み無し。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというのではないの で、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 年間講義計画の概要 2. (経営学方法論) 経営学の対象と方法 3. 同上 4. (経営管理学説史) 現代経営学の生成と発展 5. 同上 6. 同上 7. (マネジメント技法論) マネジメント・プロセス 8. 同上 9. 同上 10. (経営組織論) 経営組織の設計と活性化 11. 同上 12. 同上 13. (現代経営者論) 現代的経営体と経営者 14. 同上 15. 同上 16. (経営理念論) 現代企業の目的と理念 17. 同上 18. 同上 19. (経営文化論) 経営文化、企業文化 20. 同上 21. (日本的経営論) 経営の国際比較と日本の経営 22. 同上 23. (人間資源管理論) 人材の育成と活用 24. 年間講義のまとめ
----------------------------	---

科 目 名	企 業 論	担当者名	内 田 金 生
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>企業はどのような歩みをたどりながら発展してきたのか。その過程において企業はどのような問題に直面し、それを克服してきたのか。その結果、どのような特徴をもつ企業システムが内外に形成され、それが今日どのような問題を内在しているのか。こうした企業の発展と19世紀的・20世紀的な企業観とを整理した上で、日本企業の事例を検討し、現実の企業を見る目を養っていくことが、本講義の目的である。</p>		
講 義 概 要	<p>前期講義において、企業活動の諸側面と企業観を歴史的かつ理論的に考察する。後期講義は、それをふまえて、今日の日本企業がかかえている基本的諸問題を実際のケースを紹介しながら検討していく。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に定めない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に適宜紹介していく。 ・『日経ビジネス』（年間購読50冊、学割1万5千円）を定期購読していることが望ましい。 	
評 価 方 法	<p>年2回以上のレポート提出とその口頭試問ならびに定期試験（論述問題・免除の場合あり）によって評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義に関する連絡事項やレポートの提出などは、講義担当者のHPや電子メールを使うことになる。パソコンを購入する必要はないが、学校の設備を利用するなどして、各人が対応すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（講義の進め方など） 2. 経営学と企業論 3. 企業の基本的機能 4. 株式会社の機関と制度 5. 大企業体制の成立 6. 所有と経営の分離 7. 企業と官僚制 8. 組織としての企業 9. 多国籍企業 10. グローバリゼーション 11. 企業の社会的責任 12. 前期講義のまとめ 13. 日本的企業システムの独自性と普遍性 14. 「日本的経営」の生成と展開 15. 「イエ」としての日本企業 16. 日本的株式会社制度のもとでの株主と取締役会 17. 持株会社制度の導入 18. 取締役会の改革と執行役員制度 19. 企業集団・系列に見られる日本的企業間関係 20. 日本的生産システム 21. スーパーサプライヤーシステム 22. 日本企業の経営理念 23. 日本企業の社会的貢献 24. 後期講義のまとめ
----------------------------	--

科 目 名	会 計 学	担当者名	内 倉 滋
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>企業会計もまた 1 つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粹形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、簿記原理という構文論の知識を前提に、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものであり、その後展開される会計学における「語用論」(= 経営分析論等の応用・専門学科目) への 1 つの橋渡しとなるものである。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義は会計という言語の意味論だと上で述べたが、そのことの意味は、たとえば「簿記原理」が「資産」を「所有する財貨および債権の総称」と説明するだけであるのに対し、そのどちらでもない「資産」が存在することを指摘した上で、“では資産の本質は何か？”といった問題を考察していく講義だ、ということである。ただし本講義では、その解決のための拠り所を、「企業会計原則」およびその解釈論に限定することとしたい。したがって本講義は、表面的には「企業会計原則」の解釈論を展開していくという形をとることとなるが、そのこと自体が目的なのではないことを忘れないでほしい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	未定。	
	参 考 文 献	図書館に複数冊あるものを中心に、後日紹介します。	
評 価 方 法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また(受講生の理解度を知る目的からも)何回か小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎回、「私は以上のように考えますが、皆さん方はどうですか」と問いかけて終わることにしています。それに応えてくれることが、本当に価値のあることだと思っております。</p>		

1. 本講義の目的.....目的 = 「制度会計」とそれを支える理論の研究、3つの制度会計、「企業会計原則」(以下「原則」と略す) それを支える理論
2. 会計学の歴史.....欧米(複式簿記の起源、会計学の成立、ドイツの動態論、アメリカ会計学) 我が国(明治6年の出発点、戦前、戦後)
3. 戦後の制度会計の変遷と「原則」.....「原則」の設定(設定目的、性質、期待された機能) 3つの制度会計による「原則」の採り入れ(証券取引法、商法、法人税法)
4. 「原則」の全体像と「一般原則」の体系.....「原則」の特徴(会計担当者に対する行為の指針の存在、具体的な処理ルールの財務諸表別規定)「一般原則」の体系
5. 「一般原則」の第1原則.....企業会計の目的観(静態論、動態論) 第1原則の目的観(“経営成績”に力点)「真実」性を要求(2つの真実性、達成可能性)
6. 「一般原則」の第2原則.....「正規の簿記の原則」に従えとの要請(第2原則自体「正規の簿記の原則」)「正規の簿記の原則」とは(通説、少数説)
7. 「一般原則」の第3原則.....「正規の簿記の原則」の「少数説」に立った位置付け、第3原則の要請内容(前段、後段[「特に」の意味])
8. 「一般原則」の第4原則.....3つの要請内容、「必要な会計事実」(重要な会計方針の開示、重要な後発事象の開示)「重要性の原則」と第2・第4原則
9. 「一般原則」の第5原則.....要請内容(会計方針の継続性、「正当な理由」による変更の容認)本原則の意義(相対的真実性との関係、代替ルールの無い場合)
10. 「一般原則」の第6原則.....意味(静態論時代の意義、意思決定のルールとしての現在の解釈)「原則」の文理解釈、過度の保守主義
11. 「一般原則」の第7原則.....2つの要請内容、「原則」は「実質的単一性」を要請してるとの解釈、そのうちの「相対的単一性」を要請してるとの解釈
12. 収益・費用の“計上額”についての基本ルール.....計上額の基本 = 収支額、損益計算書原則 1A 前段との関係、無償で固定資産を取得した時の処理(公正評価説、圧縮記帳)
13. 収益・費用の“認識(計上のタイミング)”の基本ルール.....費用 = 「発生」時点(発生主義の原則) 収益 = 「実現」時点(実現主義の原則)「実現」の要件
14. 実現主義の原則の位置付け.....収益認識の基本ルールとの立場、代替的ルールとの立場、「原則」も代替的ルールと考えてるとの解釈の可能性、国際会計基準の立場
15. 実現主義の原則の適用.....「原則」〔注6〕の規定(特殊な販売契約への適用)〔注7〕の規定(長期の請負工事への適用・非適用)
16. 実現主義の原則の適用に関する演習.....試用販売、委託販売、割賦販売等
17. 実現主義の原則の適用に関する小テスト
18. 固定資産の費用の認識.....費用認識の基本 = 「発生」、減価償却手続きの解釈、税法が残存価額を取得価額の10%と規定していることの意義
19. 棚卸資産の費用の認識.....基本、「小売棚卸法」という特殊な方法についての各論
20. 収益・費用対応の原則.....必要性、費用を「対応」させる2手続き(「引当金」による見越し、発生費用の繰延べ) 引当金(「原則」の態度、租税法の態度)
21. 発生費用の繰延べ.....その手続きの意義、繰延資産(種類、その後の費用化)、開発費・試験研究費についての各論(我が国の商法と国際会計基準との違い等)
22. 動的な貸借対照表観.....基本、支出と費用間のずれによる貸借対照表項目、収入と収益間のずれによる項目、収入と支出間の「ずれ」、貸借対照表シエーマ
23. 財務諸表の形式面のルール.....損益計算書について(総額主義、源泉別分類と対応表示)、貸借対照表について(貸借対照表の「区分」と各科目の「分類」等)
24. 連結財務諸表.....その作成目的、作成手続き、我が国の基準と国際会計基準等との違い

科 目 名	応用統計学	担当者名	本 田 勝
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	この講義では「統計学」で学んだ 1 変量統計学の知識をもとにして、多変量統計解析の考え方を習得する。		
講 義 概 要	多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを用いて、その背後にある総合特性を探り、判断あるいは評価の道具に利用することである。この解析にはコンピュータの利用が不可欠であり、本講義でも Excel や SAS などのプログラムパッケージを使用する。		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参考文献	田中 豊、脇本和昌著「多変量統計解析法」(現代数学社) そのほか講義時にそのつど指示する。	
評 価 方 法	各テーマ毎に課すレポートと毎回の出席調査による総合評価を行う。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>「統計学」および「情報処理概論」を既習であること。講義の中ではこれらの科目の内容は既存の知識として進めていくので、自身の力を認識して履修すること。特に、コンピュータ操作に関してはアシスタントはいない。</p> <p>また毎回の出席は重視するので、いい加減な気持ちで登録しないこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多変量解析とは何かについての概観を行う。 2. 統計学の基本事項についての復習をする。(平均、分散、共分散、相関係数、散布図) 3. 統計学の基本事項についての復習をする。(確率の分布、正規分布、標準化) 4. 行列および行列式についての復習をする。(行列、行列式、連立方程式の解法) 5. 行列および行列式についての復習をする。(固有値、固有ベクトル) 6. 単回帰分析について述べる。(説明変数、従属変数、最小2乗法) 7. 単回帰係数の評価方法について述べる。(残差、標準回帰係数、重相関係数) 8. 実例データを各自用意し、分析プログラムを用いて演習を行う。 (分散分析表の見方、決定係数) 9. 重回帰分析への拡張を行う。(係数の推定と検定) 10. 実例データを用いて重回帰分析の演習をおこなう。(データの収集) 11. 重回帰分析演習(結果の解釈) 12. 回帰分析における変数選択の方法について述べる。 13. 2変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。 (幾何学的解釈、係数の重み、主成分) 14. P変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。 (ラグランジェ未定係数法、固有値、固有ベクトル) 15. 実例データをもちいて主成分分析にかける。主成分の解釈のし方について述べる。 (寄与率、累積寄与率) 16. 各自データを収集し、主成分分析の演習を行う。(データの収集と入力) 17. 分析結果の解釈および検討。 18. 2変量判別分析の考え方とその数式化を行う。 (線形判別関数、マハラノビスの汎距離、誤判別率) 19. 実例データを用いて2変量判別分析の演習を行う。 20. P変量判別分析の数式化を行う。 21. 実例データを用いてP変量判別分析の演習を行い、分析結果の解釈をする。 22. 各自データを収集し、判別分析の演習を行う。(データの収集と入力) 23. 分析結果の解釈および検討。 24. クラスタ分析とはどのような方法かについて、分析の考え方を述べる。 (クラスタ、デンドログラム、類似度の尺度)
----------------------------	---

科 目 名	標本調査論	担当者名	松 井 敬
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>新聞、TV などのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。そして多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われている。実際にある個人が調査の対象となることは極めて少ないにもかかわらず - である。この点に疑問や違和感を持つ人は多いのではないだろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査における問題点を整理してゆきたい。</p>				
講 義 概 要	<p>本講義は目標のところでも述べたことを念頭において出発する。調査の歴史の中には数多くの失敗があり、そんな中から調査の理論が確立されてきている。そこで、まず標本調査とはどんなことかを考えたい。次に、現在行われている様々な抽出法について、その由来、推定の方法、誤差の評価、抽出法相互間の比較などを取り扱ってゆく。応用例やコンピュータによるシミュレーションの結果をできるだけ取り入れ、理解の助けとしたい。</p> <p>なお、模擬母集団からの手作業による抽出作業を通して、色々な抽出法の意味と違いが分かるようにしてゆきたい。数値計算の作業を厭わないことが必要である。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td> <p>松井敬 「標本調査論」 内田老鶴園 他にプリントを適宜配布する。なお、インターネット上に教材その他を展開している。</p> </td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> <p>抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran "Sampling Techniques", Wiley & Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott "Elementary Survey Sampling", PWS-Kent Pub. Co. が分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては 浅井昇「調査の技術」、日科技連；林、多賀「調査とサンプリング」、同文書院；辻、有馬「アンケート調査の方法」、朝倉書店など。</p> </td> </tr> </table>	テ キ ス ト	<p>松井敬 「標本調査論」 内田老鶴園 他にプリントを適宜配布する。なお、インターネット上に教材その他を展開している。</p>	参 考 文 献	<p>抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran "Sampling Techniques", Wiley & Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott "Elementary Survey Sampling", PWS-Kent Pub. Co. が分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては 浅井昇「調査の技術」、日科技連；林、多賀「調査とサンプリング」、同文書院；辻、有馬「アンケート調査の方法」、朝倉書店など。</p>
テ キ ス ト	<p>松井敬 「標本調査論」 内田老鶴園 他にプリントを適宜配布する。なお、インターネット上に教材その他を展開している。</p>				
参 考 文 献	<p>抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran "Sampling Techniques", Wiley & Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott "Elementary Survey Sampling", PWS-Kent Pub. Co. が分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては 浅井昇「調査の技術」、日科技連；林、多賀「調査とサンプリング」、同文書院；辻、有馬「アンケート調査の方法」、朝倉書店など。</p>				
評 価 方 法	<p>前・後期二回のレポート、抽出法毎に行なう演習への貢献度、講義への出席によって評価する。</p> <p>出席の少ない学生については 仮にレポートを提出しても 評価しない。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>統計的な基本概念もあわせ補充するが、統計学を既習ないし並行履修が望ましい。上で述べたように演習などのこともあり、出席は厳しく評価したい。</p>				

年 間 授 業 計 画	<p>1. 標本調査とは - 1 : (1) 標本調査とはどんなことか 幾つかの具体例を通し、調査の意味や方法、問題点などについて考えてみる。(2) 本講義をどう進めるか 方針と受講生への要請。</p> <p>2. 標本調査とは - 2 : (1) 標本調査とはどういうことか、良いサンプルとは何か、よいサンプルを得るための試み。(2) 有意抽出法 典型法、割当法など調査法とその歴史。無作為抽出法。</p> <p>3. 標本(サンプル) 母集団 : (1) 良いサンプルの条件、それを得るための方法。母集団と標本(サンプル)。(2) 母集団特性値 平均、総計、比率。母集団の分散、標本との関係。</p> <p>4. 単純無作為抽出法 - 1 : (1) 復元抽出法、非復元抽出法 意味と方法。(2) 乱数 性質と使い方。(3) 単純無作為標本の作り方。</p> <p>5. 単純無作為抽出法 - 2 : (1) 単純無作為抽出法の例、推定量。(2) 標本分布の概念 標本平均、標本中央値などの分布。(3) 推定量の特性。</p> <p>6. 標準誤差 - 1 : (1) 推定量の分散、標準誤差。(2) 母平均と母集団総計の推定量。(3) 標本平均と標本総計の分散とその意味、その推定量。(4) 有限母集団補正。</p> <p>7. 標準誤差 - 2 : (1) 標準誤差の意味。(2) 推定量の精度(誤差)、推定量の相互比較(効率)。(3) 母集団比率の推定。</p> <p>8. 標本の大きさ : 単純無作為抽出法で標本の大きさを決めるにはどうするか。</p> <p>9. 層化無作為抽出法 - 1 : どんな抽出法か、層化抽出法における要点(どんな点が問題となるか) 構造模型。</p> <p>10. 層化無作為抽出法 - 2 : (1) サンプルの配分、推定量とその分散。(2) 比例配分と最適配分。(3) 単純無作為抽出法との比較。</p> <p>11. 層化無作為抽出法 - 3 : 層の作り方、層の数。</p> <p>12. 層化無作為抽出法 - 4 : (1) 調査項目が複数個の場合の取り扱い。(2) サンプルの大きさの決定。</p> <p>13. 系統抽出法 - 1 : 意味と方法。推定量、その分散。</p> <p>14. 系統抽出法 - 2 : 系統抽出法が有効な場合。抽出法の例。</p> <p>15. 比推定と回帰推定 - 1 : 比推定の考え方と実際。抽出法の例。</p> <p>16. 比推定と回帰推定 - 2 : 回帰推定の考え方と実際。抽出法の例。</p> <p>17. 抽出確率を変えた抽出法 : 抽出単位を選出する確率が等しくない場合の考察 究極の抽出法は?</p> <p>18. 1段集落(クラスター)抽出法 - 1 : (1) なぜ集落抽出法を考えるか その方法。(2) 1段目を等確率抽出した場合。(3) 幾つかの推定量 それぞれの特徴と比較。(4) 抽出法の例。</p> <p>19. 1段集落(クラスター)抽出法 - 2 : (1) 例を通して問題点の整理。(2) 1段目を確率比例抽出などで抽出した場合。(3) 比率の場合。</p> <p>20. 2段集落(クラスター)抽出法 - 1 : (1) 2段集落抽出法の考え方、推定量その他の抽出法にかかわる問題点の整理。(2) 構造模型。クラスターの大きさが等しい場合と異なる場合。推定量と抽出法との関係。</p> <p>21. 2段集落(クラスター)抽出法 - 2 : 一般の場合の説明、1段目の抽出が等確率の場合。抽出法の例。</p> <p>22. 2段集落(クラスター)抽出法 - 3 : 一般の場合、第2段目の抽出が確率比例抽出などによる場合。抽出法の例。</p> <p>23. 抽出法再考 : (1) 講義で扱った様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。(2) 標本調査における問題 標本調査の実際に関わる諸問題。</p> <p>24. 標本調査 : Q & A、まとめ。課題。</p>
----------------------------	--

科 目 名	データベース論	担当者名	高 柳 敏 子
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>初めに、ファイルシステムの欠点を改善するために経験的に開発・改良されてきたデータベースの歴史を概観する。続いて、E. F. Codd によって提案され、現在汎用機からパソコンまで多くの専用ソフトが作られ使われている、関係データベースの基礎から構築および検索の実際までを、パソコンを使って示しつつ学習する。</p> <p>関係データベースの特徴である関係代数による数学的な理論付け、二次元の関係表で示される単純なデータ構造、定義および操作のための専用言語 (SQL) 等については実際にデータベースを取り扱いながら理解していく。</p>				
講 義 概 要	<p>前期は、初めにデータベースの歴史を概観する。続いて、表計算ソフト (MS・Excel) のデータベース機能を使って、最も単純な関係データベースの概要を理解する。さらにデータベースを利用するという観点から、図書館の検索等インターネット上で利用できる情報検索を紹介し、実際にそれらを利用した情報収集を試みる。</p> <p>後期は、初めに関係データベースの特徴である関係代数による数学的な理論付け、二次元の関係表で示される単純なデータ構造、定義および操作のための専用言語 (SQL) 等について概説する。続いて関係データベース専用ソフト (MS・Access) を使って実際にデータベースを構築し操作しながら、上記関係データベースの特徴を学習する。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>前田・松山・渋谷・和高・高柳・石田著「情報処理と Windows」共立出版、1998</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ D. M. クロエンケ著、栗原潔訳「データベース処理」基礎・設計・実装、ブレンティスホール・トッパン、1996 ・ C. D. Date 著、芝野・岸本訳「標準 SQL」情報科学シリーズ・9、アジソンウェスレイ・トッパン、1995 ・ 穂積・堀内・溝口・鈴木・芝野共著「データベース標準用語辞典」オーム社、1991 </td> </tr> </table>	テキスト	前田・松山・渋谷・和高・高柳・石田著「情報処理と Windows」共立出版、1998	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ D. M. クロエンケ著、栗原潔訳「データベース処理」基礎・設計・実装、ブレンティスホール・トッパン、1996 ・ C. D. Date 著、芝野・岸本訳「標準 SQL」情報科学シリーズ・9、アジソンウェスレイ・トッパン、1995 ・ 穂積・堀内・溝口・鈴木・芝野共著「データベース標準用語辞典」オーム社、1991
テキスト	前田・松山・渋谷・和高・高柳・石田著「情報処理と Windows」共立出版、1998				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ D. M. クロエンケ著、栗原潔訳「データベース処理」基礎・設計・実装、ブレンティスホール・トッパン、1996 ・ C. D. Date 著、芝野・岸本訳「標準 SQL」情報科学シリーズ・9、アジソンウェスレイ・トッパン、1995 ・ 穂積・堀内・溝口・鈴木・芝野共著「データベース標準用語辞典」オーム社、1991 				
評 価 方 法	前・後期の定期試験と、前・後期各 3 回程度のレポートを加味して評価する。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	MS・Windows の基礎、MS・Word および、特に MS・Excel の扱いについて十分に理解していること。また欠席をしないこと。				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースとは(1) データベース外観 2. データベースとは(2) ファイルシステムからデータベースへ データベースの3つの観点(内容的、技術的、理論的) 3. データベースとは(3) データベースの歴史、階層データベース、ネットワークデータベース 4. データベースとは(4) 関係データベースと次世代データベース 5. データベースとは(5) データベースの三層スキーマ構造とデータベース管理システム 6. MS - Excel によるデータベースの実際(1) レコード、項目、キー、フィールド 7. MS - Excel によるデータベースの実際(2) レコードの分類と集計 8. MS - Excel によるデータベースの実際(3) レコードの検索 9. MS - Excel によるデータベースの実際(4) 検索の条件設定およびデータベース関数 10. MS - Excel によるデータベースの実際(5) クロス集計 11. データベースの利用(1) インターネットと文献検索 12. データベースの利用(2) インターネットのサーチエンジン 13. 関係データベース(1) 関係データモデル、タプル、アトリビュート、ドメイン、主キー 14. 関係データベース(2) 関数依存性、関係の正規化 15. 関係データベース(3) 関係代数と演算：和、差、積、直積、選択、射影、結合、分割 16. MS - Access による関係データベースの実際(1) MS - Excel の表の正規化と MS - Access へのインポート 17. MS - Access による関係データベースの実際(2) テーブルデザインの確認と主キーの設定、関係間の関連付け 18. MS - Access による関係データベースの実際(3) クエリーの表現：QBE と SQL 19. 関係データベース(4) データベース言語：標準 SQL 20. 関係データベース(5) 標準 SQL のデータベース操作(1)：検索処理 21. 関係データベース(6) 標準 SQL のデータベース操作(2)：更新処理 22. MS - Access による関係データベースの実際(4) MS - Access の SQL による検索処理 23. MS - Access による関係データベースの実際(5) MS - Access の SQL による更新処理 24. 関係データベース(7) 標準 SQL のデータベース定義
----------------------------	---

科 目 名	コンピュータシミュレーション論	担当者名	富 田 幸 弘
-------	-----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>情報処理の応用コースとして開設されており、経営科学を学ぶための基本的な考え方と分析方法を学ぶと共に、コンピュータを利用したシミュレーションの技法についても学ぶ。また、コンピュータのより高度な利用法についても体験学習することを目標としている。</p>												
講 義 概 要	<p>出来るだけ具体的な例を示しながら進め、情報処理のためのコンピュータの利用についても講義する。</p> <table border="0"> <tr> <td>(1)経営科学の必要性</td> <td>(6)待ち行列</td> </tr> <tr> <td>(2)シミュレーション</td> <td>(7)コンピュータ・シミュレーション</td> </tr> <tr> <td>(3)時系列分析と需要予測</td> <td>(8)価格と生産戦略</td> </tr> <tr> <td>(4)在庫管理</td> <td>(9)マネジメント・ゲーム</td> </tr> <tr> <td>(5)日程計画</td> <td>(10)ビジネス・ゲーム</td> </tr> </table>			(1)経営科学の必要性	(6)待ち行列	(2)シミュレーション	(7)コンピュータ・シミュレーション	(3)時系列分析と需要予測	(8)価格と生産戦略	(4)在庫管理	(9)マネジメント・ゲーム	(5)日程計画	(10)ビジネス・ゲーム
(1)経営科学の必要性	(6)待ち行列												
(2)シミュレーション	(7)コンピュータ・シミュレーション												
(3)時系列分析と需要予測	(8)価格と生産戦略												
(4)在庫管理	(9)マネジメント・ゲーム												
(5)日程計画	(10)ビジネス・ゲーム												
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>毎回プリント等を配布する。</p>											
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ パソコンの使用レベルに合わせ、講義に先立って紹介する。 ・ レポート作成時の参考文献は、その時紹介する。 											
評 価 方 法	<p>前期・後期の数回のレポート提出および出席状況等により評価する。</p>												
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>第1回講義に必ず出席すること。 プログラミング論を既修しているか、または併行履修することが望ましい。</p>												

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の講義内容と評価について 2. 経営科学の利用例 3. コンピュータ・シミュレーションとは 4. 統計データの整理 度数分布表、平均値、標準偏差 5. 統計的推定と検定 区間推定、仮説検定 6. 乱数の発生法 合同法、最大周期 7. 乱数の検定 適合度検定、無相関検定 8. 乱数を用いたシミュレーション例 9. 時系列分析と需要予測 移動平均法、回帰直線 10. 需要予測シミュレーション 11. 在庫管理 種類と費用、発注と最適在庫 12. 在庫管理シミュレーション 13. 日程計画 PERT、クリティカル・パス 14. 日程計画シミュレーション 15. 待ち行列 待ち行列の基本構造、問題分析 16. 待ち行列シミュレーション 17. 価格戦略ゲーム 18. 生産戦略ゲーム 19. 販売戦略ゲーム 20. ビジネス・ゲーム(1) 作成手順、市場構造 21. ビジネス・ゲーム(2) モデルの作成 22. ビジネス・ゲーム(3) 競争力の決定構造 23. ビジネス・ゲーム(4) 市場調査、経営分析 24. 今年度の講義のまとめ
----------------------------	---

科 目 名	マルチメディア論	担当者名	立 田 ル ミ
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現在どのようなマルチメディアのためのソフトウェアが利用され、マルチメディア対応のプログラムを作成するためにはどのような手順が必要かを理解することを目的とする。そのために、いくつかのソフトウェアを中心に講義とデモンストレーションを行う。また、ネットワークを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、またマルチメディアがネットワークでどのように利用されているかを紹介する。最新のマルチメディアの動向を紹介することを目的として講義・デモンストレーションを行う。</p>		
講 義 概 要	<p>マルチメディアシステムがどのようなものかを、ネットワーク上などで実例を挙げながら講義する。また画像作成のためのソフトウェアについていくつかを取り上げて、その機能について講義とデモンストレーションを行う。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアについて講義し、それらのいくつかについてデモンストレーションを行う。また、3Dやビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて例をとりあげながら講義し、実際に作成されたものについてデモンストレーションとビデオ提示を行う。これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーションを行う。</p>		
使 用 教 材	テキスト	立田ルミ “教育システム情報と Visual Basic “ 朝倉書店	
	参 考 文 献	立田ルミ “コンピュータとネットワークによる情報活用 ” 朝倉書店	
評 価 方 法	<p>前期 1 回、後期 1 回の試験を行い、それを各 40%の評価とする。 また、前期と後期にレポートを提出してもらい、それを 20%の評価とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>プログラミング論および情報処理概論を履修したか、現在履修の学生に限る。コンピュータの操作については特に説明しないので、コンピュータの基礎的知識のある学生を前提として講義を行う。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. マルチメディアの基礎：マルチメディアとは何か、マルチメディアで使う用語、マルチメディアの利用とは何か、どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要か 2. オペレーティングシステム環境：Windows、Macintosh、OS/2、WindowsNT、Unix テキスト編集ソフトウェア：ワードプロセッサ、変換ソフト、データベース 3. Visual Basic の概要について、コントロールの利用 4. Visual Basic でテキストを扱う - 1 5. Visual Basic でテキストを扱う - 2 6. Visual Basic で静止画を扱う - 1 7. Visual Basic で静止画を扱う - 2 8. 静止画の作成 - ペイント 9. 静止画作成ソフト：ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト、画像作成のためのチップ 10. 静止画像作成実演：大学にあるソフトウェアを用いて、静止画像作成をデモンストレーションする。 11. Visual Basic でアニメーションを作成する 12. ビデオとアニメーションのソフトウェア：クリップビデオ、アニメーションソフトウェア、ビデオ編集の紹介 13. プロダクション管理ツール：ストーリーボードソフトウェア、プロジェクト管理ソフトウェアの紹介 14. オーディオプロダクションソフトウェア：オーディオファイルタイプ、マルチメディアサウンド、オーディオファイル作成、Visual Basic で音声出力する 15. オーサリングソフトウェア：プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング、アイコンベースオーサリング、タームベースオーサリング、オーサリングプログラムの紹介 16. オーサリングソフトウェア実演：大学にあるオーサリングソフトウェアを使って簡単なコースを作成実演する。 17. ネットワーク：ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。マルチメディアのコースがどのように出来ているかのデモンストレーション 18. ビデオ入力と操作：ビデオ標準、ビデオボード、デジタルカメラの紹介 Visual Basic でビデオ画像を出力する。 19. オーディオハードウェア：オーディオ入力ボード、MIDI ハードウェアの紹介 Visual Basic で MIDI をコントロールする。 20. スキャナー：スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレイスケール Visual Basic でスキャナーをコントロールする。 21. メインストレンジ：グラフィックス、ビデオ、オーディオ、ハードディスクの特徴、2 次記憶装置：磁気、光学、記憶装置の比較、さまざまなファイル形式と記憶容量の比較 22. マルチメディアの統合：マルチメディアワークエリア、ソフトウェア導入、システムテスト 23. 電子出版：ディスケット、MO、CD-ROM、DVD、ネットワーク対応 24. マルチメディアシステム：デモンストレーションと今後の課題と展望
----------------------------	---

科 目 名	プログラミング論	担当者名	高 柳 敏 子
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理を学習する。</p> <p>コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の手順や方法を学習する。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いて、CASL シミュレータを利用して、仮想のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングを通して、ノイマン型コンピュータの構造と動作の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>後期は、初めに CASL のより応用的なところをみたところで、現実の一般的なプログラミング言語の 1 つであるコンパイラ言語の C++を取り上げ、CASL プログラムと対応させながら C++によるプログラミングを学習する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>随時必要な資料をファイルで配布する。</p>	
	参 考 文 献	<p>田中武二著「コンピュータと社会」サイエンス社、1993 「CASL Programming」ITEC（情報処理技術者教育センター）、1994 Jamsa 著、春木・佐藤共訳「C++超入門」アスキー出版局、1994 ストラウストラップ著、斉藤・三次・追川・宇佐美共訳「プログラミング言語 C++」 第 2 版、アジソンウェスレイ・トッパン、情報科学シリ - ズ - 40、1993 「岩波 情報科学辞典」岩波書店、1990</p>	
評 価 方 法	<p>前・後期の定期試験と、前・後期各 3 回程度のレポートを加味して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>MS-Windows、MS-Word、および MS-Excel の取り扱いを十分に理解していること。 また、欠席をしないこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの歴史(1): ハードウェア ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子。 2. コンピュータの歴史(2): ソフトウェア プログラミング言語、オペレーティングシステム 3. ノイマン型コンピュータの構成 中央処理装置、制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置 4. COMET の処理装置(1) 語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムカウンタ(PC) 5. COMET の処理装置(2): レジスタ 汎用レジスタ(GR)、指標レジスタ(XR)、フラグレジスタ(FR) 6. 情報の表現(1): 数値の内部表現 整数と2の補数表記、16進表現 7. CASL プログラミング(1) CASL の命令: 疑似命令、マクロ命令、機械語命令 プログラムの形式: ラベル、命令コード、オペランド、注釈 8. CASL プログラミング(2) CASL プログラム: ロード命令とストア命令 加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保 9. CASL シミュレータとその実行 プログラムの入力、編集、アセンブル、1命令毎の実行 プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼び出し 10. CASL プログラミング(3): 乗除算処理(1) シフト演算命令 11. CASL プログラミング(4): 乗除算処理(2) 比較演算命令および分岐命令とフラグレジスタ 12. CASL プログラミング(5): 繰り返し処理 指標レジスタの使用 13. CASL プログラミング(6): 情報の表現(2) 文字の内部表現、ASCII コード、JIS コード 14. CASL プログラミング(7): 入出力命令 コード変換と論理演算 15. CASL プログラミング(8): サブプログラム(1) 汎用レジスタを利用したデータの受け渡し 16. CASL プログラミング(9): サブプログラム(2) アドレスによるデータの受け渡し 17. CASL プログラミング(10): サブプログラム(3) スタックを利用したデータの受け渡し 18. C++プログラミング(1): C++言語とは C++言語の基本事項: 文、ブロック、コメント 19. アセンブラとコンパイラ: プログラムの翻訳と実行 例題とC++コンパイラの操作 20. C++プログラミング(2): 演算と出力 算術式、四則演算と演算子、シフト演算 21. C++プログラミング(3): 判断・分岐とデータ入力 関係式、関係演算子、論理演算子 22. C++プログラミング(4): 繰り返し 繰り返しと配列の扱い、および文字列データの扱い 23. C++プログラミング(5): 関数(1) メインプログラムとサブプログラム サブプログラムにデータの値を渡す(call by value) 24. C++プログラミング(6): 関数(2) サブプログラムにデータの番地を渡す(call by reference)
----------------------------	---

科 目 名	プログラミング論	担当者名	立 田 ル ミ
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現在ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windowsの機能を活用してVisual Basicで実際にプログラミングを行う。この中で、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。さらに、ネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのようなことが必要かを理解することを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>コンピュータが現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の1つであるVisual Basicを用いて例を挙げて解説し、それらの1つ1つの命令に対して講義と演習を行う。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行うとともに、それらをどのようにプログラミングすればよいかの講義と演習を行い、最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	立田ルミ “教育システム情報と Visual Basic” 朝倉書店	
	参 考 文 献	立田ルミ “コンピュータとネットワークによる情報活用” 朝倉書店	
評 価 方 法	リポート	:	80%
	ネットワーク上に提出		
	出席	:	20%
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>この講義は演習を伴うので、人数に制限があることに留意されたい。人数が多い場合は、講義の第1日目に抽選を行う。情報処理概論を既習またはWindowsに関する基礎知識のあることを前提として講義を行うので注意されたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスとコンピュータの概説：コンピュータ誕生までの背景、第一世代、第二世代、第三世代、第四世代のコンピュータ、ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの構成 2. ソフトウェアの歴史と概略：ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム、Windows95の概略、ネットワークの概略 3. 教育におけるコンピュータの役割、プログラム開発手順：自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ、教育用ソフトウェア、プログラム開発の手順と期間 4. Visual Basic の概略：イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド 5. 簡単なプログラム作成（1）：アプリケーション開発手順、Visual Basic の開発環境、文字の入出力 6. 簡単なプログラム作成（2）：四則演算、変数のまとめ 7. 選択のあるプログラム作成（1）：アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8. 選択のあるプログラム作成（2）：多くの選択のあるプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ 9. 選択のあるプログラム作成（3）：オプションボタンの利用、チェックボタンの利用 10. 選択のあるプログラム作成（4）：リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用 11. 繰り返しのあるプログラム作成：If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し 12. 総合問題の解説および作成 13. 図形の処理（1）：直線を描く、曲線を描く 14. 図形の処理（2）：円を描く、色を塗る 15. 図形の処理（3）：Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーを使って絵を動かす 16. 図形の処理（4）：ドラッグアンドドロップを使う 17. 音声の処理：音声を録音する、音声を再生する、動画再生のデモンストレーション 18. 配列とコントロール配列：一次元配列、コントロール配列、二次元配列 19. プルダウンメニュー：コンボボックスを使う、プルダウンメニューの作成、プルダウンメニューの利用 20. ファイルの利用（1）：コントロールの利用、シーケンスファイルの利用、シーケンスファイルの作成、シーケンスファイルの読み込み 21. ファイルの利用（2）：ランダムファイルの利用：ランダムファイルの作成、ランダムファイルの読み込み 22. 教育用ソフトの制作（1）：システム設計、詳細設計 23. 教育用ソフトの制作（2）：プログラム作成とデバッグ、デバックツールの利用法 24. 教育用ソフトの制作（3）：プログラム作成とデバッグ
----------------------------	--

科 目 名	政治学総論	担当者名	鈴木朝生
-------	-------	------	------

講義の目標	本講義は、政治学の入門講義として広く浅く基礎概念・用語法を概括的に説明し、それに慣れ親しむことを目的とする。		
講義概要	日本とイギリスという、相近似した政治制度をもつ国家を、制度のみならず実際をも含めて概観する。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	阿部齊・新藤宗幸・川人貞史著『概説 現代日本の政治』（東大出版会）の中の幾つかの章と川北稔編『イギリス史』、松浦高嶺著『イギリス現代史』（いずれも山川出版社）の一部（フランス革命以降）を使う。その他『現代政治学事典』（ブレン出版）『西洋史辞典』（東京創元社）	
評価方法	前・後期二回の定期試験を行う。また、何らかの方法で出席をとる。		
受講者に対する要望など	講義初日は必ず出席のこと。また、履修確定時期までの間も欠席は欠席として評価する。携帯電話、PHSのスイッチは切っておくこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーリング 講義のすすめ方・試験の要領等に関する注意 2. 明治国家から現行憲法体制へ 近・現代日本の政治の枠組みと現行憲法体制 3. 国会の機能 国家の諸機能、「立法国家」から「行政国家」へ 4. 日本の立法過程 立法部としての国会における立法過程の諸特徴 5. 議院内閣制 行政部としての内閣の機能と「55年体制」 6. 福祉国家化と行政機能 福祉国家化、社会保障制度 7. 日本の官僚制 ウェーバーの官僚制概念と日本の官僚制 8. 行革改革 行政改革の概念・歴史、行政改革と政治改革 9. 日本の選挙制度 選挙制度（衆議院・参議院）、選挙制度改革 10. 日本の政党 「55年体制」とその後の変容過程 11. イギリス政治（1） 概観（議会、内閣、政党、選挙） 12. " （2） 議会の起源と変遷 13. " （3） 内閣の起源と変遷 14. " （4） 政党の起源と変遷 15. " （5） 選挙制度の起源と変遷 16. 近代イギリス政治史（1） フランス革命とその影響、第一次選挙法改正 17. " （2） 二大政党制の成立、ディズレイリとグラッドストーン 18. " （3） 三党政治から保守・労働二政党制へ 19. 現代イギリス政治（1） コンセンサス政治体制 20. " （2） 福祉国家への道 21. " （3） チャーチルと「豊かな社会」 22. " （4） サッチャリズム、コンヴィクションの政治 23. " （5） プレアの政治（北アイルランド問題、地方分権他） 24. まとめ 		

科 目 名	民 法	担当者名	花 本 広 志
-------	-----	------	---------

講 義 の 目 標	<p>この講義は法律学を専門としない学生を対象とするから、民法という法律および民法学、ひいては法律学に興味を抱かせることが第一の目標である。さらに、積極的に民法を勉強してみようとする受講者に対しては、独学の際に最低限必要となる基本的な知識と民法の考え方の基本を示せればと考えている。</p>		
講 義 概 要	<p>民法とはどのような法律であるか、民法学とはどういう学問であるかを、具体的な設例をできるだけ用いて解説する。重要な制度すべてについて網羅的に説明したり、細かい解釈論上の問題に立ち入ったりせず、民法および民法学を理解するうえで最も基本的な制度、すなわち、契約を中心として講義する。また、民法はすでに2千年以上の歴史を有するから、民法の歴史にも時間を割く。なお、関連する他の法領域、とくに商法や民事訴訟法についても、民法との関連を中心に必要最低限で触れる予定である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に用いない。	
	参考文献	第1回の講義で紹介するほか、その都度、指示する。	
評 価 方 法	各期末試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>六法全書を必ず持参すること。なお、上記の目標設定からして、ハウ・ツー的な知識を求める者には不向きであるので注意されたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. ガイダンス 民法の位置づけ 民法の特徴 民法の構成</p> <p>2. 民法の歴史 ローマ法、中世イタリア法学、普通法</p> <p>3. 民法の歴史 西洋における近代法典編纂、日本民法典の誕生～現在</p> <p>4. (民事) 司法制度 裁判所の構成、民事裁判の特徴、判例とは何か</p> <p>5. 契約法 契約とは何か? 契約の種類 契約の成立 契約の効力</p> <p>6. 契約法 売買(1)...債務不履行(強制履行・危険負担・損害賠償・解除)</p> <p>7. 契約法 売買(2)...売主の担保責任</p> <p>8. 契約法 その他の契約違反(付随義務・保護義務・安全配慮義務、契約締結上の過失)</p> <p>9. 契約法 消費者保護法</p> <p>10. 契約法 賃貸借(1)...対抗力</p> <p>11. 契約法 賃貸借(2)...無断転貸・用法違反・賃料不払など</p> <p>12. 契約法 契約が有効に成立するための前提条件(1)...権利能力、行為能力</p> <p>13. 契約法 契約が有効に成立するための前提条件(2)...意思の欠缺、瑕疵ある意思表示</p> <p>14. 契約法 他人による契約の締結...代理制度 「他人」を作り出す制度...法人制度</p> <p>15. 物権法 物 物権と債権</p> <p>16. 物権法 不動産所有権の取得、不動産登記</p> <p>17. 物権法 動産所有権の取得、善意取得</p> <p>18. 金融取引法 金銭債権(特徴、利息制限、消滅時効など)</p> <p>19. 金融取引法 金銭債権の履行確保...物的担保とその実行手続</p> <p>20. 金融取引法 金銭債権の履行確保...人的担保、その他の担保手続</p> <p>21. 不法行為法 不法行為とは何か? 過失責任主義</p> <p>22. 不法行為法 不法行為に基づく損害賠償(1)...要件</p> <p>23. 不法行為法 不法行為に基づく損害賠償(2)...効果</p> <p>24. 不法行為法 使用者責任、危険責任(自賠法三条・製造物責任)</p>
----------------------------	--

科目名	商 法	担当者名	坂 本 延 夫
-----	-----	------	---------

講義の目標	最近の重要な判例・立法・理論を通しての株式会社法の平易な理解。		
講義概要	商法の講義内容は会社法である。 講義は株式会社法を中心に行うが、受講生が会社法の理論と実務の双方について理解しようとする。平成5年・6年・11年の改正商法にも及び。		
使用教材	テキスト	・山村忠平・坂本延夫・中村建編著『要説会社法』(三訂新版) 嵯峨野書院	
	参考文献	追って指示する。	
評価方法	原則として、二度の筆記試験をもって評価する。		
受講者に対する要望など	意欲的な受講を期待する。		
年 間 授 業 計 画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 株式会社の経済的意義 法と経済との関連について () 2. 株式会社の経済的意義 法と経済との関連について () 3. 会社の法概念。 1.会社の社団性 2.会社の法人性 3.会社の営利性 4. 会社の権利能力について。 5. 会社の種類について。 6. 株式会社の意義() 1.株式 2.有限責任 3.資本 7. 株式会社の意義() 1.株式会社の弊害 2.社会的責任 8. 株式会社の設立() 1.設立規制 2.発起人・発起人組合・設立中の会社 3.発起人の権限と責任 9. 株式会社の設立() 1.定款 2.登記 3.設立の無効 10. 株式() 1.株式の意義 2.株主の権利・義務 3.自己株式(平成六年改正商法を含む) 11. 株式() 1.株券 2.株式の譲渡・担保化 12. 補講 <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 株式会社の機関() 1.機関の分化と権限の分配 2.所有と経営・支配の分離 2. 株式会社の機関() 1.株主総会の意義と権限 2.総会の運営と瑕疵 3. 株式会社の機関() 1.取締役 2.取締役会 4. 株式会社の機関() 1.代表取締役 2.表見代表取締役など 5. 株式会社の機関() 1.取締役の責任 2.取締役の義務 6. 株主の代表訴訟と違法行為差止権 7. 監査役制度() 8. 監査役制度() 平成五年改正商法について。 9. 株式会社の資金調達() 1.新株発行 2.有利発行 3.不公正発行 4.新株発行の無効 10. 株式会社の資金調達() 1.社債 2.平成五年改正商法 11. 補講() 12. 補講() (平成11年改正商法) 		

科 目 名	総合講座(1)	担当者名	経 済 学 部
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「地球の未来に挑戦する世界と日本」の総合タイトルの下で、主に学外からのさまざまな分野の研究者、専門家、実務家等を招いて、それぞれの分野の最新の知識と情報にもとづく講義をしてもらう。学生は学内に居ながらにして、激しく流動するビジネス世界の現状、日頃あまり詳しく知られていない研究分野の概観、あるいは学際的な先端の動向などをかなり詳しく知ることができる。これらの知識は、単なる学問的な知識に止まらず、学生諸君がやがて迎える卒業後の社会活動における貴重なノウハウをも会得させてくれるであろう。</p>		
講 義 概 要	<p>毎週、講義内容が異なるため概要を詳しく述べることはできない。ただ、上記総合タイトルの性質上、従来より経済のみならず社会・政治・文化などあらゆるテーマが採り上げられてきた。それぞれの分野の研究者、専門家、実務家が長年にわたり蓄えてきた専門知識と最新情報のエッセンスを毎週聴くことができることは、得難いチャンスと言えよう。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	特になし。	
	参 考 文 献	それぞれの講師が講義内容のレジメを準備して配布したり、参考文献を指示することがある。	
評 価 方 法	<p>前・後期にそれぞれ筆記試験を行う。なお、講義の性質上、<u>追試験・卒業再試験は行わないので注意すること。</u></p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>学外講師をお招きするので、必ず時間厳守で出席すること。また講義中の私語は絶対に慎むよう切に要望する。</p>		

科 目 名	経営戦略論	担当者名	富 田 忠 義
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。</p>		
講 義 概 要	<p>ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず経営戦略とは如何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察する。次に、多様な経営戦略を類型化して全体を把握する。個別の戦略の策定について検討する前に、経営戦略の一般的な策定法について理解する。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略、ポートフォリオ戦略、リストラ戦略、競争力強化戦略、マーケティング戦略等について個々に考察する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。 定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込み無し。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというのではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 年間講義計画の概要</p> <p>2. (経営戦略の基礎) 激動する経営環境と経営戦略の重要性の増大化、環境の定義、環境に含まれる機会と脅威の発見</p> <p>3. 同上</p> <p>4. (経営戦略の構造) 経営戦略策定上の関連変数、経営目標、経営環境、経営資源、効果的な経営戦略の要件</p> <p>5. 同上</p> <p>6. (経営戦略の種類) 全社戦略、事業戦略、競争戦略、機能戦略</p> <p>7. (経営戦略の策定過程) 戦略的思考、業界分析、市場細分化、自社競合分析、戦略代替案の評価、アクションプラン</p> <p>8. 同上</p> <p>9. (成長戦略の策定 拡大化か多角化か) 事業拡大化戦略</p> <p>10. 事業多角化戦略</p> <p>11. (製品ライフサイクル戦略) 製品ライフサイクル、成熟期に移行する業界の経営戦略</p> <p>12. 同上</p> <p>13. (リストラ戦略) 事業構造の再構築の必要性、リストラ戦略の策定、攻めのリストラ、守りのリストラ</p> <p>14. (事業ポートフォリオ・マネジメント) 多産業型企業の戦略策定、事業選択戦略、戦略事業単位の識別、エクスペリアンス・カーブ効果</p> <p>15. 同上</p> <p>16. (ポーターの競争戦略の基本型) 競争戦略の策定、業界構造と5つの競争要因、競争優位の構築、価値連鎖</p> <p>17. 同上</p> <p>18. (コア・コンピタンスと競争優位の構築)</p> <p>19. (コトラーの競争戦略の種類) コトラーの4つの競争地位</p> <p>20. 同上</p> <p>21. (マーケティング戦略) マーケティングの定義、マーケティングの4P、プロダクト、プライス、プレイス、プロモーション、プル型とプッシュ型</p> <p>22. (経営戦略から戦略経営への展開)</p> <p>23. (機能別戦略) 生産戦略、技術戦略、営業戦略、物流戦略、戦略的情報システム</p> <p>24. 年間講義のまとめ</p>
----------------------------	---

科 目 名	経営管理論	担当者名	河 野 重 榮
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経営学のうち、経営管理論は機能別管理（人間資源管理、財務管理、資材管理、製造工程管理、販売管理、事務管理、情報管理……）を通じての管理の一般的特質を論じるものである。それは実践的な性質の強い経営学の中核で、取り分け経営実践に密着した分野である。したがって、そこでは、原理のみならず、いやむしろ原理の実践への活用が重視される。こうした理解を深めるのが本講義の目的である。</p>				
講 義 概 要	<p>経営管理論の出発点は経営的生産の合理化が要素的合理化（物的合理化・人的合理化）に止まらず、進んで経営全体の合理化が志向されるに及んだときに求められる。この講義では、まず、経営管理論の生成の経緯から、今日までの展開を跡づけ、経営学における経営管理論の位置付けを明確にする。ついで、経営管理の要素機能、すなわち、意思決定、計画、組織、動機づけ、コントロールなどを個別に取り上げて、各要素機能の課題と実践（技能）について講義する。最後に経営管理論の今日的課題に言及する。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版</td> </tr> </table>	テキスト	河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館	参考文献	河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版
テキスト	河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館				
参考文献	河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版				
評 価 方 法	<p>成績評価は前期後期 2 回の定期試験の結果による。出題形式は前期後期それぞれの最終授業で説明する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>大学の講義は一年間を通じて課題の全体像を説明しようとするものであるから、講義への出席を前提とすることはいうまでもない。講義に出席しきちんと講義ノートをとること。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営管理思想史研究 2. 経営管理論の生成 3. テーラー・システムとその問題点 4. フォレットの機能的統一論 5. メイヨールの協働の科学 6. バーナードとサイモン 7. ファヨールの再発見と管理過程論 8. 経営管理論の多様化と統合 9. 環境適応と一般システム論 10. 経営管理の課題・責任・実践 ドラッカー 11. 戦略的管理論 アンゾフ、ポーター、コトラー 12. 環境対応マネジメント 13. 問題解決と意思決定 14. 経営計画の策定過程 15. 目標管理と自己管理 16. コミュニケーション 17. コントロール 18. 管理組織の基本単位 19. 職能別組織と連邦分権制 20. チーム型組織とシステム型組織 21. 動機づけの原理 22. リーダーシップ 23. モティベーション 24. 経営管理論の今日的課題
----------------------------	--

科 目 名	経営組織論	担当者名	高 松 和 幸
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	この講義では、伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として、とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては、組織を取り巻く環境の土台のうえに、個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり、こうした諸問題をとりあげて論述する。		
講 義 概 要	講義では、伝統的組織論を出発点として、人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論をとりあげ、そのうえで近代組織論として、協働システムとしての組織、意思決定システムとしての組織、生存可能システムとしての組織に重点をおいて、その周辺の諸問題をとりあげて講義する。		
使 用 教 材	テキスト	高松和幸『経営組織論講義』創成社，1999．	
	参 考 文 献	開講時に指示する。	
評 価 方 法	期末定期試験・平常授業の課題など。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

1. 伝統的組織論...伝統的組織論は、古典的組織論ともいわれ、アメリカのテーラーや、フランスのファヨールを始祖とする。さらに、より近代化された形で経営過程学派とよばれるクーンツなどにより継承されている。こうした伝統的組織論の特徴を明らかにし、近代組織論への発展の基礎を解明する。
2. 伝統的組織論...フランスのファヨールやクーンツの理論をとりあげる。
3. 近代組織論...バーナードは近代組織論の創始者であり、その後、多くの研究者によって発展され、組織論を一新している。こうした近代組織論は、現代ではバーナード=サイモンと、その流れをくむマーチ=サイモンなどによって展開されている。ここでは近代組織論の内容を検討し、もって現代における組織論の特徴を明らかにする。
4. 近代組織論...マーチ=サイモン理論をとりあげる。
5. 経営組織モデルの発展段階...経営組織モデルの形態的発展は、ファンクショナル組織を基本とすることで、ライン・スタッフ組織や職能部門制組織があり、また事業部制組織やマトリックス組織がある。こうした経営組織モデルの形態について検討する。
6. 組織とモチベーション理論...モチベーション理論は、「人間関係論」から始まる。また組織的意思決定論と並んでモチベーション理論が取り上げられることもある。しかし両者の過去の研究成果や、その分析方法と概念体系は、かなり相互に異質のものである。こうしたモチベーション理論を取り上げて検討する。
7. 組織とモチベーション理論...モチベーション理論の問題をとりあげる。
8. 組織とコンティンジェンシー理論...コンティンジェンシー理論は、また条件理論、条件適合理論、構造条件適合理論などともいわれ、組織と環境との関係に目を向け、組織の環境が異なれば有効な組織は異なる、という命題の上に立っている。こうしたコンティンジェンシー理論を取り上げて検討する。
9. 協働システムとしての組織...組織は「意識的に調整された 2 人以上しそれ以上の人々の活動および勢力のシステム」として定義できる。この前提には、個人能力の限界のために生じる「協働システム」がある。つまり他人との協同によって自己の動機や目的を達成しようとする。こうした組織について検討する。
10. 協働システムとしての組織...協働システムの問題をとりあげる。
11. 意思決定システムとしての組織...組織の理解に関して、サイモンは各人が組織において活動する場合の前提となる意思決定 選択問題に注目し、さらにその意思決定の前提を問題としている。サイモンの組織観は、多様な意思決定のネットワークとして形成される。こうした意思決定のシステムとしての組織について検討する。
12. 意思決定システムとして組織...意思決定の問題をとりあげる。
13. 組織均衡の理論...組織均衡の理論は、近代組織論に共通した一つの中核的な理論である。組織に参加する人々に、誘因と貢献のバランスによって満足を提供する能力をもたなければ、組織は存続できないことが明らかにされている。こうした組織の均衡問題について検討し、もって組織の存続と成長の理論を明らかにする。
14. 組織均衡の理論...組織均衡問題を取りあげる。
15. ゴーイング・コンサーンとしての組織...バーナードの組織論と重要な関係をもっているコモنزのゴーイング・コンサーンの概念は、継続的企業体を意味しており、それはバーナードにおける協働システムの概念に相当する。この概念によって表される多様性の広がりをもつ組織について検討する。
16. ゴーイング・コンサーンとしての組織...ゴーイング・コンサーンの問題をとりあげる。
17. 組織とコンフリクト...組織行動や人間行動が正常に機能しているとき、組織では様々な代替案を提供できる。ところがこの意思決定のメカニズムが停止するとどうなるか。このような状態がコンフリクトである。ここではコンフリクトの発生のメカニズムから分類・解消まで取り上げる。
18. 組織とサイバネティクス...サイバネティクスは、ウィーナーによって創始されたもので、すべてのシステムには、制御過程を支配する一般的法則が存在することを明らかにし、その法則は究めて複雑な、いわゆる有機的機能をもつシステムに適用されることを主張している。こうしたサイバネティクスと組織との関係について検討する。
19. 組織とサイバネティクス...組織とサイバネティクスの問題をとりあげる。
20. 生存可能システムとしての組織...企業組織についてピーアによれば、それは平板で静的な実体ではなく、「動的で生存し続けるシステム」であるとしている。すなわち、企業の究極の目的を生存におき、生存可能な組織構造を、生存可能システムとして展開している。こうした組織に関する諸問題を取り扱う。
21. 生存可能システムとしての組織...生存可能システムをとりあげる。
22. 組織のカタストロフィー・モデル...カタストロフィー理論は、ルネ・トムが創始した理論で、自然界を含めて各種過程のモデルの一般論を、カタストロフィー理論として展開し、新しい世界像、自然観の建設を目指している。具体的には図形を用いて、組織サイバネティクスの立場から生存システムとの関連において取り上げる。
23. 組織と必要多様性の法則...経営組織には、多くの「多様性」が存在する。内部組織の経済学においては、不確実な要素を含むさまざまな多様性が存在することが明らかにされている。したがって経営管理は「多様性」の管理であるといわれる。こうした「多様性」の概念を出発点として、「必要多様性」の原理と法則を解明する。
24. 組織における自律性の概念...経営組織の「自律性」の概念については、その起源をメーヨーに求めることができる。こうした「自律性」の概念をとりあげて検討する。自律性の問題は、さらに今日的な課題として、非営利集団からなる自律性の問題として展開されている。

科 目 名	経営財務論	担当者名	細 田 哲
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行なわねばならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。		
講 義 概 要	各週別の講義予定を見られたい。		
使 用 教 材	テキスト	・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 企業財務入門」(日本経済新聞社)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡部政昭著「企業財務論」(新世社) ・岩村 充著「入門 企業金融論」(日本経済新聞社) ・高橋 誠、新井富雄「ビジネス・ゼミナール デリバティブ入門」(日本経済新聞社) ・J. A. トレーシー「MBA の財務」(日本経済新聞社) ・古川浩一、蜂谷豊彦、中里宗敬、今井潤一「基礎からのコーポレート・ファイナンス」(中央経済社) 	
評 価 方 法	年2回の試験の結果による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	1. 1 企業の目的と財務政策 a) 市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定 b) 企業による市場を通じる価値創造
	2. " c) 資本市場の役割 d) 企業の財務的意思決定のフレームワーク
	3. 2 資産の価値をどう評価するか a) 現在価値の評価
	4. " b) 債権の評価
	5. 3 株式の価値はどう決まる a) 配当割引モデルの考え方 b) 一定成長配当割引モデルと株価収益率
	6. " c) 配当割引モデルの応用 d) 日本の株価水準と期待収益率
	7. 4 リスクをどう測るか a) 投資リスクの尺度
	8. " b) ポートフォリオのリスク
	9. " c) ベータ値と資本資産評価モデル
	10. 5 資本コストとは何か a) 資本コストとは b) 投資のキャッシュ・フロー
	11. " c) 資本コストの推計方法
	12. " d) 日本企業の資本コストの計算例 e) 資本コストと資金コスト
	13. 6 望ましい資本構成とは a) 完全資本市場における資本構成と企業価値
	14. " b) 法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響
	15. " c) 企業価値の最大化と株価の最大化 d) 資本構成決定の現実的な考慮点 e) 日本企業の資本構成の動向
	16. 7 配当政策の考え方 a) 配当政策の理論 b) 配当政策をめぐる問題点
	17. " c) 株式配当と株式分割 d) 日米企業の配当政策
	18. 8 自社株取得 a) 自社株取得の本質 b) 自社株取得の利用動機
	19. " c) 自社株取得と株価評価 d) 自社株取得をめぐるわが国の現状
	20. 9 リスク管理とデリバティブの利用 a) デリバティブとは何か
	21. " b) デリバティブを利用した金利リスク管理 c) 企業財務とリスク管理
	22. 10 企業の合併・買収
	23. 11 日本の伝統的な金融システムの特徴と問題点
	24. 12 日本企業の財務政策の課題

科 目 名	経営労務論	担当者名	仙 田 幸 子
-------	-------	------	---------

講義の目標	企業は従業員を資源の一つとして活用する。その方法をあつかうのが経営労務（人的資源管理）論である。採用、配置、育成、評価、雇用調整という経営労務の各場面を取りあげ、企業における人事労務管理の基本的な考え方・施策・問題点について学ぶ。		
講義概要	経営の効率と個人の福祉を両立させるにはどのような人的資源管理が望ましいかについて考える。働く人の多様性 たとえば女性従業員 に注目しながら、採用、配置、育成、評価、雇用調整という経営労務の各場面を働く人の立場から取りあげ、企業における人事労務管理の基本的な考え方・施策・問題点について検討する。		
使用教材	テキスト	佐藤博樹・藤村博之・八代充史「新しい人事労務管理」有斐閣、1999、ISBN 4-641-12075-7。 この他に資料を配布することがある。	
	参考文献	岩出博「これからの人事労務」泉文堂、1999、ISBN 4-7930-0219-6。	
評価方法	前期試験(40%)、後期試験(40%)、小テスト(20%)を 100 点満点に換算し、合計で 60 点以上の受講者に単位を与える。小テストの成績が特に良い者は期末試験を免除することも考えている。		
受講者に対する要望など	遅刻、私語、その他授業の妨げになることは慎むこと。資料を配布する場合、当該授業内でしか配布しない。欠席者は他の受講者から入手すること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期ガイダンス 2. 人事労務管理の機能 3. 環境変化と人事労務システム 4. 採用・配置 5. 異動 6. 雇用調整 7. 人事制度 8. 賃金管理・1 9. 賃金管理・2 10. 昇進管理・1 11. 昇進管理・2 12. 前期のまとめ 13. 後期ガイダンス 14. 労働時間管理・1 15. 労働時間管理・2 16. 能力開発 17. キャリア発達論・1 18. キャリア発達論・2 19. 非正規従業員と派遣労働者・1 20. 非正規従業員と派遣労働者・2 21. これからの福利厚生制度 22. 日本的経営の今後・1 23. 日本的経営の今後・2 24. 後期のまとめ 		

科 目 名	国際経営論	担当者名	小 林 哲 也
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現代経済のグローバル化の主体は、多国籍企業である。情報技術革命の時代にあって、多国籍企業は、財の生産や販売のみならず、情報や金融の世界でもグローバル化を進めてきている。各分野における技術革新と、情報通信技術の発達により、国際分業が新たな形で再編成されつつある。本講義では、多国籍企業の国際経営活動と、世界経済の構造変化を分析してゆく。</p>		
講 義 概 要	<p>前半では、国際化・情報化の中で新しい競争の時代を迎えた、現代企業をとらえる企業理論の流れを、解説する。後半で、日本とアメリカの企業を中心に、多国籍企業の国際経営戦略の、ケース・スタディを進める。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に定めない	
	参考文献	<p>江夏健一『多国籍企業要論』文真堂 青木昌彦・R.ドーア編著『システムとしての日本企業』NTT 出版 三輪芳郎『日本の企業と産業組織』東京大学出版会 池田信夫『情報通信革命と日本企業』NTT 出版</p>	
評 価 方 法	出席などの平常点および前期 / 後期定期試験成績による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 多国籍企業の歴史 資本主義世界経済と企業活動 2. 現代経済における多国籍企業 グローバル化と情報化 3. 現代企業の理論 巨大企業の時代 —— 寡占化と競争 4. 現代企業の理論 経営者革命と 20 世紀アメリカ経済革命 5. 現代企業の理論 新しい経営者支配論 6. 現代企業の理論 多国籍企業の理論 —— 輸出から直接投資へ 7. 現代企業の理論 情報技術革命とコーポレートガバナンス 8. 多国籍企業と新しい国際分業 技術革新と国際分業の新しい再編成 9. 日本企業の国際化 システムとしての日本企業 10. 日本企業の海外進出 70 年代から 90 年代まで 11. 日本企業の海外進出 アジアへの進出と撤退 12. 日本企業の海外進出 アメリカの日系企業 13. 日本企業の海外進出 ヨーロッパの日系企業 14. 日本企業の海外進出 「ジャパナイゼーション」をめぐって 15. 情報技術革命と日米企業 IT 革命のインパクト——デジタル・エコノミーの勃興 16. 情報技術革命と日米企業 インターネット資本主義革命 17. 情報技術革命と日米企業 GE と東芝——スピード経営革命 18. 情報技術革命と日米企業 FMS とネットワークの新段階——自動車産業のグローバル化 19. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 アジアにおける新工業化 20. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 EU における産業のリストラクチャリング 21. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 ハイテク産業における競争の新段階 22. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 日本企業の課題
----------------------------	--

科目名	経営史	担当者名	柳 敦
-----	-----	------	-----

講義の目標	近代工業化以降の欧米における企業経営行動の変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約・文化的側面も含めて考えてみたい。		
講義概要	近代工業化以前の企業活動を概観し、英国産業革命による企業経営行動の変革を考察する。次いで後発工業国であるフランス、ドイツ、アメリカの事例を検討し、19世紀における企業経営を明らかにする。授業計画の18あたりから、米国を中心として20世紀型企業経営の問題を考える。		
使用教材	テキスト	米倉『経営革命の構造』岩波新書 1999	
	参考文献	鈴木・安倍・米倉『経営史』有斐閣 1987 チャンドラー著『スケール アンド スコープ』有斐閣 1993 その他、必要に応じて紹介する。	
評価方法	前後期の試験によって判定する。		
受講者に対する要望など	とくにない		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営史の課題と視点 2. ヨーロッパ前近代における企業と経営（1） 3. ヨーロッパ前近代における企業と経営（2） 4. 重商主義とアダム・スミス 5. 資本主義とその精神 6. 英国産業革命とその特徴（1） 7. 英国産業革命とその特徴（2） 8. 綿工業での企業経営 9. 製鉄業での企業経営 10. 英国産業衰退の問題 11. フランスにおける工業化とその特徴 12. フランス企業経営の特徴 13. ドイツにおける工業化とその特徴 14. ドイツ企業経営の特徴 15. 19世紀からの小売業界における革新 16. 米国における工業化とその特徴 17. 米国企業経営の特徴 18. ビックビジネスの展開と独占禁止法 19. 科学的管理法の展開 20. 企業組織のあり方 21. フォードとGM（自動車業界でのスケールとスコープ） 22. 産業エリートと教育 23. 企業経営のもつ文化的要因に関する小括 24. 多国籍企業の発展 		

科 目 名	日本経営史	担当者名	齊 藤 博
-------	-------	------	-------

講義の目標	<p>「日本および日本人」のあり方を探究する大きな筋道の一つとして、「日本的経営理念」の歴史的な形成と展開をあとづけ、現代経済の態様に対する反省の材料とし、かつは 21 世紀に向う日本および日本人の生き方の参考としたい。したがって国民精神史、民衆的マインド、経済思想、文学作品に現われた経済精神、社会倫理と個人道徳などが研究対象となってくる。経済と道徳合一の東洋的精神世界の中へ入っていききたい。現代日本におけるエリート経営者、高級官僚、超一流企業の退廃と犯罪が群生して、日本産業、金融、財政の正義、誠実、公明な経営理念が崩壊している時代状況にあって、日本と日本人のトータルな自己点検を試みたい。</p>				
講義概要	<p>講義のキーワードは以下の通りである。</p> <p>1. 企業家精神 2. 近代化の背景（政治的安定、中産階級の広範な存在、国民の高度な教育水準、宗教・信仰の近代化） 3. 近代化の環境（大量・大衆市場、経済活動の自由、利潤追求の自由、近代的な経済金融財政政策） 4. 「人」「個人」の問題 5. 土屋喬雄</p> <p>6. 日本的経営理念 7. 通俗道徳 8. 日本精神 9. 農本主義</p> <p>西鶴文学に現われた近代商人の商業道徳や経営理念を探究するなど、具体的な日本人のマインドの原点から出発しつつ、近世封建時代の経済思想専門家（いわゆる経世家）や近代日本の農本主義者（山崎延吉、宮沢賢治、松田基次郎、加藤完治）や日本の経営理念家（二宮尊徳、渋沢栄一、金原明善、箕克彦、藤原銀次郎など）の言動を通じて、日本的経営の特徴とスタイルを歴史描写していききたい。軍人勅諭や教育勅語の内在的研究を展開しながら、日本人の原点に迫りたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 齊藤 博 『民衆史の構造』新評論 ・ 齊藤 博 『民衆精神の原像』新評論 </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>経営理念史あるいは経済精神史の学風の濃厚な講義であるから、とにかく講義ノートを作り、テキストの当該指定箇所をよく読んでもらいたい。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 齊藤 博 『民衆史の構造』新評論 ・ 齊藤 博 『民衆精神の原像』新評論 	参考文献	<p>経営理念史あるいは経済精神史の学風の濃厚な講義であるから、とにかく講義ノートを作り、テキストの当該指定箇所をよく読んでもらいたい。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 齊藤 博 『民衆史の構造』新評論 ・ 齊藤 博 『民衆精神の原像』新評論 				
参考文献	<p>経営理念史あるいは経済精神史の学風の濃厚な講義であるから、とにかく講義ノートを作り、テキストの当該指定箇所をよく読んでもらいたい。</p>				
評価方法	<p>前期および後期に、それぞれ筆記試験を行なう。</p> <p>講義ノートを正確かつ丁寧にとってもらえば、講義の全体像が細部とともに理解できる。その点を評価の基準にしている。</p>				
受講者に対する要望など	<p>講義内容と課題は「反現代」風で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。数冊のテキストや参考文献は、必ず直接手にして熟読することを要請する。とにかく、できる限り出席をすること。</p>				

年 間 授 業 計 画	1.	経営史学とはなにか	…現代日本における経営理念の退廃と崩壊現象
	2.	経営史学とはなにか	…現代日本における経営理念の退廃と崩壊現象
	3.	経営史学とはなにか	…20世紀国際情況と指導者像（リーダーシップ論）
	4.	経営史学とはなにか	…経済史学と経営史学の連関性と分離展開
	5.	日本に於ける経営史学の成立と展開	土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
	6.	日本に於ける経営史学の成立と展開	土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
	7.	日本に於ける経営史学の成立と展開	土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
	8.	日本に於ける経営史学の成立と展開	土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
	9.	日本的経営理念の形成と確立	…封建経済の展開と「民富」の形成・確立
	10.	日本的経営理念の形成と確立	…封建経済の展開と「民富」の形成・確立
	11.	日本的経営理念の形成と確立	…武陽隠士『世事見聞録』を読む
	12.	日本的経営理念の形成と確立	…「家訓」の世界
	13.	日本的経営理念の形成と確立	…「家訓」の世界
	14.	近代化と企業家精神	近代化の背景と環境（日本農本主義 山崎延吉の世界）
	15.	近代化と企業家精神	近代化の背景と環境（日本農本主義 宮沢賢治の世界）
	16.	近代化と企業家精神	近代化の背景と環境（日本農本主義 増田基次郎の世界）
	17.	近代化と企業家精神	近代化の背景と環境（日本農本主義 加藤完治の世界）
	18.	いわゆる「通俗道德」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として
	19.	いわゆる「通俗道德」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として
	20.	いわゆる「通俗道德」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として
	21.	いわゆる「通俗道德」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として
	22.	いわゆる「通俗道德」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として
	23.	いわゆる「通俗道德」の世界と日本人	軍人勅諭、教育勅語の世界を基準線として
	24.	日本精神と日本的経営理念、日本人のたましいを探る	

科 目 名	マーケティング論	担当者名	大久保 貞 義
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>マーケティング活動は自由主義経済の下における企業活動の基本を示すものである。マーケティングの基本原理は“人間のニーズと欲求を充足させる事をめざす人間活動”である。人間の各種の欲求は交換過程を通じて充足される。しかし、この人間の欲求は複雑多岐にわたるものであり、また、社会の環境によっても欲求そのものが変化する。したがって欲求充足をめざす人間活動は、基本的には心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・数学のアプローチで分析されるばかりでなく、これらを総合化した隣接科学(インターディスプリナー・サイエンス Interdisciplinary Science)的な分析の理解が必要になる。</p> <p>マーケティングは極めて現実的・実地的な学問である。</p>				
講 義 概 要	<p>社会は刻々と変化している。交換機能を果たす市場は変化し、人間の欲求も刻々と変動する。これに対応して企業活動もダイナミックに変革をとげている。</p> <p>これらの変化を読み取り、企業活動の基本的戦略の方向を決定する上でマーケティング・サイエンスは役立つであろう。</p> <p>またマーケティングという学問領域も時代と共に発展しており、その学問水準も、またその思想体系も多様性を示すようになって来た。</p> <p>1940年以降は社会科学との関連性が重視され、1960年までこの傾向が強かったが、しだいに行動科学的概念が導入され始めた1970年代以降は“社会変化のためのきわめて効果的管理方法”としてビジネス分野以外にも新しい研究方法としてマーケティング概念が取り入れられた。</p> <p>こうした考え方は、人間を動かす政策科学への応用、さらに現実社会の企業活動のみならず、国家政権への分野にも取り入れられ始めた。</p> <p>マーケティングサイエンスの応用分野は、当初のマーケティング学者の予測を越えて、多様な分野で極めて現実的な科学として実際社会で使われ、応用されている。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>授業で指示します</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td></td> </tr> </table>	テキスト	授業で指示します	参考文献	
テキスト	授業で指示します				
参考文献					
評 価 方 法	<p>レポートと定期試験で評価します。</p> <p>欠席3回以上の者は、学期末テストが受けられない場合があります。</p> <p><u>再試験は行わないので、注意して下さい。</u></p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎日、必ず新聞の経済面を読み、経済動向を追う事を特に希望したい。一つの経済問題を追うと面白味は倍になります。</p>				

年 間 授 業 計 画	1	1.....マーケティングとは何か（第 1 週） 人間のニーズとは。 欲求充足の市場の形成と交換の機能 人間は何故買うか（欲求 = 充足 = お金） 市場の形成過程
	2 3	2.....マーケティング管理の変遷（第 2・3 週） 企業は生産中心主義からマーケティング志向へ 企業の利益中心から消費者の満足へ 利益中心主義から社会貢献主義へ マーケティングの活用分野の拡大（ビジネス活動の分野から公共活動の分野へ） 非営利組織（大学病院・軍隊・警察・政府の各部門）も大きな関心を持ち始めた。
	4 5	3.....社会の発展と人間欲求の変化（第 4・5 週） 農業社会・工業社会・脱工業化社会 人間欲求の変化と価値観の変動 過去 現在 未来（未来予測の方法論） 消費者動向の変化と企業の戦略形式
	6 7	4.....消費者ニーズの調査法（第 6・7 週） 消費者の欲求をさぐりあてる デモグラフィック・アプローチ ライフスタイル・アプローチ
	8 9	5.....市場調査の技法（第 9 週） データの収集法 サンプリングとその実際的方法 グループインタビュー法と潜在意識調査 質問紙の作成法と技法 市場調査の分析と企業戦略
	10	6.....消費者行動の分析（第 10 週） 文化的・社会的・及心理的な特性 社会階層と消費者行動 欲求の階層化と心理的ヒエラルキー 新製品の採用プロセス（認知から採用までの五段階）
	11	7.....マーケティング・セグメント（第 11 週） デモグラフィック要因とジオグラフィック要因 人口動態の変化 有望市場の発展とニューマーケット（シルバーマーケット、働く主婦層）
	12	8.....製品企画とライフサイクル（第 12 週） アイディアとコンセプト開発 開発から衰退までのライフサイクル
	13	9.....マーケティングコミュニケーション（第 13 週） 企業の広告戦略 広告の技術と戦略 広告とセールスプロモーション
	14 15	10.....マーケティング戦略と計画の作成（第 14・15 週） セールス・フォース セールス・プロモーション セールスマンの訓練と育成 製品の販売管理
	16	11.....サービス・マーケティング（第 16 週） 組織のマーケティング 人材のマーケティング 計画作成 = 組織 = コントロール機能
	17 18	12.....非営利企業のマーケティング（第 17・18 週） 大学のマーケティング 軍隊・地方公共団体・市町村のマーケティング ハブリシティの役割
	19 20	13.....マーケティングと企業家（第 19・20 週） 企業のリーダーシップとマーケティング リーダーのタイプと時代の変化 企業のマネジメントとマーケティングの応用
	21 22	14.....マーケティングと国家体制（第 21・22 週） 資本主義社会と人間の欲望 社会構造と国家政策 人間の欲求と国家の政策
	23 24	15.....マーケティングの新しい応用（第 23・24 週） 人を動かすマーケティング 民主主義の理念とマーケティング 人間とは何か（マーケティングの視点から） 人生の将来展望（あなたの幸福とは何か？） まとめ

科 目 名	広告論	担当者名	梶 山 皓
-------	-----	------	-------

講 義 の 目 標	現代社会における広告の機能や役割を明らかにします。また企業の広告活動を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。		
講 義 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように広告を計画し実施するかを学びます。 2. 社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告現象を考えます。 3. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。 4. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。 5. TV・CMを通して、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。 		
使 用 教 材	テ キ ス ト	梶山皓著『広告入門』日経文庫。	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> * 八巻俊雄・梶山皓『広告読本』東洋経済新報社。 * 『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所。 * W. Wells: Advertising, Principles and Practice, Prentice-Hall, 1997 * S. W. Dunn: Advertising, Its Role in Modern Marketing, Dryden Press, 1994. 	
評 価 方 法	試験は通常前・後期に行いますが、後期だけの年もあります。問題は4～5題で、講義内容と教科書から出題します。随時出席をとって評価の参考にします。なお試験時の「教科書持ち込み」や「問題の予告」、定期試験に代わるレポートの提出はありません。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	できるだけ2年生か3年生で履修して下さい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広告をなぜ学ぶか (Introduction) 広告を学ぶと、社会の近未来が見えてくる。また物事のポジティブな面を的確にとらえる習慣が身に付く。 2. 広告の定義 (Ad. Definition) 広告という言葉の語源は、古フランス語やラテン語で「振り向かせる」「注意を引く」という意味である。 3. 広告の定義 (Ad. Definition) 広告という言葉は、しばしば PR、広報、宣伝、プロモーションなどと混同して間違った使われ方をしている。 4. 広告の機能 (Role of Ad.) 広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。 5. 広告の種類 (Ad. Classification) 広告を代表するのは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。 6. 広告の種類 (Ad. Classification) 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使われるものがある。 7. 広告主 (Advertisers) アメリカの広告費は邦貨で年間約 20 兆円で、世界の約半分を一国で占める。日本は世界 2 位で約 6 兆円である。 8. 広告主 (Advertisers) 広告主は、広告活動を効果的に行うために広告活動を策定する。また企業内に広告組織を編成して実施に当たる。 9. 広告会社 (Ad. Agency) 広告会社は、広告コミュニケーションを企画し実施する専門集団である。日米では広告ビジネスの進め方が異なる。 10. 広告会社 (Ad. Agency) 広告会社には色々な形態や組織がある。広告会社の収入源の多くは、媒体手数料という古い習慣に基づいている。 11. 広告メディア (Ad. Media) 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。 12. 広告メディア (Ad. Media) マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向 CATV、インターネットなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。 13. マーケティングの基本理念 (Marketing Principles) マーケティングは消費者志向の概念である。最近は環境問題などの新しい価値観の影響を受けている。 14. 戦略企業計画 (Strategic Planning) 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業経営の全体計画である。 15. マーケティング・ミクス (Marketing Mix) 企業は、製品開発、価格の設定、流通チャネルの選択、プロモーションの相乗効果によって企業間競争を進める。 16. プロモーション・ミクス (Promotion Mix) 製品の販売は、広告、セールスマン、SP (セールスプロモーション)、PR などの力を合体化させて行う。 17. コミュニケーションの原理 (Communication) 広告はマスコミを手段とした社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。 18. コミュニケーションの原理 (Communication) 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。 19. DAGMAR の理論 (DAGMAR) 広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという考え方があり、広告理論に大きな影響を与えている。 20. 広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) 人々は製品の属性を調べてから買うのか、それとも買った後に調べるのか、衝動買いはなぜ起きるのかなどを考える。 21. 広告計画 (Ad. Planning) 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。 22. 広告計画 (Ad. Planning) 広告計画の中では、広告表現の方針を決めることと、広告を運ぶメディアを選ぶことがとくに重要である。 23. 広告規制 (Ad. Regulation) 広告は、倫理や公序良俗の面と法律の両面から規制を受けている。規制の内容は時代によって、国によって異なっている。 24. 広告の将来 (Ad. Future) 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。
----------------------------	---

科 目 名	行動科学論	担当者名	大久保 貞 義
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>行動科学論という学問は、比較的新しい学問である。その学問的方法論は、心理学、社会額、文化人類学などの学問的成果を応用し、社会の問題を分析し、研究する学問である。</p> <p>一般には、既成の科学（Established Science）である自然科学や社会科学の成果を応用する学問であるから、これらの学問の基礎を知った上で、行動科学を学ぶ事が望ましいのであるが、行動科学の一端を学部時代に学ぶのも意義があるかもしれない。</p>		
講 義 概 要	<p>まず始めに、心理学、社会額、文化人類学の基礎用語を学び、各学問のコンセプトを理解する。その上で、各学問間の特性を理解して、どのように総合化するかを学ぶ。したがって各学問を暗記するのではなく、あくまでも各学問の成果を素材として、実際の社会問題をどう分析し、解決するかという事を考える事が大切である。そこには、人間だけが持つ創造性（C-reativity）をいかに発揮するかという事が重要になる。</p> <p>従来の既成概念にとらわれる事なく、新しい考え方、新しい行動様式 of の概念を形成する事が大切である。このレベルまで達すると、大学院の水準にまで達する事になるが、若い時から、新しい概念、新しい考え方に接触する事は、長期的にみて役に立つであろう。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	授業の時に指示する	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>レポートと定期試験の成績で評価します。</p> <p>欠席3回以上の者は、学期末テストが受けられない場合があります。</p> <p><u>再試験は行わないので、注意して下さい。</u></p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	従来の惰性的思考様式からいかにぬけだすか、頭のトレーニングを積む事を要望する。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学問の発展段階 = 先頭を切る数学の重要性。発展の順序はどうなっているか 2. 学問の法則性とは何か = 理論の美しさ、力強さはどうして生まれるか。それは数式で表現される 3. ニュートンの力学のポイント = 見方を変えれば.....何を表現しようとしているのか 4. = 科学の目標は何か = すべての物質の素粒子から生きている人間まで　そして宇宙まですべての万物の動を統一する理論・規則性はあるか。 5. 社会学の基礎用語、文化人類学の用語、心理学、社会心理学の用語 6. 集団規範の実験 = 実験可能な法則と不可能な法則 7. 人間 = この不思議なもの 8. 人間社会の発展 = 農耕社会、工業化社会、脱工業化社会、社会を進歩させるものは.....神さま？仏さま？ 9. 伝統的社会と近代的社会の対比 10. それぞれの社会の時間の概念 = 人間と時間の関係の仕方　時間の価値は、社会によって相違して来る。 11. 社会の変化に伴う価値観の変動　人間行動の規則性 12. 経済の発展と人間行動のパターン分析　経済中心の産業主義： 13.　巨大組織への参加：組織の中の人間、技術中心のイデオロギー 14.　脱工業化社会の生きる選択権の拡大：組織の中の金銭、財力、尊敬心、忠誠心、とそれに対立する人間の中の誠実さ、人間味、自己実現への願望。 15. コミュニケーションの理論　マス・コミュニケーションとパーソナルコミュニケーションの特性 16. コミュニケーションの二段の流れ　その構造と機能。メッセージの特性と内容と伝播の速度 17. オピニオンリーダーの役割とその特性 18. 創造性とは何か =　二つの既知の要素の組み合わせ。その本質は“反送”である 19. 創造性開発の技法 = ブレインストーミングのやり方とチェックポイント　その他の開発法 20. 思考とパーソナリティ = 創造的人間と非創造的人間 21. 時間と人間行動、生産性・効率・労働システムと人間の時間 22. 未来予測の技術　物理的現象の予測と社会的現象の予測の相違 23. 予測の面白さは、未確定要素にあり。　高齢化社会、脱工業化社会、情報化社会におきる現象分析 24. 予測の正確さは、未来を形成する力にあり。　予測したら、その方向に人間の意志の力で状況を変化させる。行動科学は、戦略の学問でもある。
----------------------------	---

科目名	保険論	担当者名	岡村 国和
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>本講義の目的は保険原理の理解と現実の保険現象を分析する能力を取得することにある。さしあたり前期は保険原理の理解を中心とし、後期には、前期に理解した保険原理に基づいて、保険市場及び保険企業の行動原理の分析への応用を試みる。したがってまず応用経済学の一分野としての観点から保険経済論を学習し、さらに現実の保険現象に照らして保険企業の行動原理を解明するために、ミクロ経済学に基づく保険市場分析および保険業の経営戦略を講義する。さらに昨今の事情を鑑み、金融ビッグバン及び保険規制の理解も深める。</p>		
講義概要	<p>前期は保険原理の学習を中心とする。純化された保険の公式は、$P = Z$ で表されるが、現実の保険現象は団体の運営費・社費などの個別企業の生産費が必要となるので、この公式の他に各種の原則や補助公式が必要となる。保険原理では経済学、とくにミクロ経済学の素養が要請され、また危険論では統計学の知識が若干必要となる。後期は、複雑多様な保険現象や保険企業の行動原理、保険市場の特殊性などの理解が中心となる。また、金融規制緩和の現状に鑑み、保険業に対する規制の特殊性および将来の変化を理解した上で、保険会社の倒産と消費者保護について講義する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	庭田範秋編『保険学』成文堂、1989年。	
	参考文献	講義中にその都度指示・紹介する。その他、補足資料などを配布する。	
評価方法	<p>学年末試験を主とし、必要に応じレポートなどを加えて評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>特段用意する必要はないが、経済学・経営学・統計学・マーケティング・法学などの基礎的な科目を既修または平行履修するのが好ましい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「講義の範囲、講義の進め方、保険学の学問的位置づけについて」。 2. 「保険現象の分析方法について」。 3. 「昨今の保険現象のトピックについての概観」。 4. 「リスクの基礎理論」および「リスクの認知、分類、定量化、測定、および処理について」。 5. 「リスクと保険：保険可能リスクとダウンサイド・リスク、付保決定基準について」。 6. 「保険の構造（１）：保険成立の諸要件についての検討および保険の諸原理・原則の検討について」。 7. 「保険の構造（２）：応用経済学による保険現象のモデル化について」。 8. 「保険の構造（３）：『被保険利益』、『保険価額』、『保険金額』、『全部保険』、『一部保険』、『超過保険』、『共同保険』について」。 9. 「保険の構造（４）：『危険負担の一般原則』及び『損害填補の一般原則』について」。 10. 「保険各論（１）：保険の分類（事故の対象、事故発生の場所、保険経営の主体、経営動機、加入者の性格、加入動機、保険料の性格、給付基準、給付手段、被保険者の選択、引き受け内容、危険分担の種類、責任の所在、政策的の有無、法制上の基準、保険期間、危険種類など）」について」。 11. 「保険各種（２）：『生命保険』の仕組みや機能、経済効果およびその構造、生命保険価格決定理論について」。 12. 「保険各論（３）：『社会保険・社会保障を中心として『高齢化社会』における諸問題、特に年金と医療に関して講義する』。 13. 「保険各論（４）：『損害保険』の仕組みや経済機能、損害保険企業の行動原理に多大な影響を及ぼしかつ伝統的な損害保険の本質論の変容をもたらしたと考えられる「積立型保険」の特徴及び問題点について」。 14. 「保険経営（１）：保険経営の特殊性、価値循環の転倒性、保険商品の特殊性、保険業の収益構造、保険経営の３利源（危険差益・利差・費差）などについて」。 15. 「保険経営（２）：保険マーケティング、保険料率の算定・決定とアンダーライティング、保険企業の資産運用とキャッシュ・フロー・アンダーライティングについて」。 16. 「保険経営（３）：金融ビックバンと保険業について」。 17. 「保険市場論（１）：『産業組織論』の枠組みによる保険市場の分析」。 18. 「保険市場論（２）：『コンテスピリティ理論』及び『競争戦略論』、保険市場における市場集中度、商品の差別化、商品に対する情報の問題、規模の経済性、範囲の経済性について」。 19. 「保険企業の行動理論：保険業における価格競争及び非価格競争について（『屈折需要曲線』、『自律的料率政策領域』および『料率の事後補正としての契約者配当』）」。 20. 「保険の限界とその拡張（１）：保険技術的限界および保険経営上の限界（モラル・ハザードやアドバース・セレクションを含む）について」。 21. 「保険の限界とその拡張（２）：保険経済的限界、法的限界について」。 22. 「保険政策論：一般の経済政策と保険固有の保険政策の共通点・相違点（保険の成長・安定・公正政策）について」。 23. 「保険業の規制（１）：保険業の規制と規制緩和、保険業における競争と規制の二律的均衡の理論的枠組み（CAPM理論、オプション・プライシング理論）などについて」。 24. 「保険業の規制（２）：金融・保険業の消費者保護、とくに銀行の預金者保護における預金保険制度（FDIC）、年金の保護における年金の支払保証制度（PBGC）、保険契約者の保護における支払保証基金（GF）の比較について」。
----------------------------	---

科目名	貿易論	担当者名	米山昌幸
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>国際貿易や貿易政策の基礎理論を習得して、現実の国際経済のテーマを考察し、分析するための理論的根拠を得ることが、この講義の目的である。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの理論の有用性を理解してもらいたい。</p> <p>ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけいねいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、単に経済事情を解説するのが目的ではなく、大学生にとって理想的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。</p>				
講義概要	<p>貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野である。</p> <p>前期は、一般均衡モデルを用いて伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義する。貿易論でもっとも重要な概念である比較優位を説明し、貿易パターン、貿易利益、比較優位を決める要因などを説明する。貿易実務については、貿易取引と決済の仕組みを簡単に説明するにとどめる。</p> <p>後期は、部分均衡モデルを用いて貿易政策の基礎理論を説明したのち、個別テーマを問題接近的に講義する。幼稚産業保護論や経済統合、コメの輸入自由化、環境資源問題など個別テーマに理論を用いてアプローチする。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>未定</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>第1回目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは基本文献を挙げておく。</p> <p>Krugman, Paul R., and Maurice Obstfeld (1994), <i>International Economics: Theory and Policy (3rd edn)</i>. New York: Harper Collins College Publishers. (石井(他)訳『国際経済：理論と政策 (国際貿易)(第3版)』)</p> <p>池本 清(編)『テキストブック国際経済(新版)』有斐閣ブックス, 1997年</p> <p>浦田秀次郎『国際経済入門』日経文庫, 1997年</p> <p>小田正雄・鈴木克彦・井川一浩・安部顕三『ベーシック国際経済学』有斐閣ブックス, 1989年</p> <p>ロバーツ, ラッセルD., 佐々木潤 訳『寓話で学ぶ経済学』日本経済新聞社, 1999年</p> </td> </tr> </table>	テキスト	未定	参考文献	<p>第1回目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは基本文献を挙げておく。</p> <p>Krugman, Paul R., and Maurice Obstfeld (1994), <i>International Economics: Theory and Policy (3rd edn)</i>. New York: Harper Collins College Publishers. (石井(他)訳『国際経済：理論と政策 (国際貿易)(第3版)』)</p> <p>池本 清(編)『テキストブック国際経済(新版)』有斐閣ブックス, 1997年</p> <p>浦田秀次郎『国際経済入門』日経文庫, 1997年</p> <p>小田正雄・鈴木克彦・井川一浩・安部顕三『ベーシック国際経済学』有斐閣ブックス, 1989年</p> <p>ロバーツ, ラッセルD., 佐々木潤 訳『寓話で学ぶ経済学』日本経済新聞社, 1999年</p>
テキスト	未定				
参考文献	<p>第1回目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは基本文献を挙げておく。</p> <p>Krugman, Paul R., and Maurice Obstfeld (1994), <i>International Economics: Theory and Policy (3rd edn)</i>. New York: Harper Collins College Publishers. (石井(他)訳『国際経済：理論と政策 (国際貿易)(第3版)』)</p> <p>池本 清(編)『テキストブック国際経済(新版)』有斐閣ブックス, 1997年</p> <p>浦田秀次郎『国際経済入門』日経文庫, 1997年</p> <p>小田正雄・鈴木克彦・井川一浩・安部顕三『ベーシック国際経済学』有斐閣ブックス, 1989年</p> <p>ロバーツ, ラッセルD., 佐々木潤 訳『寓話で学ぶ経済学』日本経済新聞社, 1999年</p>				
評価方法	基本的に前期と後期の定期試験によって、成績評価を行う。				
受講者に対する要望など	<p>試験の結果や単位ではなく、講義の本当の意義は別のところにあるはずです。大切なことは、一年間講義を聞いてみて、それによって得た知識や、喚起された知的興味をもとに、自ら勉強することによって、どれだけのもがあなたに付加価値として加わったか、ということではないでしょうか。講義は休まないでください。</p>				

年 間 授 業 計 画	<p>イントロダクション</p> <p>なぜ貿易論を学ぶのか、講義の範囲と進め方、テキスト・参考文献の紹介、履修の心得など</p> <p>第1章 貿易取引と決済の仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 送金為替 2. 逆為替（取立手形） 3. 改正外為法施行後の新たな決済方法 4. 貿易条件 <p>第2章 リカードの比較生産費説</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モデルの設定（2国2財1要素モデル） 2. 閉鎖経済の均衡相対価格の決定 3. 生産フロンティア（生産可能性曲線）の導出 4. 貿易開始後の両国の生産・貿易パターン 5. 最適消費点の決定 6. 貿易利益 <p>第3章 ヘクシャー＝オリーン理論 - 固定投入係数のケース -</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モデルの設定（2国2財2要素モデル） 2. 生産フロンティアの導出 3. 要素賦存量と生産構造 4. 要素賦存量と貿易構造 5. 財の相対価格と要素価格（所得分配） <p>第4章 ヘクシャー・オリーン理論 - 伸縮的投入係数のケース -</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伸縮的投入係数の生産技術 2. 両部門の単位等量曲線 3. ボックス・ダイアグラム分析 4. 一般的な生産フロンティアの導出 5. 要素賦存量の変化とリプチンスキー定理 6. 生産フロンティアの形状とヘクシャー＝オリーン定理 7. 財の相対価格と要素価格 <p>第5章 貿易政策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貿易政策の目的 2. 貿易政策の手段 3. 部分均衡分析による貿易利益 4. 貿易政策の効果 - 部分均衡分析 - <p>第6章 幼稚産業保護論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モデル設定 2. 保護政策が正当化されるための条件 3. 幼稚産業保護論の問題点 <p>第7章 経済統合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済統合の諸形態 2. 経済統合（関税同盟）の理論 <p>第8章 コメの輸入自由化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸入数量制限と関税化 2. 関税の段階的引き下げ 3. 完全輸入自由化（関税撤廃） <p>第9章 環境資源問題と貿易政策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内生産に伴う外部経済と外部不経済のケース 2. 国内需要に伴う外部不経済のケース 3. 貿易に伴う外部不経済のケース 4. 食糧貿易・木材貿易と環境資源問題 <p>まとめ（予備日）</p> <p>この講義を通じて何が得られたか</p>
----------------------------	--

科 目 名	証券市場論	担当者名	原 亨
-------	-------	------	-----

講 義 の 目 標	現代の金融・証券経済社会をどのように解剖するか。その方法、理論、統計処理などを道具にして、解説、実践してみる。学生諸君に金融や証券の諸問題を提起し、関心を向けさせ、常に考える力を養わせる。		
講 義 概 要	新しい証券経済論を構築するように心がけ、やさしく講述する。古くからの商業学や取引所論をベースに、第2次世界大戦以後の新しい経済学、金融理論、株式会社論、経営財務論、会社法、有価証券法などの成果を取り込みながら、今日的金融・証券の諸問題を考察する。		
使 用 教 材	テキスト	毎回、講義要旨をプリントして配布する。	
	参 考 文 献	川合一郎他編『証券市場論』（改訂版）有斐閣双書 1981年 杉江雅彦他著『新・証券論』 晃洋書房 1994年 遂山昌一編『証券市場読本』 東洋経済新報社 1997年 高橋昭三『現代経営財務』（三訂版）税務経理協会 1994年 矢野保男他著『金融と経済』 成文堂 1993年	
評 価 方 法	出席状況と学年末試験による。答案がどれだけ理路整然と設問に的確に答えているかを基準にする。ただし、論述は必ずしも講義内容にこだわる必要はない。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	毎日、「日本経済新聞」を読み、経済、企業、金融、証券の記事や論評を頭に入れておくこと。講義の中でそれらを題材にする。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバス授業。1年間の講義内容を説明する。 2. 現代は、貨幣経済社会である。 3. 金融資産、とりわけ証券は、どのようにして現代社会に累積したか。 4. 証券は、どのようにして商品になったのか。 <ul style="list-style-type: none"> - 経済と法、有価証券制度 - 5. 貨幣証券と資本証券 <ul style="list-style-type: none"> - 証券は、信用制度の産物である - 6. 貨幣証券とは何か。 <ul style="list-style-type: none"> - 手形・小切手 - 7. 資本証券とは何か。 <ul style="list-style-type: none"> - 債券と株式 - 8. 現代は、大量国債を抱える経済社会である。 9. 株式会社制度の仕組み <ul style="list-style-type: none"> - 株式発行と株式流動化システム - 10. 証券取引所 <ul style="list-style-type: none"> - 証券の上場と取引所組織 - 11. 証券の売買仕法と決済システム 12. 証券の売買取引形態 <ul style="list-style-type: none"> - 普通取引 - 13. 派生取引（デリバティブ） <ul style="list-style-type: none"> - 信用取引、先物取引、株価指数取引、オプション取引 - 14. 現代はまた、デリバティブの時代でもある。 <ul style="list-style-type: none"> - 株式投機は、なぜ盛行するか - 15. 証券会社の機能と経営 <ul style="list-style-type: none"> - 日本型証券会社の特徴 - 16. 証券会社経営の変化 <ul style="list-style-type: none"> - 「金融ビッグバン」とオンライン証券 - 17. 相場 - 証券価格の形成と変動 - <ul style="list-style-type: none"> - 価格一般、証券価格（擬制資本）の形成、株式価格の形成の特殊性 - 18. 株式価格形成の理論 <ul style="list-style-type: none"> - 配当と株価、成長株理論、「利回り革命」、高株価形成の仕組み - 19. 配当（率） 株式利回り、株価収益率とは何か。 20. 株価は、なんで測るのか。 <ul style="list-style-type: none"> - 株価指標、「日本経済新聞」の主な指標 - 21. 証券投資決定の理論 <ul style="list-style-type: none"> - ケイ線、科学的投資法、ポートフォリオ理論 - 22. ポートフォリオ（資産選択）とはどういう理論か。 23. 金融・証券市場のグローバリゼーション <ul style="list-style-type: none"> - 国際化とネットワーク -
----------------------------	---

科 目 名	企業形態論	担当者名	栗 村 英 二
-------	-------	------	---------

講義の目標	経済の構成単位である企業について、その歴史や法律上の分類としての合名会社、合資会社、有限会社、株式会社や個人企業について機能や事業規模や責任について明確にしたい。		
講義概要	現代資本主義企業形態について述べる。特に有限会社と株式会社を取扱う。また公企業についても講義する。		
使用教材	テキスト	車戸編『企業形態論』八千代出版	
	参考文献		
評価方法	学年末の試験成績による。		
受講者に対する要望など	企業の問題について新聞その他で知識を多くすること		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中小企業の比重が多いので、有限会社について、有効な経営の手引書が少なく経営改善や事業の向上に熱心な経営者の意識について。 2. 有限会社の特質や特性について。 3. 有限会社と株式会社の相違点。社員総会と執行機関について。 4. 有限会社の株は第三者には流れない。社長 代表取締役の心得について。 5. 有限会社の資本金について。 6. 現代の企業形態の展開の意義について。 7. 株式会社について 成立、機構、発展変貌、残されている問題。 8. 現代企業における所有と支配。危険負担と支配権。所有の分散と経営者支配。 9. 企業集中の要因。 企業集中の形態 連合形態、合併形態、企業集団形態。 10. 競争と規制。 独占対策について。 11. 企業集団問題の所在。代表的な企業集団。コンツェルンの生成発表。六大企業集団の特質。 12. 企業の集中・分割形態と企業集団。 13. 公企業とは何か、その実態。 14. 公企業の機能と役割。 15. 自由経済体制と公企業の役割。 16. わが国の公企業の生成と発展。 17. 公企業の諸問題。 18. 公企業の民営化の背景。 19. 日本企業の成熟社会の対応 国際化、多角化、業際化等。 20. 海外現地進出の形態。 21. 資本市場の拡大と多様化。 		

科 目 名	協同組合論	担当者名	栗 村 英 二
-------	-------	------	---------

講義の目標	資本主義経済活動の批判として生まれた協同組合は、全世界的な市民権を得た事業体として生き続けていることを認識してほしい。		
講義概要	協同組合には 150 年の歴史で創り出した協同組合の原則の理解と協同組合の原則を詰めつゝある現実を知ることにつとめる。		
使用教材	テキスト	『新協同組合とは』（財）協同組合経営研究所	
	参考文献		
評価方法	学年末のテストによる。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協同組合のあゆみ 協同組合の誕生 2. 世界に広がった協同組合 日本の協同組合のあゆみ 3. 協同組合の特徴としくみ 協同組合とは何か 4. 協同組合の原則を学ぶ 加入、脱退は一人ひとりの自由 5. 平等な議決権と主体的な参加（＝民主的運営） 公平に出資し余剰金はみんなのために活用する（組合員による財産の形成と管理） 6. 他に依存したり従属してはならない（組合の自治・自立） 7. 学びあう場としての協同組合（教育、研修と広報活動の促進） 協同組合どうして手を結びあおう（協同組合間協同） 8. 環境を守り、暮らしやすい地域をつくる（地域社会への配慮） 9. 七つの原則はバラバラなものではない 10. 協同の二十一世紀へ ・現代社会はどこへ 11. ・いま、なぜ協同組合に着目するか 12. ・新しい時代を協同の力で 		

科 目 名	会計学原理	担当者名	内 倉 滋
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>本講義は、“制度としての会計”の解明を目的とする。その目的のため、我が国における慣習的なルールたる「企業会計原則」(「連結財務諸表原則」等の関連する諸原則を含む。)を直接の分析対象に選び、その規定している内容と、それを支えている理論的な背景の紹介をしていきたい。なお本講義では、その“理論的な背景”として、今世紀初頭のドイツの理論、とりわけシュマーレンバッハ(ドイツの会計学者)の議論を随時取り上げることとしたい。</p>		
講 義 概 要	<p>年間授業計画は次ページに掲げるとおりであるが、おおむね前期は、複式簿記の復習の後、企業会計に関する諸規定の概要を紹介し、そして各種資産の種類別評価ルールの紹介を流動資産に関する部分まで行っていきたい。他方後期は、固定資産・繰延資産の評価ルールの紹介の後、負債・資本の計上ルールおよび収益・費用の認識ルールを取り上げ、最後に財務諸表の様式や連結財務諸表といった問題までをも講義の対象としたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	平井克彦、『国税専門官受験のための 会計学』(白桃書房)	
	参考文献	図書館に複数冊あるものを中心に、後日紹介します。	
評 価 方 法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また(受講生の理解度を知る目的からも)何回か小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>複式簿記の基本的知識を前提に議論を出発させますので、「簿記原理」を習得していること、または同等の知識のあることを履修の条件とさせていただきます。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト第1・2章：複式簿記・決算（複式簿記の復習；「決算の総合問題」 p. 36～ の演習） 2. テキスト第3章：会計の基礎（会計とは；会計の種類・目的；企業会計の理論；会計公準） 3. テキスト第4章 前半：企業会計に関する規定 その1（企業会計に係わる法令；「企業会計原則」） 4. テキスト第4章 後半：企業会計に関する規定 その2（「一般原則」「真实性の原則」「正規の簿記の原則」「資本取引・損益取引区別の原則」「明瞭性の原則」「継続性の原則」「保守主義の原則」「単一性の原則」「重要性の原則」） 5. テキスト第5章：貸借対照表（貸借対照表の作成；資産・負債の分類；重要な科目の分類表示と注記事項） 6. テキスト第6章：損益計算書（損益計算書の作成目的；営業損益計算の区分；経常損益計算の区分；純損益計算の区分；損益計算書のひな型） 7. テキスト第7章：流動資産 - 現金預金（当座資産；通貨以外の「現金」；預金；現金預金の評価） 8. テキスト第8章：流動資産 - 営業債権（売掛金；営業手形；手形の更改；不渡手形；手形の裏書・割引；貸倒引当金の設定と表示方法；荷為替の取組み；受取手形記入帳） 9. テキスト第9章：流動資産 - 有価証券（有価証券 種類・取得原価・評価・端数利息の処理・貸借；自己株式） 10. テキスト第10章：流動資産 - 棚卸資産（棚卸資産とは；棚卸資産の評価；原価時価比較低価法） 11. 前期の総復習 12. テキスト第11章：固定資産 - 有形固定資産（有形固定資産とは；有形固定資産の取得原価；減価償却累計額；有形固定資産の圧縮記帳） 13. テキスト第12・13章：固定資産 - 無形固定資産・投資その他の資産（無形固定資産の内容・評価 費用配分；投資その他の資産の内容・評価） 14. テキスト第14章：繰延資産（繰延資産の資産性；繰延資産の内容；繰延資産の償却） 15. テキスト第15章：負債（負債の分類；負債の内容；負債の評価；偶発債務） 16. テキスト第16章：引当金（引当金の設定要件；引当金の表示方法；引当金の内容） 17. テキスト第17章 前半：資本 その1（資本 についての商法 有限会社法 規定；商法上の分類；「企業会計原則」上の分類；増減資） 18. テキスト第17章 後半：資本 その2（利益剰余金；利益の処分；中間配当；配当限度額の計算；合併についての問題） 19. テキスト第18章 前半：利益の計算方法 その1（財産法と損益法；費用収益対応の原則；収益の認識；特殊な商品販売その1 未着品の販売） 20. テキスト第18章 後半：利益の計算方法 その2（特殊な商品販売その2 委託販売・試用販売・予約販売・割賦販売；収益認識の特殊問題 長期請負工事収益・生産基準・自然増価） 21. テキスト第19章：減価償却（減価償却とは；減価償却の計算方法；償却費の表示方法；総合償却；減耗償却） 22. テキスト第20章：本支店会計（人名勘定による仕訳；未達取引；内部利益の処理） 23. テキスト第21章：連結財務諸表（「連結財務諸表原則」の改正；連結財務諸表の作成目的；連結の範囲；連結財務諸表作成の一般原則；連結貸借対照表の作成 「部分時価評価法」・「全面時価評価法」；連結損益計算書の作成） 24. 後期の総復習
----------------------------	--

科 目 名	会計学原理	担当者名	百 瀬 房 徳
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義においては会計学全般にわたって基本的な理解をすべく授業をしていく予定である。したがって、今後、各授業科目を深く掘り下げる場合におおいに役立つものにしたい。</p>		
講 義 概 要	<p>「会計学」という名称は狭義には財務諸表論または財務会計論と理解されているが、最も広くみれば、会計全般にわたるものと理解される。ここでは会計学を最も広く理解し、したがって、会計のすべての領域を含むものと理解する。このように理解すれば、会計学には、基本的には簿記（商業簿記、工業簿記等）、財務諸表論およびそれに関連する制度、原価計算論、管理会計論、経営分析、監査論、および社会会計論が含まれる。したがって、上記の領域について一般的に講義していく。</p>		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>前期および後期試験をする。</p>		
受 講 者 対 する 要 望 等			

歴史

会計そのものの歴史資料があり、体系的に理解できるようになったのは、イタリアにおいて地中海貿易が盛んになされた時である。資料としては、当時の商人の会計帳簿によるものであるが、著書としてはルカ・パチョーリにより著された数学辞典である。ここから始まり日本へ伝わるまで概説する。[予定講義回数 = 4 回]

簿記

簿記は商業簿記および商業簿記に工業簿記が加わった形で発展して来た。基本的には商業簿記は商人の市場における売買活動を測定・記録するもので、工業簿記は内部の製造過程を製品が完成するまで測定・記録する。この基本的原理について概説する。[予定講義回数 = 4 回]

財務諸表論

財務諸表論は経済活動をする実体とその関係者にその活動の伝達手段として発展してきた。特に日本では第二次大戦後は「企業会計原則」が公表され、これをめぐって様々な議論が展開されてきた。この展開過程とそのもの内容について概説する。[講義回数 = 4 回]

制度会計

制度会計という固有の会計はあるわけではないが、基本的には財務諸表論がどのような形で制度化（法律となる）されているかについてとらえるものと言えよう。特に日本では証券取引法、商法および税法がそれぞれ固有の立場から立法化しているため、それぞれの立場とそれにより財務諸表論が組み込まれているか概説する。[講義回数 = 4 回]

原価計算および管理会計

原価計算は基本的には製品製造過程においてどのように原価を把握するかを対象とする。それに対して、管理会計は基本的には経営の業績評価をし、意思決定に役立つことを目的とする。これらの基本的な考え方について概説する。[講義回数 = 4 回]

経営分析

経営分析は経済活動を営む実体が公表する財務諸表を分析することで発展して来た。実体に関係する者にとってその状況および業績を批判的に評価することは次の意思決定にとって重要である。これらの批判的評価の基本的考え方について概説する。[講義回数 = 3 回]

監査論

監査論は経済活動を営む実体が公表する財務諸表について実体の内部に入り批判的に検討を加え、財務諸表が適正に表示されているか否について意見を表明することの全課程を対象とする。この役割は通常公認会計士のそれである。これらの内容について概説する。[講義回数 = 3 回]

社会会計論

社会会計論は基本的には国民所勘定、投入産出表、国民賃借対照表等々との関連で発展してきた。この内容について概説する。[講義回数 = 3 回]

科 目 名	財務会計論	担当者名	中 村 泰 將
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義は、1, 2 年生で簿記を勉強し、いよいよ会計理論を勉強しようとする受講生を対象にして設けられた講座です。京セラの稲盛会長が『実学 - 経営と会計』という著書の中で「会計がわからなくて経営ができるか」と述べているように、会計の専門知識は投資家にとっても、企業のスタッフ、経営者にとっても重要な意思決定の手段となります。財務会計の課題は、どのような人々に会計情報を提供するの？ どのような種類の会計情報を提供するの？ その会計情報はどのように作りだすのか。の3つに集約されます。</p>				
講 義 概 要	<p>上の3つの課題は、は、外部の利害関係者である、株主、債権者、国、従業員、さらに一般社会の人々等を対象としております。は、基本的にはストック（企業の経済的資源）とフロー（利益）並びにキャッシュ・フロー（現金および現金同等物の源泉と使途）の3つの情報を提供します。は、会計情報を作りだすルール（会計基準と呼びます）を学ぶことです。このルールには、国内では、商法、証券取引法、税法等の法律が要請する会計基準がありますが、国際的に経済活動する企業では「国際会計基準」や米国の SEC（証券取引委員会）が要請する米国会計基準などがあります。2000 年は、雑誌『エコノミスト』の「会計革命 . . .」（1999 . 7 , 11 月号）のなかで「日本型経営を変える国際会計基準」と言われるほどさまざまな改革が行われます。「連結決算」「時価会計」「キャッシュフロー計算書」「年金会計」等です。これらの点については、講義の中でその都度触れる予定です。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td>新井清光著『現代会计学』中央経済社 会计学を体系的に易しく書かれています。</td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td>『会計法規集』中央経済社 - 会計に関するルールや法規がすべて載っております。 『エコノミスト』（2000） - 必要な箇所をコピーします。 『日本経済新聞』</td> </tr> </table>	テ キ ス ト	新井清光著『現代会计学』中央経済社 会计学を体系的に易しく書かれています。	参 考 文 献	『会計法規集』中央経済社 - 会計に関するルールや法規がすべて載っております。 『エコノミスト』（2000） - 必要な箇所をコピーします。 『日本経済新聞』
テ キ ス ト	新井清光著『現代会计学』中央経済社 会计学を体系的に易しく書かれています。				
参 考 文 献	『会計法規集』中央経済社 - 会計に関するルールや法規がすべて載っております。 『エコノミスト』（2000） - 必要な箇所をコピーします。 『日本経済新聞』				
評 価 方 法	<p>前期：会計の専門的用語、会計基準の内容等についての、×式、穴埋め、短答式問題。 後期：会計の理論的問題。前期・後期の総合点を勘案して評価する。それ以外にレポートの提出も加味する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>簿記原理を習得していた方が望ましい。 会计学に興味ある他学部の学生も歓迎する。</p>				

年 間 授 業 計 画	前期
	1. 会計（学）とは、どのような学問領域かを理解する。
	2. 企業会計の理論的構造を理解する。
	3. 企業会計はどのような計算構造によって、計算されるかを理解する。
	4. 我が国における企業会計制度の仕組みを理解する。
	5. 財務会計の基準あるいはルールである「企業会計原則」の構造を理解する。
	6. 「企業会計原則」における一般原則の意味を理解する。
	7. 真実性の原則とその他6つの一般原則との関係。
	8. 資産会計（1）イ. 資産の意義・概念 □. 資産の分類 ハ. 資産の評価基準
	9. 資産会計（2）イ. 流動資産の意義・分類・評価
	10. 資産会計（3）イ. 当座資産の概念・分類・評価 □. 有価証券の概念・分類・評価
	11. 資産会計（4）イ. 固定資産の概念・分類・評価
12. 資産会計（5）イ. 繰延資産の概念・種類・償却	
後期	
1. 負債会計（1）イ. 負債の概念・分類	
2. 負債会計（2）イ. 引当金の意義 □. 引当金の設定の目的 ハ. 引当金の設定の要件	
3. 資本会計（1）イ. 資本会計の意義と範囲 □. 資本の源泉別分類と処分可能別分類	
4. 資本会計（2）イ. 払込資本の概念と範囲 □. 増資・減資の形態と会計処理	
5. 資本会計（3）イ. 評価替資本の会計 □. 受贈資本の会計	
6. 資本会計（4）イ. 稼得資本の概念と範囲 □. 商法第288条の利益準備金	
7. 損益会計（1）イ. 損益会計の意義と範囲 □. 損益計算の区分計算	
8. 損益会計（2）イ. 損益計算の諸原則（1）費用収益対応の原則（2）費用配分の原則 （3）発生主義の原則	
9. 損益会計（3）イ. 収益の認識基準	
10. 財務諸表（1）イ. 財務諸表の意義と役割 □. 中間財務諸表の意義と作成	
11. 連結財務諸表（1）イ. 連結財務諸表の意義 □. 連結貸借対照表の作成基準	
12. 連結財務諸表（2）イ. 連結損益計算書の作成基準 □. 連結剰余金計算書の作成基準	

科 目 名	管理会計論	担当者名	香 取 徹
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>企業の経営者や管理者およびこれを助ける人々が、合理的な計画管理活動を展開するためには、企業会計についての基礎知識をもって、目的にあった会計情報をうまく使いこなせる素養を身につけることが近年ますます重要になっています。この講義では、マネジメントの諸分野で生じる意思決定問題を採算性の観点から分析するための基礎的な考え方と、その分析に役立てるための会計情報の使い方を講義します。</p>
講 義 概 要	<p>コスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるためにキャッシュフローと会計情報の計数的な分析を講義します。</p> <p>前半は、キャッシュフローによる経済的な意思決定の考え方、意思決定のタイプと判断基準について、練習問題やケーススタディのプリントを配布して全員で解いていきます。</p> <p>後半は、設備投資計画とキャッシュフロー利益の考え方、戦略計画における収益性の尺度の問題や会計情報のあり方などをとりあげます。実際にコンピューターを使ってキャッシュフロー計算書やシミュレーションモデルを作成して、キャッシュフロー情報と財務諸表情報とを分析します。</p>
使 用 教 材	<p>テキスト</p> <p>『キャッシュフロー-管理会計』伊藤・香取 中央経済社</p>
	<p>参 考 文 献</p> <p>・桜井通晴著『管理会計』同文館</p>
評 価 方 法	<p>定期試験のみ（教科書持込）</p>
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>2年修了時までには授業で簿記原理を修得しているか、日商3級程度の実力のある者が望ましい。コンピューターについての知識は、初めから教えるので特別必要とはしません。</p>

年 間 授 業 計 画	<p>第1週 管理会計の基礎</p> <p>第2週～第4週 経済的な意思決定の重要性と考え方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 経済的な意思決定とキャッシュフロー 2, 意思決定のプロセス 3, 関連原価と無関連原価 4, 手余り状態と手不足状態 <p>第5週～第7週 意思決定のタイプと判断基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 意思決定問題のタイプ 2, 独立案からの選択問題 3, 排反案からの選択問題 4, 混合案からの選択問題 5, 自己資金の正味利益とは <p>第8週～第10週 短期利益計画とシミュレーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 目標利益の設定 2, シミュレーション 3, 損益分岐点分析 4, 短期利益計画 <p>第11週～第13週</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 事業部制 2, 原価企画 3, ABC・ABM <p>第14週～第16週 投資分析とキャッシュフロー利益</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 資金の時間価値 2, キャッシュフロー図 3, 時間換算 4, 税引後利益と経済性 <p>第17週～ コンピューターを使つての長期計画の収益性と会計情報</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 投資の評価指標と選択指標 2, キャッシュフロー計算書と投資案の評価
----------------------------	--

科 目 名	社会会計論	担当者名	湯 田 雅 夫
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>'70年代の2度の石油危機を契機として、工業社会の成長にともなうコストが先進工業国の市民の間で意識されるようになり、新たな社会に適合した会計情報が求められるようになった。伝統的な企業会計から選られる会計情報だけで企業の真の実像を把握することは、もはや不可能になったのである。</p> <p>このような時代の変化を踏まえて、本講義では、真の企業像み把握するために、緊急に取り組むべき最先端のテーマの一つである環境マネジメント、環境監査および環境会計の内容と最近の動向を解説する。</p>				
講 義 概 要	<p>社会関連会計は、'80年代後半に至り、とくに環境保護の観点からエコ Bilanz (環境監査、環境管理; Okobilanz = Environmental Audit) の領域で新たな展開をみせている。EU では EMAS、EU 域外の国々では ISO14000 シリーズという二つの環境マネジメント・環境監査に関する国際規格が施行した。EU の動向を踏えつつ、ドイツ、スイスおよびわが国の最新の事例を概観しながら環境マネジメント、環境監査および環境会計について考察したい。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>湯田雅夫『ドイツ環境会計論』中央経済社</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・東京商工会議所環境委員会編『環境管理と監査』ダイヤモンド社、1995 ・安田火災『ISO 環境管理システム規格の要求事項と自己チェックシート』TERRA No.15 ・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向 ドイツ語圏諸国を中心として』『国際会計研究学会 '93年報』平成6年2月、83頁～98頁。 ・湯田雅夫『社会関連情報の諸形態』日本社会関連会計学会『社会関連会計研究』第7号、1995年9月、9頁～17頁。 </td> </tr> </table>	テキスト	湯田雅夫『ドイツ環境会計論』中央経済社	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・東京商工会議所環境委員会編『環境管理と監査』ダイヤモンド社、1995 ・安田火災『ISO 環境管理システム規格の要求事項と自己チェックシート』TERRA No.15 ・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向 ドイツ語圏諸国を中心として』『国際会計研究学会 '93年報』平成6年2月、83頁～98頁。 ・湯田雅夫『社会関連情報の諸形態』日本社会関連会計学会『社会関連会計研究』第7号、1995年9月、9頁～17頁。
テキスト	湯田雅夫『ドイツ環境会計論』中央経済社				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・東京商工会議所環境委員会編『環境管理と監査』ダイヤモンド社、1995 ・安田火災『ISO 環境管理システム規格の要求事項と自己チェックシート』TERRA No.15 ・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向 ドイツ語圏諸国を中心として』『国際会計研究学会 '93年報』平成6年2月、83頁～98頁。 ・湯田雅夫『社会関連情報の諸形態』日本社会関連会計学会『社会関連会計研究』第7号、1995年9月、9頁～17頁。 				
評 価 方 法	<p>当該講義課目の成績評価は、後期試験期間中に実施する論述式の試験による。</p> <p>なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>将来、環境審査員、環境審査員補、企業内の環境監査人、公認会計士、税理士、中小企業診断士などの専門職を志望するものは履修することが望ましい。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 第1章 国際規格化と会計情報(1) 3. 第1章 国際規格化と会計情報(2) 4. 第1章 国際規格化と会計情報(3) 5. 第2章 環境情報の変遷(1) 6. 第2章 環境情報の変遷(2) 7. 第2章 環境情報の変遷(3) 8. 第3章 エコピランツ(1) 9. 第3章 エコピランツ(2) 10. 第3章 エコピランツ(3) 11. 第4章 エココントローリング(1) 12. 第4章 エココントローリング(2) 13. 第4章 エココントローリング(3) 14. 第5章 環境監査(1) 15. 第5章 環境監査(2) 16. 第5章 環境監査(3) 17. 第6章 環境報告書、環境声明書、ランキングと評価法(1) 18. 第6章 環境報告書、環境声明書、ランキングと評価法(2) 19. 第6章 環境報告書、環境声明書、ランキングと評価法(3) 20. 第7章 環境マネジメント会計(1) 21. 第7章 環境マネジメント会計(2) 22. 第8章 環境会計(1) 23. 第8章 環境会計(2) 24. 終章 財務情報、社会情報、環境情報の統合に向けて
----------------------------	--

科 目 名	原価計算論	担当者名	齋藤正章
-------	-------	------	------

講義の目標	<p>原価計算は、大きく分けて、財務諸表作成のため（財務会計目的）と経営管理のため（管理会計目的）という２つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「原価計算制度」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、企業の生産システム、製造技術、コンピュータネットワークなどの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義では、この２つの視点から企業における原価計算の役割について理解を深めることを目標とします。</p>		
講義概要	<p>前期と後期の半ばまでは、財務会計目的のための原価計算の手続き（伝統的な原価計算）について講義を行います。理解を深めるために、必要に応じて練習問題を解きます。後半は、新しい原価計算の流れについて解説を行う予定です。</p>		
使用教材	テキスト	<p>開講時に指示します。</p>	
	参考文献	<p>・岡本 清『原価計算』（５訂版）国元書房、1994年</p>	
評価方法	<p>原則として前後期の試験結果を重視します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講者は簿記の基礎知識があることが望ましいです。 授業には電卓を持参のこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 原価計算総説 2. 原価とは何か 3. 原価計算の基礎手続 4. 原価の費目別計算 5. 原価の部門別計算(1) 6. 原価の部門別計算(2) 7. 総合原価計算(1) 8. 総合原価計算(2) 9. 総合原価計算(3) 10. 個別原価計算(1) 11. 個別原価計算(2) 12. 個別原価計算(3) 13. 標準原価計算(1) 14. 標準原価計算(2) 15. 標準原価計算(3) 16. 直接原価計算(1) 17. 直接原価計算(2) 18. 直接原価計算(3) 19. 特殊原価調査 20. 差額原価収益分析 21. 原価計算における問題点 22. 原価計算の新展開(1) 23. 原価計算の新展開(2) 24. 原価計算と管理会計
----------------------------	--

科 目 名	会計監査論	担当者名	長 吉 眞 一
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>会計監査について、その構造と制度についての理解をめざす。具体的な監査手続については、後期において4コマを割り当て、注意すべき点や盲点となりがちな事項について説明し、これらの理解をうながす。</p> <p>講義は、会計監査論の理論的な理解と、具体的な監査手続の二本建てとなるが、相互の関連性について、常に注意を喚起していきたい。</p>				
講 義 概 要	<p>会計監査に関する基本的な知識と具体的な監査手続について学ぶ。講義はテキストを中心に実施するが、監査は実務と密着し理論と実務が相俟って発展してきた新しい科学であるため、実務を抜きにしては考えられない。このため、講義のあい間に関連する実務上のトピックス等についても必要に応じて説明するつもりである。</p> <p>講義は平明に行うが、周辺科学を履習済みであることが望ましい。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>長吉眞一『財務諸表監査の論理』中央経済社</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td></td> </tr> </table>	テキスト	長吉眞一『財務諸表監査の論理』中央経済社	参考文献	
テキスト	長吉眞一『財務諸表監査の論理』中央経済社				
参考文献					
評 価 方 法	<p>前期は試験またはレポート提出による。</p> <p>後期は試験を実施する。</p> <p>成績評価はそれらを総合的に勘案して行う。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>簿記原理、会計学原理、財務会計論などを履習していることが望ましい。とくに、簿記原理は履習していないと、用語についても理解できないおそれがある。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一年間の講義概要の説明 会計監査論とその周辺の会計科目との関連性の説明 2. 財務諸表監査の意義（監査の意義をふくむ。） 財務諸表監査と経営者による不正との関連 3. 監査基準 4. 監査人（その意義、独立性、監査法人） 5. 監査人（組織的な監査、正当な注意、責任、守秘義務） 6. 監査証拠と合理的な基礎 7. 監査要点 8. 内部統制（その構造、財務諸表監査との関連） 9. 内部統制（その調査、評価） 10. 監査計画（その意義、組織的な監査との関連） 11. 監査計画（基本計画、年度計画、実施計画） 12. 予備及び前期の総括 13. 監査手続（通常実施すべき監査手続、分析の手続、一般監査手続） 14. 監査手続（個別監査手続） 15. 資産科目の監査手続（現金預金） 16. 資産科目の監査手続（売掛金） 17. 負債科目の監査手続（支払手形、買掛金） 18. 損益科目の監査手続 19. 監査調書 20. 監査報告書（その意義、審査機関への付議） 21. 監査報告書（その種類、構造、特記事項） 22. 監査報告書（個別意見と総合意見） 23. 中間財務諸表の監査、連結財務諸表の監査 24. 一年間のまとめとして、財務諸表監査のあり方や将来の展望等について考察する。
----------------------------	---

科 目 名	税務会計論	担当者名	山 田 浩 一
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現実の企業の会計実践においては、法人税を中心とする企業課税の概要に関する理解が重要であるとともに、税務と企業会計の相互関係の理解が重要となる。また、国際的動向に対する理解も必要となろう。すなわち、講義の目的は次のとおりとなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、法人税法の趣旨と計算構造の理解 2、会計的思考と税務的思考の相違の把握 3、法人税法等の会計に与えるインパクトの検討 4、諸外国の税務・会計制度との比較検討 				
講 義 概 要	<p>本講義では、会計及び税務が対象とする個々の経済事象がいかなるものかについての理解の形成につとめた上で、現行制度上、企業利益や課税所得の計算において、それら経済事象がどのように取扱われていくのかを把握していくこととする。さらに、必要に応じて現行制度についての批判的検討を加えることとなる。</p> <p>すなわち、確定決算主義、損金経理要件といった税務理念が、企業会計実践に少なからぬ影響を与え、真実公正な会計の実現を阻害している面があるということ、また、国家単位の税務規制と国際的共通性の強い会計基準との調整が重要な課題となりつつあるといった点である。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>『税務会計要論』中田信正著（同文館）</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・『会計法規集』（中央経済社他） ・『法人税法規集』（中央経済社他） ・『法人税取扱通達集』（中央経済社他） ・『総説税務会計』鈴木明男・鈴木豊共著（税務経理協会） ・『税務会計論』井上久彌著（中央経済社） ・『法人税法精説』武田隆二著（森山書店） その他に法人税・税務会計関係書籍多数が参考となろう。 </td> </tr> </table>	テキスト	『税務会計要論』中田信正著（同文館）	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『会計法規集』（中央経済社他） ・『法人税法規集』（中央経済社他） ・『法人税取扱通達集』（中央経済社他） ・『総説税務会計』鈴木明男・鈴木豊共著（税務経理協会） ・『税務会計論』井上久彌著（中央経済社） ・『法人税法精説』武田隆二著（森山書店） その他に法人税・税務会計関係書籍多数が参考となろう。
テキスト	『税務会計要論』中田信正著（同文館）				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『会計法規集』（中央経済社他） ・『法人税法規集』（中央経済社他） ・『法人税取扱通達集』（中央経済社他） ・『総説税務会計』鈴木明男・鈴木豊共著（税務経理協会） ・『税務会計論』井上久彌著（中央経済社） ・『法人税法精説』武田隆二著（森山書店） その他に法人税・税務会計関係書籍多数が参考となろう。				
評 価 方 法	<p>前期及び後期 2 回の定期試験における成績を基礎として評価する予定である。また、授業時間内の積極的な発言（問題提起、質問、意見等）については評価において考慮したいと考えている。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>本講義の履修にあたっては会計学原理、財務会計論、財政学等の関連科目の履修が有用であるが、特に簿記については基礎知識として把握しておいてもらいたい。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 税務会計論の対象と方法 年間講義概要の説明を行い、税務会計論の対象及び税務会計論研究のアプローチ方法を取り扱う。 2. 租税制度 租税の意義、租税制度の沿革、租税の根拠、租税の目的、租税の分類、法規制の体系、租税原則といった項目について概括的にふれる。 3. 制度会計の構造 制度会計の意義、制度会計におけるいわゆるトライアングル体制、そして税務会計の位置づけをみる。 4. 法人税法上の課税所得の計算 企業利益と課税所得の関係、その構成要素である収益と益金、費用と損金との関係を把握する。 5. 公正会計処理基準 法人税法第22条4項にいう公正会計処理基準の意義を考え、会計理論のGAAP等との関連を考えていく。 6. 税務会計判断の特性 税務判断の特徴的な考え方を、実質主義原理、確定決算主義、債務確定主義、同族会社規定等の概念を通じて確認する。 7. 売上収益と金銭債権 販売収益計上の一般原則、特殊販売の収益計上、債権の計上とその評価といった項目を扱う。 8. 有価証券と受取配当 有価証券の意義、分類、認識と測定、評価に触れた後、受取配当の益金不算入についてふれたい。 9. 売上原価と棚卸資産 売上原価と棚卸資産評価の関係、棚卸資産の取得から期末評価までの一連の考え方をみていく。 10. 有形固定資産・減価償却・リース 有形固定資産の意義、取得原価の決定、資本的支出と修繕費の関係、減価償却の意義と方法、固定資産の除売却、リース取引等を扱う。 11. 圧縮記帳 圧縮記帳の考え方、処理の態様、圧縮記帳処理の会計上の問題点等を扱う。 12. 無形固定資産・借地権 無形固定資産の意義、種類、借地権の考え方と税務上の取扱いといった項目を扱う。 13. 繰延資産 繰延資産の意義、商法上の繰延資産とその他の繰延資産の内容・償却方法等に対する税務上の扱いを概観する。 14. 引当金・準備金 会計上の引当金、商法上の引当金、税法上の引当金を概観する。準備金と引当金の相違点等を解明する。 15. 給与・報酬・源泉徴収 役員と従業員とにおける人件費用の取扱いの相違、及び源泉所得税等の控除項目の取扱いをみる。 16. 交際費・寄付金 交際費課税の趣旨、交際費損金不算入の計算、寄付金の制限の趣旨、寄付金の損金不算入の計算等にふれる。 17. 租税公課 企業をめぐる租税公課の種類を概観するとともに、会計上の取扱いと、税法上の取扱いの相違点をみていく。 18. 自己資本 資本等取引における税務上の取扱いを中心とし、欠損金の繰越控除制度を概観する。 19. 合併・分割・解散 企業活動のうち、特殊な取引内容であるといえる、合併・分割・解散等の意義、会計上税務上の考え方を扱う。 20. 国際課税 企業の国際活動に伴って派生する、外国税額控除、タックスヘイブン、移転価格税制といった問題を取り扱う。 21. 申告・納税制度の概要・連結納税制度 税務会計上の実務的な流れについての各種申告制度の概要、及び連結納税制度の考え方を概観する。 22. 消費税と経理方法 消費税の性格、非課税取引と課税取引、税額計算、経理方式とその評価といった項目を扱う。 23. 非営利法人の税務 公益法人、学校法人等の非営利法人における、法人税その他租税の取扱を概観する。 24. 税効果会計 税効果会計の意義、個別財務諸表及び連結財務諸表における税効果、国際会計基準、アメリカの会計実務における税効果会計等を概観する。
----------------------------	---

科 目 名	経営分析論	担当者名	百 瀬 房 徳
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経営分析は財務諸表分析として発展してきた。このためには統一した財務諸表の作成方法の発展を促進させてきた。これによって作成された財務諸表分析の始まりは金融機関が貸付金の返済能力を判定したところにある。その後証券市場では収益性の分析を発展させた。現在では特定の実体（たとえば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展してきている。本講ではこの全体像の理解を深めることにある。</p>		
講 義 概 要	<p>前期においては歴史的発展過程をふまえたかたちで、経済環境と技法の二面より考察し、後期においては代表的な企業の財務諸表を資料とし、体系的に分析しながら、分析値が何を意味するかを考察する。この分析はテーマごとにレポートを完成させて、提出してもらうことにする。</p>		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献	無し	
評 価 方 法	<p>テーマごとにレポートを完成させて提出してもらう。このレポートを中心に評価する。後期にはレポートが理解されているかテストする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講義のあった日に必ず復習すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	前 期	
	週	主 要 テ ー マ
	1	1年間の講義内容の説明。
	2	米国における経済環境における手形市場の形成過程
	3	手形市場、特に卸売商人の銀行での手形の割引における銀行からみた信用分析の形成過程
	4	信用分析の側面からみた財務諸表、特に貸借対照表を中心に
	5	信用分析における2対1の原則から体系的な分析への過程
	6	信用分析のケース・スタディ ケース -ウォール、ケース -ブリス、ケース -シュルター
	7	信用分析のケース・スタディ ケース -ギルマン、ケース -ウォール、ケース -シュマルツ
	8	収益性の分析およびその他の分析への発展
	9	経営分析の意義とその限界
	10	経営分析の主体と目的
	11	経営分析の種類
	12	経営分析の体系
	備考	
	後 期	
	週	主 要 テ ー マ
	1	安全性の分析(1)...比率分析 新日鉄の有価証券総覧を用いて分析をし、レポート提出
	2	安全性の分析(2)...資金運用表の作成 レポート提出
	3	安全性の分析(3)...資金移動表の作成 レポート提出
	4	収益性の分析(1)...各種資本利益率
	5	収益性の分析(2)...売上高利益率と資本回転率 収益性の分析”と(をまとめてレポート提出
	6	収益性の分析(3)...利益増・減原因分析 レポート提出
	7	生産性の分析(1)...付加価値の意義
8	生産性の分析(2)...付加価値の計算と数値の意味	
9	生産性の分析(3)...付加価値の計算 レポート提出	
10	損益分岐点分析(1)...損益分岐点の意義	
11	損益分岐点分析(2)...損益分岐点の計算と数値の意味	
12	損益分岐点分析(3)...損益分岐点の計算 レポート提出	
備考		

科目名	上級簿記	担当者名	香取 徹
-----	------	------	------

講義の目標	この上級簿記論は、日商簿記検定 2 級の試験範囲のうち <u>工業簿記</u> を 1 年間かけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定の 2 級の試験は、商業簿記と工業簿記の 2 種類の簿記の検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことで、原価計算や管理会計論の基礎として重要な技術であるので、是非習得してほしいと思います。		
講義概要	講義ではテキストを説明したあとに、ワークブックで記帳練習をします。毎回、学習した分の宿題を必ずやってください。簿記は積み重ねが大切です。		
使用教材	テキスト	New Concept 日商簿記検定試験 工業簿記 2 級、税務経理協会 New Concept 日商簿記検定試験 工業簿記 2 級ワークブック	
	参考文献		
評価方法	定期試験のほか毎回小テストを行い、合計点で評価します。		
受講者に対する要望など	検定試験にどんどんトライして下さい。 合格したら試験の点数に加算します。		
年間授業計画	第 1 週 工業簿記の特質 第 2 週 原価 第 3 週 原価計算 第 4 週 工業簿記の構造 第 5 週 材料費の計算 第 6 週 労務費の計算 第 7 週 経費の計算 第 8 週 製造間接費の計算 第 9 週 " 第 10 週 部門費の計算 第 11 週 個別原価計算 第 12 週 部門別原価計算 第 13 週 仕損費と作業屑 第 14 週 単純総合原価計算 第 15 週 期末仕掛品の評価 第 16 週 組別総合原価計算 第 17 週 工程別総合原価計算 第 18 週 等級別総合原価計算 第 19 週 標準原価計算 第 20 週 差異分析 第 21 週 直接原価計算 第 22 週 " 第 23 週 工業会計の独立 第 24 週 練習問題		

科 目 名	上級簿記	担当者名	細 田 哲
-------	------	------	-------

講 義 の 目 標	「簿記原理」履修者あるいは「日商簿記検定」3級以上の合格者が、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術を習得すること。また、近年続々と公表されている新会計基準の内容について理解を深めることを目標とする。				
講 義 概 要	<p>前期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。 銀行勘定調整表の作成 手形取引の記帳 特殊商品売買取引に関する記帳 株式会社会計</p> <p>後期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。 本支店会計 帳簿組織 連結会計 リース会計 金融商品の会計 退職給付会計</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・新井清光、渡辺裕巨（共著）「検定簿記講義 2級商業簿記」（中央経済社） ・桜井久勝（編著）「New Concept 日商簿記検定試験 1級商業簿記」（税務経理協会） </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・新井清光、加古宜士（編著）「リース取引会計基準詳解」（中央経済社） ・田中建二「時価会計入門」（中央経済社） ・小宮山賢「金融商品・年金会計入門」（税務経理協会） </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・新井清光、渡辺裕巨（共著）「検定簿記講義 2級商業簿記」（中央経済社） ・桜井久勝（編著）「New Concept 日商簿記検定試験 1級商業簿記」（税務経理協会） 	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・新井清光、加古宜士（編著）「リース取引会計基準詳解」（中央経済社） ・田中建二「時価会計入門」（中央経済社） ・小宮山賢「金融商品・年金会計入門」（税務経理協会）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・新井清光、渡辺裕巨（共著）「検定簿記講義 2級商業簿記」（中央経済社） ・桜井久勝（編著）「New Concept 日商簿記検定試験 1級商業簿記」（税務経理協会） 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・新井清光、加古宜士（編著）「リース取引会計基準詳解」（中央経済社） ・田中建二「時価会計入門」（中央経済社） ・小宮山賢「金融商品・年金会計入門」（税務経理協会） 				
評 価 方 法	年2回以上の試験の結果による。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど					

年 間 授 業 計 画	<p>1. 1、銀行勘定調整表の作成</p> <p>2. 2、手形取引の記帳(1) a) 手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳</p> <p>3. 手形取引の記帳(2) a) 手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳 b) 荷為替手形</p> <p>4. 3、特殊商品売買取引(1) a) 未着品売買、b) 委託販売、c) 受託販売</p> <p>5. 特殊商品売買取引(2) a) 未着品売買、b) 委託販売、c) 受託販売</p> <p>6. 特殊商品売買取引(3) d) 割賦販売</p> <p>7. 特殊商品売買取引(4) d) 割賦販売</p> <p>8. 4、株式会社会計(1) a) 株式会社の資本金、b) 法定基準金</p> <p>9. 株式会社会計(2) c) 利益処分と損失処理</p> <p>10. 株式会社会計(3) d) 社債の発行、利払、償還</p> <p>11. 株式会社会計(4) e) 繰延資産、f) 引当金、g)法人税等</p> <p>12. 株式会社会計(5) e) 繰延資産、f) 引当金、g)法人税等</p> <p>13. 5、本支店会計(1) a) 本店集中会計制度と支店独立会計制度 b) 支店分散会計制度と本店集中計算制度</p> <p>14. 本支店会計(2) c) 未達事項の整理 d) 内部利益の控除と合併財務諸表</p> <p>15. 本支店会計(3) c) 未達事項の整理 d) 内部利益の控除と合併財務諸表</p> <p>16. 6、帳簿組織(1) a) 普通仕訳帳と特殊仕訳帳</p> <p>17. 帳簿組織(2) b) 伝票式会計</p> <p>18. 7、連結会計(1) a) 連結財務諸表の目的、連結の範囲、連結決算日等</p> <p>19. 連結会計(2) b) 連結貸借対照表の作成</p> <p>20. 連結会計(3) c) 連結損益計算書の作成</p> <p>21. 8、リース会計(1) a) ファイナンス・リース取引とオペレーティング・リース取引 b) ファイナンス・リース取引の会計処理</p> <p>22. リース会計(2) a) ファイナンス・リース取引とオペレーティング・リース取引 b) ファイナンス・リース取引の会計処理 c) セール・アンド・リースバック取引の会計処理</p> <p>23. 9、金融商品の会計</p> <p>24. 10、退職給付会計</p>
----------------------------	---

科 目 名	経営数学	担当者名	前 田 功 雄
-------	------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では線形代数の基礎的事項を解説するが、授業を進めるに当たって基本概念の視覚化を計るためコンピュータを利用する。先ず、前期では、n次元実ユークリッド空間の基本概念の導入とそれらの視覚的理解の為にコンピュータ・グラフィックスを利用する。最後の数週間で、経営科学で広く応用をもつ線形計画法の理論と Dantiz によるシンプレックス法の紹介とプログラム実習を行う。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義では、線型代数の基本事項である空間概念、点、実数、ベクトル、ベクトル空間等について学び、n次元空間のコンピュータを用いた視覚的な表現をみる。講義は出来るだけコンピュータを用いて分かりやすくする。コンピュータに対する基礎知識、例えば EXCEL などが必要である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	必要に応じてプリント配布。	
	参考文献	授業中に述べる。	
評 価 方 法	レポート提出。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	コンピュータに関する科目を履修のこと。		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベクトルとその演算、n次元ベクトル空間 2. 内積、距離、距離空間 3. コンピュータ・スクリーンによる表現、直交、平行、直線・平面の方程式 4. 線分と直線のベクトル表現、三角形・平行四辺形の表現 5. 写像と変換、一次変換 6. 一次変換の行列表現 7. 行列について - 定義、和、差、積 - 8. 逆行列の定義 9. 連立方程式の解放 - ガウスの解法 - 10. 連理方程式の解放 - ガウス・サイデルの解法 - 11. 逆行列のコンピュータによる解法 12. 連立方程式のコンピュータによる解法 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計画問題 - 線型計画その 1 - 2. 計画問題 - 線型計画その 2 - 3. 線型計画の解法 - 罰金法 - 4. 線型計画の解法 - コンピュータによる解法 - 5. 線型計画の解法 - シンプレックス法 - 6. 線型計画の解法 - - コンピュータによる解法 7. 整数線型計画問題について 8. 整数計画問題の例 - ナップザック問題 - 9. ナップザック問題 - コンピュータによる解法 - 10. 線型代数と経済問題 11. レオンチェフの投入算出行列について 12. 後期レポートの作成
----------------------------	---

科 目 名	情報検索論	担当者名	福 田 求
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>必要な情報を効果的に選択，入手する行為としての「情報検索」について理解を深める。特に，コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を，解説および実習を通して体得する。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義ではまず，情報検索に関する基礎的な概念について解説し，情報検索を取り巻くシステムの仕組みを概観する。そしてその知識を踏まえた上で，実際の情報検索技術に慣れ，習熟するために，CD-ROMによる情報検索の実習を行う。次に，情報検索のサービスについて説明し，さらにオンラインの情報検索サービスの実際の利用を通して，情報検索の理解を深める。そして最後に，新たな情報検索の場としてインターネットを取り上げ，これについても実習を行う。実習では可能なかぎり，受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源（CD-ROM，オンライン）を紹介する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	適宜指示する。	
評 価 方 法	<p>前期および後期の定期試験。これに平常点（実習への参加態度等）を加味する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>受講者の抽選を行うので，第一回の授業には「必ず」出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：受講者の確認・決定。年間予定，授業方法等の注意事項について説明。 2. 情報検索概論(1)：情報検索の定義，種類，歴史について解説。 3. 情報検索概論(2)：データベースの定義，意義，構成要素について解説。 4. 情報検索概論(3)：データベースの種類，歴史について解説。 5. 情報検索概論(4)：第7回以降の実習で用いる索引言語について解説。 6. 情報検索概論(5)：第7回以降の実習で用いる検索式について解説。 7. CD-ROM検索(1)：実習 8. CD-ROM検索(2)：実習 9. CD-ROM検索(3)：実習 10. CD-ROM検索(4)：実習 11. CD-ROM検索(5)：実習 12. 前期講義のまとめ 13. 情報検索サービス(1)：情報検索サービスの定義，意義，歴史，種類について解説。 14. 情報検索サービス(2)：情報検索サービスの利用について解説。 15. オンライン検索(1)：実習 16. オンライン検索(2)：実習 17. オンライン検索(3)：実習 18. オンライン検索(4)：実習 19. 新しい情報検索の動向：インターネットなど新たな情報検索の領域を紹介。 20. インターネットによる情報検索(1)：実習 21. インターネットによる情報検索(2)：実習 22. インターネットによる情報検索(3)：実習 23. インターネットによる情報検索(4)：実習 24. まとめ
----------------------------	---

科 目 名	情報システム論	担当者名	前 田 功 雄
-------	---------	------	---------

講義の目標	本講義では、情報および情報量の概念を明らかにすると共に、パソコンやコンピュータ・ネットワーク上の情報伝達の仕組みと信頼性の高い情報システムの構築について述べる。特に、1971 年以来本学の学籍番号として使われているエラー検出システムに述べる。これら講義には確率論が必要となるので、受講生は統計学を履修することが必須である。		
講義概要	上記目的のためにコンピュータ・ネットワークの積極的な利用が必要となる。そのために、電子メール、ファイル転送などの利用は不可欠である。情報伝達の信頼性についてはエラー検出システムやエラー訂正システムが述べられるがそれらにはやや数学的な内容が含まれるため数学、統計学等を履修または既習が望ましい。		
使用教材	テキスト	必要な都度プリント配布。	
	参考文献	授業中に述べる。	
評価方法	レポートによる。		
受講者に対する要望など	C++言語を含むプログラミング論を履修または既習のこと。		
年間授業計画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコン通信とは。パソコン、モデム、通信ソフト、通信速度。 2. コンピュータ・ネットワークの種類と仕組。 3. インターネットの世界。インターネットの実演。 4. インターネット上のファイル転送 - テキストファイル、バイナリーファイル - 5. 画像や音声データを含んだデータの転送実験。 6. 情報の種類 - 情報の種類とそれらを伝達する媒体 - 7. 情報の測り方 - 情報量の定義とその尺度についての解説。 8. 情報理論に出てくる確率概念の解説。 9. 確率論入門その 1。確率、基本公式、独立な確率変数。 10. 確率論入門その 2。条件付確率、ベイズの定理、事前確率、事後確率。 11. 確率論入門その 3。確率分布、期待値、分散、標準偏差。 12. 情報量の定義とその尺度、エントロピー導入。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エントロピーとは。 2. シンドロームの導入。 3. エラー検出システムのコード。 4. エラー訂正システムのコード。 5. エラー訂正コードとエラー検出コードの例。 6. エラー訂正コードの実験。 7. エラー検出コードの実験。 8. 10 進符号でのエラー検出符号とその応用。 9. 本学の学籍番号システムとエラー検出。 10. 一般に使われているエラー検出システム。 11. エラー検出システムのコンピュータでの実現。 12. 誤り検出符号の作成。 		

科 目 名	オペレーションズ・リサーチ	担当者名	本 田 勝
-------	---------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>オペレーションズ・リサーチ（OR）の技法とは、組織（システム）を運営していく際に遭遇する様々な意思決定の問題を、科学的方法によってアプローチし、その解を求め、運用していく技術である。システムと名の付くものは我々の周りには多岐にわたって存在するから、ORの応用される分野も幅広い。この講義では、これらの手法を習得し、経済や経営の問題へどのように適用していくかを実例を通して理解することを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>オペレーションズ・リサーチの基本的な手法について述べていく。線形計画法や輸送問題などの数理計画法の部類に属するものについて述べたあと、ゲーム理論や在庫管理の問題など確率モデルに関するものを続けて述べていく。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参考文献	講義時にそのつど指示	
評 価 方 法	各テーマごとに課すレポート、毎回の出席調査および定期試験による総合評価を行なう。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>コンピュータを用いた演習を行なうので、「情報処理概論」以上の知識が必要である。また確率的扱いの部分もあるので、「統計学」の知識も必要である。特に、コンピュータ操作に関してはアシスタントはいない。また毎回の出席は重視するので、いい加減な気持ちで登録しないこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. OR とは何かについての概観を行う。 2. 線形計画法 (LP) の定式化と幾何学的解法について述べる。 (決定変数、目的変数、制約条件式、目的関数) 3. シンプレックス法 (単体法) の考え方について述べる。 (スラック変数、基底解、実行可能解) 4. 単体表による変換のアルゴリズムについて述べる。 (ピボット、人工変数、2段階シンプレックス法) 5. パソコンによる演習を行う。 6. LP の双対性、双対問題について述べる。(双対定理) 7. パソコンによる演習を行う。双対問題の経済学的解釈について述べる。 8. LP の感度分析について述べ、パソコンによる演習を行なう。 9. 輸送問題と LP との関連について述べる。 10. 輸送問題の解法について述べる。(ポテンシャル法、解の退化、 - 摂動法) 11. 輸送問題のパソコンによる演習を行う。 12. LP および輸送問題について総合的演習を行う。 13. 動的計画法 (DP) の考え方について述べる。 (多段階決定法、最適性の原理) 14. DP のいろいろの応用例を述べる。 (資源配分問題、最短経路問題、Knapsack 問題) 15. DP のパソコンによる演習を行う。 16. PERT について述べる。(ネットワーク、クリティカル・パス) 17. PERT と CPM の違いについて述べ、パソコンによる演習を行う。 PERT の確率的評価について述べる。(3点推定) 18. ゲームの理論について述べる。(純粹戦略、混合戦略、2人ゼロ和ゲーム) 19. ゲーム理論のグラフ解法について述べ、演習を行う。 20. ゲーム理論と LP との問題について述べる。 21. 在庫管理の考え方について述べる。(発注点、発注量、調達期間、安全在庫) 22. 在庫管理の考え方について述べる。(定期発注法定量発注法) 23. 在庫管理のパソコン・モデルによる演習を行う。 24. 一年間の総まとめをおこなう。
----------------------------	--

科 目 名	システムズ・エンジニアリング	担当者名	天 笠 美知夫
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ曖昧性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり、主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割とその具体的な方法論について理解と意識を深めることを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義は 4 部から構成される。第 1 部ではシステムズ・エンジニアリングの基礎として、システム・エンジニアリングの基本概念と工学的的方法論の概要について述べる。第 2 部では問題の発見と種々のシステムの構造化法について述べる。第 3 部では評価と意思決定について述べる。第 4 部ではいろいろなシステム手法と信頼性について述べる。</p> <p>尚、後期には数時間をかけて、理論に従い事例演習を行い、その報告書を作成させるとともに発表会を行う。本講義を受講するために前提となる必修科目はない。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	授業時間にプリントを配布する。	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・天笠美知夫『システム構成論』森山書店 1986 ・寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985 ・Wayne C Turner, et, al.; <i>Introduction to Industrial and Systems Engineering</i>, Prentice-Hall 1978 	
評 価 方 法	成績評価は、試験、事例演習、レポートおよび出席を考慮して総合的に決定する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業に出席し、積極的に質疑応答して欲しい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1部 システム工学の基礎 第1章 システム工学の基本概念：システム工学の発達とその背景、システムの定義と特徴、システム思考 2. システム環境、サブシステム、システムの巨視的特性 自然システムと人工システム 3. 第2章 システム工学方法論の概要：システム開発の手順と組織（その1）（問題の設定、目標の設定、システム合成、システム解析、システムの評価と選定） 4. システム開発の手順と組織（その2） システム工学方法論 5. 第2部 問題の発見とシステムの構造化 6. 第3章 構造モデルとグラフ理論 7. ISM法、FSM法とKJ法（その1） 8. ISM法、FSM法とKJ法（その2） 9. 構造モデルの分割 10. 第4章 統計的手法による構造化（その1） 11. 統計的手法による構造化（その2） 12. 事例演習1：具体的な問題についてシステム構造化の演習を行う。 13. 第3部 評価と意思決定 <ol style="list-style-type: none"> 第5章 評価の基礎、価値と評価、効用理論（その1） 14. 価値と評価、効用理論（その2） 15. 第6章 統計的手法による数量化、数量化理論（その1） 16. 統計的手法による数量化、数量化理論（その2） 17. 第4部 いろいろなシステムの手法と信頼性： <ol style="list-style-type: none"> 第7章 スケジューリング、PERT、CPM（その1） 18. PERT、CPM（その2） 19. 予測 デルファイ法とファジィデルファイ法 20. 第8章 システムの信頼性 21. 事例演習2：4~5人からなるグループごとに、身近な問題をテーマとして設定し、これまでに学習した理論にしたがいながらシステム構造化を行い、問題解決を図る。 22. 事例演習 23. 事例演習 24. 報告書の作成とグループ発表、質疑応答
----------------------------	--

科 目 名	管理工学	担当者名	日 下 泰 夫
-------	------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経営を取り巻く外部環境が激しく変化するなかで、経営工学・管理工学は今大きく変貌しつつある。時代の潮流を的確につかみ、何が大切かを明確に認識し、問題解決・意思決定能力を高めることが、今ほど要求されている時代はない。本講義は、管理工学を初めて学ぶ人を対象に、その体系の理解と実社会で役立つ考え方と技法の修得をはかることを目的としている。出来るだけ具体的、平易な説明を心がけたい。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、外部環境変化と経営システムの課題、管理工学の役割と概念などの基本的な内容、典型的な技法としての LP, DP を説明する。後期は、EE と AHP の技法を取りあげる。AHP などでは、いくつかの演習も行なう。次に、これらの諸技法の理解を前提に、問題解決法を構造的に把握し、管理工学の役割を考察する。最後に、情報化時代と管理工学、21 世紀における管理工学についての見解を述べる。</p> <p>表計算、プレゼンテーション、最適化、シミュレーションなど、パソコンによるデモンストレーションを取り入れた講義を行う予定である。また、講義の終わりには最新の経営トピックスも紹介する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	拙書：「経営工学概論」、中央経済社、1997	
	参 考 文 献	開講時に紹介する。	
評 価 方 法	前・後期末に実施する計 2 回の試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	管理工学の考え方は実社会の種々の場面で役立つ筈ですから、履修したら継続して受講する（中途半端にならない）ように留意して下さい！		

1. 外部環境変化と管理工学

オープンシステムと経営、 外部環境変化と経営の課題、 管理工学の役割

2～5. 管理工学の概念

企業活動、 企業活動の諸側面：経営職能（生産過程的・管理過程的・管理特性的・経営資
源的諸側面）、 経営活動の立体構造による把握、 意思決定、 管理工学とは

6～8. 管理工学における典型的な問題解決技法¹

問題解決技法の外観、 モデルの概念、 最適化とシミュレーション、 在庫管理

9～12. 管理工学における典型的な問題解決技法²

線形計画法（LP）、 動的計画法（DP）

13～15. 管理工学における典型的な問題解決技法³

経済性工学（EE）

16～18. 管理工学における典型的な問題解決技法⁴

階層分析法（AHP）

19～20. 問題解決法と管理工学

問題解決法の重要性、 外部環境変化とパラダイムの役割、 従来の問題解決法の概要と特
徴、 問題解決の構造的分析、 問題解決法と管理工学の役割

21～22. 情報化・創造化時代と管理工学

情報化・創造化時代、 情報ネットワーク化と経営へのインパクト、 意思決定と情報創造、
情報化・創造化時代における管理工学の役割

23～24. 21世紀の管理工学

時代と共に生きる管理工学、 管理工学における問題解決法の教育、 管理工学を学ぶ人へ
のメッセージ

科 目 名	体 育 理 論	担当者名	本 田 稔 祐
-------	---------	------	---------

講義の目標	<p>体育はわれわれの日常生活にどのようにかかわっているのか、また、健康の維持増進のために、運動が必要とされているが、どのような運動を、どのような方法でどのくらい実施すれば良いのかなどを考え、日常生活の中でできる運動を中心に運動をする習慣を身につけ、生涯健康な生活が送れるようにするための知識を修得する。</p>		
講義概要	<p>人は文明の進歩とともに、日常生活の中であまりからだを動かさなくても不自由がなくなった。しかし、その運動不足が、身体機能に悪い影響を与え、運動不足病などの障害があらわれてくる。そこで、運動不足にならないためには、どうするかを考え、試合中心のスポーツと健康スポーツの違いなどを検証し、健康の維持・増進のため必要な事柄について理解させようとするものである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特に使用しないが、必要に応じてプリント配布をする。</p>	
	参考文献	<p>福岡スポーツ研究所「健康スポーツ・ライフ」スキージャーナル社 大学保健体育研究会「大学生の体育と保健」道和書院 大学体育研究会「保健体育概論」教育の科学社</p>	
評価方法	<p>授業への出席点 40% 筆記テスト 60% などで評価する。 尚テストは授業の最終日に実施する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>半期完結の授業なので、遅刻・欠席をしないこと。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画の説明と、現代社会の健康と体育について 2. 運動の概念と日常生活の中での運動 3. 運動不足による疾病の種類 4. 運動不足による身体機能の変化 5. 運動不足を解消するための対策 6. 健康スポーツとその実施方法 7. 体力と体格、行動体力と防衛体力 8. 心肺持久力 運動と呼吸 9. 心肺持久力 運動と循環 10. 運動と疲労 11. 運動と栄養 12. 筆記テスト <p style="text-align: center;">前期完結</p>		

科目名	国際法	担当者名	廣部 和也
-----	-----	------	-------

講義の目標	国際社会の法である国際法の基礎的知識及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ。		
講義概要	国際法の全般を学ぶ予定であるが、1年間ですべてをカバーすることは無理があり、基礎理論、総論的な部分を中心となる。		
使用教材	テキスト	(1) 導入対話による国際法講義(広部和也・荒木教夫著)(不磨書房) (2) 解説条約集・第8版(石本泰雄・小田滋編)(三省堂)	
	参考文献		
評価方法	試験による。(中間試験を行う予定である)		
受講者に対する要望など	関心を持って学ぶこと		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全般に関する注意。 <ul style="list-style-type: none"> ・国際法の意義 ・国際法主体(国家、国際組織、個人) 2. 国際法の歴史(国際法はどのように成立し、どのように発展してきたか。) 3. 国際法の法源(国際法はどのような形で存在するか、それは、また、どのように形成されるか。) 4. 国際法と国内法(両者の法はどのように異なり、どのような関係にあるのか。) 5. 国家の成立(国際法上、国家とはどのように定義され、どのようにして国際法上の存在となるのか。) 6. 国家の基本権(国際法上、国家はどのような権利を持つのか。特にその基本となる主権を中心にその権利がどう行使されるか。) 7. 外交使節(国家は対外関係をどのように維持するか。外交官及び領事の地位、特権免除) 8. 国家責任(国際法上の違法行為と国家の責任、損害賠償などの責任の解除) 9. 国際社会の組織化1(国際組織とは何か。その形成過程、どのような国際組織があるか。) 10. 国際社会の組織化2(国際連合を基本に表決制度や決議の効力がどのようにになっているのか。) 11. 個人の地位(国籍、外交保護権、など) 12. 人権の国際的保護(世界人権規約や国際人権規約などによる基本的人権の保護とその保障措置) 13. 国際犯罪(個人の国際犯罪とその処罰、犯罪人引渡し制度) 14. 国家領域1(国家領域とはどのように構成され、国家はどのように取得するか。) 15. 国家領域2(領海制度と無害通航権) 16. 公海制度と船舶の通航(公海、船舶の地位、海域その他の船舶の取締り) 17. 大陸棚、排他的経済水域(大陸棚や排他的経済水域とはどのようなものか。) 18. 深海底(深海底とその資源の法的地位及び開発) 19. 航空機の地位(航空機の地位及び国際的飛行はどのように行なわれるか。) 20. 宇宙法(宇宙の法的地位、宇宙開発、人工衛星の地位) 21. 国際環境の保護(人間環境宣言を初めとする国際的環境問題の法的側面) 22. 国際紛争の平和的解決(国際紛争の解決方法にはどのような方法あるのか) 23. 国際裁判(国際仲裁裁判と国際司法裁判) 24. 安全保障制度(国連による集団安全保障体制) 		